
はじめに

このサービスマニュアルはMC-1(K-1)の整備要領を説明してあります。各パーツの取り外し・取り付け作業の詳細説明につきましては“K-1組立説明書”(エンジン編、シャシー編、ボディー編)を参照して下さい。

- 仕様変更等により写真、イラストと実際の車輛が異なる場合がありますのでご了承下さい。
- 写真の背景が実際の作業の状況と異なる場合があります。あらかじめご了承下さい。

1999年7月
(株)光岡自動車・開発部

もくじ

A	仕様諸元
B	整備情報
C	点検/調整
D	潤滑系統
E	エンジン脱着
F	シリンダーヘッド/シリンダー/ピストン
G	ジェネレーター
H	ドライブフェイス/ドリブンフェイス
I	トランスミッション
J	クランクケース/クランクシャフト
K	キャブレター/燃料装置
L	ステアリング
M	ブレーキ
N	ホイール/タイヤ/リヤアクスル/エキゾーストマフラー
O	サスペンション
P	ボディー/フレーム
Q	電気系統

仕様諸元

◆仕様諸元表

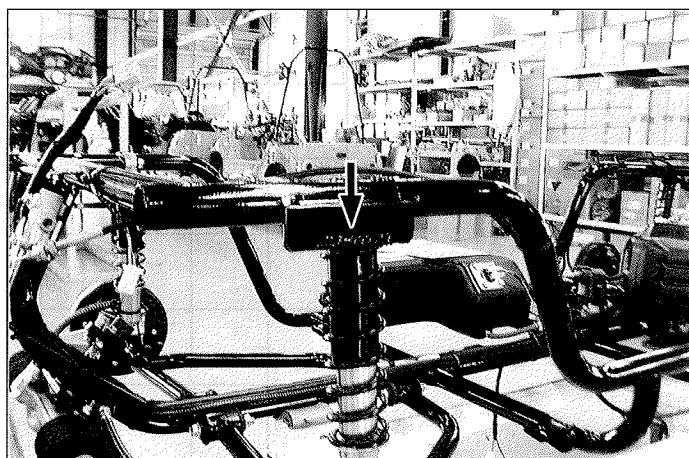
車名及び型式	ミツオカMC1		潤滑油容量(ℓ)	1.2		
車台の名称及び型式	ミツオカMC1F		空気清浄器形式・数	ウレタンフォーム式・1		
長さ(mm)	1755		燃料タンク容量(ℓ)	7.0		
幅(mm)	1080		気 化 器	型式	PB80	
高さ(mm)	1455			ガス弁径(mm)	13	
軸距離(mm)	1110			ベンチュリー径(mm)	14 (相当)	
原動機の型式	MC1E		点火装置形式	バッテリーC.D.I.式		
総排気量(cm ³)	49		点火時期	17° BTDC/1900rpm		
車輛重量(kg)	前輪	70	点火プラグ	NGK BR8HSA		
	後輪	90	点火すき間(mm)	0.6-0.7		
	計	160	バッテリー容量(Ah)	9 (10)		
乗車定員	人	1	機関から変速機までの機構	機関/変速機/クラッチ		
車輛総重量(kg)	前輪	85	機関から変速機までの減速比	1.000		
	後輪	130	クラッチ形式	乾式多板シュー式		
	計	215	変速機形式	無段変速機		
タイヤ	前輪	3.50-8-46J	変速機操作方式	自動遠心式		
	後輪		変速比 1速	2.800~0.700		
最低地上高(mm)	95		減 速 機	形式	2段減速式	
制動停止距離(m)(初速km/h)	9.8 (40)			第一減速比	2.733	
最小回転半径(m)	2.3			第二減速比	3.823	
始動方式	セルフ式		トーイン(mm)	1		
種類	ガソリン,2サイクル		キャンバ角	0° 0′		
シリンダ数及び配置	1,横置き		キャスト角	8° 0′		
燃焼室形式	半球形		キングピン角度	10° 0′		
弁機構	リード弁,ピストン弁併用式		タイヤ空気圧 (kg/cm ²)	前輪 1.20		
内径×行程(mm)	39×41.4			後輪 1.60		
圧縮比	7.2		かじ取り角度	内側24° 外側28°		
ポ ー ト 開 閉 時 期	吸気	開き	自動管制式	ブレーキ形式	前輪	機械式リーディングトレーリング
		閉じ	自動管制式		後輪	
	排気	開き	82° (B.B.D.C)	駐車ブレーキ	機械式車輪制動式 (ドラム式後輪2輪)	
		閉じ	82° (A.B.D.C)			
	掃気	開き	58° (B.B.D.C)	懸架方式	前輪	スイングアクスル式
		閉じ	58° (A.B.D.C)		後輪	トレーリングアーム式
無負荷回転速度(rpm)	1900		ショックアブソーバー形式	前輪	筒形複動式	
潤滑方式	分離潤滑式			後輪	筒形複動式	
油ポンプ形式	プランジャ式		フレーム形式	梯子形		
油ろ過器形式	全流ろ過式ろ網式					

整備情報

◆フレーム号機、エンジン号機



●フレーム号機打刻位置(左前タイヤ上側)



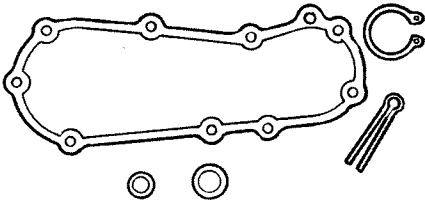
●エンジン号機打刻位置



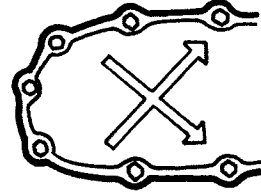
整備情報

◆作業上の注意

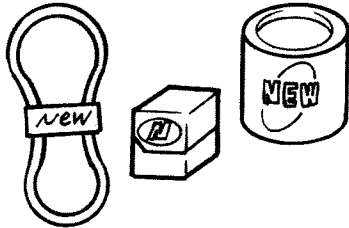
●ガスケット、Oリング、サークリップ、割りピン等は分解時新品と交換する。



●ボルト、ナット、ビス類の取り付けは、仮締めをしてから、径の大きいものから小さいものへ、内側から外側へ対角に規定の締めトルクで締め付ける。



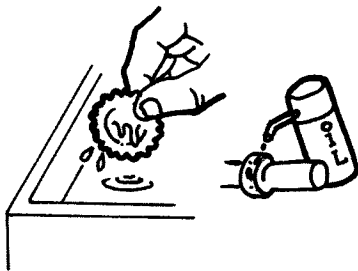
●部品、油脂類は必ず純正品、又は推奨品を使用する。



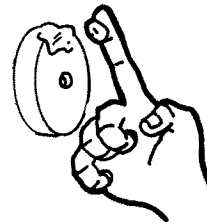
●専用、共通工具を必要とする作業は必ず使用する。



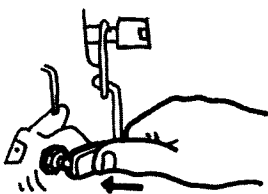
●部品は分解後点検、測定の前に洗浄し、組立時には摺動面にオイルを塗布する。



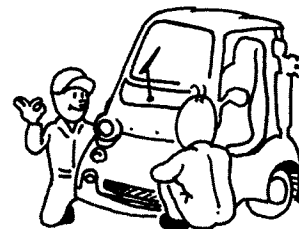
●指定箇所には、必ず指定グリースまたは相当品を塗布または注入する。



●組立後は、各部の締め、作動を必ず点検する。

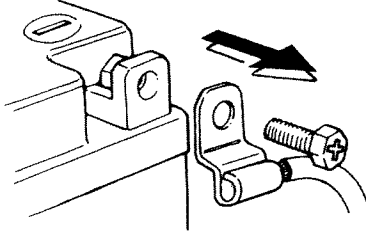


●二名以上で作業する場合は、必ずお互いの安全を確認しあうこと。

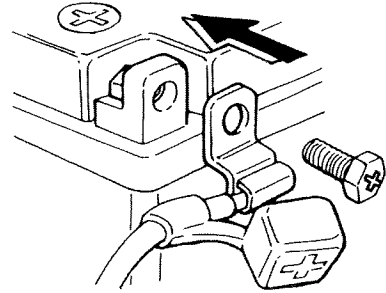


整備情報

- 作業の前には必ずバッテリーのマイナス(-)端子から外すこと。

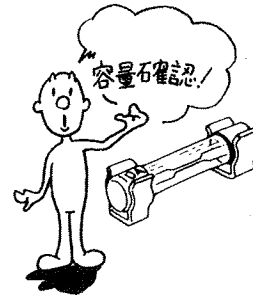


- バッテリーの接続時は、プラス端子から接続する。



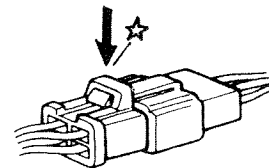
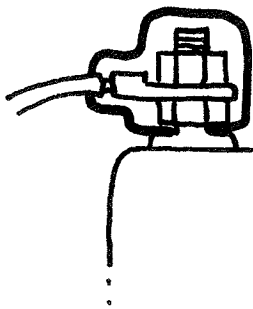
- スパナ等をフレームに接触させないように注意すること。
- 作業の終了後は、各部の接続、固定、通しかたを再確認する。
- 端子の接続後に端子にグリースを塗布すること。
- ビニールカバーは、完全に端子に被せること。

- ヒューズが溶断した場合は、原因を調べて修理してから、必ず指定容量のヒューズと交換すること。



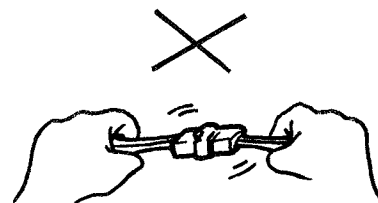
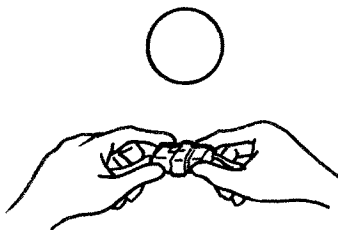
- カバー類は、作業終了後確実に端子に被せること。

- ロック付カプラーの接続を外すときは、必ずロックを外してから作業すること。



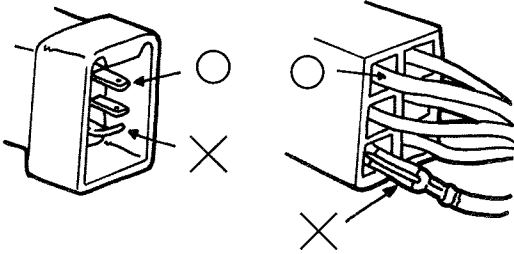
- カプラーの接続を外すときは、カプラー本体を持って外すこと。

- ワイヤーハーネスは引っ張らないこと。

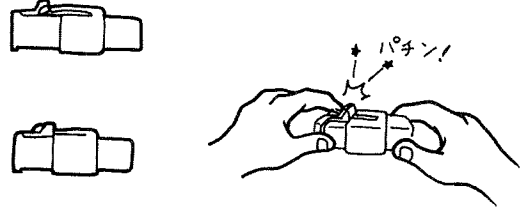


整備情報

- カプラーの接続前に端子の折れ曲がりがないこと、端子の出過ぎ、抜けがないことを確認する。



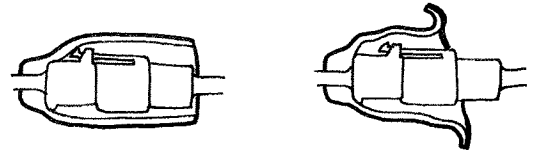
- ロック付のカプラーは、ロックが完全に固定されていることを確認する。



- カプラーは十分に差込むこと。

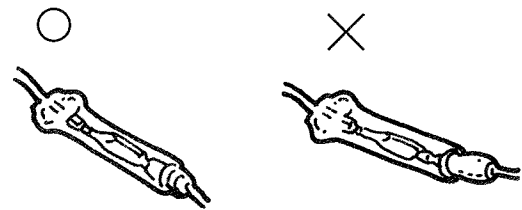
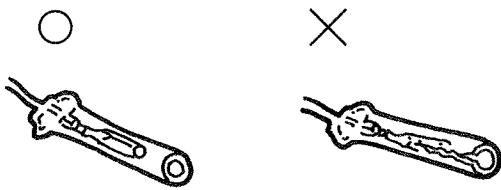
- ハーネスの抜けがないことを確認する。

- カプラーのビニールカバーは完全にカプラーを被い、めくれていないことを確認する。



- コネクターの接続前に、ビニールカバーの破れがないこと、メス端子の開きがないことを確認する。

- コネクターは十分に差し込むこと。

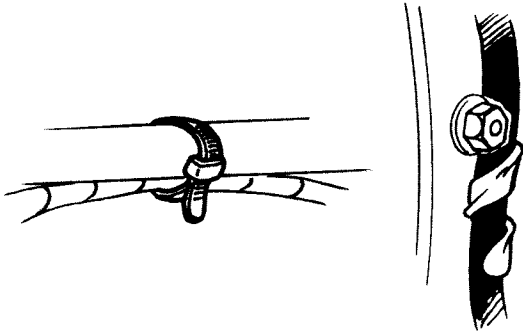


- ビニールカバーが完全に端子部を覆っていることを確認すること。

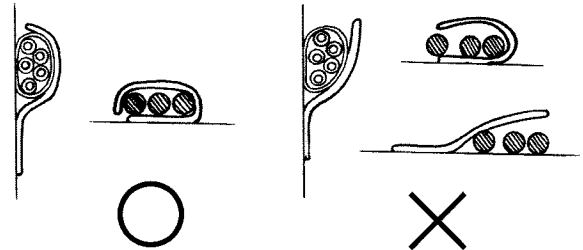
- ビニールカバーの開口部は上に向けないこと。

整備情報

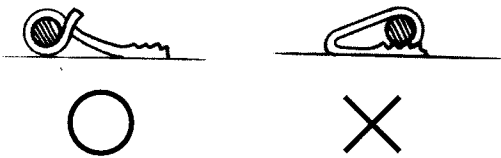
- ワイヤーバンドは決められた位置にしっかりとフレームに固定すること。



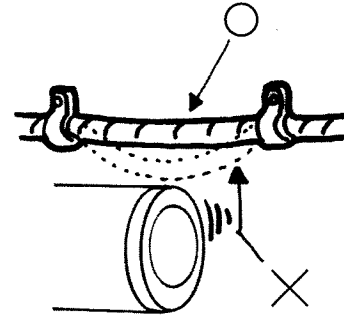
- クランプは、ワイヤハーネスが外れないように確実にクランプすること。



- 溶接クランプの場合は、溶接打痕のある方向にはクランプしないこと。



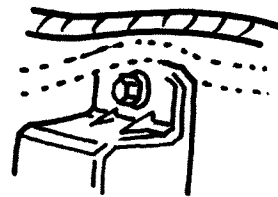
- ワイヤーハーネスが、回転部、可動部と接触しないようにクランプすること。



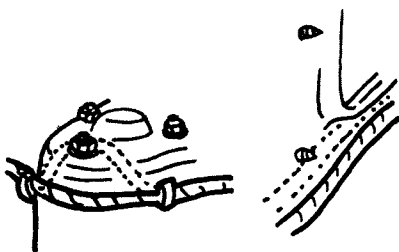
- ワイヤーハーネスが高温を出す部分と接触しないようにクランプすること。



- ワイヤーハーネスは、ボディー端や鋭角部と接触しないように通すこと。

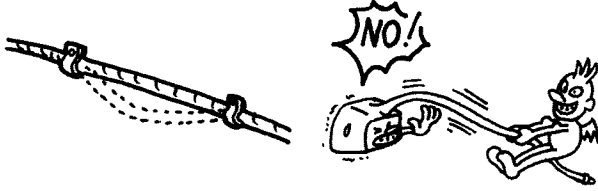


- ワイヤーハーネスは、ボルトやスクリューの頭部、先端部に接触しないように通すこと。

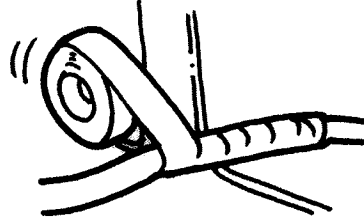


整備情報

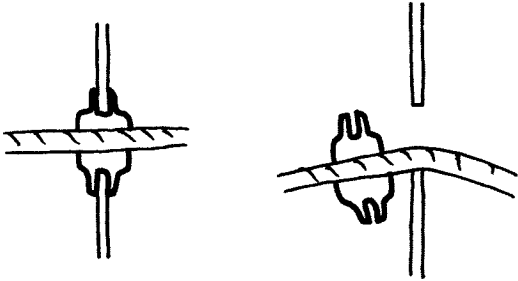
- ワイヤーハーネスはたるみや無理な引っ張りがないようにすること。



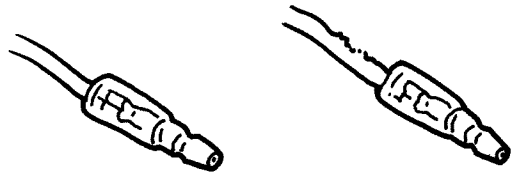
- ワイヤーハーネスがどうしても端部や鋭角部と接触する場合は、その箇所をチューブやテープ等で保護すること。



- ワイヤーハーネスにグロメットがついている場合は、確実にセットすること。

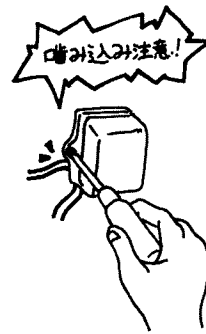


- ワイヤーハーネスの被覆を破らないこと。



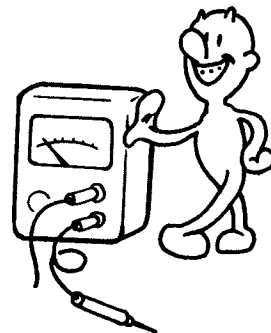
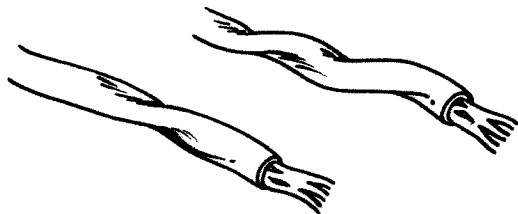
- ワイヤーハーネスの被覆が破れた場合は、ビニールテープを巻いて修正するか交換すること。

- 部品取り付け時に、ワイヤーハーネスを噛み込まないようにすること。



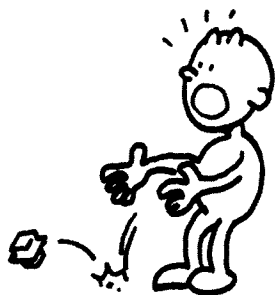
- ワイヤーハーネスはねじって取り付けないこと。

- テスター使用時は、取扱説明書の説明を理解し、サービスマニュアルに従って作業すること。

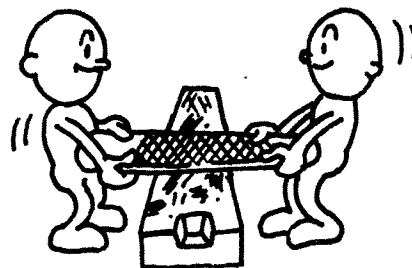


整備情報

●部品は、落としたり投げたりしないこと。

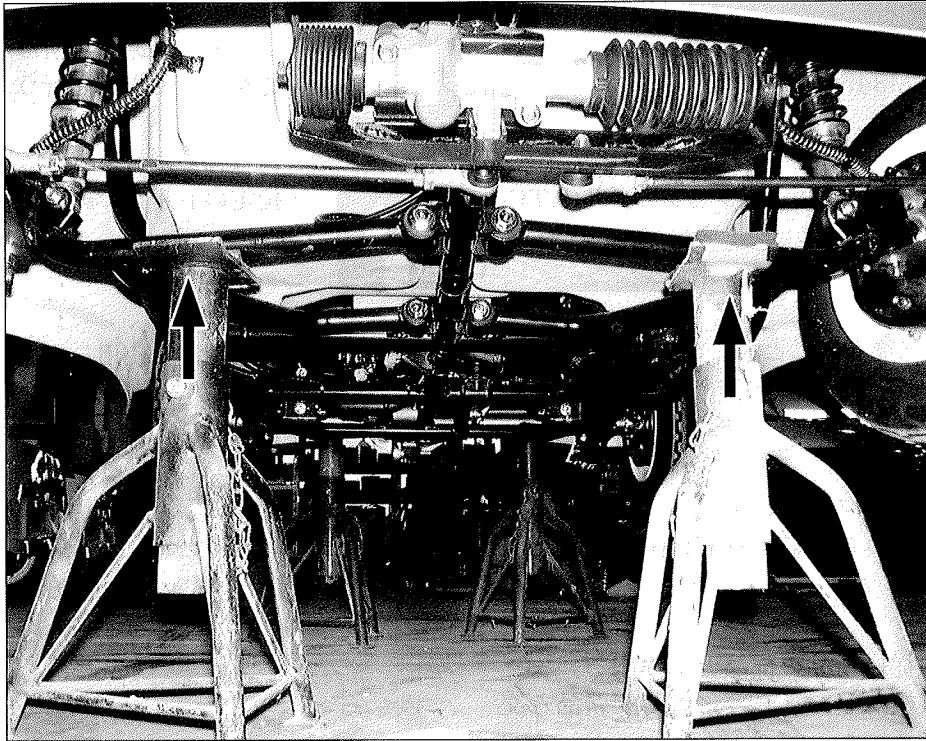


●端子に錆びが発生した場合は、サンドペーパー等で修正してから接続等の作業を行う。

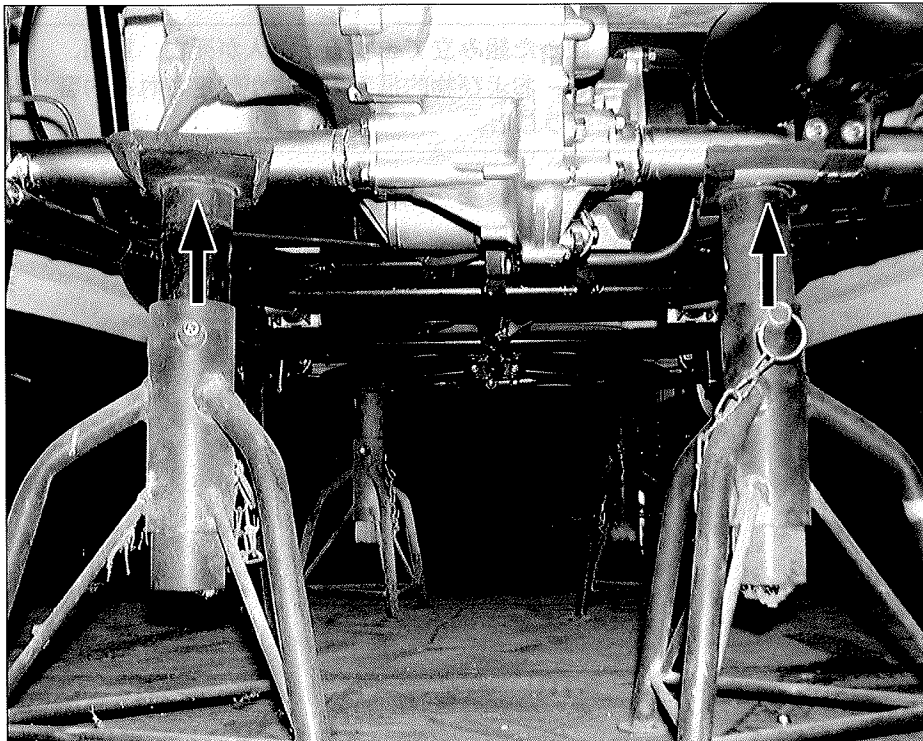


◆ジャッキアップポイント

- フロントジャッキアップポイント(フロントサスペンションアーム部)



- リヤジャッキアップポイント(ホーシング部)



整備情報

◆絵記号について

・下記の絵記号は、このマニュアルを通しての注意事項や作業方法を示している。



・2ストローク用エンジンオイル塗布のこと。
(JASO M345規格 FC級)



・この表示がある場所は“K-1組立説明書”
を参照して作業を行うこと。



・オートマチック用ミッションオイル(ATF)
塗布のこと。



・指定のトルクで締め付けを行うこと。



・グリース塗布のこと。



・専用工具を使用して作業を行うこと。



・アドバイスマーク。アドバイスに従って
作業を行うことにより、作業効率が上がる。



・この表示のある場所は写真の背景が本文
の内容と異なっていることを示す。



・指示に従い新品の部品と交換する。また
は、点検に基づき必要に応じて新品と交
換する。



この表示のある内容を見逃して、誤った組み立てをすると、人が死亡、重傷、
傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容
を示す。注意事項に従って作業を行うこと。

整備情報

◆整備データ

●エンジン関係

測定項目	標準値 (mm)	使用限度 (mm)
シリンダーヘッドの歪み	—————	0.10
ピストン外径 (スカート下端より3mm部分)	38.955-38.964	38.900
シリンダーとピストンのすき間	0.035-0.050	0.100
ピストンのピン穴内径	12.002-12.008	12.03
ピストンピン外径	11.994-12.000	11.98
ピストンとピストンピンのすき間	0.002-0.014	0.030
ピストンリング合口すき間 (トップ/セカンド)	0.10-0.25/0.10-0.25	10.40
コンロッド小端部内径	17.005-17.015	17.030
シリンダー内径	39.000-39.010	39.050
ドライブベルト幅	18	17.50
ムーバブルドライブフェイスのブッシュ内径	20.035-20.085	20.600
ドライブフェイスボスの外径	20.010-20.025	19.980
ウェイトローラーの外径	15.92-16.08	15.40
クラッチアウターの内径	107.0-107.2	107.5
ドリブンフェイススプリングの自由長	98.1	92.8
ドリブンフェイスの外径	33.965-33.985	33.940
ムーバブルドリブンフェイスの内径	34.000-34.025	34.060
コンロッド大端部軸方向のすき間	—————	0.6
コンロッド大端部軸直角方向のすき間	—————	0.04
クランクシャフトジャーナル部の揺れ	—————	0.03

●キャブレター関係

ベンチュリー径	14mm (相当)
セッティングマーク	PB80
油面 (ゲージ油面)	8.0mm
メインジェット	#78
スロージェット	#35
エアスクリーン戻し回転数	1 1/2
アイドル回転数	1,900±100rpm

整備情報

●フレーム関係

測定項目		標準値 (mm)	使用限度 (mm)
ドライブシャフトの曲り		—	0.3
フロントホイールリムの揺れ		—	2.5
リヤホイールの揺れ		—	2.5
ブレーキドラムの内径	フロント/リヤ	160/160	160.5/160.5
ブレーキライニングの厚さ	フロント/リヤ	4.0/4.0	2.0/2.0
フロントクッションスプリングの自由長		182	176
リヤクッションスプリングの自由長		201	194

●電装関係

バッテリー	容量	12V9Ah
	電圧	13.0-13.2V
	充電電流	標準：1A
スパークプラグ		BR8HS
プラグすき間		0.6-0.7mm
イグニッション コイル抵抗値	一次側	0.19-0.23Ω
	二次側 (プラグキャップ付き)	6.5-9.7kΩ
	二次側 (プラグキャップ無し)	2.8-3.4kΩ
点火時期		17° (BTDC)/1,900rpm

整備情報

◆締付トルク

●エンジン関係

締付箇所	ネジ径 (mm)	締付トルク(kg-m)	備考
シリンダーヘッドボルト	6	1.2	(冷間)
フライホイールナット	10	4.0	
ドライブフェイスナット	10	4.0	
クラッチアウターナット	10	4.0	
クラッチ/ドリブンプーリーナット	28	3.5~4.0	
ドレンボルト	10	1.8	
エンジンマウントボルト	10	4.0	
エンジンマウントブラケットボルト	8	2.7	
エキゾーストパイプジョイントナット	6	1.2	
エキゾーストマフラーマウントボルト	6	1.2	
スパークプラグ	—	1.4	(冷間)

●フレーム関係

締付箇所	ネジ径 (mm)	締付トルク(kg-m)	備考
ハンドル取付けナット	12	6.0	
フロントアクスルナット	14	11.0	
リヤアクスルナット	14	11.0	
フロントクッションアッパーボルト	10	4.0	
フロントクッションロアボルト	10	4.0	
リヤクッションアッパーボルト	10	4.0	
リヤクッションロアボルト	10	4.0	
フロントサスペンションアームボルト	10	4.0	
フロントナックルボルト	12	5.5	
ステアリングギヤボックス取付ボルト	8	2.7	
フロントバックプレート取付ボルト	8	2.7	
リヤバックプレート取付ボルト	8	2.7	
リヤサスペンションアーム、ホーシング取付ボルト	8	2.7	
エンジンマウントブラケット、エンジンブラケット取付ボルト	10	4.0	
リヤサスペンションブラケット、リヤサスペンションブラケットステー取付ボルト	8	2.7	
フロアボディー取付ボルト	8	2.2	
アッパーボディー取付ボルト	8	2.2	
セレクトレバー取付ボルト	6	1.2	
インストステー取付ボルト	8	2.2	
ルーフガイド取付ボルト	8	2.2	

*上記の締付箇所は重要であるが、その他の箇所も下記の標準締付トルク表に従って締め付ける。

●標準締付トルク

種類	締付トルク(kg-m)	種類	締付トルク(kg-m)
5mmトラスビス	0.4	8mmフランジボルト、ナット	2.7
6mm袋ボルト	0.8	10mmナット	3.5
6mmトラスビス、SHボルト	0.9	10mmフランジボルト、ナット	4.0
6mmフランジボルト、ナット	1.2		
8mm袋ボルト	2.2		

整備情報

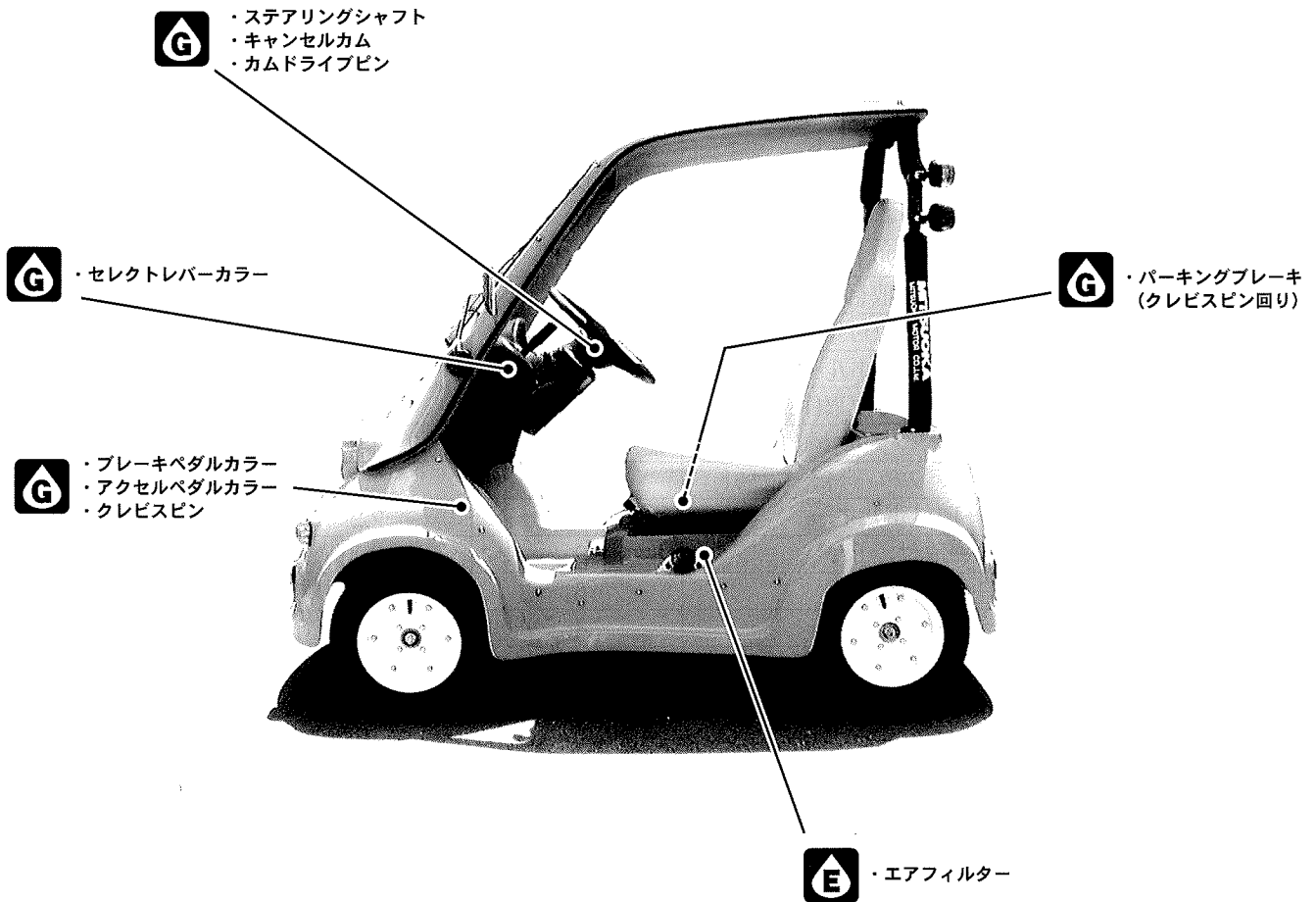
◆給油脂図

●エンジン関係

NO.	使用箇所	種類	備考
1	クランクケース内回転部、摺動部	2ストローク用エンジンオイル (JASO M345規格 FC級)	
2	シリンダー内回転部、摺動部		
3	トランスミッション(ファイナルリダクション)	オートマチック用ミッションオイル(ATF)	120cc
4	スターターピニオン、ドライブギヤ摺動部	グリース	

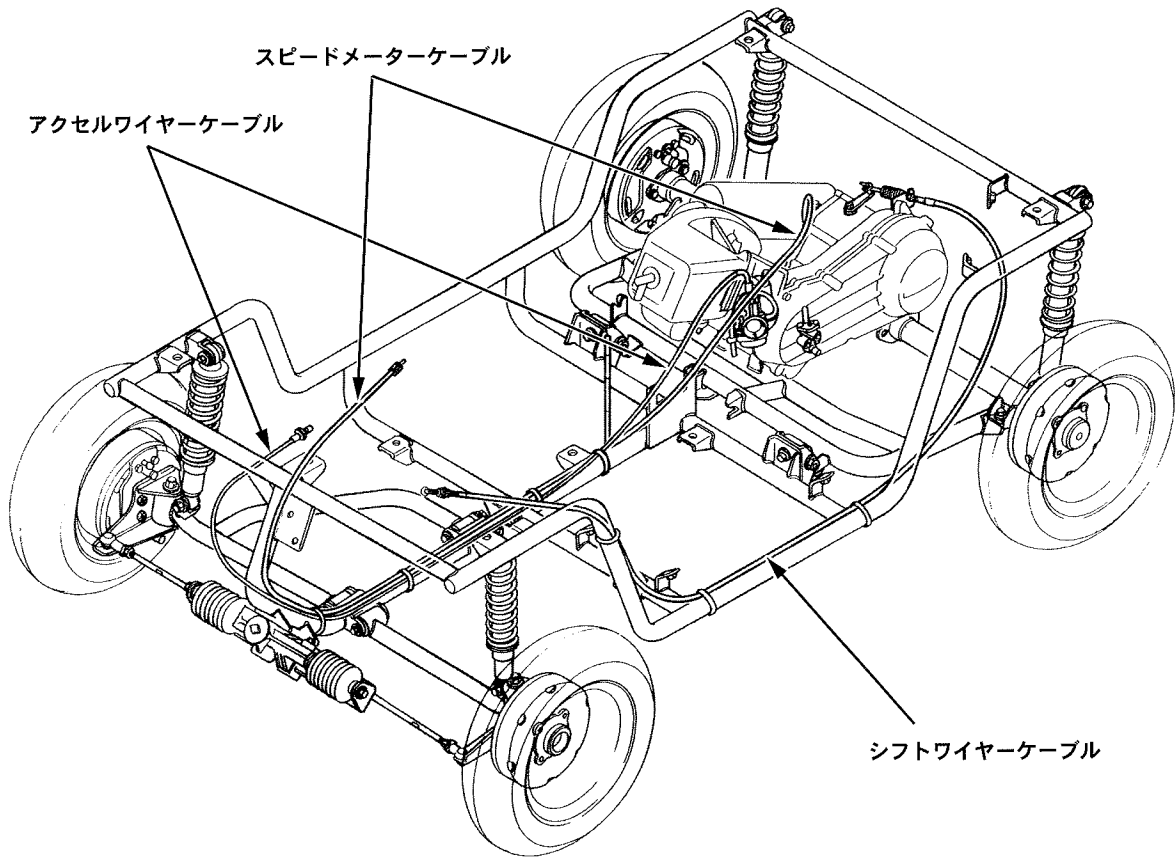
●フレーム、ボディー関係

- ・下図の箇所に給油脂を行う。
- ・特に指定していない塗布箇所は、マルチパーパスグリースを使用すること。
ここに表示されていない他の可動部には、オイルまたはグリースを塗布することにより、異音の発生を防止し、耐久性の向上がはかれる。

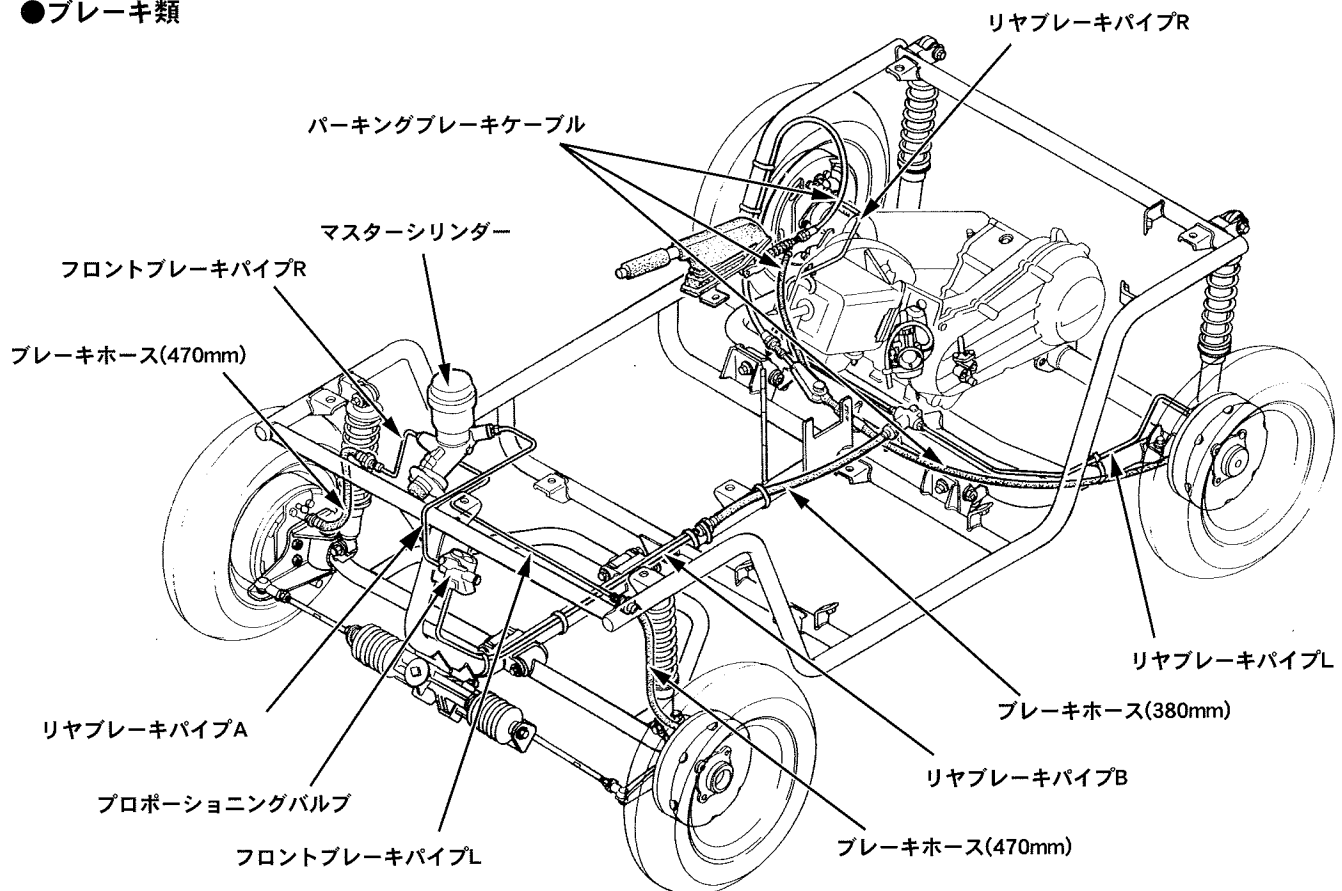


◆ワイヤリング図

●ケーブル類

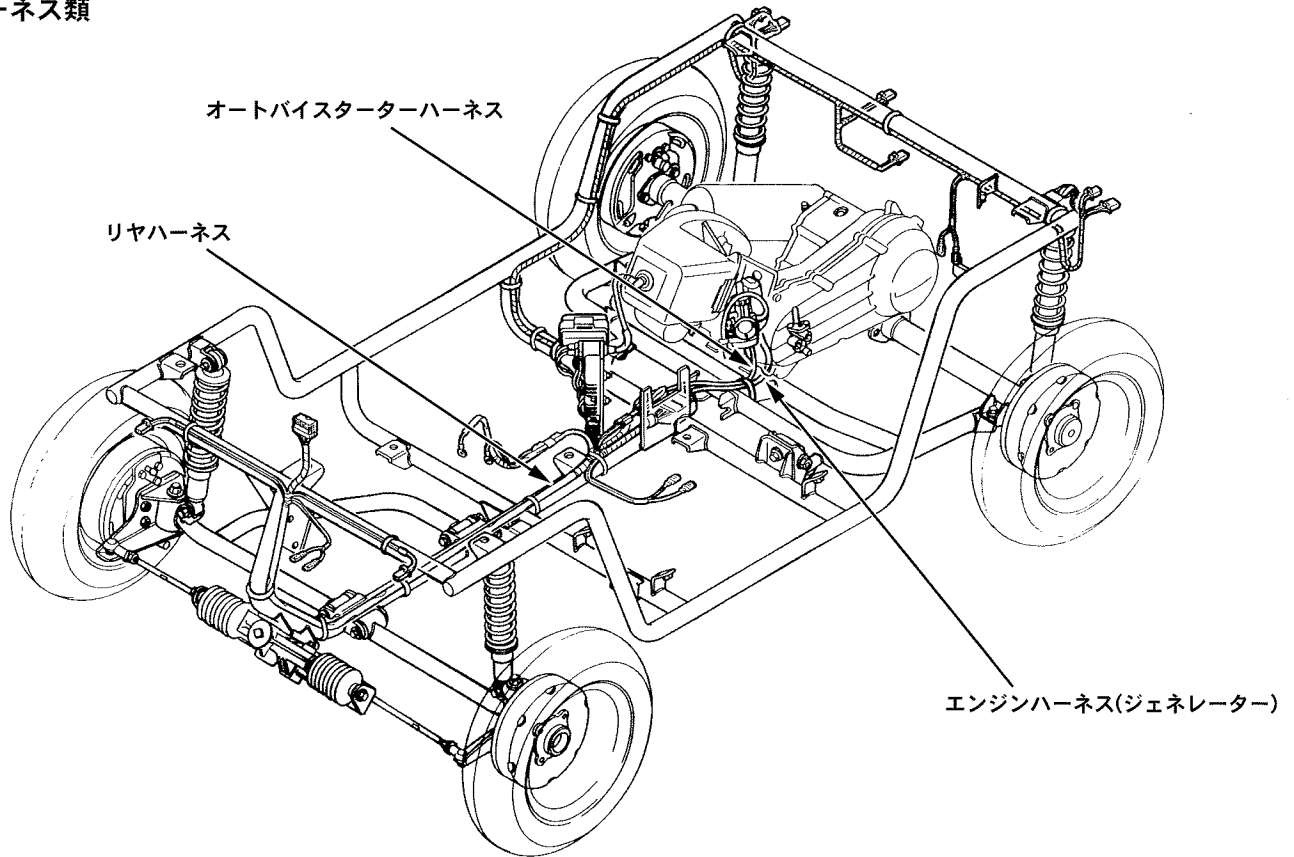


●ブレーキ類

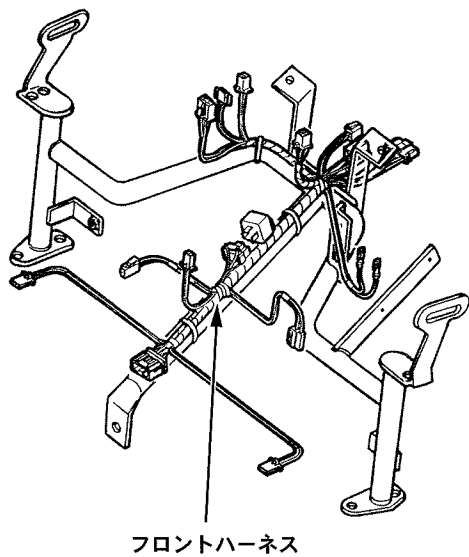


整備情報

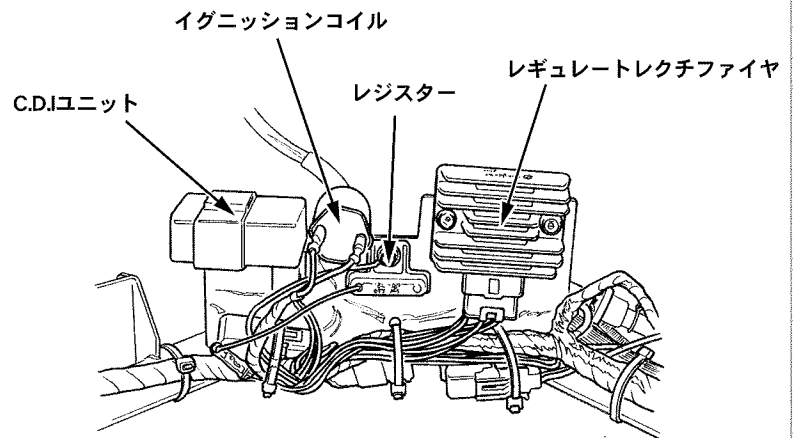
●リヤハーネス類



●フロントハーネス類

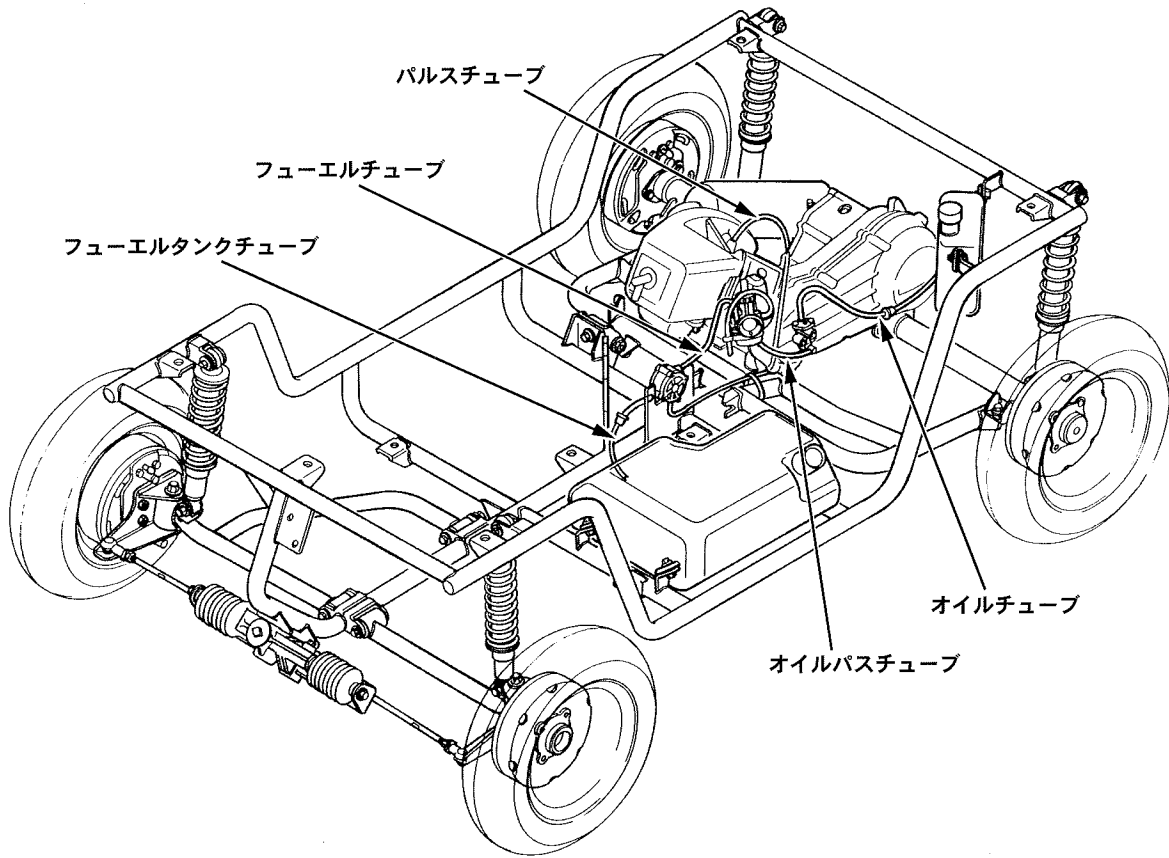


●リヤハーネス詳細



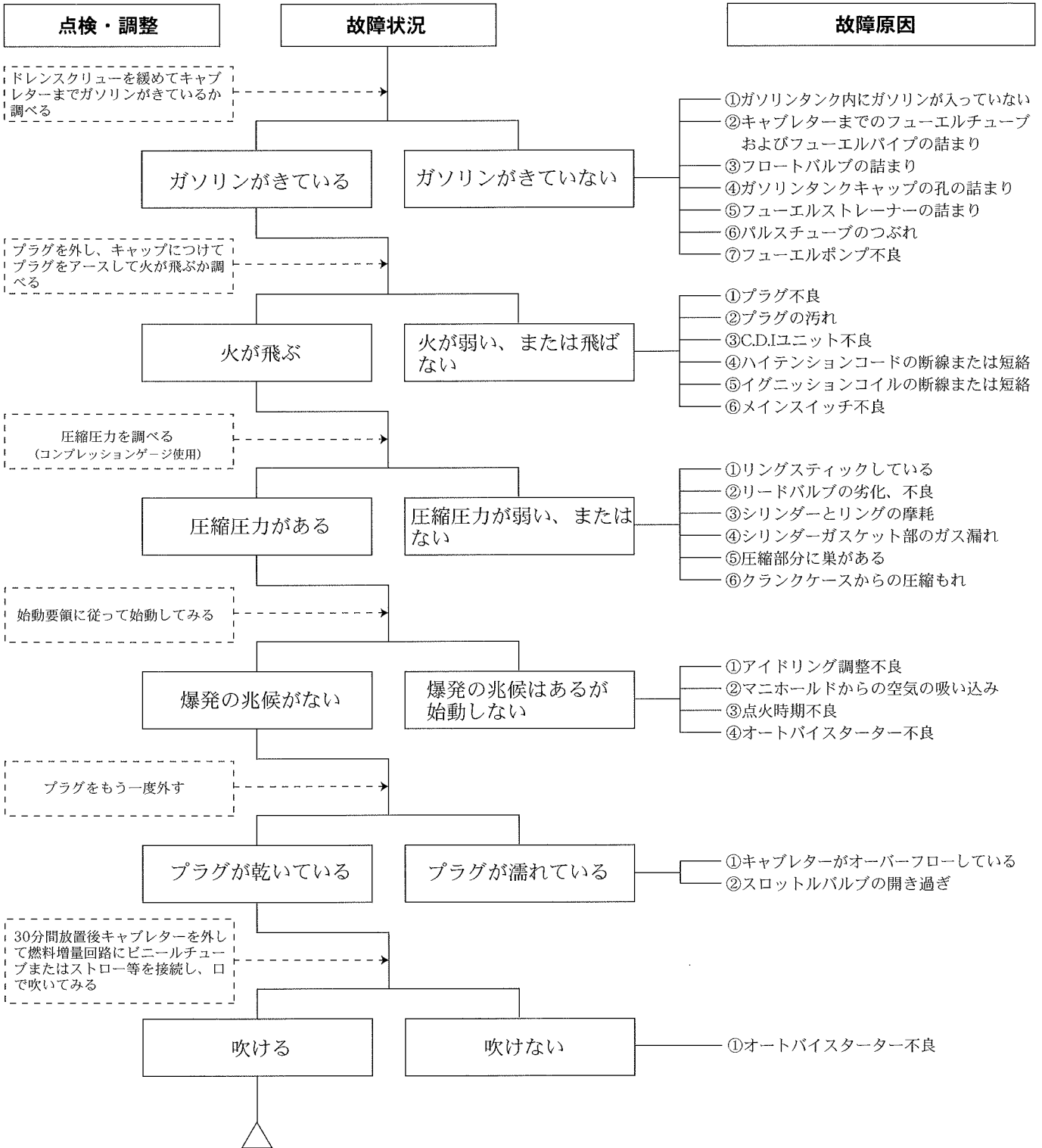
整備情報

●燃料／潤滑系統



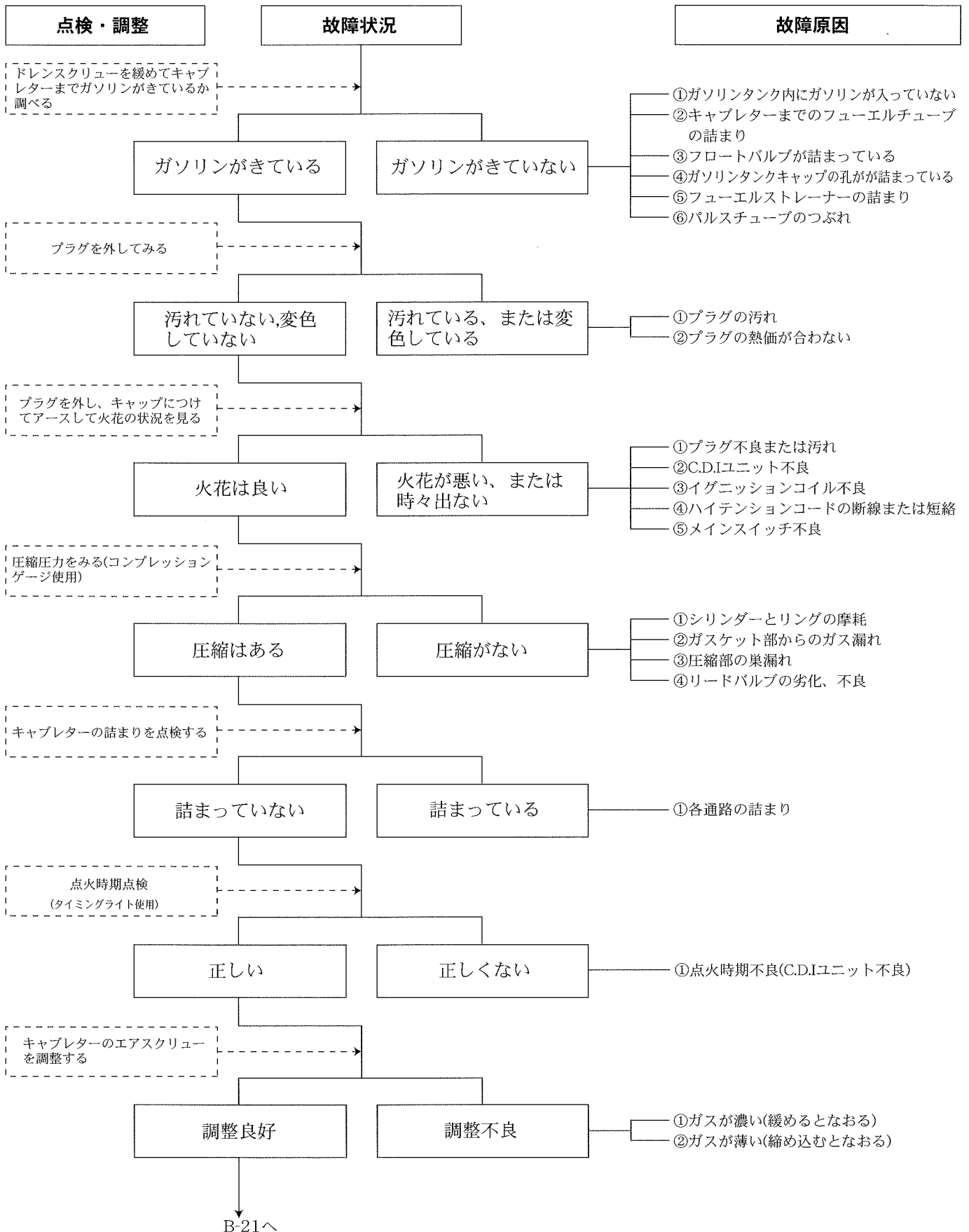
◆故障診断

●始動不能または始動困難



◆故障診断

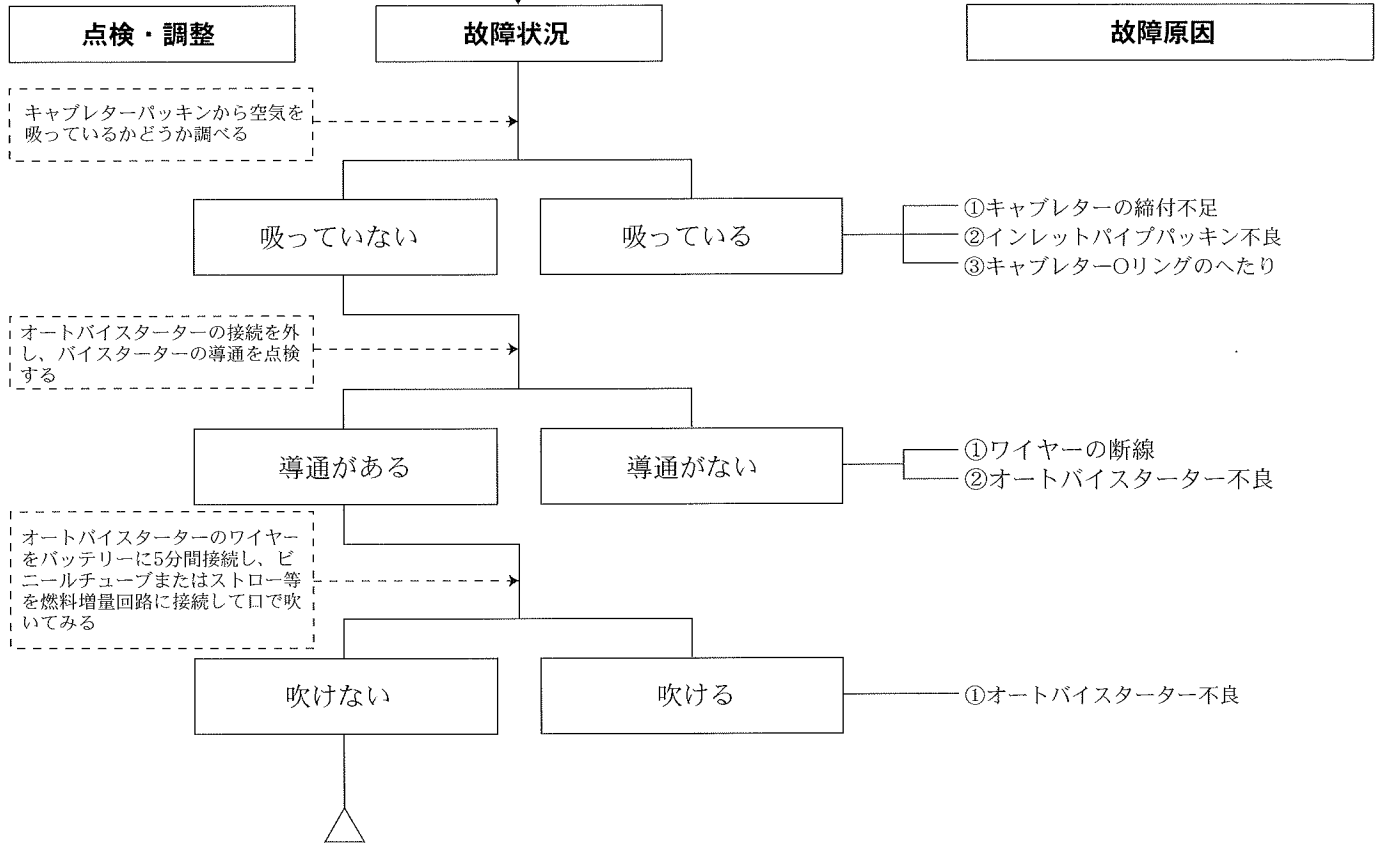
●始動するがエンストする



整備情報

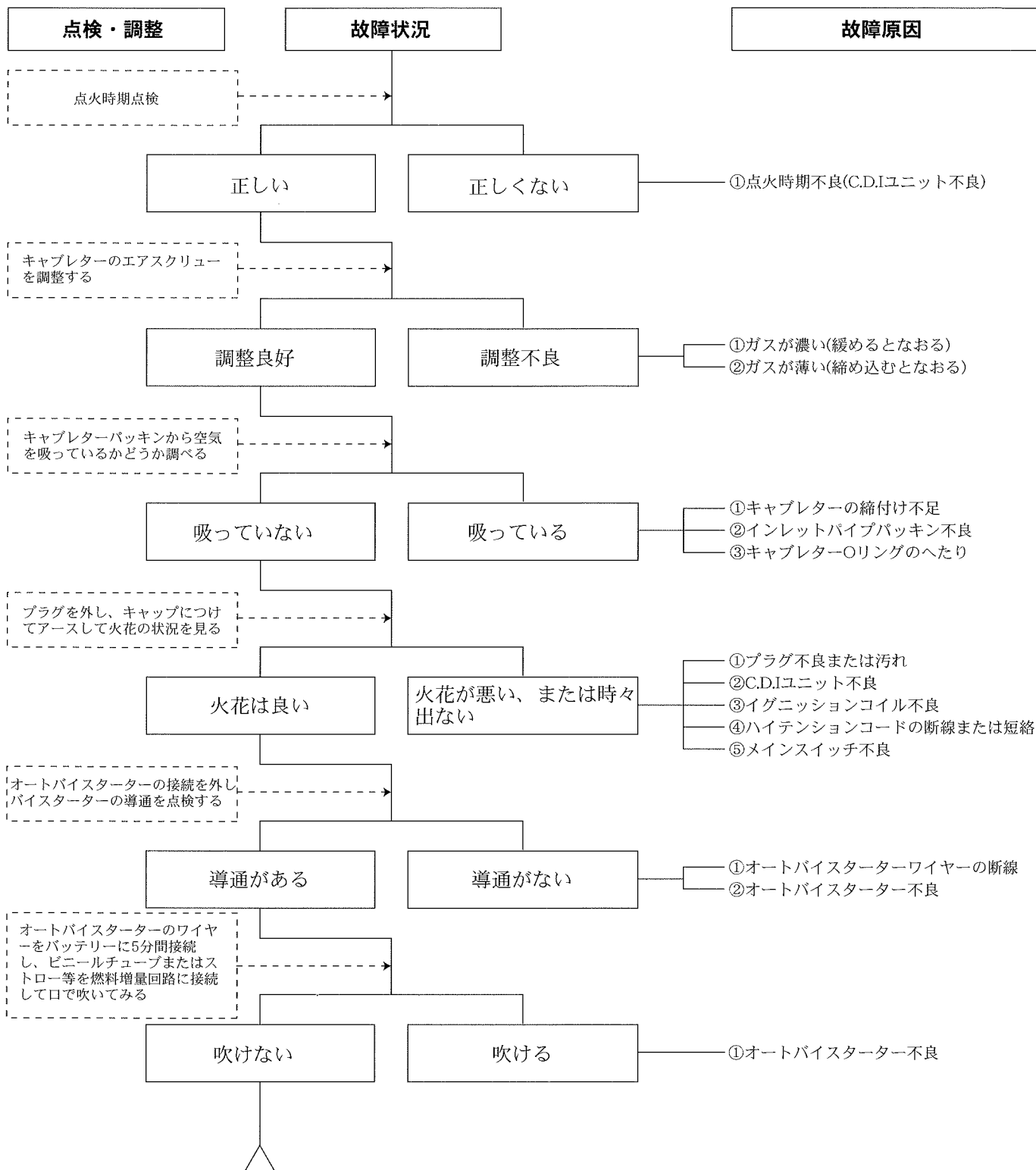
◆故障診断

●始動不能または始動困難



◆故障診断

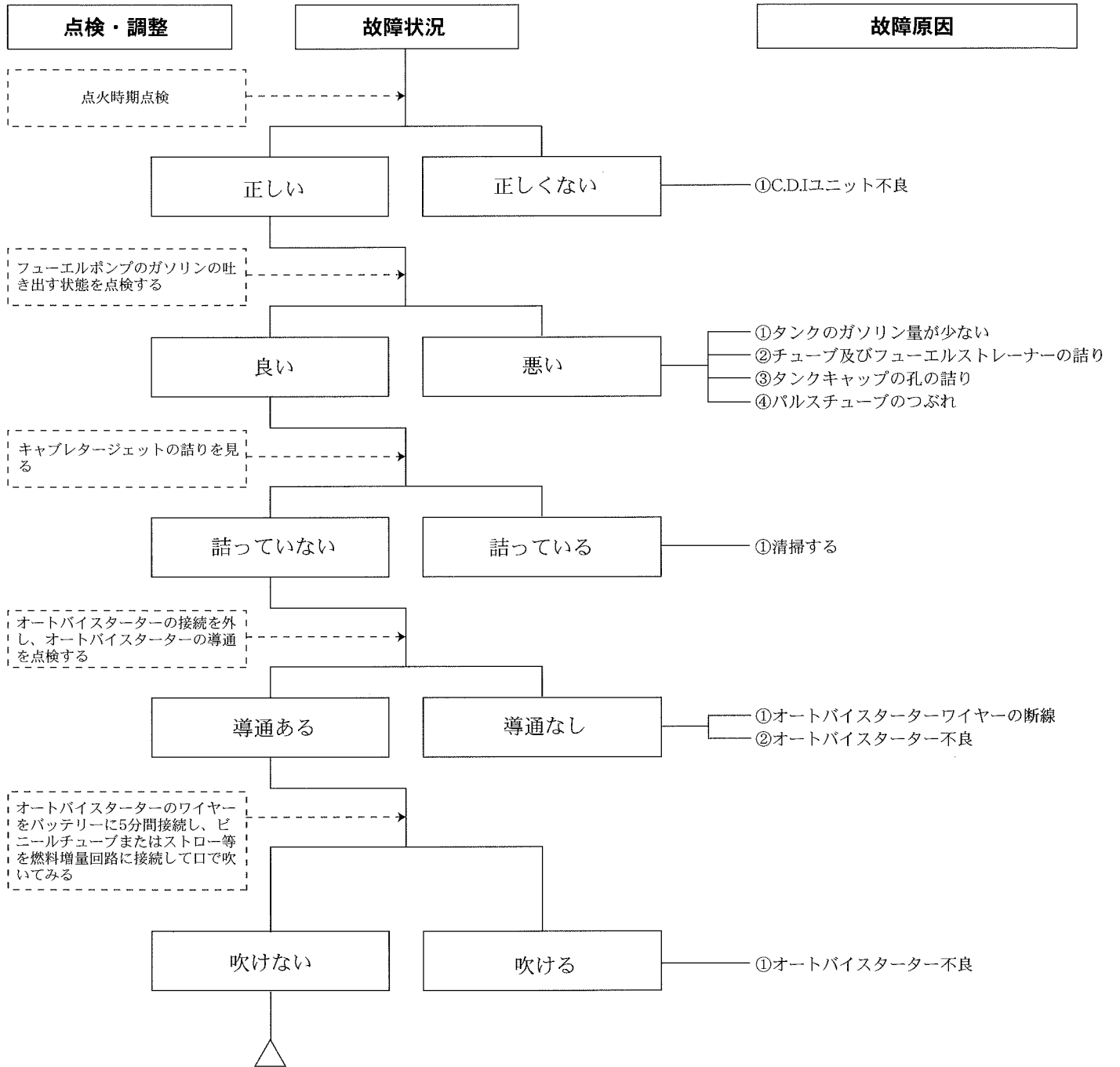
●回転不調(主として低速およびアイドリング)



整備情報

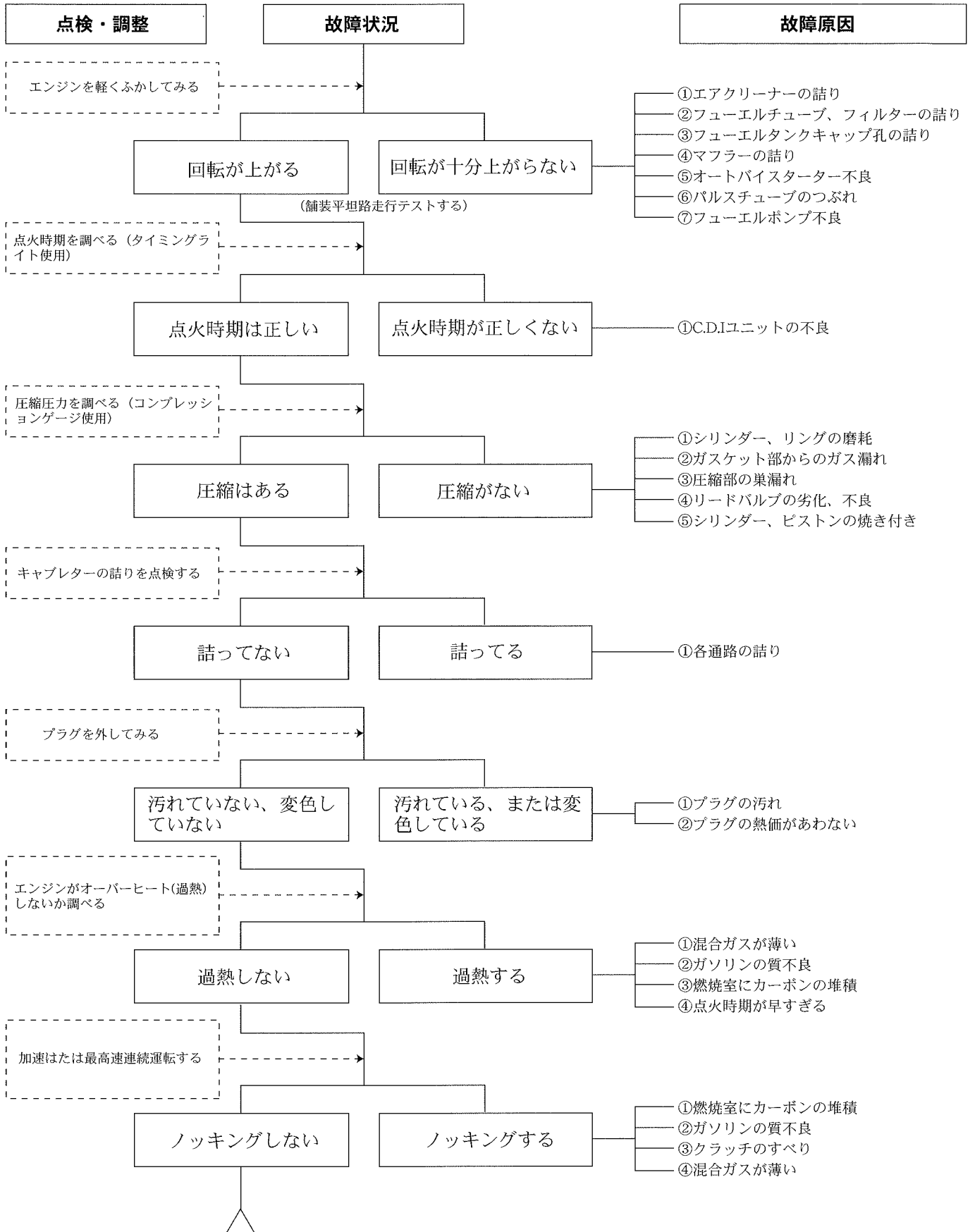
◆故障診断

●回転不調（高速）



◆故障診断

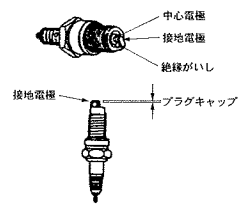

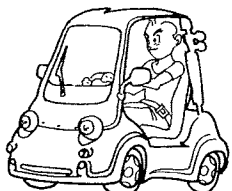
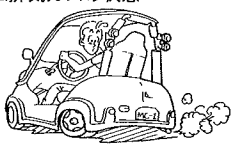
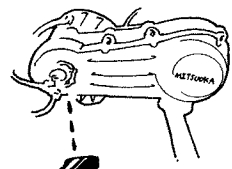
●速度が出ない、力が出ない

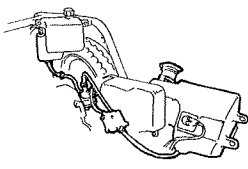
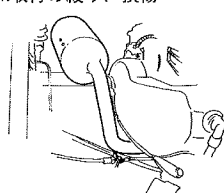
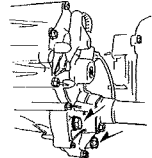


点検/調整

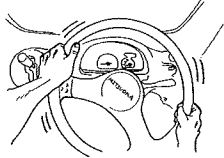
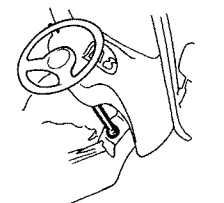
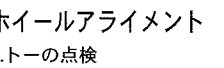
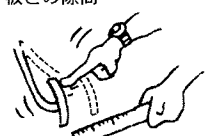

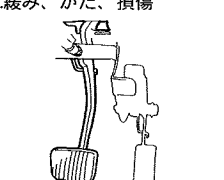
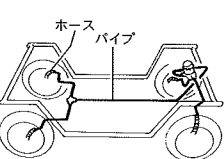
◆定期点検の解説

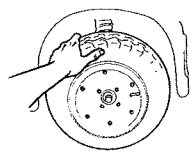
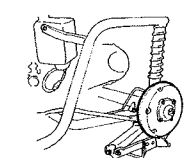
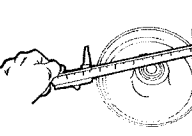
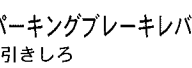
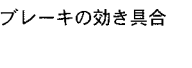
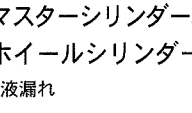
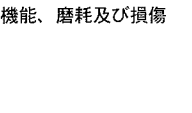
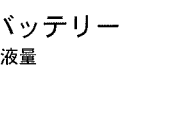
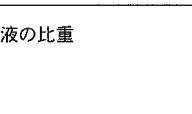
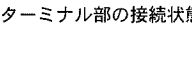
- ・ 日常点検は点検時期欄の“☆”の項目をご覧ください。
- ・ 6ヶ月点検項目は点検時期欄の“6”の項目をご覧ください。
- ・ 12ヶ月点検項目は点検時期欄の“6”と“12”の項目をご覧ください。
- ・ 24ヶ月点検項目は点検時期欄の“6”と“12”と“24”の項目をご覧ください。
- ・ ◇マークは、12ヶ月点検距離項目を表し、新車登録時から走行距離が5千km以下の場所は省略可。
- ・ ◆マークは、24ヶ月点検距離項目を表し、新車登録時から走行距離が 1万5千km以下、前回点検から1万km以下の場合は省略可。

点検項目	点検時期	点検内容
点火装置 1.スパークプラグの状態 	6 12 24	(1)スパークプラグを外し、電極に損傷がないか、また絶縁がいしに焼損がないかを目視により点検する。 (2)ワイヤーブラシ、またはプラグクリーナーを用いて、スパークプラグを清掃し、設置電極と中心電極の隙間(プラグキャップ)が規定の範囲にあるかをプラグキャップゲージ等により点検する。 プラグギャップ：0.6～0.7mm
1.点火時期	6 12 24	(1)エンジン暖気後、アイドル状態でタイミングライトなどを用いて、点火時期が適切であることを、規定の合わせマークを見て点検する。
エンジン本体 1.エンジンのかかり具合、異音 	☆ 12 24	(1)エンジンを速やかに始動し、円滑に回転するかを点検する。 (2)エンジンアイドル時に異音などがないかを点検する。
2.低速、加速の状態 	☆ 12 24	(1)エンジンを暖気した状態で、アイドルリングが円滑に続くかを点検する。 アイドリング回転数：1900±100rpm (2)エンジンを徐々に加速したとき、スロットルペダルに引っかかりがないか、またエンスト、ノッキングなどを起こすことなく円滑に回転するかを走行するなどして点検する。
2.排気ガスの状態 	6 12 24	(1)エンジンを十分に暖気させた状態で、アイドル時、加速時の排気ガスに異常な白煙、黒煙などがないかを目視により点検する。
1.エアクリーナーエレメントの汚れ、詰り	6 12 24	(1)エレメントを外し、汚れ、詰まり、損傷等がないかを目視等により点検する。
潤滑装置 1.エンジンオイルの漏れ 	6 12 24	(1)シリンダー、クランクケース、オイルパイプ、オイルホースなどからオイル漏れがないかを目視により点検する。 (2)オイルポンプの取付部や、オイルタンクなどからオイル漏れがないかを目視により点検する。

点検項目	点検時期	点検内容
1.エンジンオイルの量	☆ 6 12 24	(1)警告灯及び目視により点検する。
燃料装置 1.燃料漏れ 	12 24	(1)フューエルタンク、フューエルホース、フューエルパイプ、キャブレターなどから燃料漏れがないかを、目視などにより点検する。 (2)フューエルホースに損傷、劣化がないかを目視などにより点検する。
2.キャブレターのリンク機構の状態	12 24	(1)キャブレターが円滑に動くかをスロットルの操作により点検する。
3.スロットルバルブ、チョークバルブの作動	12 24	(1)スロットルバルブが円滑に動くかをアクセルペダルなどをゆっくり操作して点検する。
エキゾーストパイプ及びマフラー 1.取付の緩み、損傷 	12	(1)エキゾーストパイプとマフラーの取付部、接続部に緩みがないかをスパナなどにより点検する。 (2)損傷、排気ガスの漏れ、他の部分との接触の恐れがないかを目視などにより点検する。
2.マフラーの機能	12	(1)エンジンの回転数を変化させて排気音に異常がないかを聴覚により点検する。
クラッチ 1.クラッチの作動	12 24	(1)スリップ及びつながり具合を走行するなどして点検する。
トランスミッション 1.オイルの漏れ、量 	6 12 24	(1)トランスミッション周辺から油漏れがないかを目視などにより点検する。 (2)車輛を垂直な状態にし、エンジンを停止させ油量が規定の範囲内にあるかを点検する。 油量：レベル穴式。 穴の位置までであること。

点検/調整

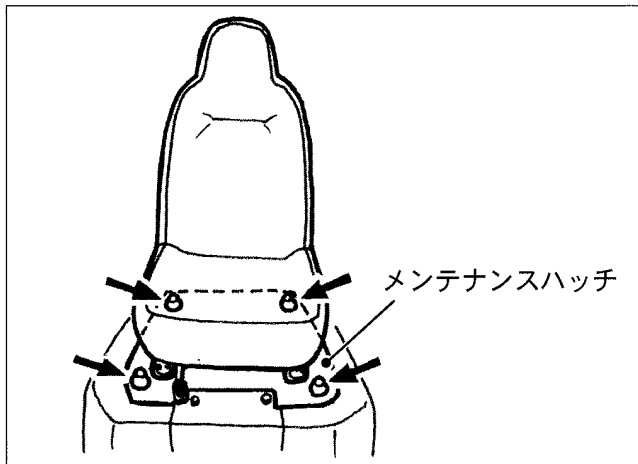
点検項目	点検時期	点検内容
ハンドル 1.操作具合 	12 24	(1)ハンドルを左右に動かし、左右の動きが円滑であるかを点検する。 (2)走行して、ハンドルが、異常に振れたり、取られたりしないか、また操作が異常に重かったりしないかを点検する。
2.ステアリング軸受部のがた 	12	(1)ハンドルを前後左右に動かし軸受け部にかたがないかを点検する。必要がある場合には、ステアリングを取り外し、摩耗、亀裂、曲がりなどがないかを目視などにより点検する。
	◆	(2)ギヤボックスの取付部に緩みがないか目視などにより点検する。
3.ボールジョイントのダストブーツの亀裂及び損傷	24	(1)亀裂及び損傷がないか目視などにより点検する。
4.緩み、がた及び損傷	◆	(1)緩み、がた、損傷がないか目視などにより点検する。
ホイールアライメント 1.トーの点検 	◆	(1)トーのくるいがないかをサイドスリップテスターで点検する。
ブレーキペダル 1.遊び及び踏み込んだ時の床板との隙間 	☆ 6 12 24	(1)ブレーキペダルを手で抵抗を感じるまで押し、遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどにより点検する。 遊び：5～10mm (2)ペダルの踏みごたえにより、エアが混入していないかを点検する。
2.ブレーキの効き具合 	☆ 6 12 24	(1)乾燥した路面を走行して、効き具合が十分であることを点検する。又は、ブレーキテスターを用いて、制動力が規定値以上であることを点検する。
ロッド及びケーブル類 1.緩み、がた、損傷 	◆	(1)ブレーキを作動させ、ロッド、ケーブル類に損傷などがないか、取付部や連結部に緩み、がた、損傷がないかを目視などにより点検する。 (2)ブレーキを作動させたとき、異常に重くないかを点検する。 (3)ロッドの連結部の割ピン類に欠損がないかを目視により点検する。
ホース及びパイプ 1.もれ、損傷、取付状態 	6 12 24	(1)ブレーキを強く作動させ、ブレーキ系統から液漏れがないか点検する。 (2)ホース、パイプ及び接続部に劣化、損傷がないか点検する。接続部、クランプに緩みがないか、ハンドルを左右に切ったときや走行中に振動によりホースやパイプが他の機構部に干渉する恐れがないか点検する。

点検項目	点検時期	点検内容
ブレーキドラム及びブレーキシュー 1.ドラムとライニングの隙間 	◇	(1)ブレーキを数回作動させシューを安定させた後、ホイールを浮かし、ホイールを手で回したとき引きずりがないかを点検する。
2.シューの摺動部分、ライニングの磨耗 	◇	(1)ブレーキドラムを取り外し、シューの作動状況に異常がないか、ライニングに異常な摩耗、損傷、剥離がないかを目視などにより点検する。また、ライニングの厚みをスケールなどにより点検する。
3.ドラムの磨耗、損傷 	12 24	(1)ブレーキドラム内面に異常な摩耗、損傷などがないかを目視などにより点検する。 標準径：前輪160mm、後輪160mm 使用限度：前輪160.5mm、後輪160.5mm
パーキングブレーキレバー 1.引きしろ 	☆ 12 24	(1)レバーをゆっくり引いてブレーキが完全に効くまでのノッチ数を点検する。(標準5ノッチ)
2.ブレーキの効き具合 	12 24	(1)ブレーキを作動させて片効きや、効きが悪くないかを点検する。
マスターシリンダー、ホイールシリンダー 1.液漏れ 	☆ 12 24	(1)リザーブタンクの液量が規定の範囲にあるかを目視により点検する。 (2)リザーブタンク周辺から液漏れがないかを目視などにより点検する。
2.機能、磨耗及び損傷 	24	(1)ブレーキを作動させマスターシリンダーの作動具合を外から点検する。 (2)マスターシリンダー(シリンダーブーツ内を含む)、ホイールシリンダーに損傷、液漏れがないかを目視などにより点検する。
バッテリー 1.液量 	☆ 6 12 24	(1)バッテリー各槽の液量が規定の範囲にあるかを目視により点検する。(メンテナンスフリーバッテリーは除く)
2.液の比重 	12 24	(1)バッテリー各槽の液の比重が規定の範囲にあるかを比重計により点検する。(メンテナンスフリーバッテリーは除く)
3.ターミナル部の接続状態 	12 24	(1)ターミナル部に、緩み、腐食がないかを目視などにより点検する。

点検/調整

点検項目	点検時期	点検内容									
警音器、ワイパー、ウォッシャー 1.警音器	12 24	(1)ワイパー、ウォッシャーは目視により点検する。 警音器は聴覚により、音量音質を点検する。									
2.ワイパー	☆ 12 24	(1)拭き残し等がないか、ワイパーのゴムが劣化していないかを目視により点検する。									
3.ウォッシャー	☆ 12 24	(1)ガラス面の適当な場所へウォッシャー液が噴出されるか、又液量等を目視により点検する。									
ホイール 1.タイヤの空気圧	☆ 6 12 24	(1)タイヤゲージを用いて、空気圧が規定位置にあるかを点検する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>前輪</th> <th>後輪</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一名乗車</td> <td>1.2kg/cm²</td> <td>1.6kg/cm²</td> </tr> <tr> <td>タイヤ</td> <td colspan="2">3.50-8-46J</td> </tr> </tbody> </table>		前輪	後輪	一名乗車	1.2kg/cm ²	1.6kg/cm ²	タイヤ	3.50-8-46J	
	前輪	後輪									
一名乗車	1.2kg/cm ²	1.6kg/cm ²									
タイヤ	3.50-8-46J										
2.タイヤの亀裂及び磨耗	☆ 12 24	(1)タイヤの接地面の全周と両側面に亀裂、損傷がないかを目視などにより点検する。									
3.タイヤの溝の深さ及び異常な磨耗	☆ 12 24	(1)タイヤの接地面に設けられているウェアインジケーター（スリップサイン）表示により点検する。又タイヤの接地面の全周にわたり、溝の深さが0.8mm以上あるかディプスゲージなどにより点検する。 (2)タイヤに偏摩耗などの異常な摩耗がないかを目視により点検する。									
4.ホイールリムの振れ	—	(1)ホイールリムの振れを点検する。 ホイールリムの振れ、リム端で フロントホイールリム：振れ2.5mm以下 リヤホイールリム：振れ2.5mm以下									
5.フロントホイールベアリングのがた	◆										
6.リヤホイールベアリングのがた	◆										
7.ホイールのボルト、ナットの緩み	◇	(1)ホイールボルト、ナットの緩みがないかをスパナなどのより点検する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>締付けトルク</th> <th>前輪</th> <th>後輪</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクスルナット</td> <td>11.0kg-m</td> <td>11.0kg-m</td> </tr> <tr> <td>ホイールナット</td> <td>2.7kg-m</td> <td>2.7kg-m</td> </tr> </tbody> </table>	締付けトルク	前輪	後輪	アクスルナット	11.0kg-m	11.0kg-m	ホイールナット	2.7kg-m	2.7kg-m
締付けトルク	前輪	後輪									
アクスルナット	11.0kg-m	11.0kg-m									
ホイールナット	2.7kg-m	2.7kg-m									
ショックアブソーバー 1.油漏れ及び損傷	12 24	(1)目視にて油漏れ及び外観の損傷がないかを点検する。									
2.取付部及び連結部	◆	(1)緩み、がた、損傷などがないかを点検する。									

点検項目	点検時期	点検内容
電気配線 1.接続部の緩み、損傷	12 24	(1)電気配線の接続部に緩みがないかを手で動かすなどして点検する。 (2)電気配線に損傷はないか、クランプに緩みがないかを、目視などにより点検する。
スイッチ類 1.灯火装置、方向指示器の作動	☆ 6 12 24	(1)エンジンを始動させ、前照灯、制動灯、尾灯などの点灯、又は点滅具合を目視などにより点検する。また、前照灯の明るさや照射方向に異常がないかを目視などにより点検する。 (2)方向指示器を左右に作動させ、毎分60~120回の一定の周期で点滅するかを点検する。 (3)前照灯、制動灯、尾灯、方向指示器などのレンズに変色、損傷がないかを目視などにより点検する。また、灯火器の取り付けに緩みがないかを手で触れるなどして点検する。 
2.警音器の作動	12 24	(1)警音器を作動させ、音量、音質を聴覚により点検する。
3.計器の作動	12 24	(1)走行して速度計の指示が滑らかに作動するかを点検する。 (2)その他の計器にあっては、必要に応じて規定の方法により点検する。
その他 1.フレームの緩み、損傷	12 24	(1)フレームなどのボルト、ナットの緩みがないかをスパナなどにより点検する。また、フレームなどに損傷などがないかを目視により点検する。
2.シャシー各部の給油脂状態	12 24	(1)シャシー各部の給油脂状態が十分であることを目視などにより点検する。 

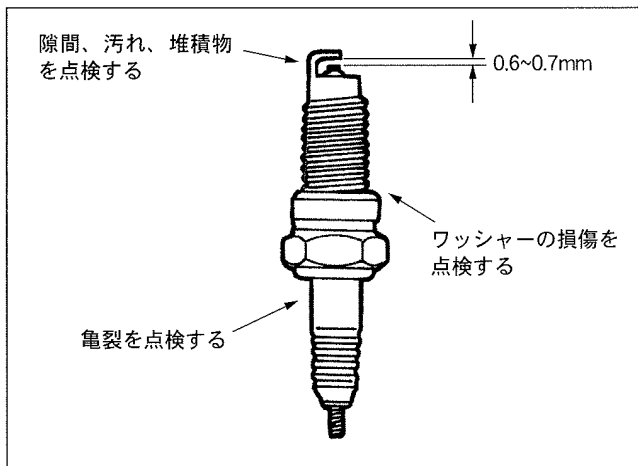


◆メンテナンスハッチの取り外し

- ・エンジンの簡単なメンテナンスはメンテナンスハッチを取り外して行う。メンテナンスハッチは四隅の袋ボルトを緩めて外す。
- ・メンテナンスハッチの取り付けは逆の手順で行う。



締付トルク：2.0kg-m



◆電気装置

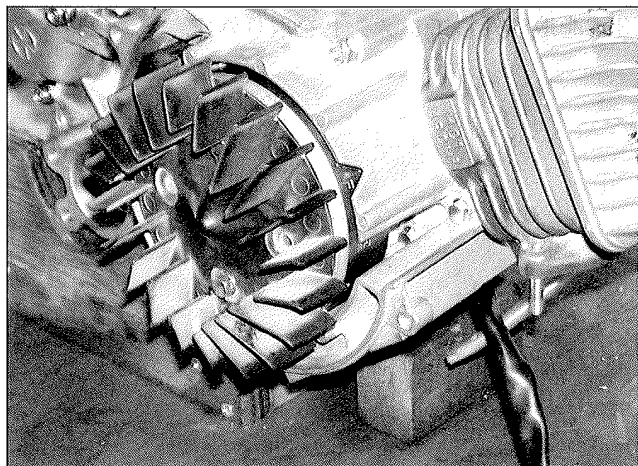
●点火装置

〈点火プラグの状態〉

- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・スパークプラグを取り外す。
- ・プラグの焼損、汚れ、堆積物を点検する。汚れ、堆積物がある場合はプラグクリーナー又はワイヤブラシで清掃する。

指定プラグ：NGK BR8HSA

プラグの隙間：0.6~0.7mm



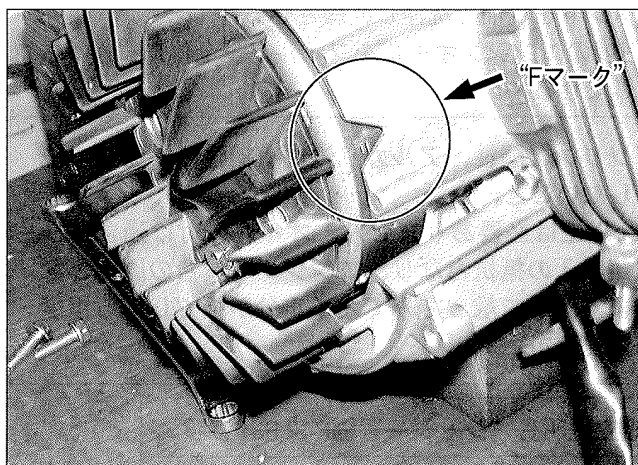
〈点火装置〉

C.D.Iを使用しているため、点火時期調整は必要ない。点火時期がくるっている場合は、C.D.Iユニット、パルスジェネレーター又はACジェネレーターを点検し、不良なら交換する。



- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・ボルトを2本を外して、シリンダーカバーを取り外す。
- ・車輻をジャッキアップする。(→B-9)
- ・ボルト4本を外して、リヤタイヤを取り外す。(左右)
- ・エキゾーストマフラーを取り外す (→N-7)
- ・ボルト2本を外して、ファンカバーを取り外す。
- ・エンジン暖気後、タイミングライトで点火時期を点検する。
- ・エンジン回転が1900rpmの時、Fマークが合わせマークに±3°以内に合えば良好である。

点火時期：17° BTDC/1900rpm



点検/調整



◆原動機

●本体

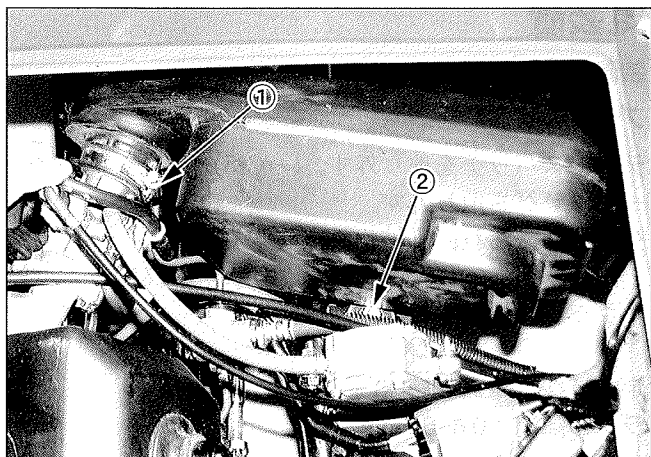
〈低速と加速の状態〉



調整は暖機運転後に行う

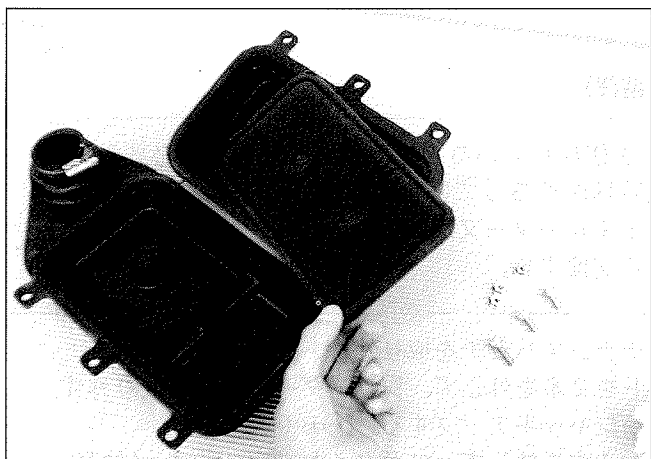
- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・スロットルストップスクロウを回し、規定のアイドリング回転数にする。

アイドリング回転数：1900±100rpm

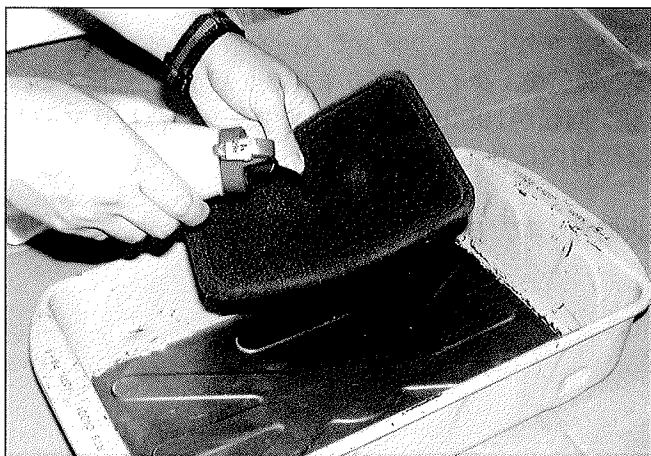


●エアクリーナーエレメント

- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・ホースバンドを緩め、コネクティングチューブを取り外す。(矢印①)
- ・ボルトを緩めエアクリーナーを外す。(矢印②)



- ・ビス3本を取り外しエレメントを取り外す。



- ・エレメントを洗油で洗浄し乾燥させる。
- ・7cc程度のエンジンオイルをフィルター全体にまんべんなくなじませる。

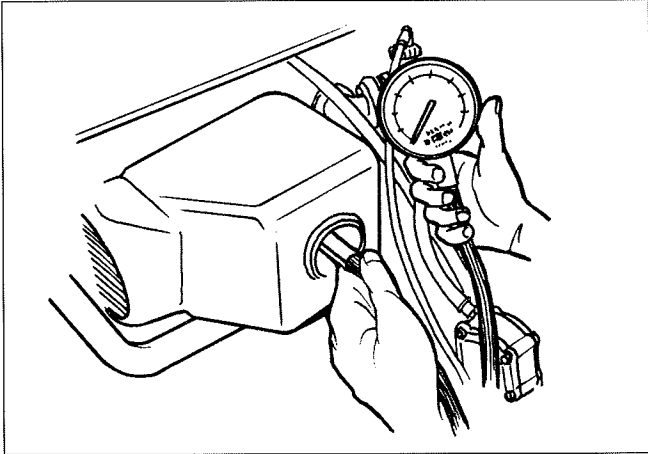


- ・ガソリン、酸性、アルカリ性、有機性の揮発油で洗浄しないこと。
- ・7cc以上は必要ありません。オイルの付け過ぎは、空気吸入の抵抗となり、エンジン不具合の原因となります。手で触ってみてオイル分が軽くしめる程度が目安です。



K-1組立説明書“シャシー”編P42,P99参照

点検/調整



測定は暖機運転後行う

- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・スパークプラグを外し、コンプレッションゲージをセットする。
- ・スロットルを全開にし、スターターモーターを7~8秒回転させ、圧縮圧力を測定する。

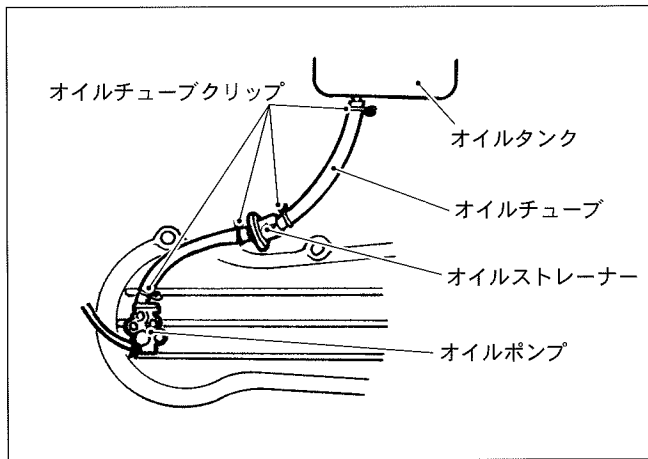
圧縮圧力：10.0kg/cm²-600rpm

〈圧縮圧力が低い場合は次の項目を点検する〉

- シリンダーヘッドガasketの破損
- ピストン・シリンダーの摩耗

〈圧縮圧力が高い場合は次の項目を点検する〉

- 燃焼室内、ピストンヘッドのカーボン堆積を点検する。



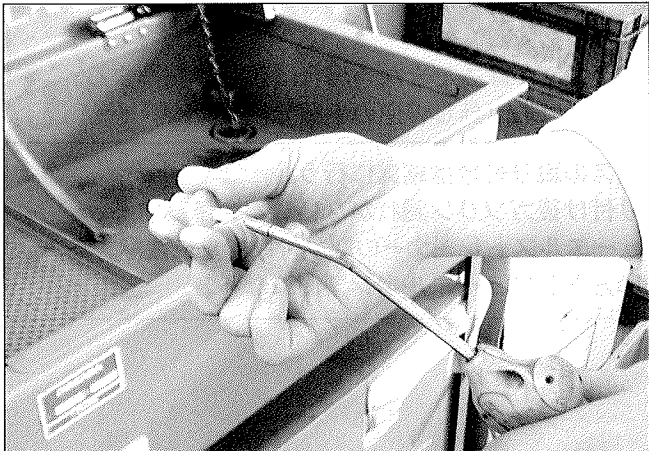
◆潤滑装置

●オイルストレーナーの詰り

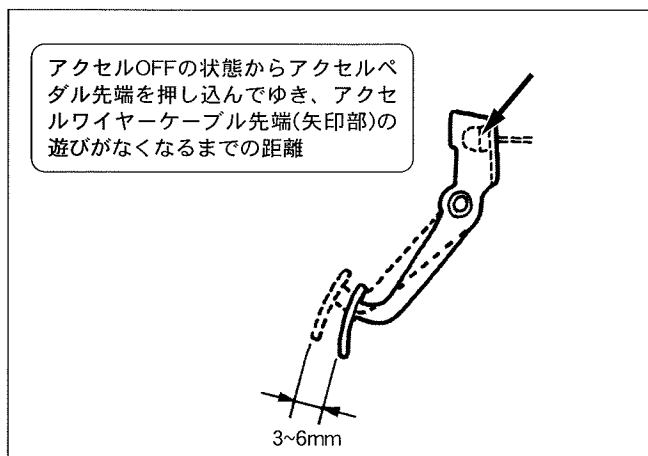
- ・車輛をジャッキアップする。(→B-9)
- ・リヤタイヤを取り外す。
- ・オイルチューブをオイルポンプ側で外し、オイルタンク内のオイルを清潔な容器に抜き取る。
- ・オイルタンク側のオイルチューブクリップを緩め、オイルチューブを外す。
- ・オイルストレーナーを取り外し、オイルポンプ側よりエアを吹き付け、ゴミを取り除く。
- ・エアでゴミが除去できない場合は新品に交換する。
- ・取り付けは逆の手順で行い、オイルタンクに指定のオイルを補給する。
- ・オイル補給後オイルポンプとオイルチューブのエア抜きを行う。(→D-5)



- ・オイルチューブは確実に取り付ける。
- ・オイルストレーナーの取り付け向きに注意して取り付ける。オイルストレーナーの矢印方向をオイルポンプ側にする。
- ・作業終了後、各部オイル漏れを点検する。



点検/調整

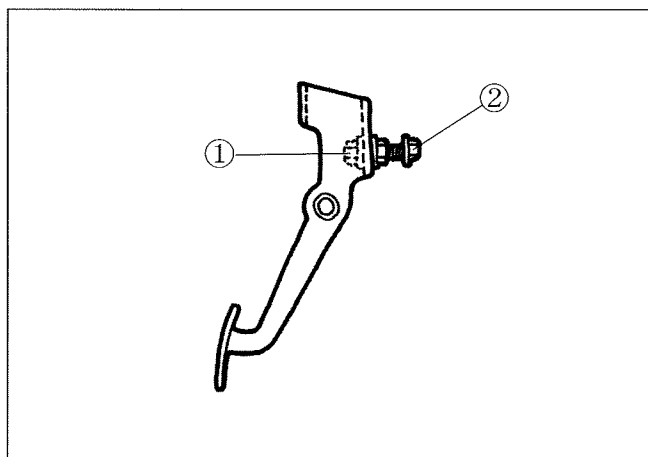


◆燃料装置

●スロットルバルブ及びチョークバルブの状態

- ・アクセルペダルの遊びを点検する。

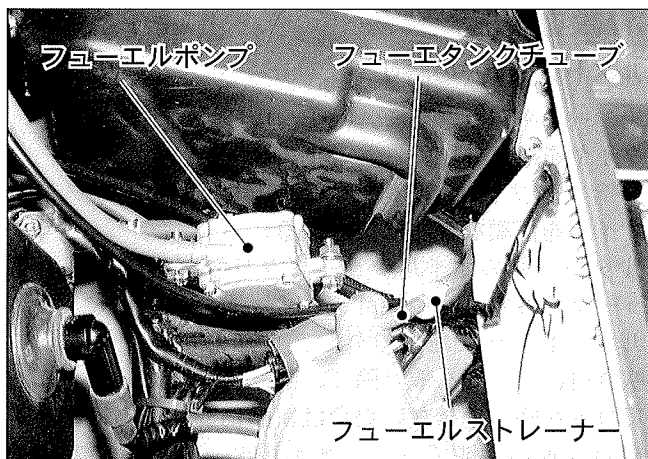
遊び：3~6mm



- ・規定値以外の場合は①部のナットを緩め、②部のボルトをまわし、規定値内に調整する。



K-1組立説明書“ボディー”編P56~58参照



●フューエルストレーナーの詰り

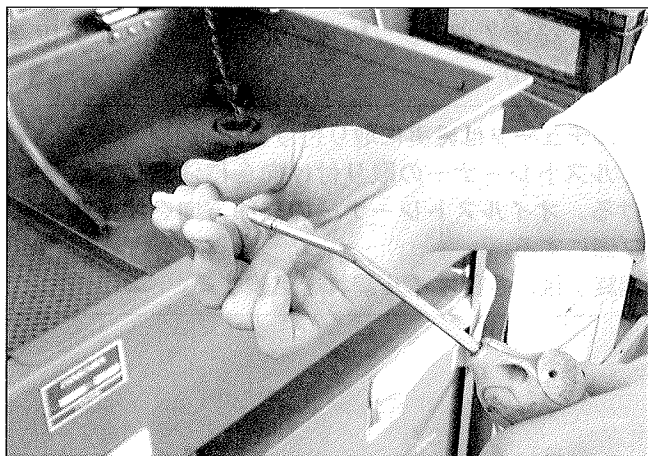


火気厳禁

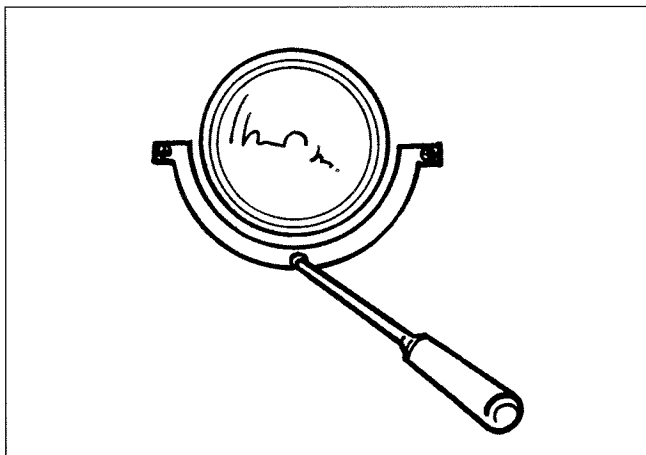
- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・車輛をジャッキアップする。(→B-9)
- ・フューエルタンクチューブをフューエルポンプ側から外し、タンク内のガソリンを清潔な容器に抜き取る。
- ・その際、ガソリンがスムーズに流れ出れば良好である。スムーズに流れ出ない場合は以下の要領でフューエルストレーナーを清掃する。
 - －タンク内、チューブ内のガソリンを排出する。
 - －フューエルストレーナーを取り外す。
 - －フューエルストレーナーの矢印方向側よりエアを吹き付けて清掃する。
 - －エアでゴミが除去できない場合は新品に交換する。
 - －取り付けは取り外しの逆の手順で行う。



- ・ホースの取り付けは確実にを行う。
- ・取り付け後ガソリン漏れがないことを確認する。
- ・フューエルストレーナーの取り付け向きに注意する。矢印方向がフューエルポンプ側になる。



点検/調整



◆その他

●灯火装置

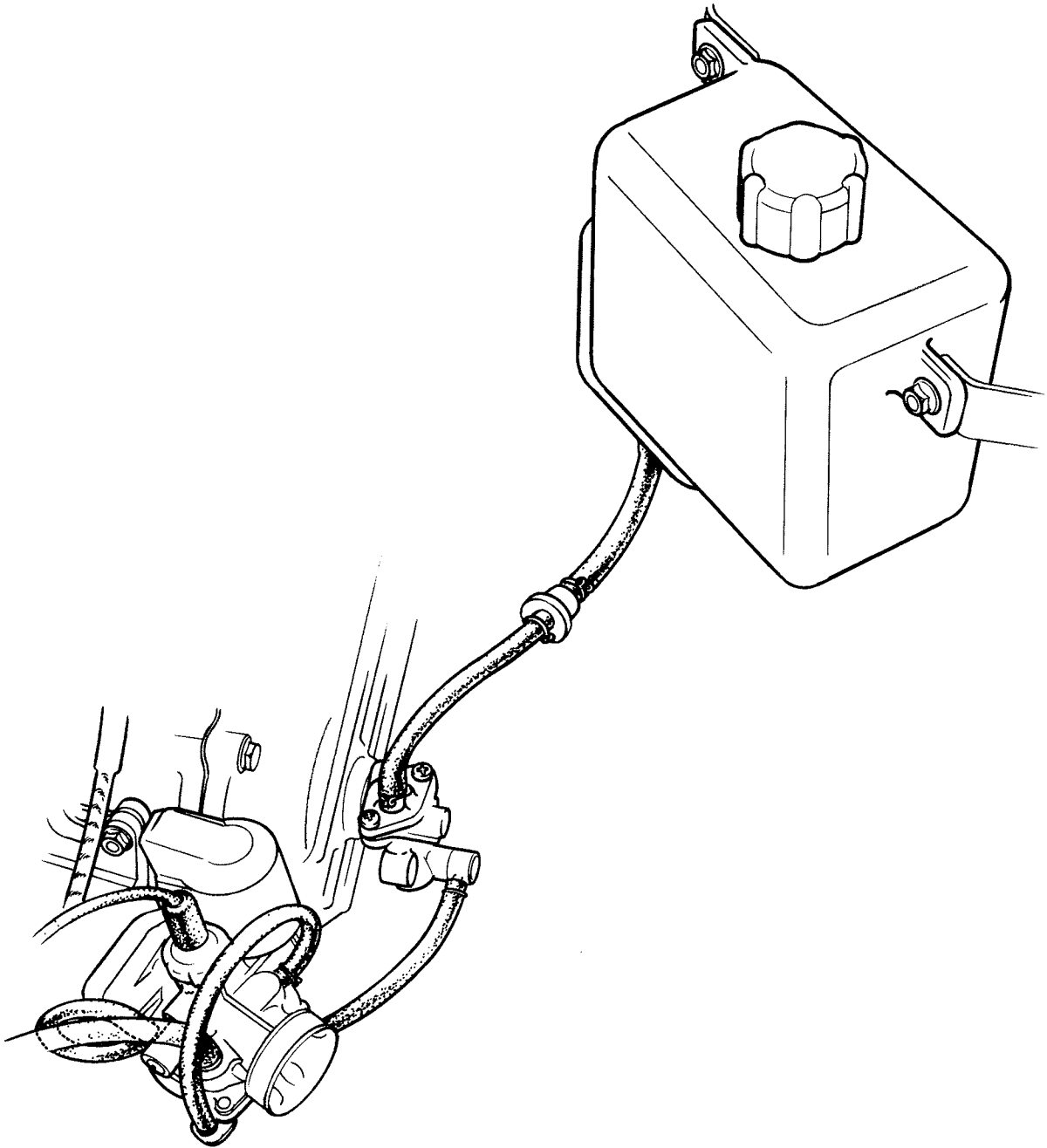
- ・ヘッドライトの明るさ、照射角度に異常がないか、ヘッドライトテスター又は壁などに照射して点検する。
- ・照射角度調整
－ヘッドランプリングを取り外し、光軸調整用のビスを回して調整する。



K-1組立説明書“ボディー”編P190~P192参照

- ・電気配線に損傷、接続部の緩み、クランプに緩みがないかを点検する。
- ・ヘッドライト、ブレーキランプが点灯するか点検する。
- ・フラッシャーを左右に作動させ、毎分60~120回の一定の周期で点滅するかを点検する。
- ・計器の作動
－走行してスピードメーターの指針が速度に応じて滑らかに追従するか点検する。

潤滑系統



◆故障診断

●排気煙が多い、スパークプラグにカーボンが堆積する

- ・オイルポンプの不良(吐出量過多)
- ・エンジンオイルの品質不良

●オーバーヒート

- ・オイルポンプの不良(吐出量過小)
- ・エンジンオイルの品質不良

●ピストンの焼付

- ・エンジンオイル切れ又はオイルチューブの詰り
- ・オイルポンプの不良(吐出量過多)
- ・オイルチューブ系統のエア混入

●オイルタンクからエンジンオイルが出ない

- ・オイルタンクキャップの通気不良
- ・オイルフィルターの詰り

◆整備情報

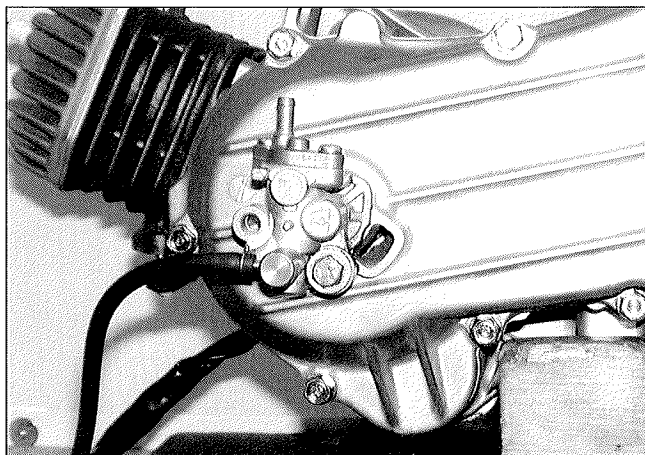
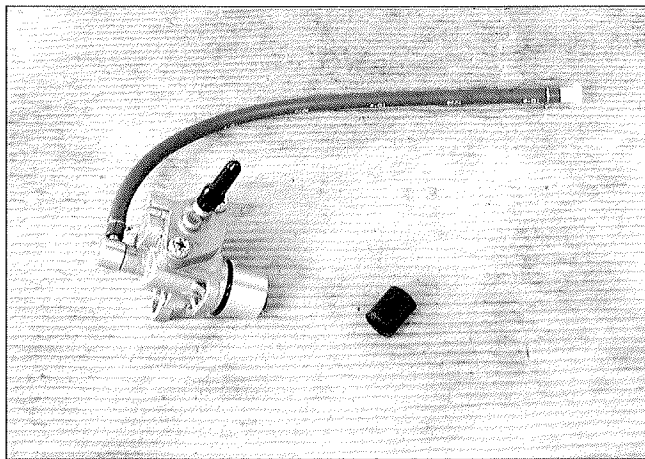
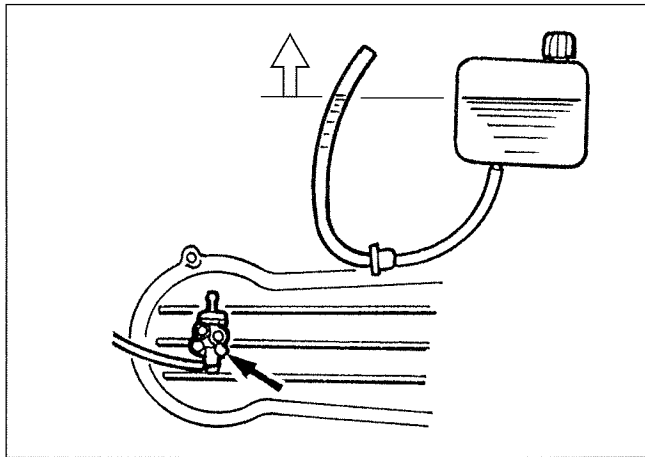
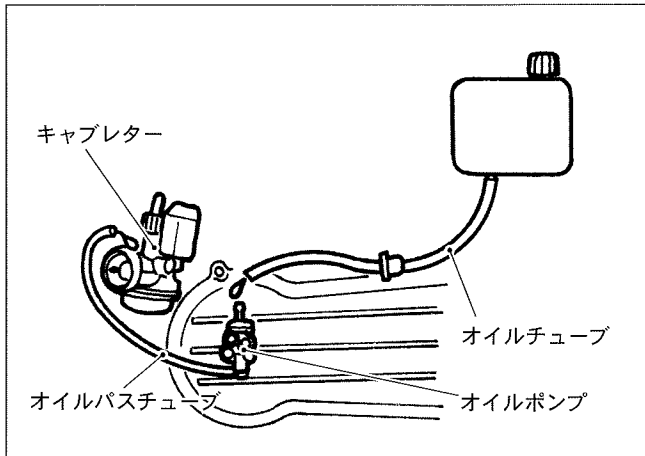
●作業上の注意

- ・オイルポンプ脱着時は、エンジン内部及びオイルチューブに異物が入らないように注意する。
- ・オイルポンプASSYは分解しないこと。
- ・オイルチューブ(タンク→オイルポンプ)に空気が入っていたり、オイルポンプからオイルチューブを外した場合は、オイルポンプのエア抜きを行う。
- ・オイルパスチューブ(オイルポンプ→インレットパイプ)を外した場合は、オイルパスチューブにオイルを満たしてから接続する。

●整備基準

- ・指定オイル：2ストローク用エンジンオイル(JASO M345規格 FC級)
- ・オイルタンク容量：1.2ℓ

潤滑系統



◆オイルポンプ

●オイルポンプの取り外し



オイルポンプ及びクランクケースを清掃してから作業を行なう。

- ・メンテナンスハッチを外す。(→C-5)
- ・車輛をジャッキアップする。(→B-9)
- ・リヤタイヤを取り外す。
- ・オイルチューブを外し、オイルパスチューブをキャブレターから外す。



オイルが流出しない様に、チューブにチューブクランプ又はプラグを付けておくこと。

- ・ボルトを取り外し、矢印部(オイルポンプ)をLサイドカバーから抜き取る。(その際、オイルポンプドライブジョイントも取り外す。)
- ・オイルチューブ先端は、オイルタンク内のオイル液面より上にあげ、その状態のままオイルタンクにテープ等で固定する。

●オイルポンプの点検

- ・オイルポンプを取り外し、点検を行う。
- ・Oリングのへたり
- ・クランクケースとの嵌合部の損傷
- ・オイルポンプボディーの損傷
- ・オイルポンプドライブジョイント部の摩耗及び損傷
- ・各シール部からのオイル漏れ



オイルポンプは分解禁止。分解して使用しないこと。

●オイルポンプの取り付け



締付トルク：1.2kg-m



・オイルポンプドライブジョイントを取り付ける。(組み立て時クランクシャフトとの位相に注意すること)



・Oリングにグリース又はオイルを塗布してからオイルポンプを取り付ける。

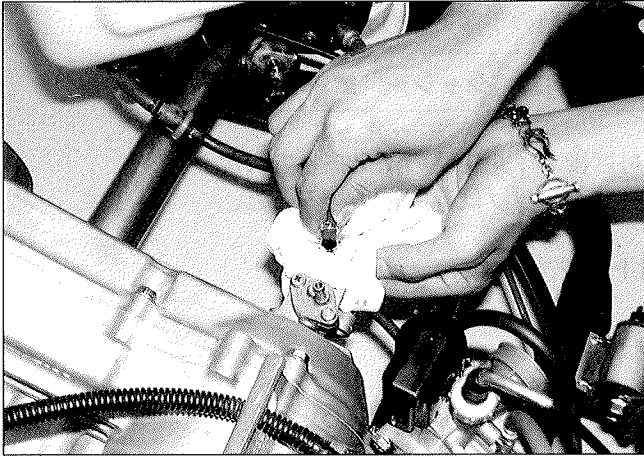
・オイルポンプとLサイドカバーの嵌合は確実に行う。



K-1組立説明書“エンジン”編P54,55参照



潤滑系統



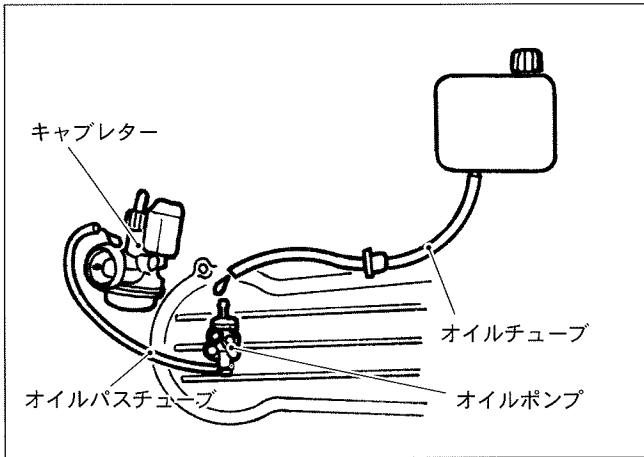
P ◆エア抜き



- ・オイル経路に空気が混入していると、エンジンの潤滑に支障をきたす。
- ・オイルチューブを外したり、オイル切れを起こしたりして、オイルチューブに空気が混入したときにはオイルチューブとオイルポンプのエア抜きを行なうこと。

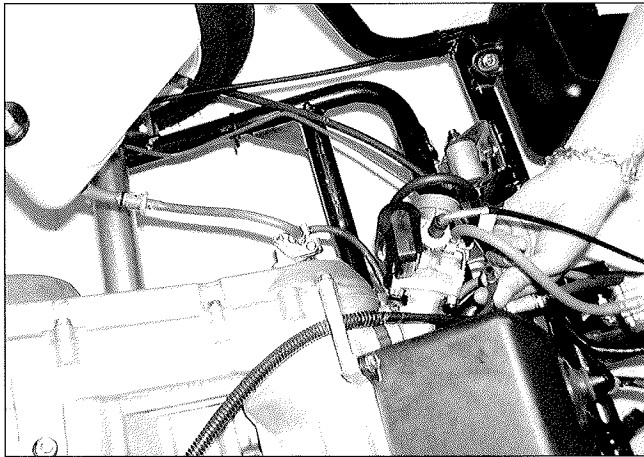


K-1組立説明書 “シャシー” 編P92,93参照



●オイルチューブ/オイルポンプ/オイルパスチューブのエア抜き

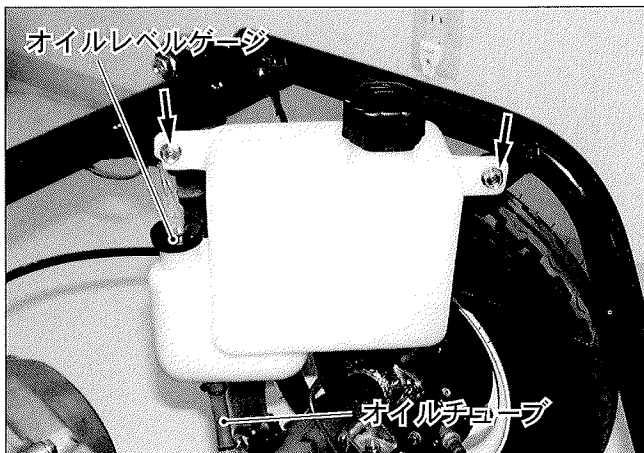
- ・オイルタンクにエンジンオイルを補給する。
- ・オイルポンプの周囲にウエスを巻く。
- ・オイルチューブを外す。
- ・オイルチューブ先端からエンジンオイルが2~3滴垂れ落ちてくるのを待つ。
- ・エンジンオイルが垂れ落ちてきたら、素早くオイルチューブをオイルポンプに取り付ける。
- ・チューブクリップでオイルチューブを固定する。
- ・エンジンをアイドル回転させ、オイルパスチューブからエンジンオイルが吐出することを確認する。
- ・オイルパスチューブをキャブレターに取り付ける。



- ・1分以内にオイルが吐出しな場合は上記の作業を繰り返す。その際は、エンジン焼き付き防止の為、混合ガソリンを使用すること。
ーガソリン/オイル混合比 40 : 1 ~ 50 : 1



- ・通気の悪いところでのエンジンの始動は行わないこと。
- ・むやみにエンジン回転を上げないこと。

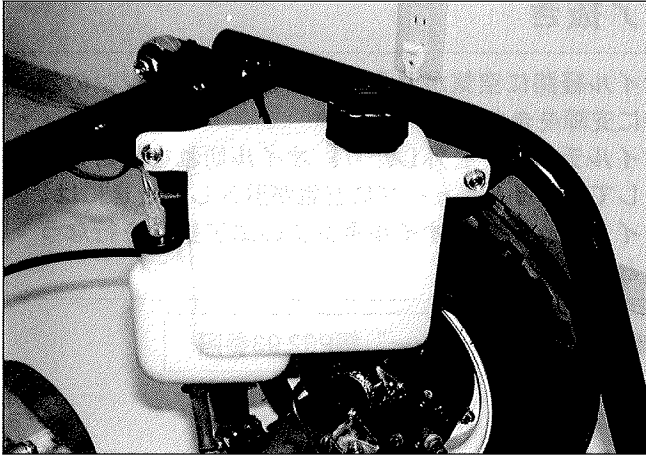


P ◆オイルタンク

●オイルタンクの脱着

- ・車輛をジャッキアップする。(→B-9)
- ・オイルレベルゲージ端子を外す。
- ・オイルチューブをオイルタンクから外す。
- ・タンク内のオイルを清潔な容器に抜きとる。
- ・ボルト2本を取り外す。(矢印部)
- ・オイルタンクを取り外す。

潤滑系統



- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



K-1組立説明書“シャシー”編P64参照

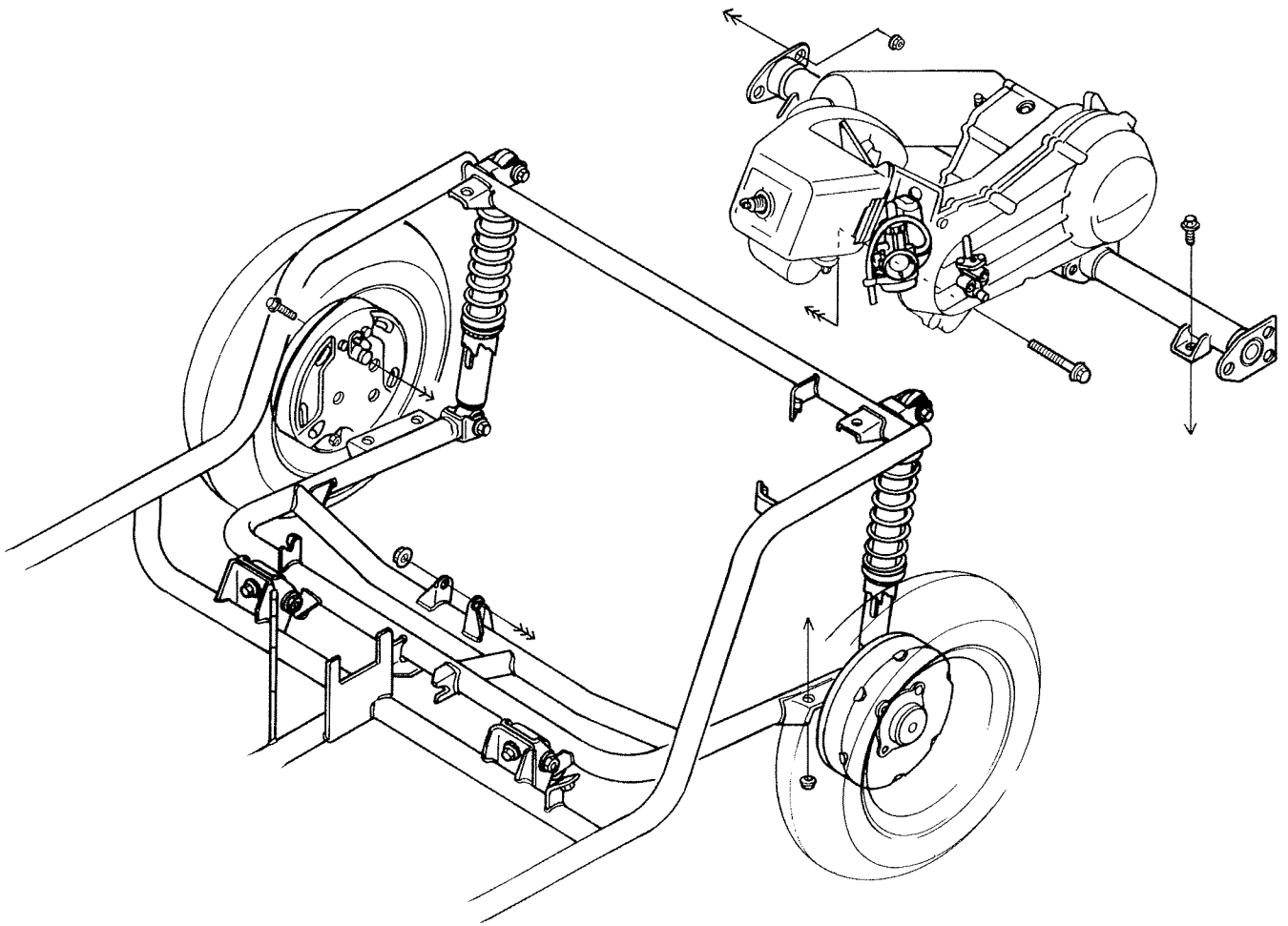
- ・取り付け後オイル経路のエア抜きを行なう。
- ・チューブクリップは確実に止めること。



締付トルク：0.5kg-m



エンジン脱着



エンジン脱着

◆整備情報

●作業上の注意点

- ・エンジンを取り外して行う作業
－クランクケース、クランクシャフト

●締付トルク

- | | |
|---------------------------------|----------|
| ・リヤクッションロアボルト(M10-40) | 4.0kg-m |
| ・エンジンマウントブラケット(M10-70) | 4.0kg-m |
| ・リヤサスペンションアーム～ホーシング取付ボルト(M8-15) | 2.7kg-m |
| ・ホーシング～エンジン取付ボルト(M8-20) | 2.7kg-m |
| ・リヤドラム取付ナット(M14) | 11.0kg-m |
| ・リヤタイヤ取付ボルト(M8-20) | 2.7kg-m |
| ・リヤバックプレート取付ボルト(M8-15) | 2.7kg-m |
| ・スピードメーターギヤホルダー取付ボルト(M6-25) | 1.0kg-m |
| ・ドレンボルト(M10-15) | 1.8kg-m |

エンジン脱着



◆エンジンの取り外し

- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・エアクリーナーを取り外す。(→C-6)
- ・フューエルチューブをキャブレターより取り外す。



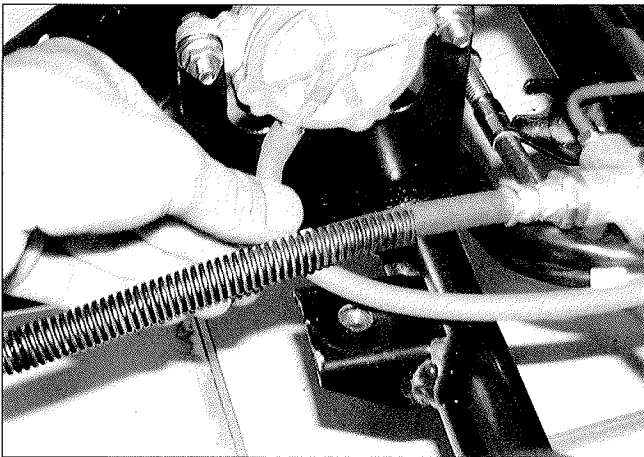
ガソリンが流出しないようフューエルチューブにチューブクランプまたはプラグを付けておく。

- ・キャブレタートップを取り外す。(→K-4)
- ・プラグキャップを取り外す。
- ・フューエルポンプ横のエンジンハーネスカプラー、オートバイスターターワイヤーカプラーの接続を外す。
- ・エンジン下部のワイヤリングクリップ (エンジンハーネス、オートバイスターターワイヤー、パルスチューブ共締め) を切り取る。
- ・車輛をジャッキアップする。(→B-9)



●パルスチューブの取り外し

- ・フューエルポンプよりパルスチューブを取り外す。

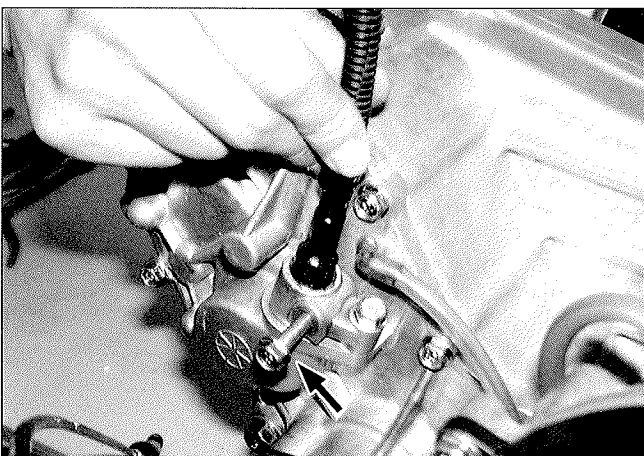


●スピードメーターケーブルの取り外し

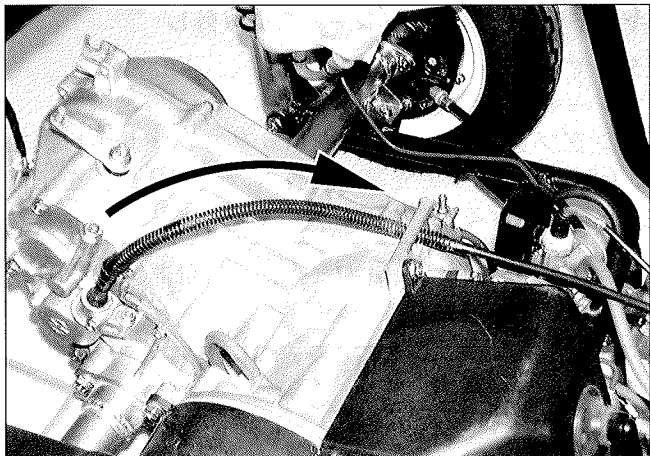
- ・スピードメーターギヤホルダーのボルト(矢印部)を取り外し、スピードメーターケーブル先端を外す。



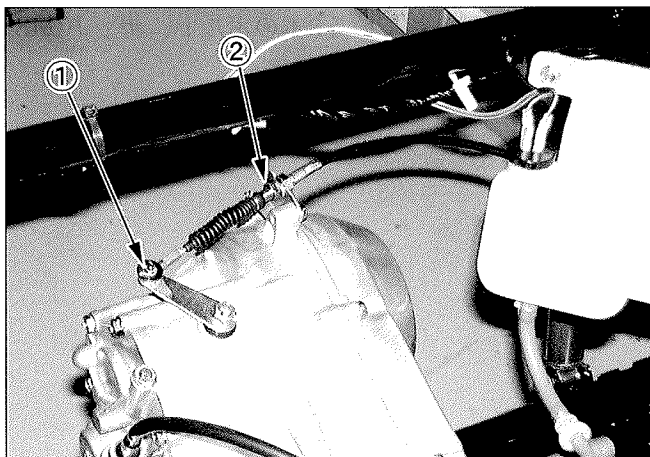
K-1組立説明書“シャシー”編P.80,81の逆の手順



エンジン脱着



・矢印に従いスピードメーターケーブルをエンジン本体から外しておく。

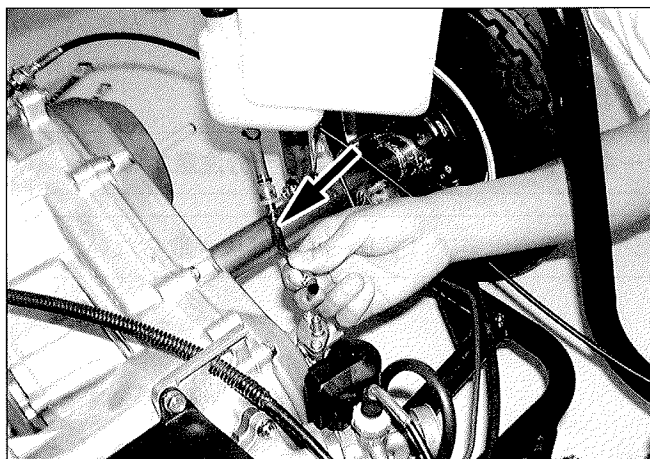


●シフトワイヤーケーブルの取り外し

・シフトワイヤーケーブルを取り外す。

①部：スプリットピン、プレインワッシャーを外し、シフトワイヤーケーブル先端を取り外す。

②部：ナット2個を緩め、シフトワイヤーケーブルを取り外す。

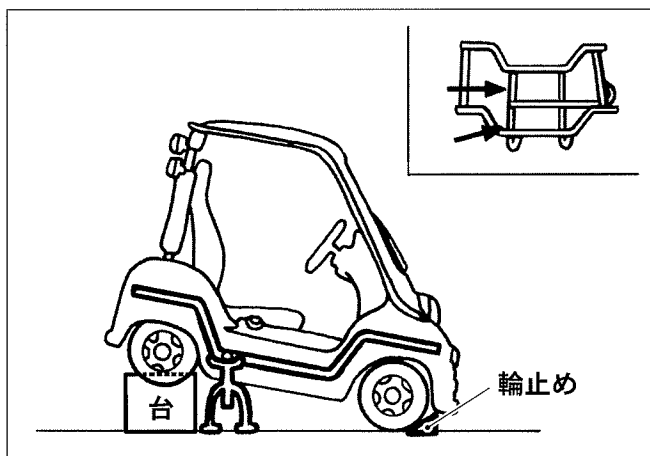


●オイルチューブの取り外し

・オイルチューブをオイルポンプから外す。



オイルが流出しないようオイルチューブにチューブクランプまたはプラグを付けておく。



●車輛後部のジャッキアップ

・後輪を浮かすようにしてジャッキアップする。その際、リジットラックはフレーム本体(矢印部)にセットする。



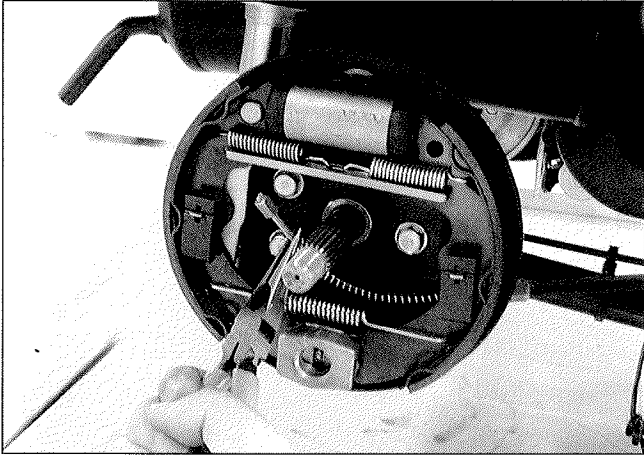
ホーシングおよびリヤサスペンションアームにセットしないこと。

・エンジンが作業中に落下しないよう、リヤサスペンションアーム下部に台をセットしておく。



このときフロントタイヤ前部に輪止めを置く。

エンジン脱着

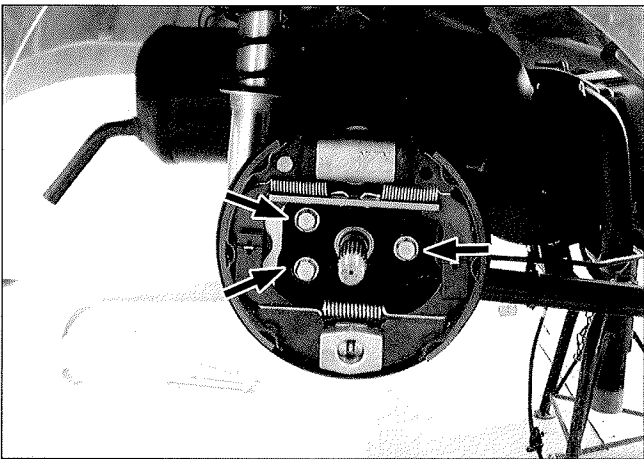


●タイヤ、ドラム、バックプレートの取り外し

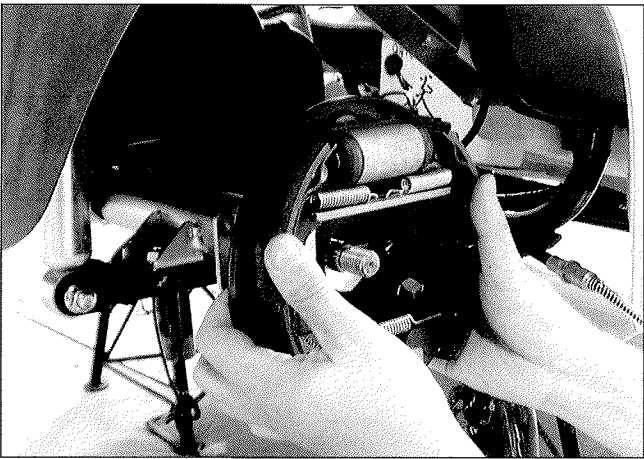
- ・リヤタイヤを取り外す。
- ・リヤブレーキドラムを取り外す。
- ・パーキングブレーキワイヤーをバックプレートから抜き取る。(ラジオペンチで先端をつまみ、スプリングを圧縮しながら持ち上げると外れる。)



このときパーキングブレーキワイヤーの取付部(→M-20)を緩めておくと作業がしやすい。



- ・バックプレートを固定している3本のボルト、ナット(M8-15)を取り外す。



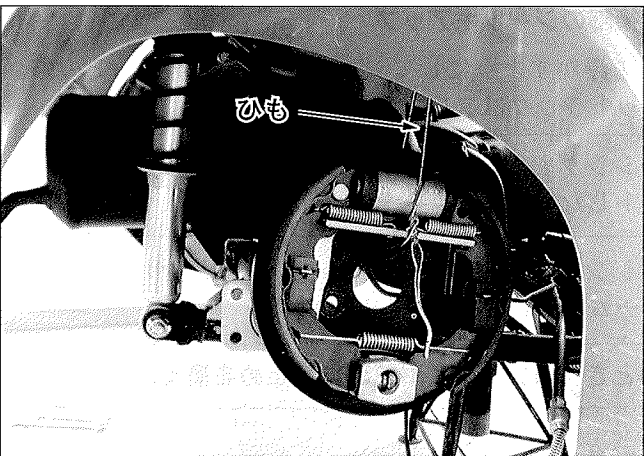
- ・ブレーキパイプを変形させないように注意しながらバックプレートを車輻外側に引っ張り、ドライブシャフトから取り外す。



ブレーキパイプを変形させないように十分注意すること。

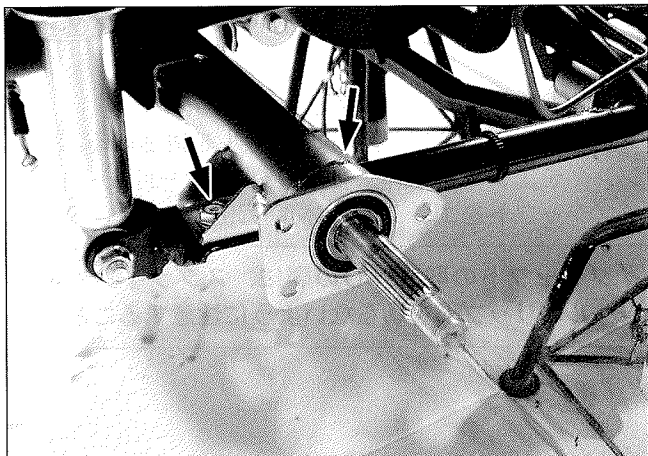


エンジン脱着の作業ではブレーキ液は抜き取らない。



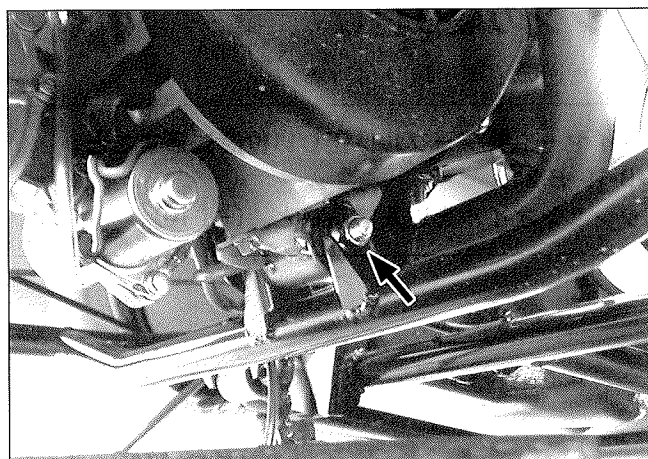
- ・ブレーキパイプを変形させないように、この状態でバックプレートをフレームからひもなどで吊っておく。

エンジン脱着

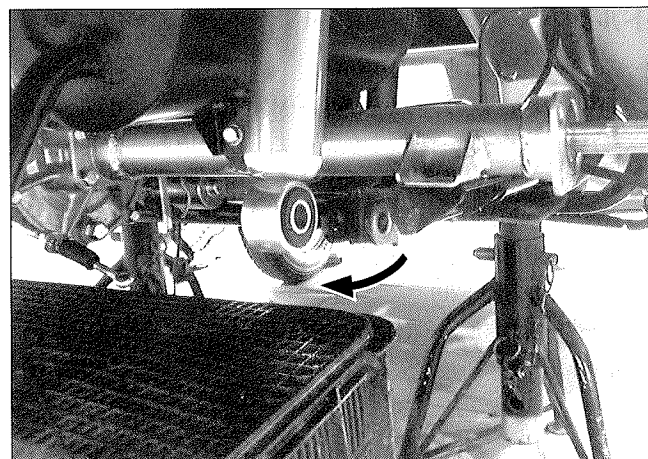


●エンジンASSYの取り外し

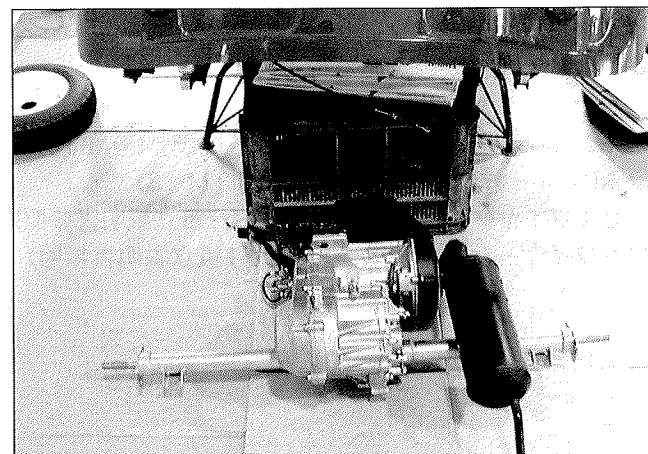
- ・ホーシングとリヤサスペンションアームを固定しているボルト、ナットを取り外す。(M8-15)



- ・エンジンマウントブラケットとリヤサスペンションアームを固定しているボルト、ナットを取り外す。(M10-70 1本)



- ・リヤクッションの下側のボルトを取り外し、リヤクッションを後方にずらしておく。

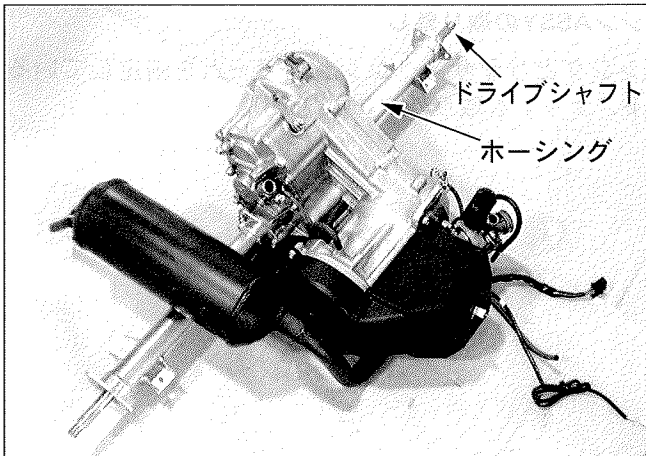


- ・エンジンASSYを車輛後方へ引き出す。



- ・エンジンASSYの取り外しは2人で行うこと。
- ・エンジンハーネス、各チューブ類、各ケーブル類がエンジンから確実に取り外されていることを確認してから、エンジンを取り外すこと。

エンジン脱着



●エキゾーストマフラー、ホーシング、ドライブシャフトの取り外し

- ・エキゾーストマフラーを取り外す。(→N-7)
- ・ドレンボルトを緩め、ミッションオイルを抜き取る。
- ・ホーシングをエンジン本体より取り外す。(→N-6)
- ・ドライブシャフトをエンジン本体より取り外す。(→N-7)



ドライブシャフトの取り外しの際に、スプラインでオイルシールのリップ部を切らないように注意すること。

◆エンジンの取り付け

- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



- ・各ワイヤー、各ケーブルは正しい位置に通すこと。(→B-19~B-21)
- ・ミッションオイルを注入すること。(→F-10)

●締付トルク

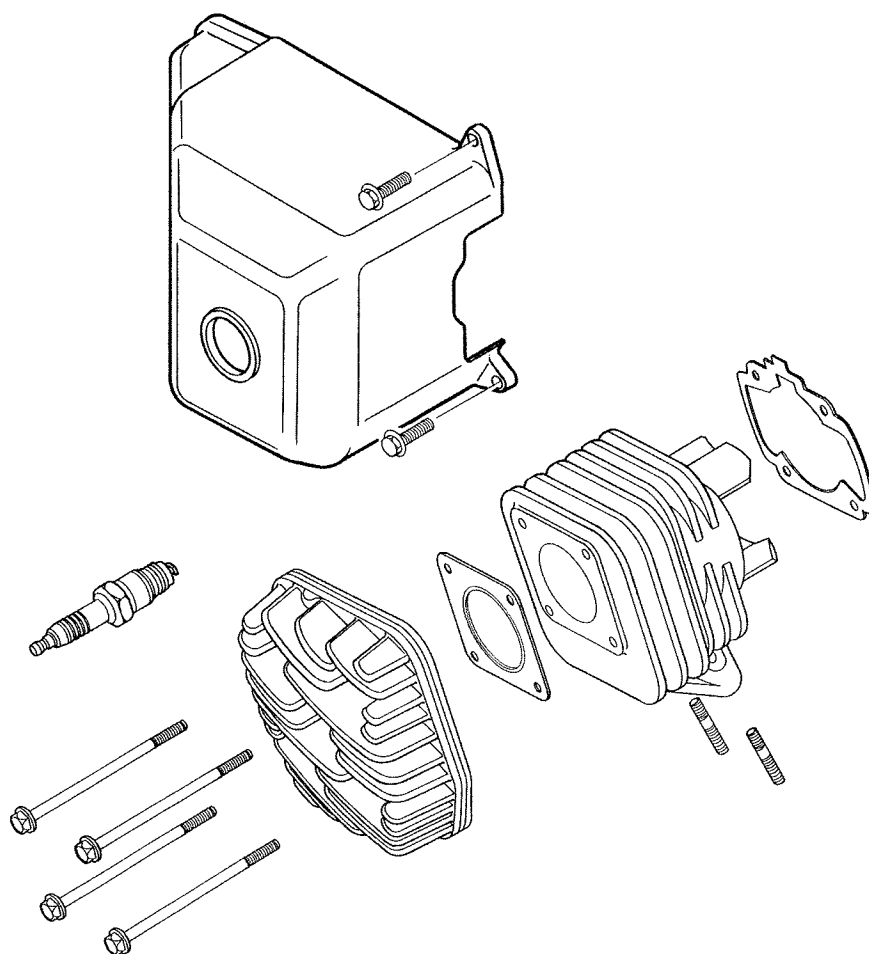
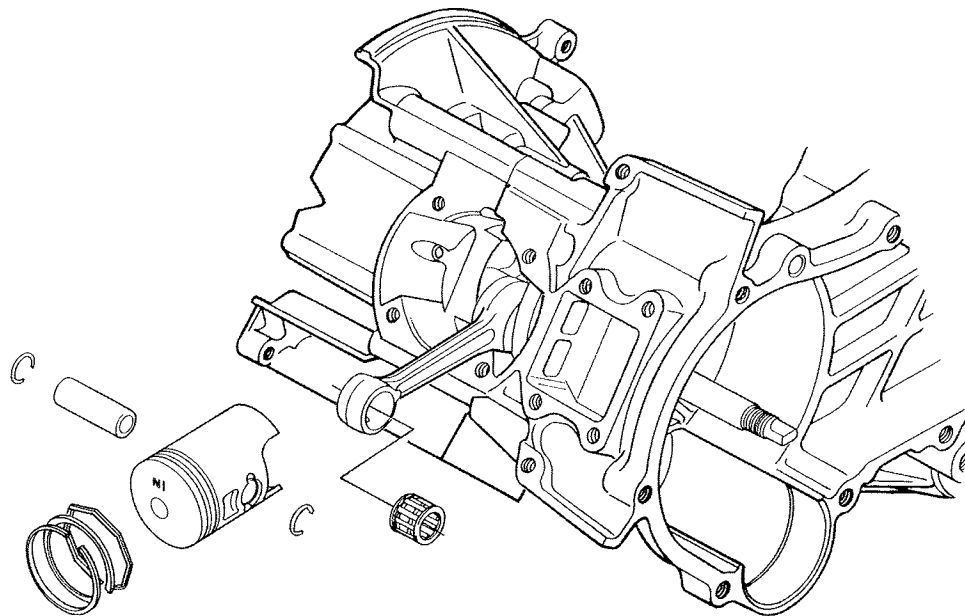


- | | |
|--|----------|
| ・リヤクッションロア取付ボルト(M10-40) | 4.0kg-m |
| ・エンジンマウントブラケット-リヤサスペンションアーム取付ボルト(M10-70) | 4.0kg-m |
| ・リヤサスペンションアーム~ホーシング取付ボルト(M8-15) | 2.7kg-m |
| ・ホーシング~エンジン取付ボルト(M8-20) | 2.7kg-m |
| ・リヤドラム取付ナット(M14) | 11.0kg-m |
| ・リヤバックプレート取付ボルト(M8-15) | 2.7kg-m |
| ・リヤタイヤ取付ボルト(M8-20) | 2.7kg-m |
| ・スピードメーターギヤホルダー取付ボルト(M6-25) | 1.0kg-m |
| ・ドレンボルト(M10-15) | 1.8kg-m |

●エンジン取付後の調整

- ・エンジン取付後は、次の調整を行う。
 - ーオイルポンプのエア抜き(→D-5)
 - ーパーキングブレーキワイヤー引きしろの調整(→M-19)
 - ードラム(ブレーキシュー)の調整(→M-13,M-18)
 - ーアクセルワイヤーケーブルの調整(→K-1組立説明書参照)
 - ーシフトワイヤーケーブルの調整(→K-1組立説明書参照)

シリンダーヘッド/シリンダー/ピストン



シリンダーヘッド/シリンダー/ピストン

◆故障診断

●圧縮圧力が低い/始動不良/低速の不調

- ・シリンダーヘッドガスケットの吹き抜け
- ・スパークプラグの締付不良
- ・ピストンリングの摩耗、スティック、折損
- ・シリンダー、ピストンの摩耗または損傷
- ・リードバルブ不良

●圧縮圧力が高い/オーバーヒート/ノッキング

- ・シリンダーヘッド、またはピストン頭部にカーボンが堆積

●ピストンの打音

- ・シリンダー、ピストンの摩耗
- ・ピストンピン穴、ピストンピンの摩耗
- ・スモールエンドベアリングの摩耗

●ピストンリングの異音

- ・ピストンリングの摩耗、膠着(スティック)、または折損
- ・シリンダーの摩耗、損傷

◆整備情報

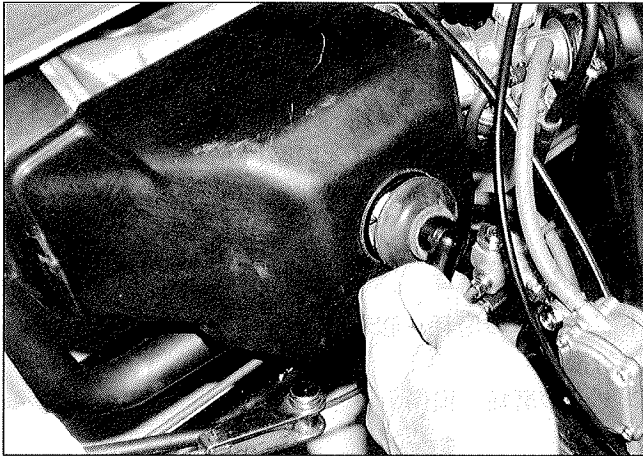
●作業上の注意

- ・本章の作業は、エンジン搭載状態で行える。
- ・作業前に清掃し、エンジン内部にゴミ、異物を落とさないようにする。
- ・合わせ面に付着したガスケット材は除去する。
- ・シリンダー及びシリンダーヘッドを取り外すときに、合わせ面をドライバー等で傷つけないようにする。
- ・シリンダー内部、ピストン外周部に傷をつけないようにする。
- ・取り外した部品は点検前に洗浄し、組み付け時に摺動面に指定のエンジンオイルを塗布する。

●締付トルク

- | | |
|--------------------|---------|
| ・シリンダーヘッドボルト | 1.2kg-m |
| ・エキゾーストパイプジョイントナット | 1.2kg-m |
| ・エキゾーストマフラーマウントボルト | 1.2kg-m |
| ・スパークプラグ | 1.4kg-m |

シリンダーヘッド/シリンダー/ピストン



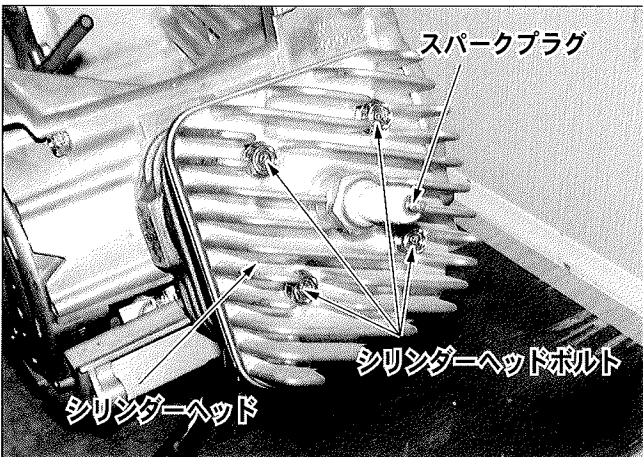
◆シリンダーヘッド

●シリンダーヘッドの取り外し

- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・プラグキャップを取り外す。



- ・ボルト2本を外して、シリンダーカバーを取り外す。



- ・スパークプラグを取り外す。
- ・シリンダーヘッドボルトを外し、シリンダーヘッドを取り外す。



ボルトは交互に2～3回に分けて緩めること。

- ・シリンダーヘッドガスケットを外す。



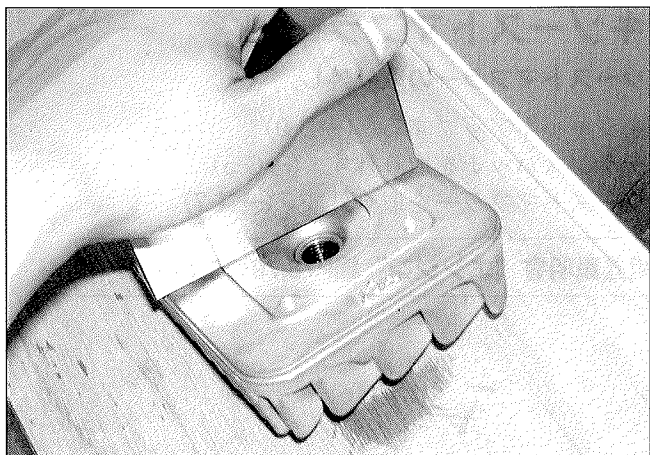
●燃焼室のカーボン除去

- ・燃焼室のカーボンを除去し、清掃する。



燃焼室の壁面及びシリンダーとの合わせ面に傷をつけないこと。

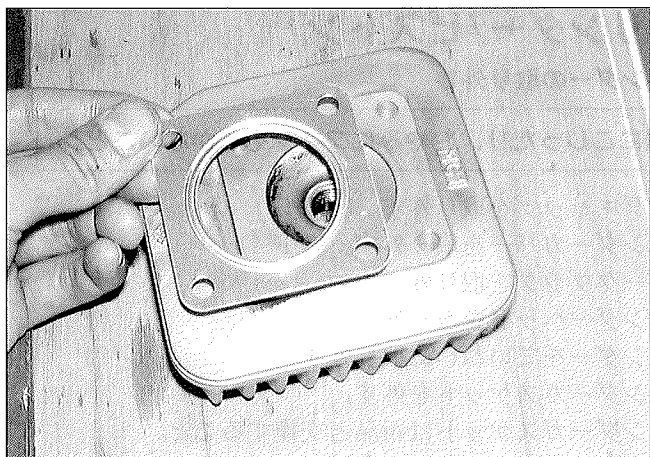
シリンダーヘッド/シリンダー/ピストン



●シリンダーヘッドの歪みの点検

- ・シリンダーヘッド合わせ面の各方向について歪みを点検する。

使用限度：0.10mm以上交換



●シリンダーヘッドの取り付け

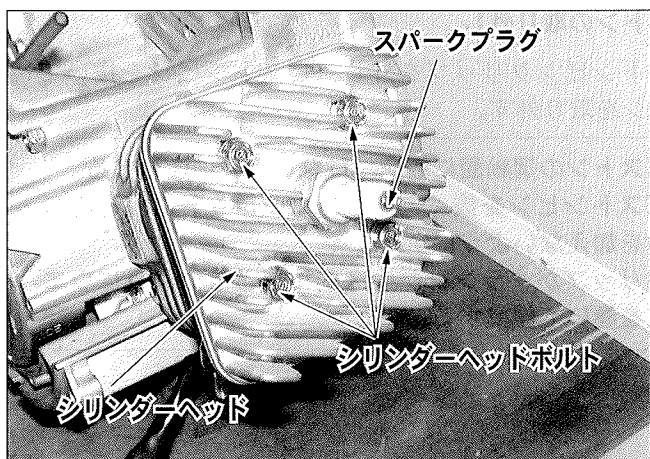
- ・シリンダーとシリンダーヘッドの合わせ面をきれいにする。



合わせ面に傷をつけない様に注意する。



- ・新品のシリンダーヘッドガスケットを使用する。



- ・シリンダーヘッドを取り付ける。
- ・シリンダーヘッドボルトを取り付け、交互に2～3回に分けて締め付ける。

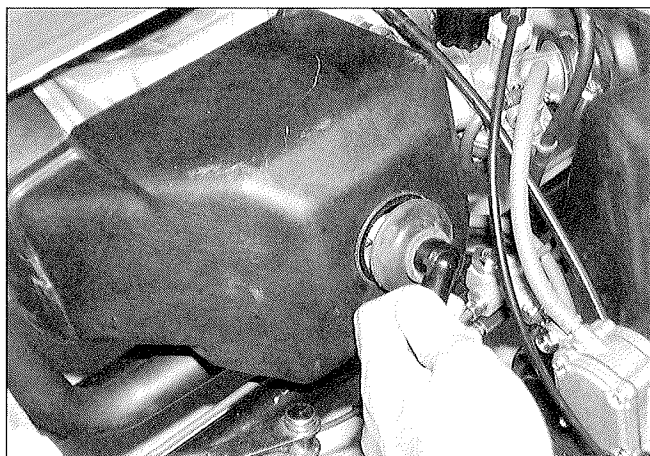


締付トルク：1.2kg-m

- ・スパークプラグを取り付ける。



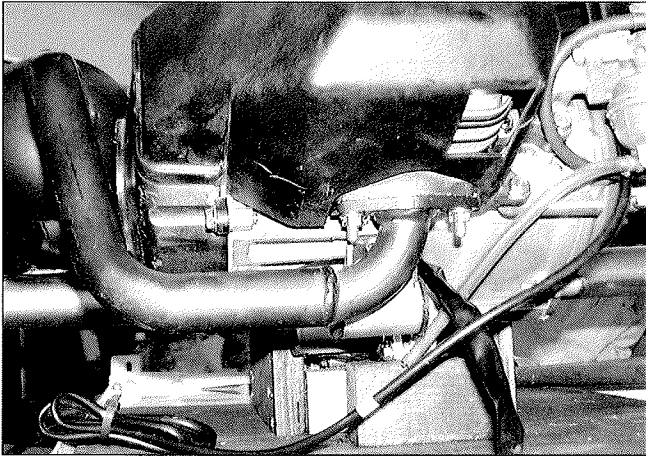
締付トルク：1.4kg-m(冷間)



- ・シリンダーカバーを2本のボルトで取り付ける。
- ・プラグキャップを取り付ける。

- ・作業後以下の項目の点検を行う。
 - －圧縮圧力の測定(→C-7)
 - －エンジン異音

シリンダーヘッド/シリンダー/ピストン



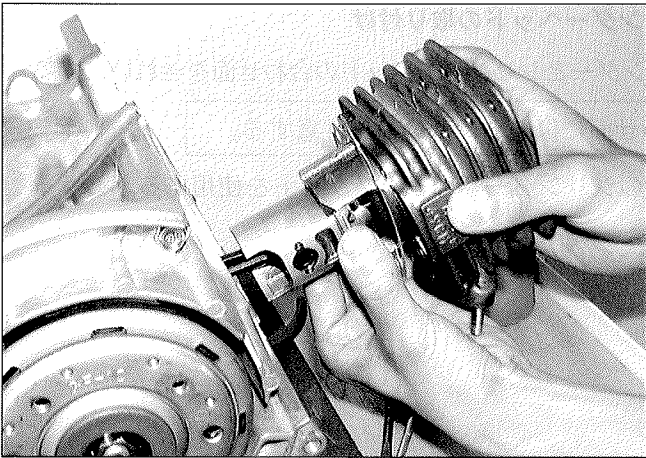
P ◆エキゾーストマフラー

●エキゾーストマフラーの取り外し

- ・ 車輛をジャッキアップする。(→B-9)
- ・ メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・ エキゾーストマフラーを取り外す。(→N-7)



K-1組立説明書“エンジン”編P78,79の逆の手順



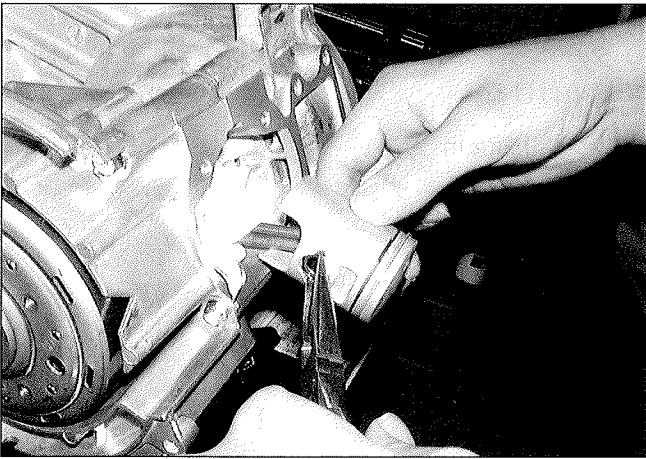
P ◆シリンダー/ピストン

●シリンダーの取り外し



無理にこじったり、むやみにフィンを叩かないこと。

- ・ プラグキャップを取り外す。(→F-5)
- ・ シリンダーカバーを取り外す。(→F-4)
- ・ スパークプラグを取り外す。
- ・ シリンダーヘッドを取り外す。
- ・ シリンダーをていねいに取り外す。
- ・ シリンダーガasketを外す。
- ・ シリンダーガasketは新品と交換すること。



P ●ピストンの取り外し

- ・ ピストンピンクリップを外し、ピストンピンを抜いてピストンを取り外す。

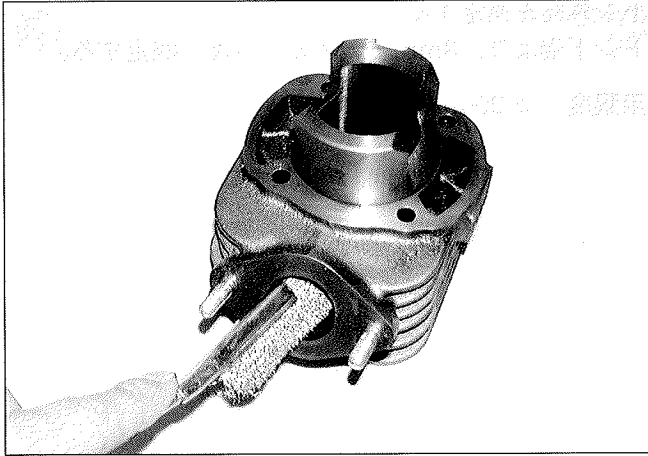


- ・ ピストンの摺動面に傷をつけないように注意する。
- ・ ピストンピンを抜くときは、コンロッドに横方向の力を加えないようにする。
- ・ クリップがクランクケース内に落ちないようにウエスを巻いて作業する。



- ・ ピストンリングの合口を開き、取り外す。
- ・ エキスパンダリングを取り外す。

シリンダーヘッド/シリンダー/ピストン

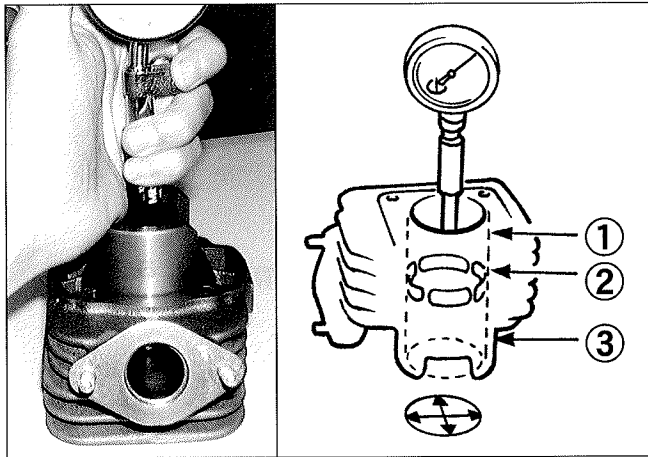


●シリンダー、ピストンの点検

- ・シリンダーとピストンの摺動面の摩耗、損傷を点検する。
- ・エキゾーストポートに堆積したカーボンを除去する。

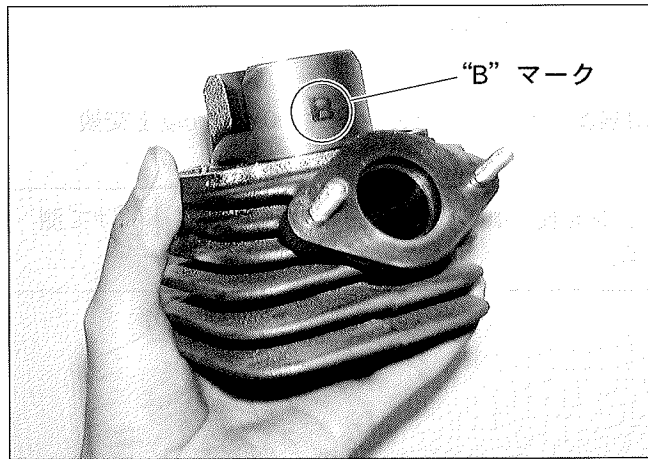


シリンダー内面を傷つけないようにする。



- ・シリンダー内径を測定する。
- ・ポート部分を避けて、①、②、③の各位置でX、Y方向を測定する。最大寸法を測定値とする。

使用限度：39.050mm以上交換



- ・シリンダーにはBのマークがスタンプされているものと、マークのないものがある。
- ・交換するシリンダーと同じタイプのシリンダーを組み込むこと。

シリンダーヘッド/シリンダー/ピストン

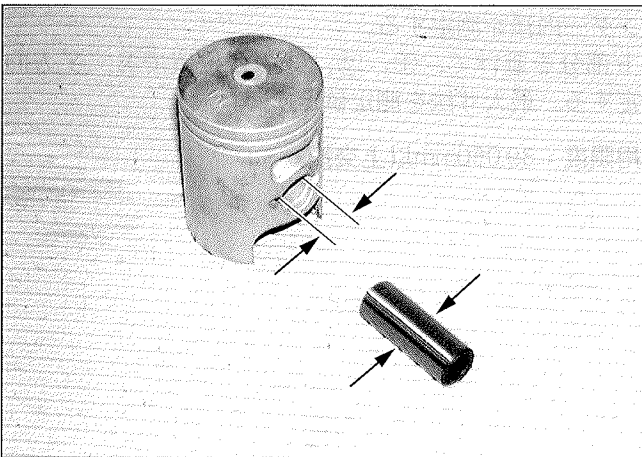


- ・ピストン外径を測定する。
- ・ピストン下端より、3mm上のスカート部で測定する。

使用限度：38.900mm以下交換

- ・ピストンとシリンダーの隙間を計算する。

使用限度：0.100mm以上交換



- ・ピストンのピン穴内径を測定する。

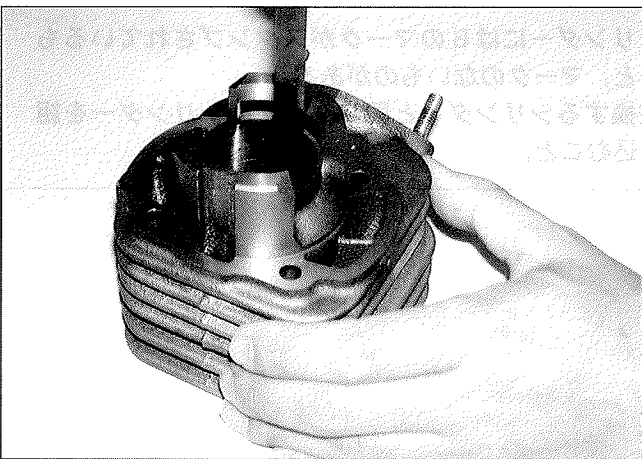
使用限度：12.030mm以上交換

- ・ピストンピン外径を測定する。

使用限度：9.980mm以下交換

- ・ピストンとピストンピンの隙間を計算する。

使用限度：0.030mm以上交換



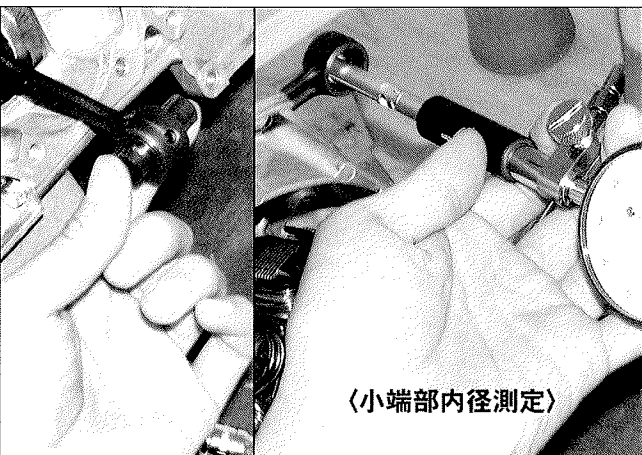
●ピストンリングの点検

- ・ピストンリングの合口隙間を測定する。

使用限度：トップ、セカンド共、0.40mm以上交換



ピストンを使い、シリンダー壁に垂直に取り付けて測定する。



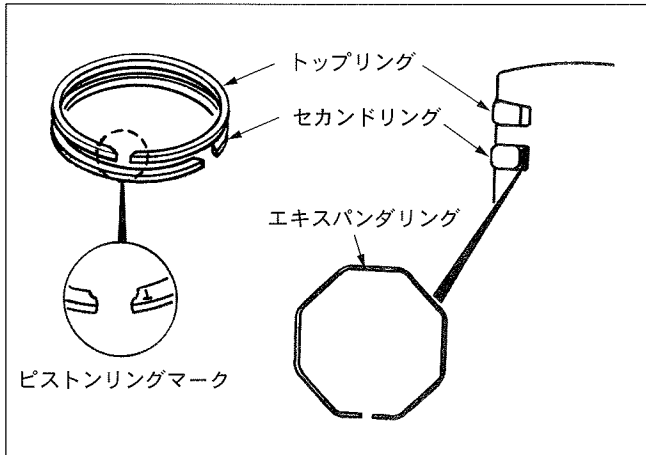
〈小端部内径測定〉

●コンロッド小端部の点検

- ・コンロッド小端部にスモールエンドベアリング、ピストンピンを取り付け、がたの点検をする。
- ・コンロッドの小端部内径を測定する。

使用限度：17.030mm以上交換

シリンダーヘッド/シリンダー/ピストン



●シリンダーヘッド/シリンダー/ピストンの取り付け

- ・ピストンリングをピストンにはめ込む。
- ・ピストン下側の溝にはエキスパンダリング、ピストンリング（セカンド）を、上側の溝にはピストンリング（トップ）をはめ込む。



- ・ピストンリング（トップ）、ピストンリング（セカンド）には裏／表の区別があります。“T”の刻印を上向きにしてセットする。（刻印は非常に小さいので注意すること。）
- ・エキスパンダリングに裏／表はありません。



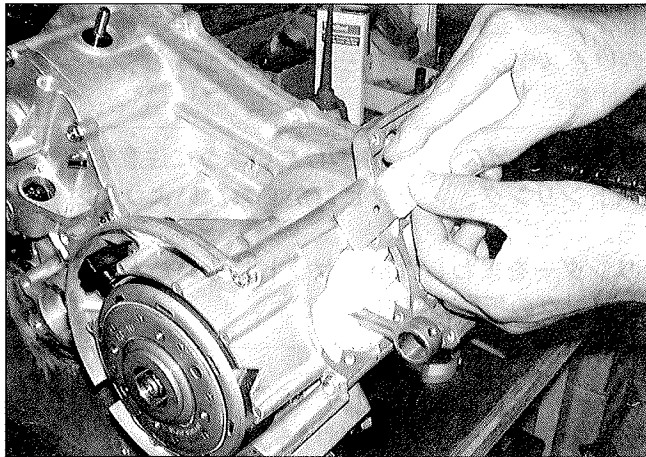
K-1組立説明書“エンジン”編P36~P38参照



- ・シリンダー及び、ケースガスケット面をスクレーパー等できれいにする。



ガスケット面を傷つけないよう注意すること。



- ・コンロッドにピストンを取り付ける。



- ・ピストンヘッドに刻印されている“EX”マークを必ず排気側に向けて取り付け。



- ・ピストンピンにエンジンオイルを塗布して組み付ける。

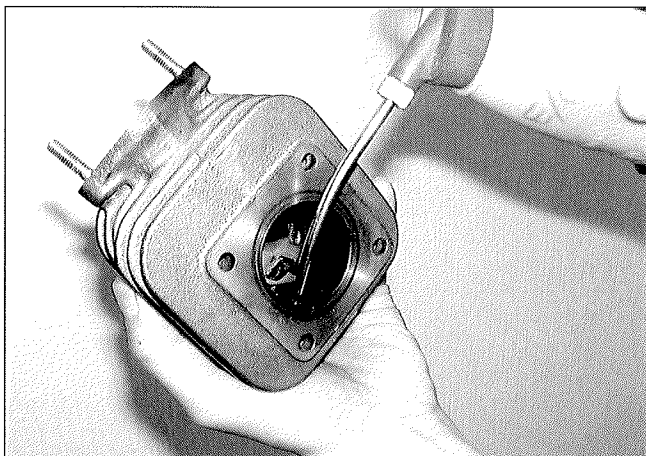
- ・ピストンピンクリップを取り付ける。



- ・クリップがクランクケース内に落ちないようにウエス等を使う。

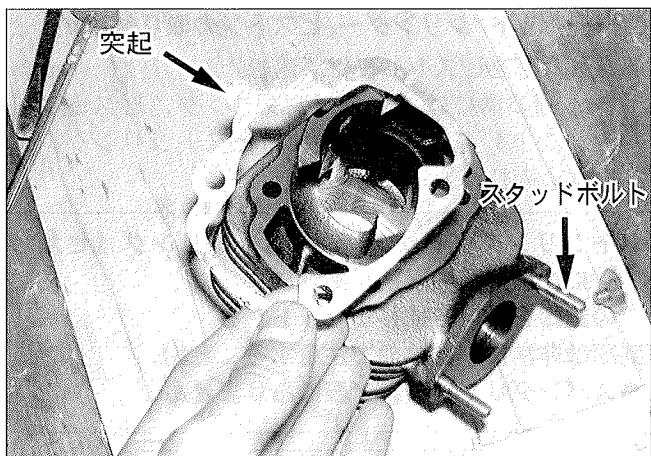


- ・クリップは新品に交換する。



- ・シリンダーの内壁にオイル(2ストローク用エンジンオイル)を塗布する。
- ・指で全体的になじませる。

シリンダーヘッド/シリンダー/ピストン



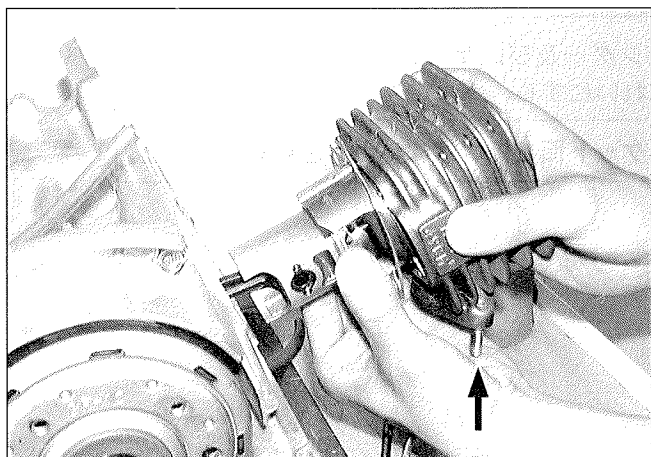
- ・シリンダーにシリンダーガスケットを突起部が上になるようにセットする。(ガスケットに裏／表はありません。)



- ・セットする上下方向に注意する。
- ・突起部はスタッドボルトの反対側にくるようにセットする。



- ・ガスケットは新品のものと交換する。



- ・ピストンリングを押さえながら、シリンダーを挿入する。その際は、スタッドボルト(矢印部)が下側をむくようにして挿入する。



- ・シリンダー、ピストンを傷つけないように注意する。
- ・ピストンリング、ノックピンがずれないように注意する。
- ・シリンダーをまわしながらセットしないこと。ピストンリングの折損の原因となる。

- ・シリンダーヘッドを取り付ける。
- ・エキゾーストマフラーを取り付ける。(→N-8)



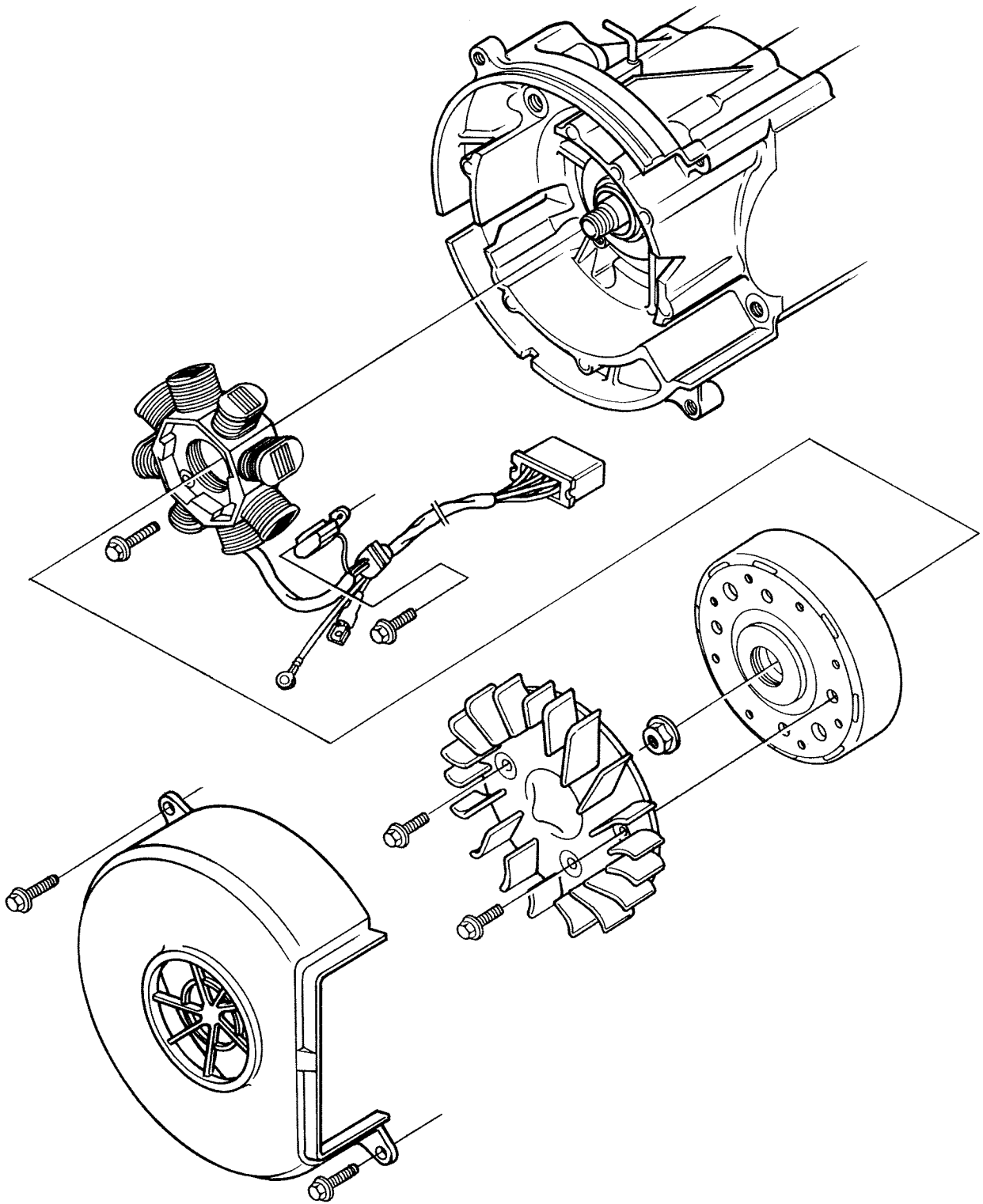
K-1組立説明書“エンジン”編P78,79参照



締付けトルク：1.2kg-m

- ・シリンダーカバーを取り付ける。
- ・プラグキャップを取り付ける。
- ・メンテナンスハッチを取り付ける。

ジェネレーター



ジェネレーター

◆整備情報

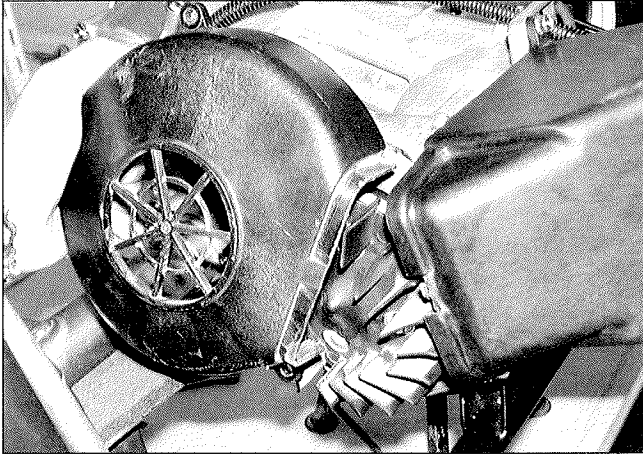
●作業上の注意

- ・ ACジェネレーターは車上整備ができる。
- ・ ACジェネレーターの点検は“Q.電気系統”を参照する。

●締付トルク

- ・ フライホイール 4.0kg-m

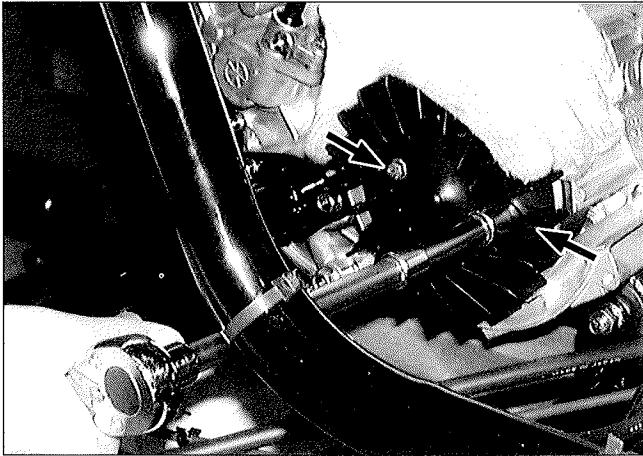
ジェネレーター



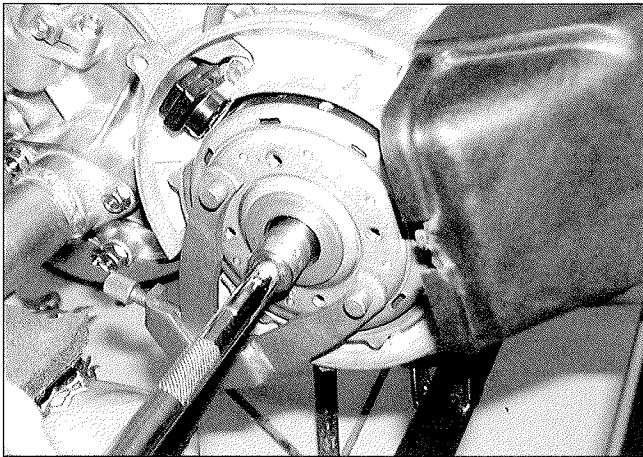
P ◆ジェネレーター

●ジェネレーターの取り外し

- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・エンジンハーネスカプラーの接続を外す。(→E-4)
- ・車輛をジャッキアップする。(→B-9)
- ・2本のボルトを外してファンカバーを取り外す。
- ・エキゾーストマフラーを取り外す。(→N-7)

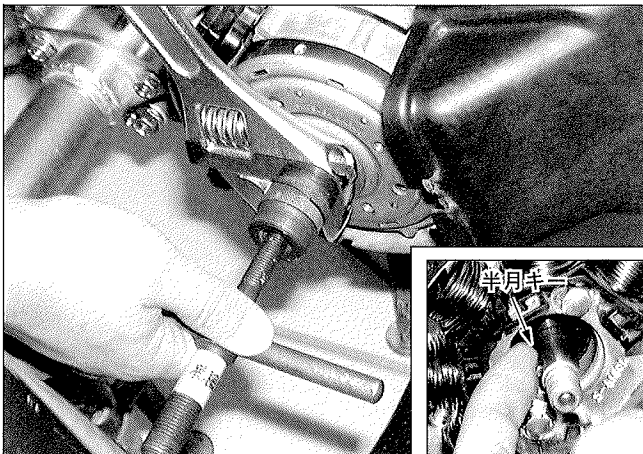


- ・2本のボルトを外してクーリングファンを取り外す。



- ・フライホイールをユニバーサルホルダーで押さえ、M10フランジナットを取り外す。

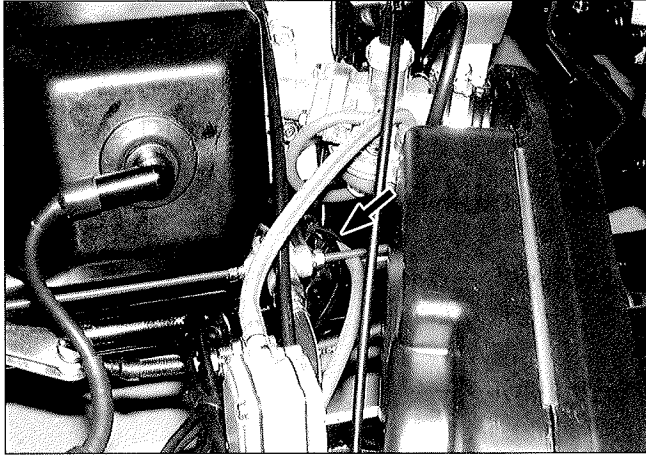
ユニバーサルホルダー



- ・ロータープーラーを使用しフライホイールを取り外す。
- ・半月キーを取り外す。

ロータープーラー

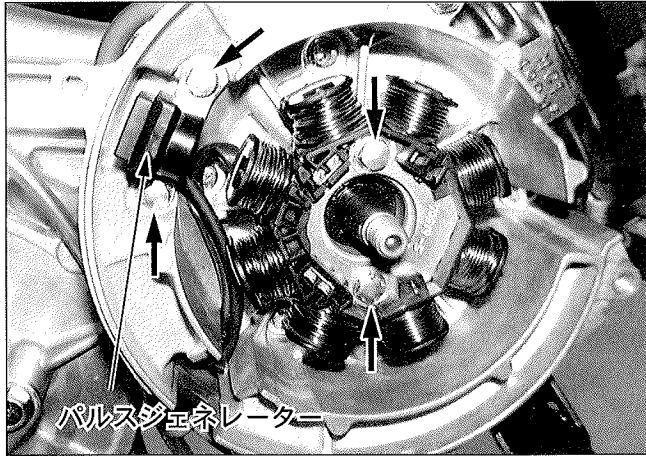
ジェネレーター



- ・エンジン下部にてエンジンハーネス、オートバイスターターワイヤー、パルスジェネレーターを共締めしているワイヤリングクリップを切断する。



取り付けの際は新品のワイヤリングクリップを使用する。



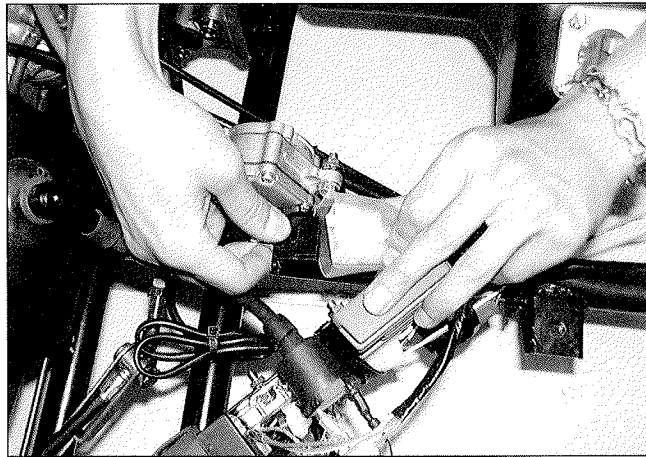
- ・パルスジェネレーター及びスターター取付ボルトを外しパルスジェネレーターとスターターをRサイドクランクケースから取り外す。(スターターモーターにも配線がいています。)



コイル等は損傷しないように保管すること。



スターターの点検は“Q.電気系統”を参照すること。



●ジェネレーターの取り付け

- ・スターター、パルスジェネレーターをRサイドクランクケースに取り付ける。



K-1組立説明書“エンジン”編P26,27参照

- ・エンジンハーネスをリヤハーネスに接続し、エンジン下部にて、エンジンハーネス、オートバイスターターワイヤー、パルスチューブをワイヤリングクリップでリヤサスペンションアームに共締めする。



K-1組立説明書“シャシー”編P54-56,P66,67参照

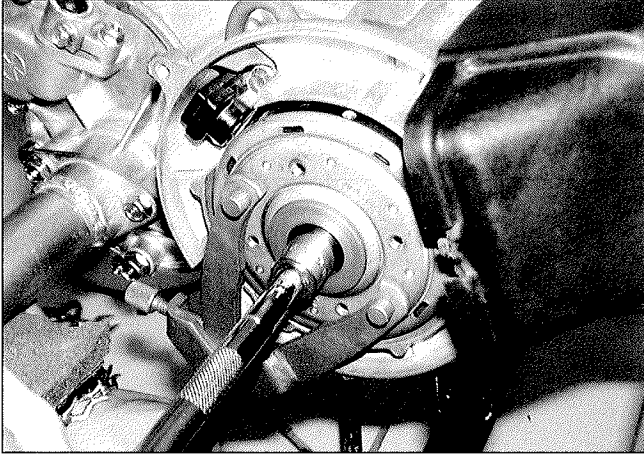


- ・フライホイールとクランクシャフトのテーパ部分をきれいにし、傷のある場合は修正する。
- ・クランクシャフトのキー溝に半月キーを取り付ける。



半月キーは少量のグリスを塗っておくと落ちにくい。

ジェネレーター



- ・キー溝を合わせてフライホイールをクランクシャフトに取り付ける。
- ・フライホイールをユニバーサルホルダーで押さえ、フライホイール取付M10フランジナットを締め付ける。



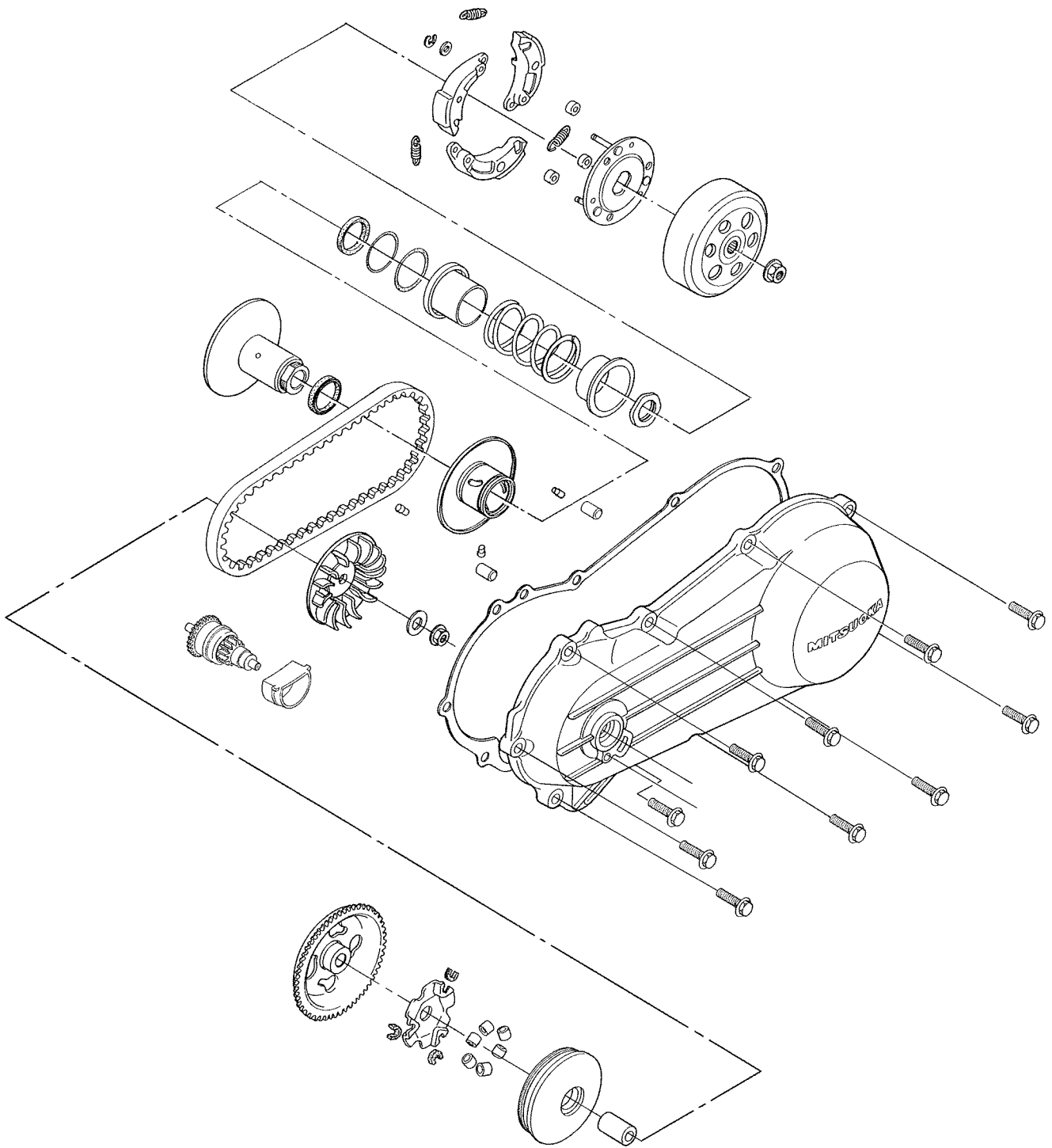
締め付トルク：4.0kg-m

- ・エンジンを始動し、点火時期を点検する。(その際はシリンダーカバーを取り外す。)



ユニバーサルホルダー

ドライブフェイス/ドリブンフェイス



ドライブフェイス/ドリブンフェイス

◆故障診断

●エンジンは始動するが、走り出さない

- ・ドライブベルトの摩耗
- ・ランププレートの破損
- ・クラッチライニングの摩耗、破損

●発進時にエンストしたり飛び出したりする

- ・クラッチウェイトのスプリング折損

●最高速が出ない、力不足

- ・ドライブベルトの摩耗
- ・ドリブンフェイススプリングのへたり
- ・ウェイトローラーの摩耗
- ・ドリブンフェイスの作動不良

◆整備情報

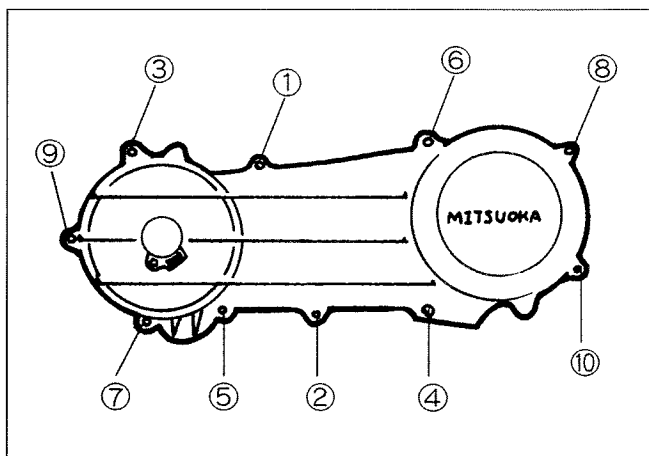
●作業上の注意

- ・本章の作業はエンジン搭載状態で行える。
- ・ドライブベルトおよびプーリーのフェイス面に油脂類を付着させないこと。

●締付トルク

- | | |
|----------------|-------------|
| ・ドライブフェイス取付ナット | 4.0kg-m |
| ・クラッチアウター取付ナット | 4.0kg-m |
| ・ドリブンフェイス取付ナット | 3.5~4.0kg-m |

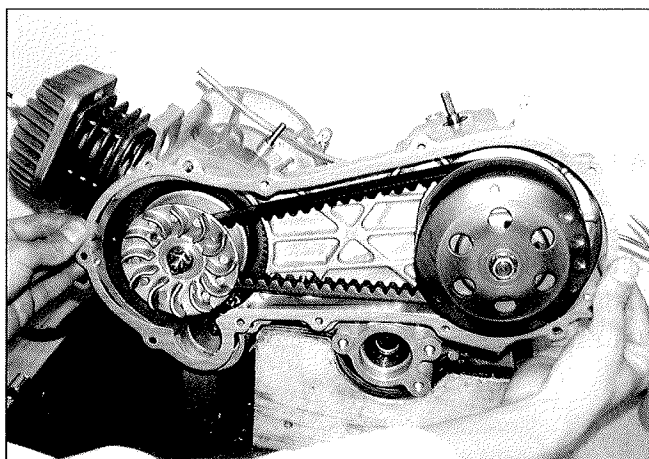
ドライブフェイス/ドリブンフェイス



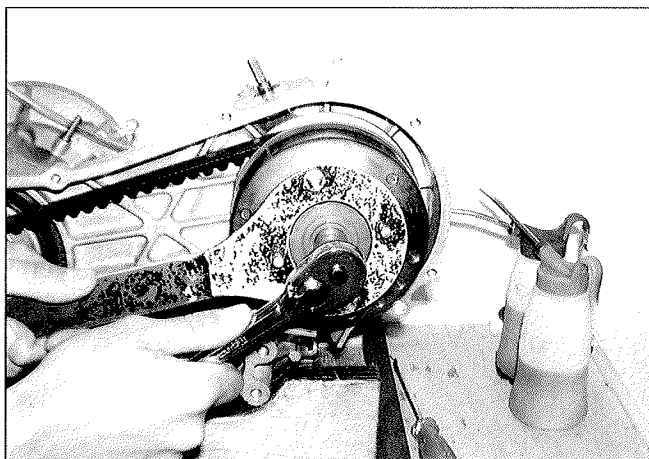
◆ドライブフェイス/ドライブベルト

●Lサイドカバーの取り外し

- ・ 車輛をジャッキアップした状態で行うこと。(→B-9)
- ・ ミッションオイルを抜き取る。
- ・ シリンダーカバーを取り外す。
- ・ 10本のボルトを緩め、Lサイドカバーを取り外す。



- ・ Lサイドカバーパッキンを取り外す。
- ・ ノックピンを取り外す。

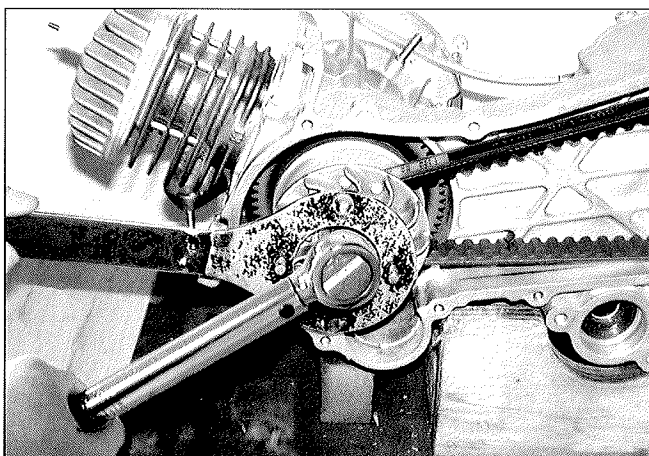


●ドライブフェイス、ドライブベルトの取り外し/取り付け

- ・ クラッチアウターをユニバーサルホルダーで押さえながら、M10フランジナットを取り外す。



ユニバーサルホルダー

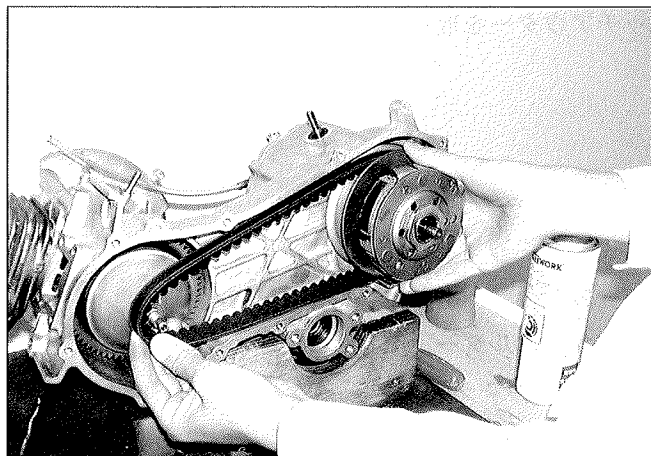


- ・ ユニバーサルホルダーでドライブフェイスを押さえながら、M10フランジナットを取り外す。
- ・ ドライブフェイスを取り外す。



ユニバーサルホルダー

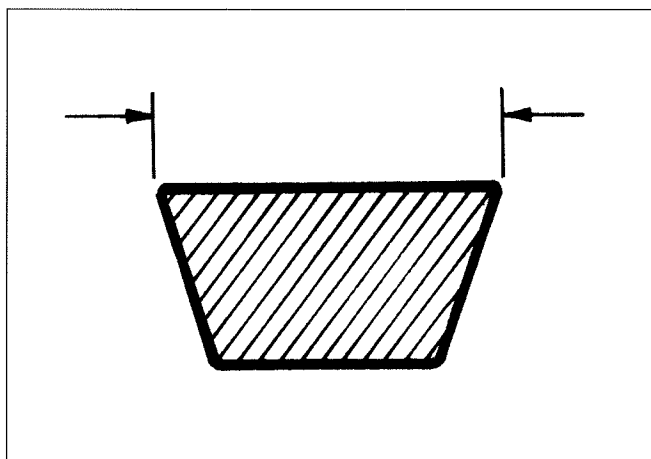
ドライブフェイス/ドリブンフェイス



- ・クラッチ/ドリブンプーリーにドライブベルトを取り付けた状態でクラッチ/ドリブンプーリーを取り外す。
- ・ドライブベルトをクラッチ/ドリブンプーリーから取り外す。
- ・ドライブベルトをドライブプーリーから取り外す。



K-1組立説明書“エンジン”編P44,45の逆の手順



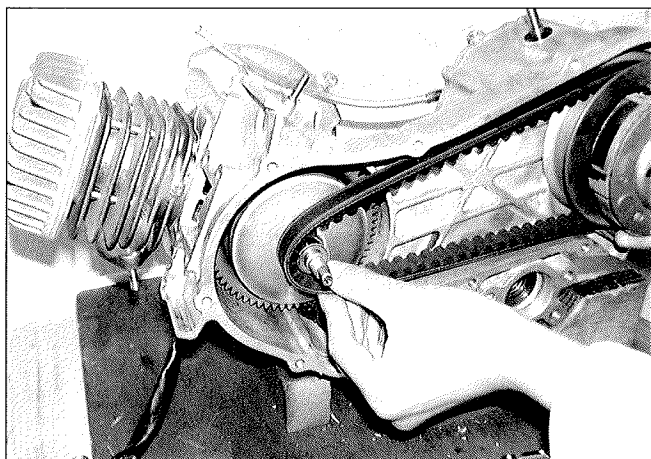
●ドライブベルトの点検

- ・ベルトの亀裂、コグの脱落、綿布のはがれ、異常摩耗を点検する。
- ・ドライブベルトの幅を測定する。

使用限度：17.5mm



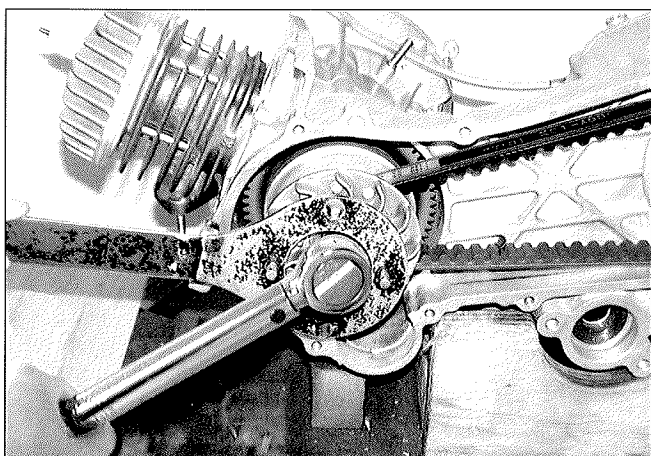
交換するときは純正部品を使用すること。



- ・ドライブベルトをクラッチ/ドリブンプーリーに取り付ける。



K-1組立説明書“エンジン”編P46の参照



●ドライブフェイスの取り付け

- ・ユニバーサルホルダーでドライブフェイスを押さえながら、M10フランジナットを本締めする。



K-1組立説明書“エンジン”編P47の参照

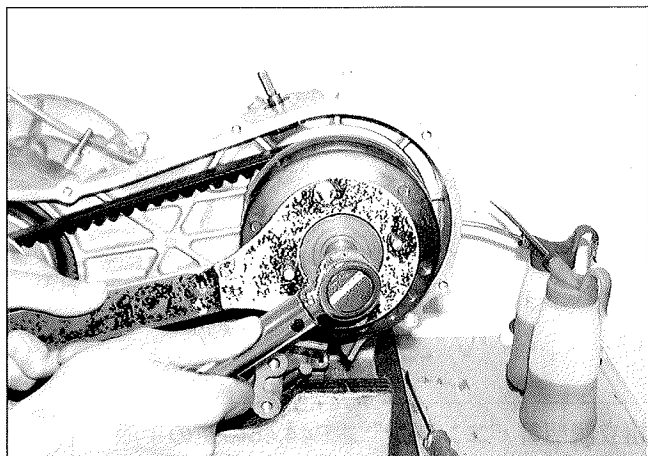


ユニバーサルホルダー



締めトルク：4.0kg-m

ドライブフェイス/ドリブンフェイス



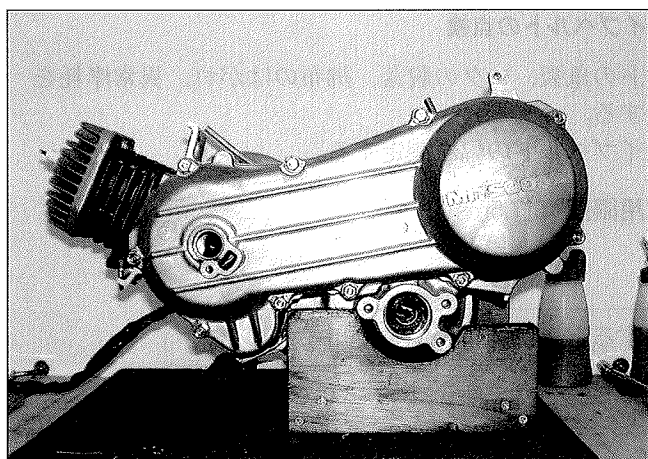
・クラッチアウターを取り付ける。



ユニバーサルホルダー



締付トルク：4.0kg-m



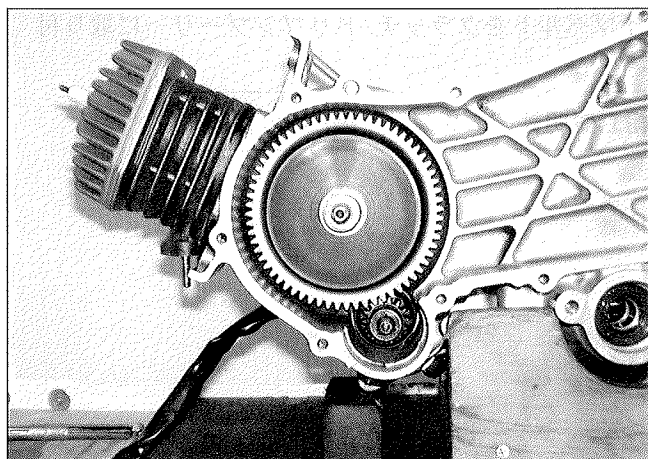
・ロックピンを取り付ける
・Lサイドカバーバッキンを取り付ける。
・Lサイドカバーをセットしボルト10本で本締めする。



・Lサイドカバーバッキンは新品のものと交換する。



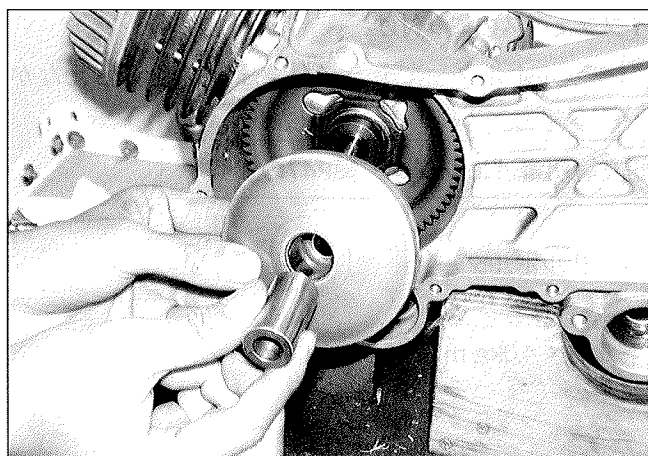
締付トルク：1.2kg-m



◆ムーバブルドライブフェイス

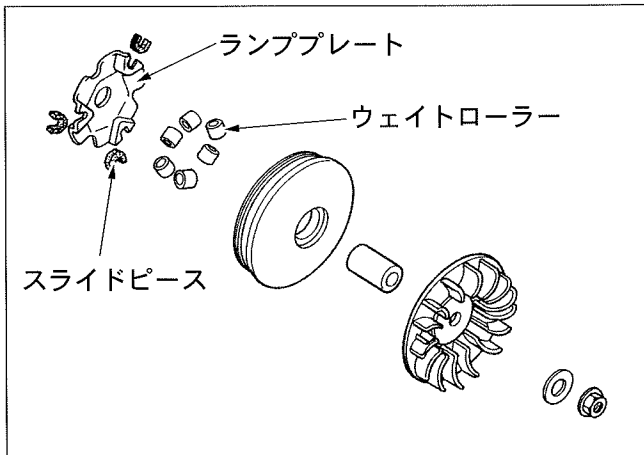
●ムーバブルドライブフェイスの取り外し

- ・車輛をジャッキアップする。(→B-9)
- ・Lサイドカバーを取り外す。(→H-4~H-6)
- ・ドライブベルトを取り外す。
- ・クラッチ/ドリブンプーリーを取り外す。
- ・ドライブフェイスを取り外す。

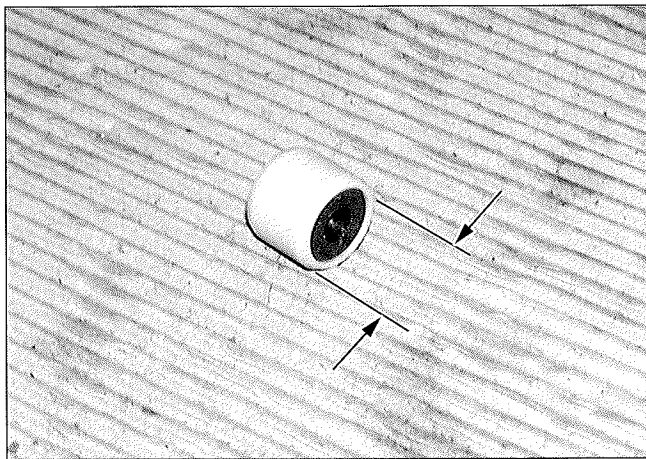


・ムーバブルドライブフェイスボス、ムーバブルドライブフェイスをクランクシャフトから取り外す。

ドライブフェイス/ドリブンフェイス



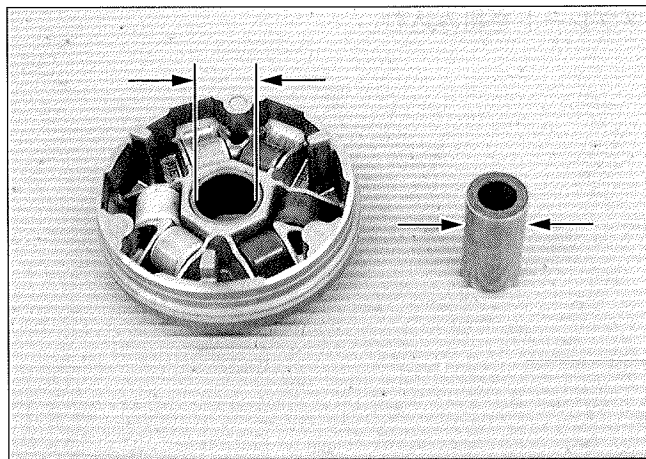
- ・ランププレートを取り外す。
- ・ウェイトローラーを取り外す。



●ムーバブルドライブフェイスの点検

- ・ウェイトローラーの摩耗、損傷を点検する。
- ・ウェイトローラーの外径を測定する。

使用限度：15.40mm以下

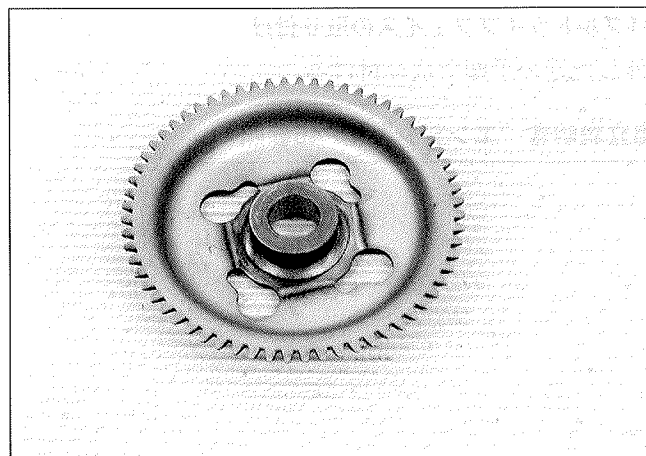


- ・ムーバブルドライブフェイスのブッシュ内径を点検する。

使用限度：20.600mm以上

- ・ドライブフェイスボスの摩耗、損傷を点検する。
- ・ドライブフェイスとの摺動面外径を測定する。

使用限度：19.80mm以下



●スタータードリブンギヤの点検

- ・ケースプーラーを使用してスタータードリブンギヤを取り外す。



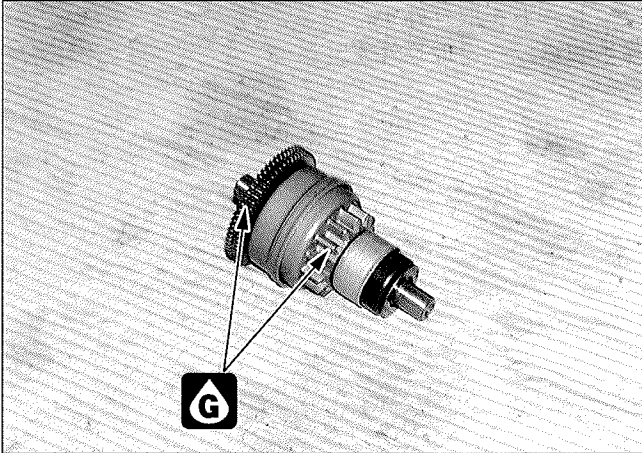
ケースプーラー

- ・ギヤの損傷、破損を点検する。
- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



K-1組立説明書“エンジン”編P44参照

ドライブフェイス/ドリブンフェイス



●ギヤシャフトASSYの点検

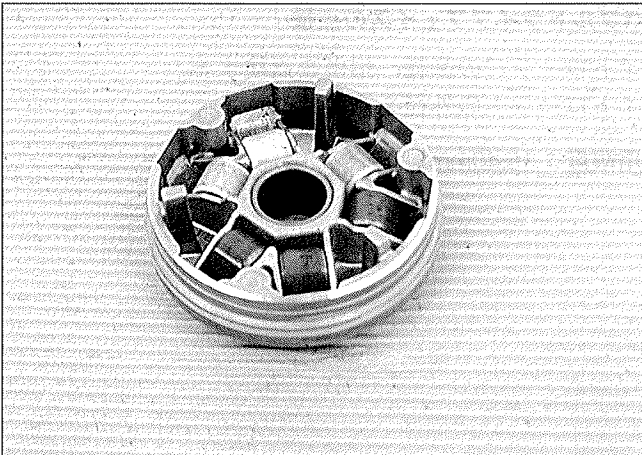


- ・ギヤシャフトASSYの作動がスムーズであるか点検する。
- ・ギヤ軸受部の摩耗、損傷を点検する。

- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



K-1組立説明書“エンジン”編P44参照

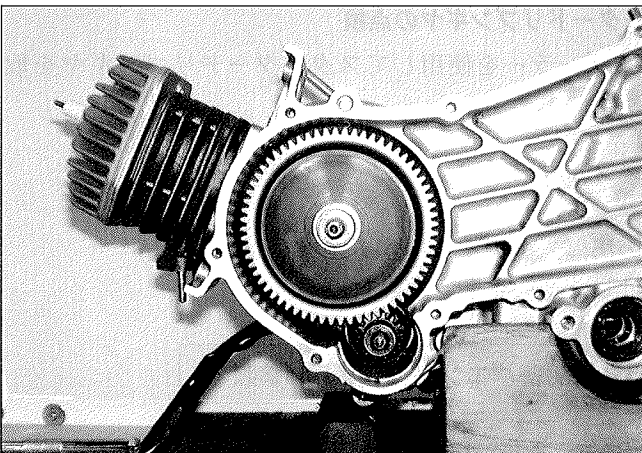


●ムーバブルドライブフェイスの組み立て

- ・ムーバブルドライブフェイス内にローラーを組み込む。



- ・ランププレートを組み込む。



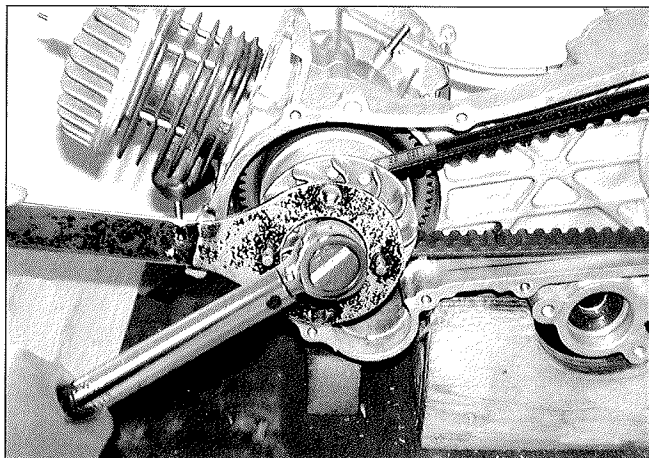
●ムーバブルドライブフェイスの取り付け

- ・取り外した逆の手順で取り付け。



K-1組立説明書“エンジン”編P45参照

ドライブフェイス/ドリブンフェイス



●ドライブフェイスの取り付け

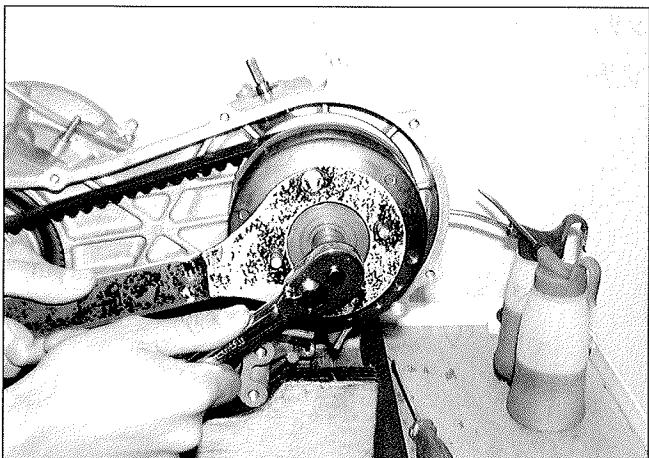
- ・取り外した逆の手順で取り付ける。(→H-5)



ユニバーサルホルダー



締付トルク：4.0kg-m



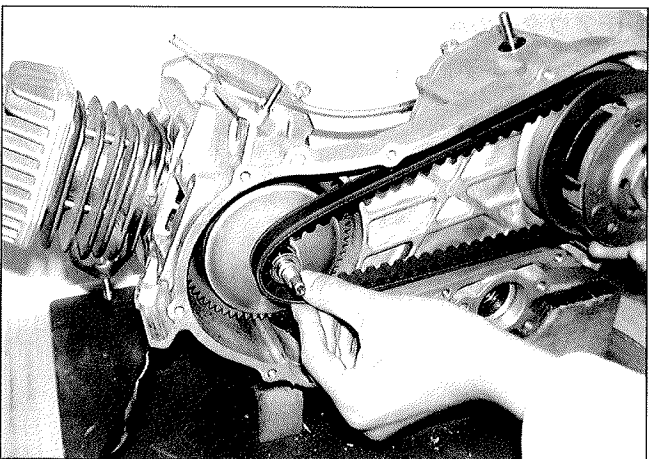
◆クラッチ/ドリブンプーリー

●クラッチ/ドリブンプーリーの取り外し

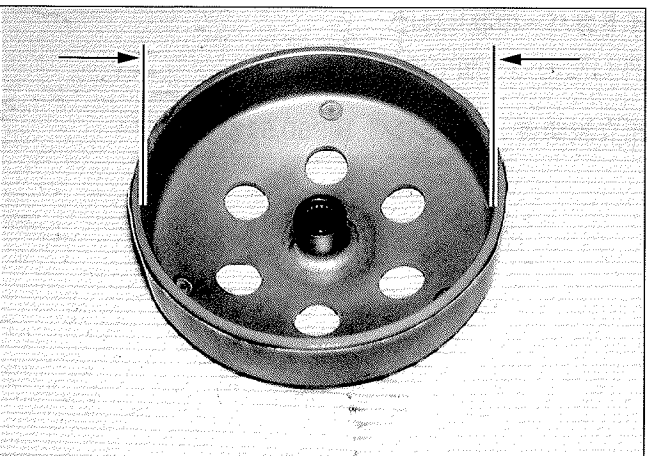
- ・クラッチアウターをユニバーサルホルダーで押さえ M10フランジナットを外す。
- ・クラッチアウターを取り外す。



ユニバーサルホルダー



- ・ドライブベルト、クラッチ/ドリブンプーリーを取り外す。(→H-5)

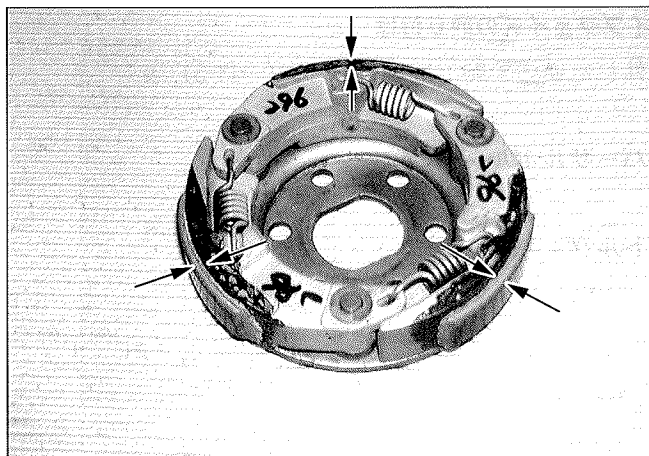


●クラッチ/ドリブンフェイスの点検

- ・クラッチアウターの摩耗、損傷を点検する。
- ・内径を測定する。

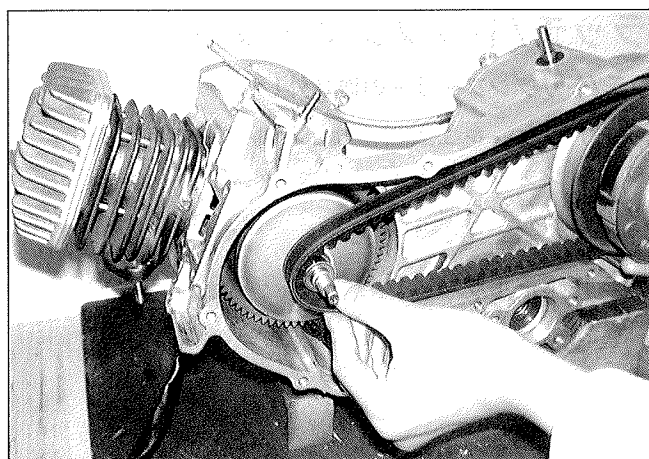
使用限度：107.5mm以上交換

ドライブフェイス/ドリブンフェイス



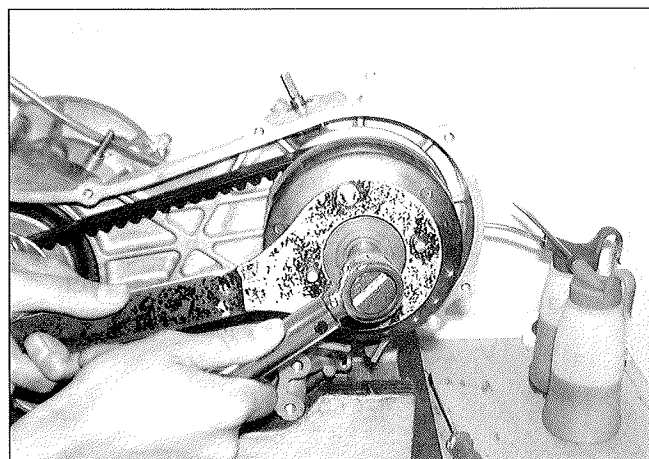
- ・クラッチシューの摩耗、損傷を点検する。
- ・ライニングの厚さを測定する。

使用限度：2.0mm以下交換



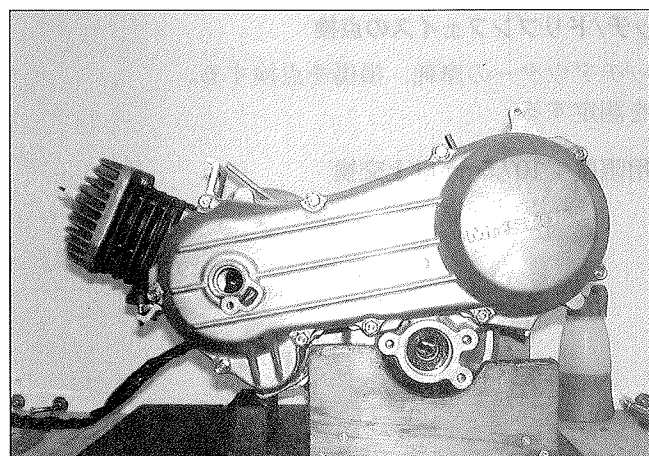
●クラッチ/ドリブンプーリーの取り付け

- ・クラッチ/ドリブンプーリーを取り付ける。(→H-5)



●クラッチアウターの取り付け

- ・クラッチアウターを取り付ける。(→H-6)



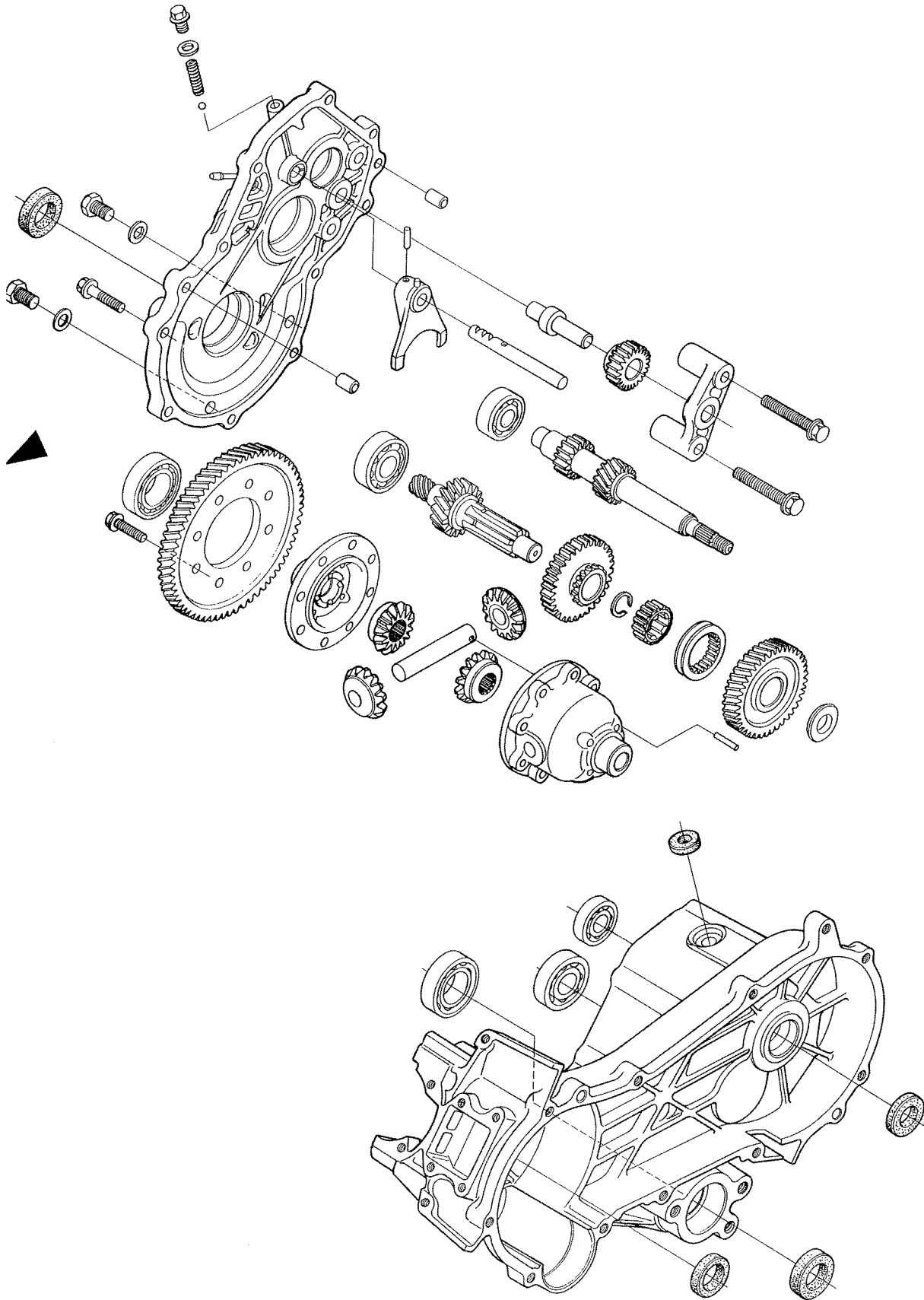
●L サイドカバーの取り付け

- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



K-1組立説明書“エンジン”編P50,51参照

トランスミッション



トランスミッション

◆故障診断

●エンジンは始動するが走らない

- ・トランスミッションの破損
- ・トランスミッションの焼付

●オイル漏れ

- ・オイルの入れすぎ
- ・オイルシールの摩耗、傷

●走行中に異音が出る

- ・ギヤの摩耗、焼付、歯面の損傷
- ・ベアリングの摩耗、がた

◆整備情報

●作業上の注意

- ・本章の作業はエンジン搭載状態で行える。

●整備基準

- ・指定オイル オートマチック用トランスミッションオイル(ATF)
- ・分解時/交換時 120cc

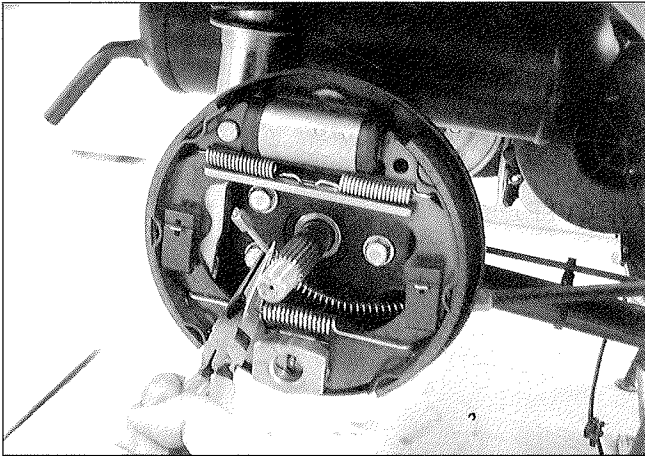
トランスミッション



◆トランスミッション

●トランスミッションの分解

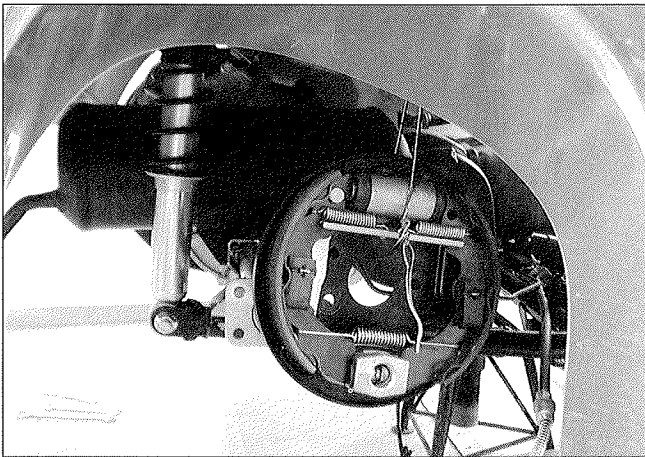
- ・後輪を持ち上げ、リヤサスペンションマウントブラケット付近のフレームにリジットラックをセットする。
- ・ミッションオイルを抜き取る。



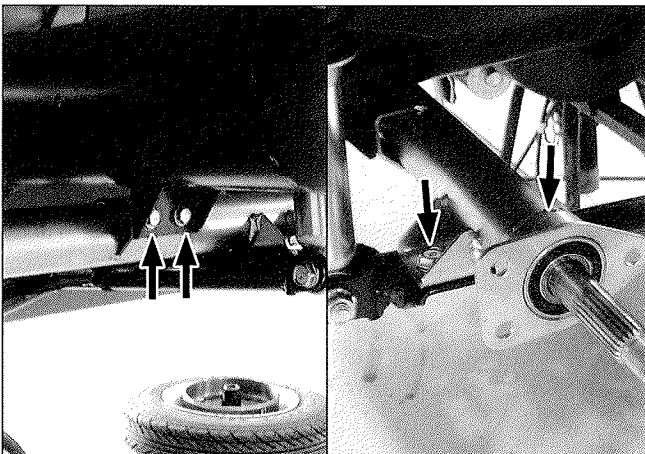
- ・右リヤタイヤを取り外す。
- ・右リヤドラムを取り外す。
- ・パーキングブレーキワイヤーをバックプレートから引き抜く。(→E-6)
- ・バックプレートを固定している3本のボルトを取り外す。
- ・ブレーキパイプを変形させないように注意しながらバックプレートをドライブシャフトより抜き取る。(→E-6)



- ・ドライブシャフトのスプラインを傷つけないように注意すること。
- ・ブレーキパイプを変形させないように十分注意すること。



- ・上の状態で、バックプレートをフレームにヒモ等で吊っておく。

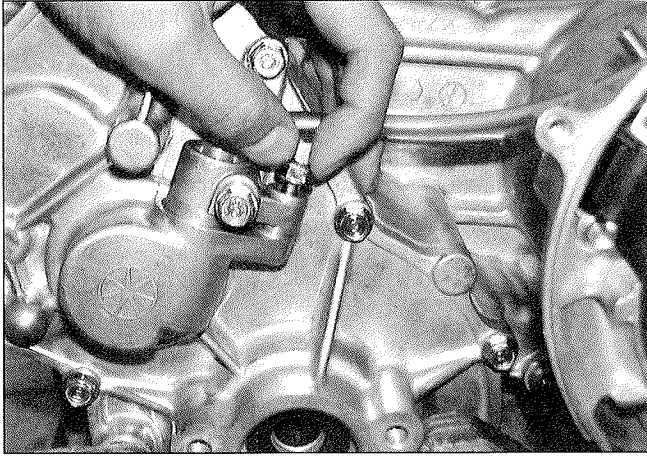


- ・マフラーとホーシングを固定しているボルトを取り外す。(M6-15 2本)
- ・ホーシングとリヤサスペンションアームを固定しているボルトを取り外す。(M8-20 2本)
- ・ホーシングとドライブシャフトを抜き取る。(→N-6,7)



- ・ドライブシャフトを抜き取る際は、オイルシールのリップ部を切らないように注意すること。

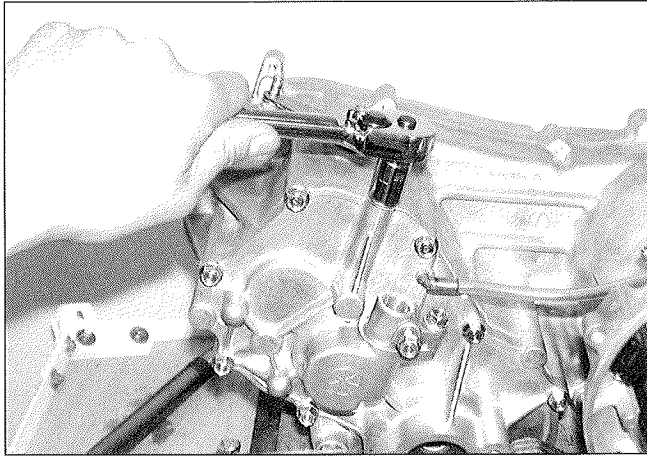
トランスミッション



- ・ドリブンフェイスを取り外す。(→H-4~H-9)
- ・ボルトを外しスピードメーターギヤホルダー、スピードメーターケーブルを取り外す。



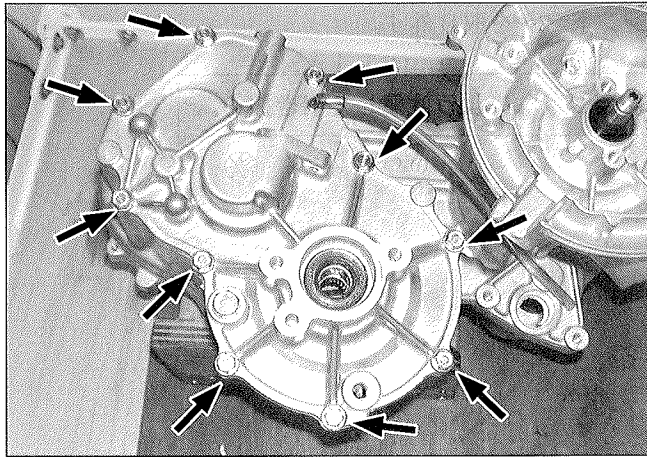
ローラー(φ3×17.8)の脱落に注意すること。



- ・Rサイドカバー上部のボルト(M8-15)を取り外す。



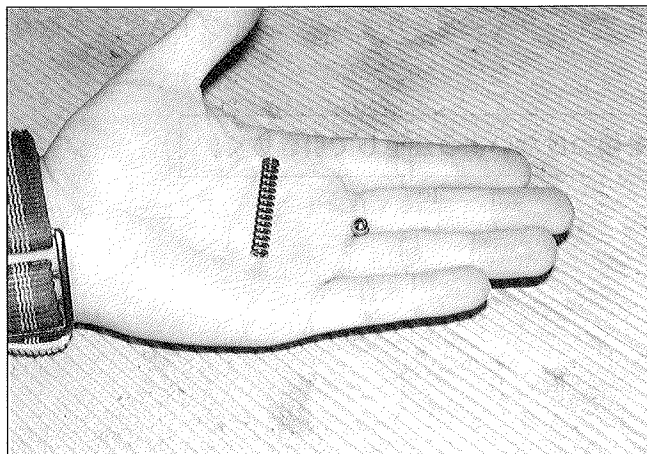
シールワッシャーの脱落に注意すること。



- ・RサイドカバーとLサイドクランクケースを止めているボルトを取り外す。(M6-25 10本)
- ・プラスチックハンマー等で軽く叩いてRサイドカバーを取り外す。デフケースがLサイドクランクケース側にある場合はデフケースを取り外す。Rサイドカバー側に付いている場合はデフケースを落とさないように注意すること。

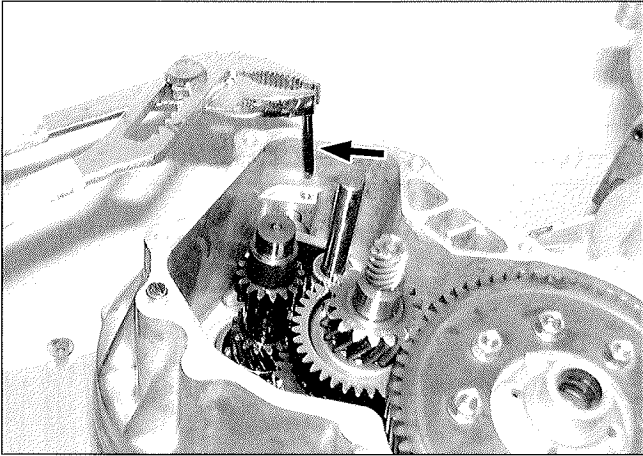


ノックピンの脱落に注意すること。

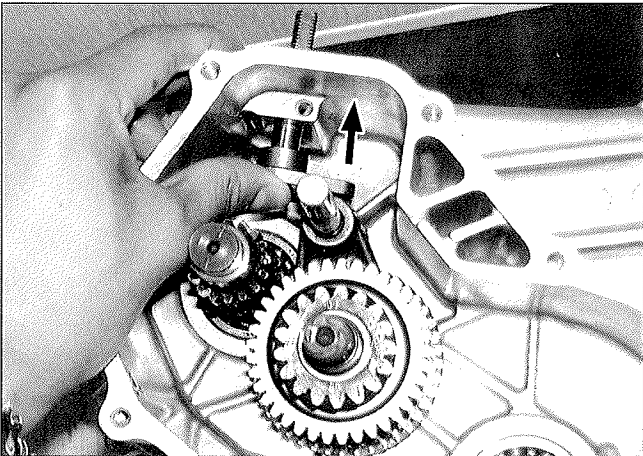


- ・先に取り外したM8-15のネジ穴の中のスプリング、スチールボールを取り出す。

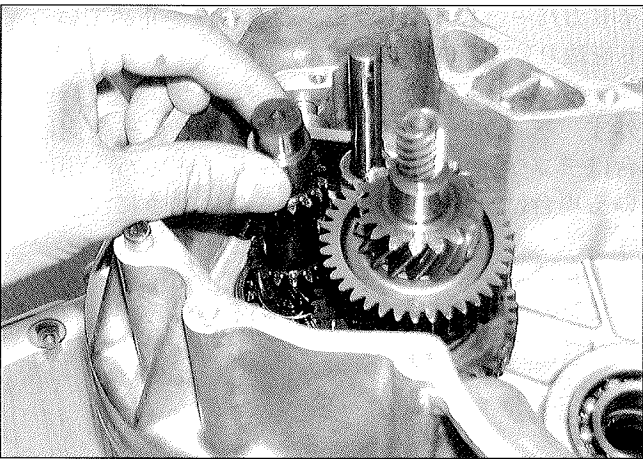
トランスミッション



- P** ・ Lサイドクランクケースのローラー(φ4.5×φ44.8) (矢印部)をプライヤー等でつまんで引き抜く。
- ・ デフASSYを取り外す。



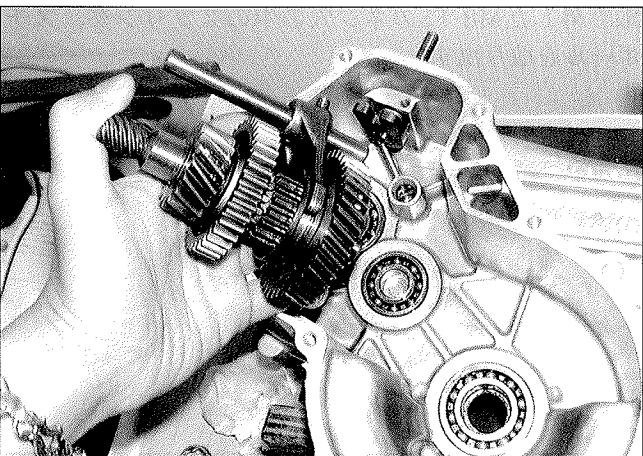
- P** ・ シフトレバーASSYを軸上方向 (矢印方向) に持ち上げる。



- P** ・ メインシャフトを取り外す。



ギヤを傷つけないよう注意して引き抜く。

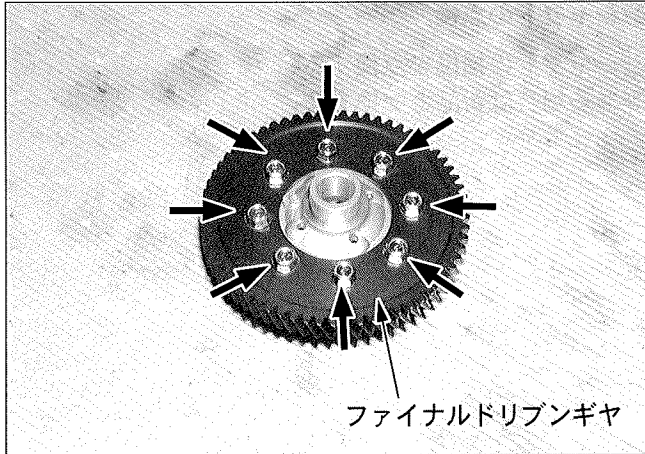


- P** ・ シフトフォークASSYとカウンターシャフトASSYを取り外す。



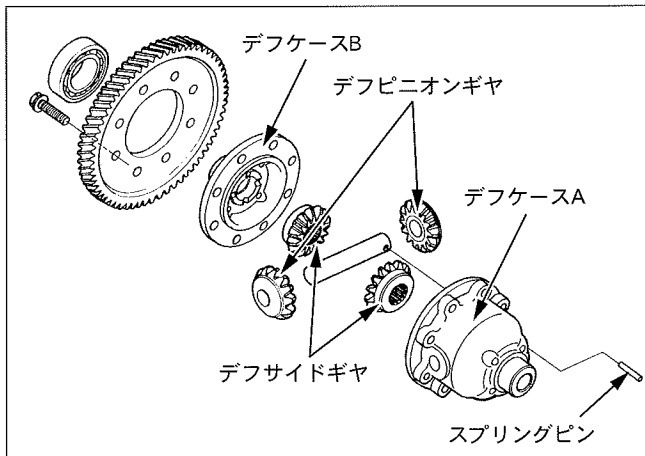
ギヤを傷つけないよう注意して引き抜く。

トランスミッション



●デフの点検／分解／組立

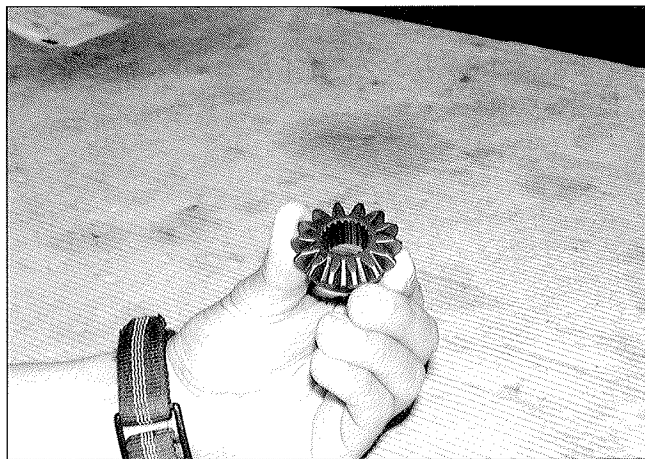
- ・ファイナルドリブンギヤを止めているボルト(M6-25 8本)を外し、ファイナルドリブンギヤ、デフケースBを取り外す。



- ・デフサイドギヤをていねいに取り外す。
- ・デフケースAに圧入されているスプリングピン(φ3×22)をピンポンチで抜き取る。
- ・デフピニオンシャフトを抜き取りながら、デフピニオンギヤを取り外す。



ピンポンチ



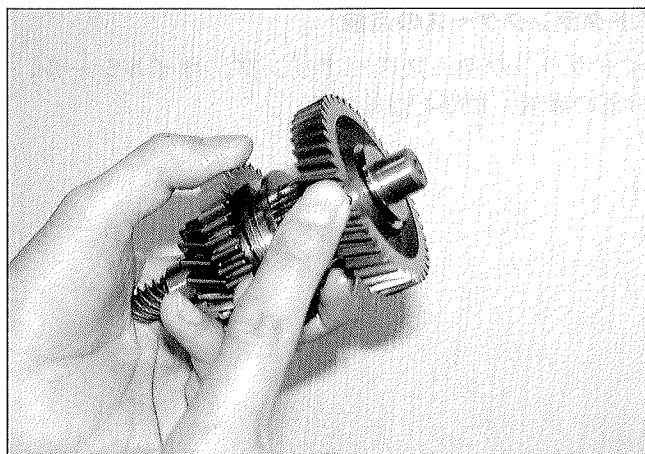
- ・各歯車の損傷を点検する。
- ・損傷のある場合は新品と交換する。
- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



各パーツにはATFを塗布すること。組み付けはていねいに行い、動作確認を行なうこと。



K-1組立説明書“エンジン”編P17,18参照



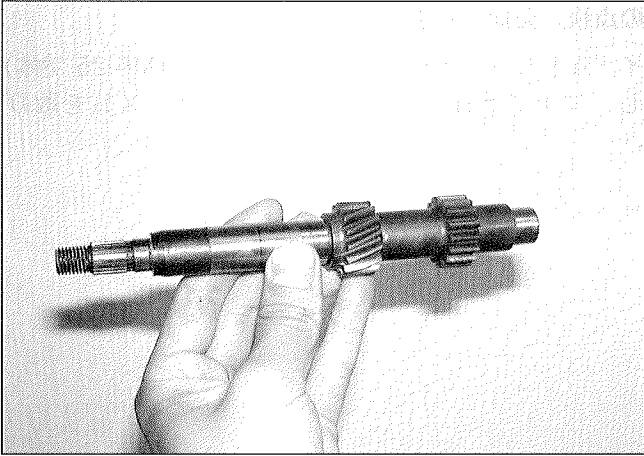
●カウンターシャフトASSYの点検

- ・カウンターシャフトASSYの各ギヤの損傷を点検する。
- ・各ギヤがスムーズにまわることを確認する。
- ・損傷等ある場合は分解し、新品と交換する。



K-1組立説明書“エンジン”編P10~P13参照

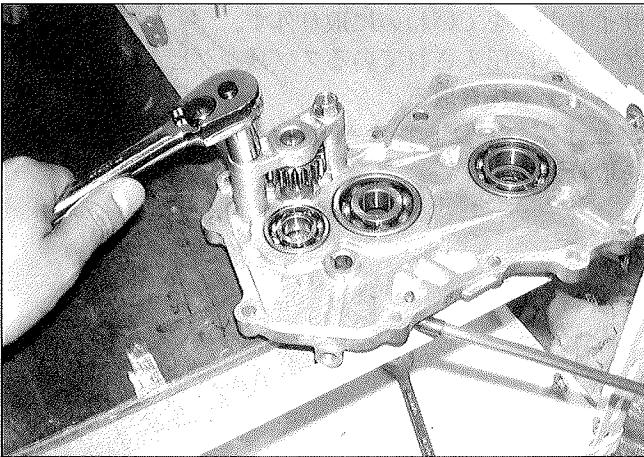
トランスミッション



●メインシャフトの点検



- ・メインシャフトの損傷を点検する。
- ・損傷等ある場合は新品と交換する。



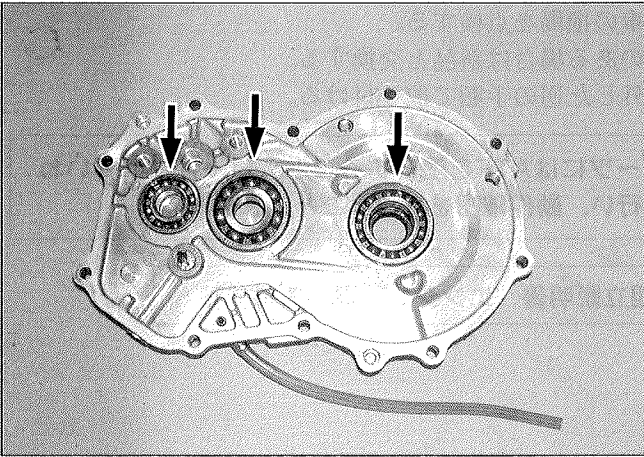
●リバースアイドラギヤの点検



- ・Rサイドカバーのリバースアイドラギヤの損傷を点検する。
- ・スムーズに作動するか点検する。
- ・損傷等ある場合は分解し、新品と交換する。

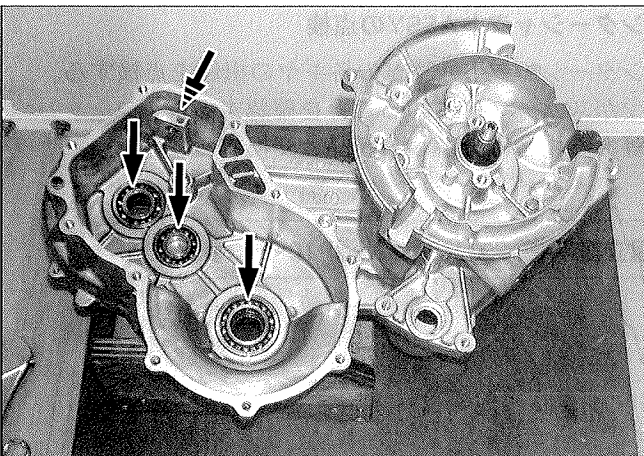


K-1組立説明書“エンジン”編P14,P21参照



●Rサイドカバーの点検

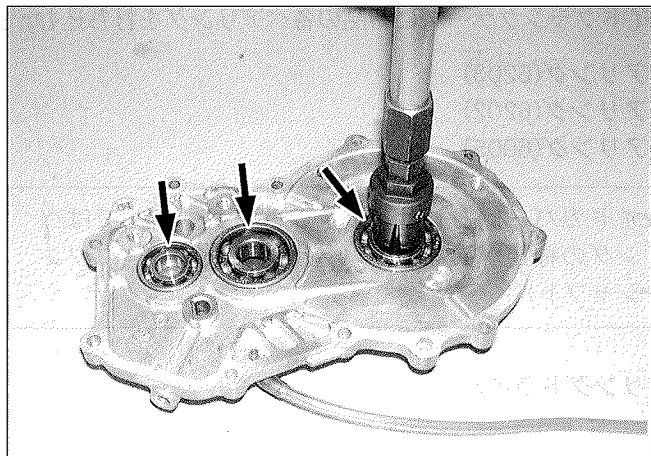
- ・Rサイドカバーのベアリング、オイルシール、軸受部の摩耗、損傷を点検する。



●Lサイドクランクケースの点検

- ・Lサイドクランクケースのベアリング、オイルシール、軸受け部の摩耗、損傷を点検する。

トランスミッション

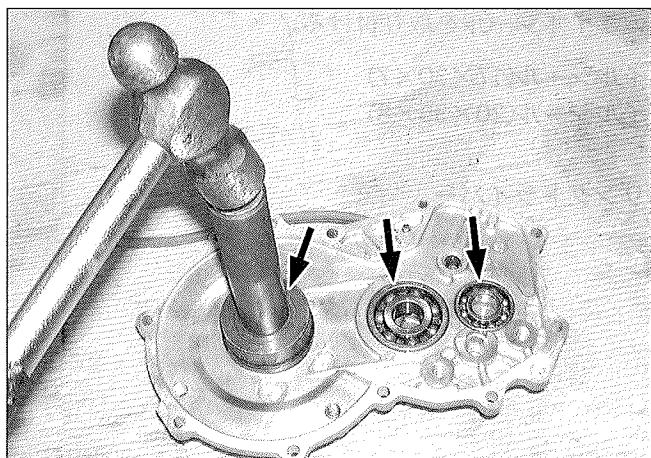


●ベアリングの交換 (Rサイドカバー)

- ・オイルシールを取り外す。
オイルシール(20×35×8)
- ・各ベアリングをベアリングリムーバーで取り外す。
ベアリング(6202)
ベアリング(6303)
ベアリング(6005)



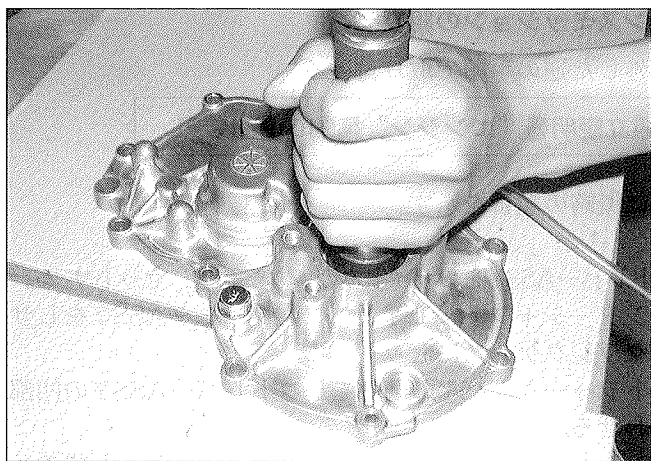
ベアリングリムーバー



- ・Rサイドカバーに新品の各ベアリングを打ち込む。
ベアリング(6202)
ベアリング(6303)
ベアリング(6005)



ベアリングドライバー



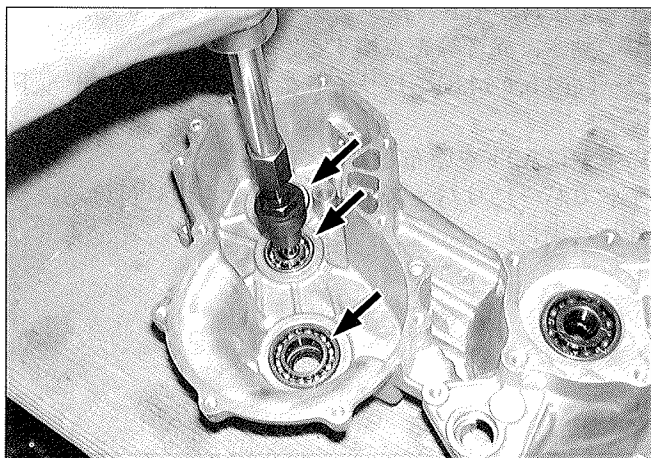
- ・新品のオイルシールを取り付ける。



オイルシール(20×35×8)



ベアリングドライバー



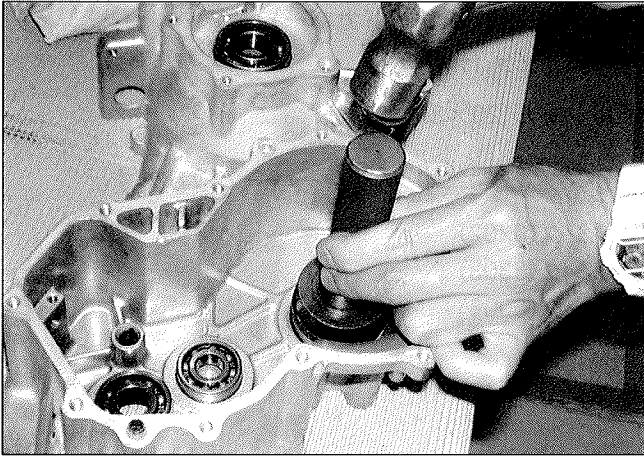
●ベアリングの交換 (Lサイドクランクケース)

- ・オイルシールを取り外す。
オイルシール(17×30×7)
オイルシール(20×35×8)
- ・各ベアリングをベアリングリムーバーで取り外す。
ベアリング(6202)
ベアリング(6203)
ベアリング(6005)



ベアリングリムーバー

トランスミッション



・Lサイドクランクケースに新品の各ベアリングを打ち込む。



ベアリング(6203)

ベアリング(6202)

ベアリング(6005)



Rサイドカバー側とLサイドクランクケース側ではベアリングの種類が異なる。(メインシャフト、カウンターシャフト)



ベアリングドライバー



・新品のオイルシールを取り付ける。

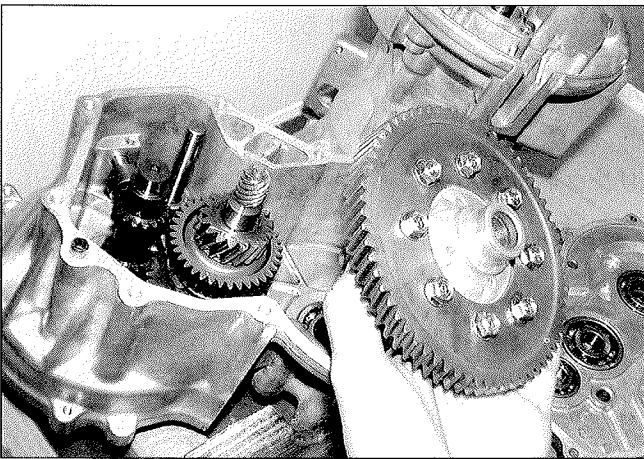


オイルシール(17×30×7)

オイルシール(20×35×8)



ベアリングドライバー



●トランスミッションの組立

・取り外した逆の手順で取り付ける。



K-1組立説明書“エンジン”編P10~P24参照

・以下に概略の順番を示す。

- ・シフトレバーASSYをLサイドクランクケースにセットする。
- ・カウンターシャフトASSYとシフトフォークASSYをLサイドクランクケースにセットする。
- ・シフトフォークASSYの凸部をシフトレバーASSYの凹部に合わせる。

・メインシャフトをLサイドクランクケースにセットする。

・デフASSYをLサイドクランクケースにセットする。

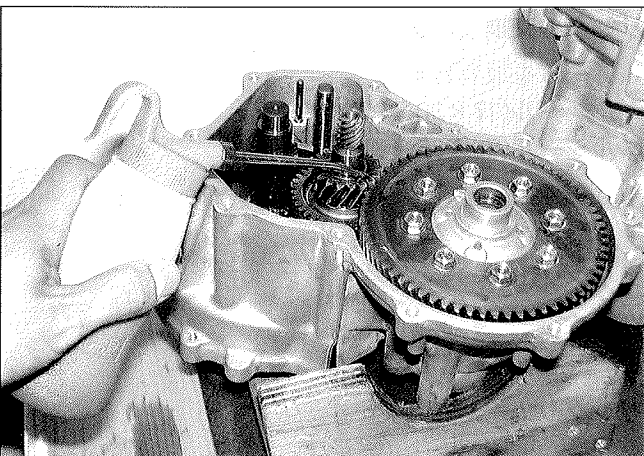
・各ギヤの動き、異音等を点検する。

・ローラー(φ4.5,044.8)をLサイドクランクケースにセットする。

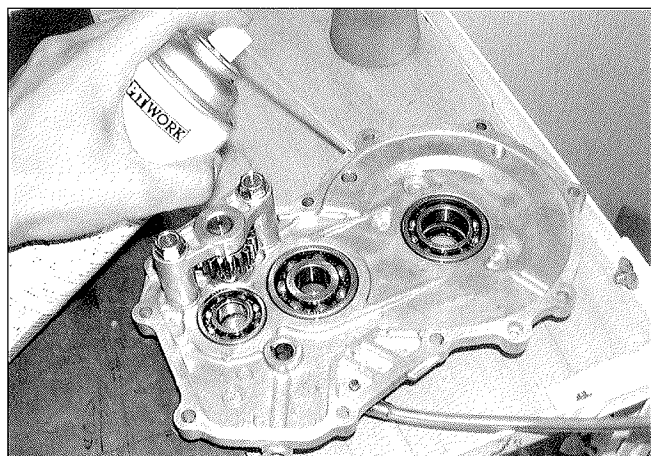


・全てのギヤにATFを塗布しておく。

・Rサイドカバーにリバースアイドラギヤを取り付ける。
(取り外した場合)



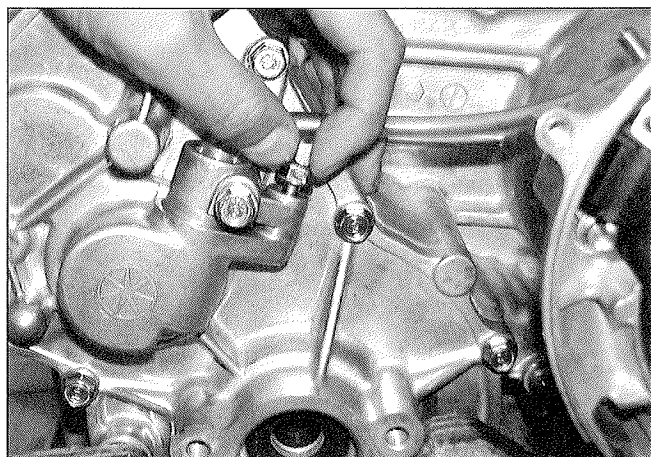
トランスミッション



- ・ Rサイドカバー及びLサイドクランクケースの合わせ面のシール剤をスクレーパーで取り除き、脱脂する。
- ・ Rサイドカバーの脱脂した面に液体ガスケットを塗布する。
- ・ Rサイドカバーの各ベアリングにATFを塗布する。
- ・ Lサイドクランクケース側にノックピン(φ8,014)をセットする。
- ・ RサイドカバーをLサイドクランクケースにセットする。



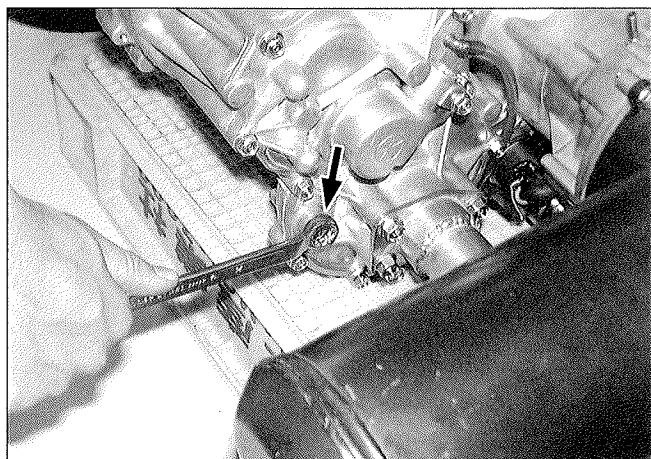
ケースの合わせ面に傷を付けないこと。



- ・ ボルト(M6-25 10本)でRサイドカバーをLサイドクランクケースに取り付ける。
- ・ 取り付け後ギヤの動きを点検する。
- ・ スピードメーターギヤホルダー、スピードメーターケーブルを取り付ける。
- ・ スチールボール、ロケーティングスプリングを取り付ける。



K-1組立説明書“エンジン”編P62~P64参照



- ・ ドリブンフェイスを取り付ける。(→H,ドライブフェイス/ドリブンフェイス)

●ミッションオイルの注入



- ・ 組立後、ミッションオイルを注入する。

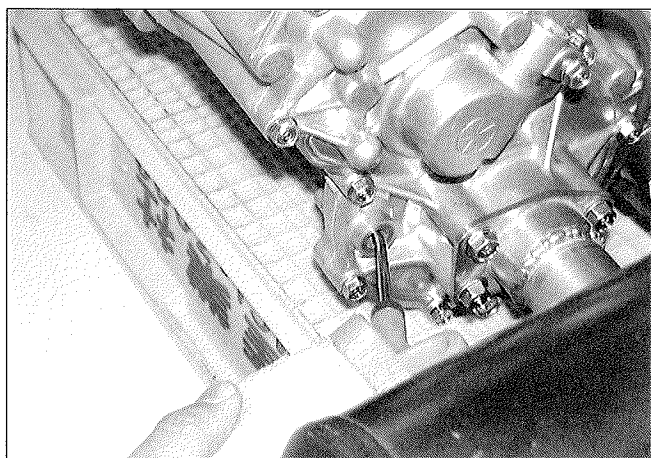


平らな場所で行うこと。

- ・ フィラーボルトを外す。



シールワッシャーが損傷していないことを確認する。



- ・ 指定のオイルを注入する。



オイル量 : 120cc (分解時)

指定オイル: オートマチック用トランスミッション油(ATF)

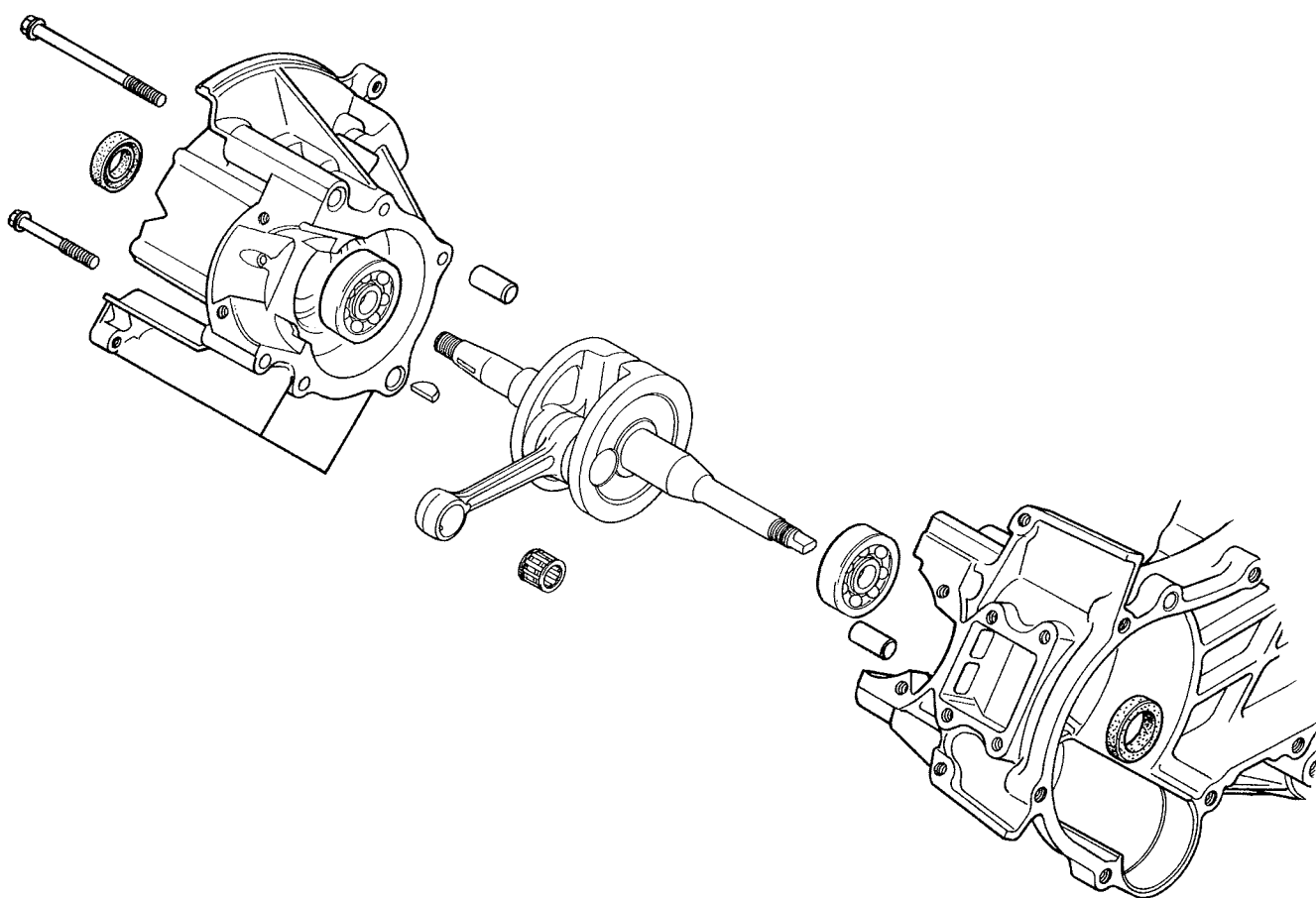
- ・ フィラーボルトを締め付ける。



締め付トルク : 1.8kg-m

- ・ エンジンを始動し、オイル漏れがないか確認する。
- ・ オイル量を点検する。フィラーボルト穴にオイル面があれば良い。
- ・ 不足している場合は指定オイルを補給する。

クランクケース/クランクシャフト



クランクケース/クランクシャフト

◆故障診断

●エンジンの騒音

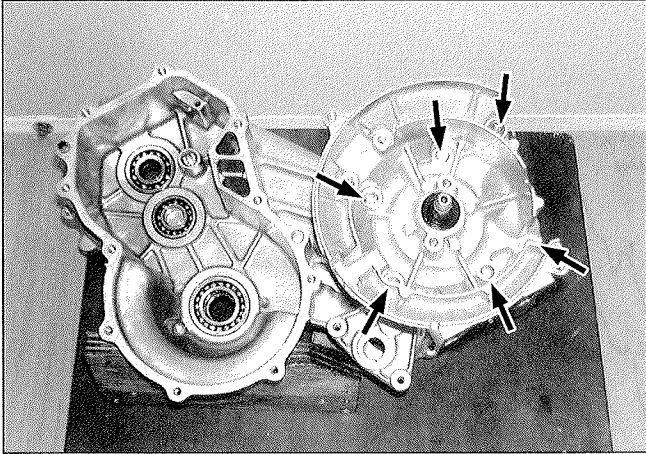
- ・メインジャーナルベアリングのがた
- ・クランクピンベアリングのがた
- ・トランスミッションベアリングのがた
- ・シリンダー、ピストンのがた

◆整備情報

●作業上の注意

- ・本章では、クランクシャフト関係を整備するためのクランクケース分割作業を説明してある。
- ・各整備の為にクランクケース分割前に下記の作業が必要であり、各章の手順に従い取り外しておくこと。
 - －エンジンの取り外し (→E.エンジン脱着)
 - －キャブレターの取り外し (→K.キャブレター/燃料系統)
 - －オイルポンプの取り外し (→D.潤滑系統)
 - －リードバルブの取り外し (→K.キャブレター/燃料系統)
 - －ドライブプーリーの取り外し (→H.ドライブフェイス/ドリブンフェイス)
 - －ACジェネレーターの取り外し (→G.ジェネレーター)
 - －シリンダー、シリンダーヘッドの取り外し (→F.シリンダーヘッド/シリンダー/ピストン)
- ・Lサイドクランクケースを交換するときは、さらに下記の作業が必要であり、各章の手順に従い取り外しておくこと。
 - －トランスミッションの取り外し (→I.トランスミッション)
- ・クランクケースとクランクシャフト組み立て時は、必ず専用工具を使用すること。

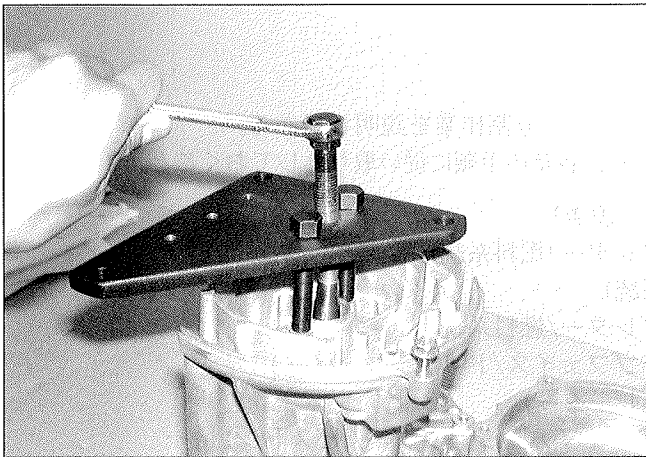
クランクケース/クランクシャフト



◆クランクケース

●クランクケースの分解

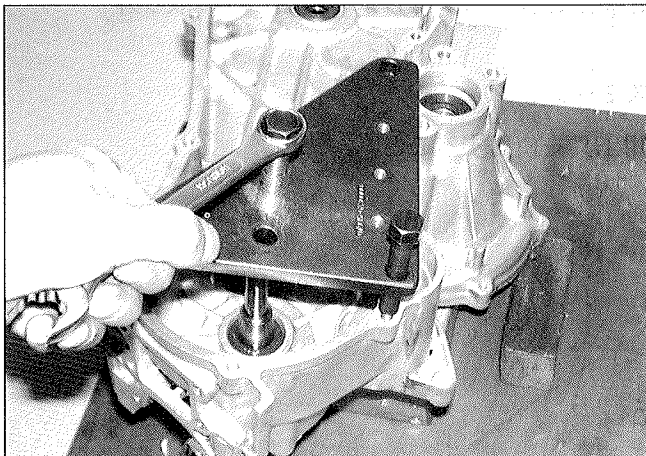
- ・エンジンを取り外す。(→E.エンジン脱着)
- ・シリンダー、ピストンを取り外す。(→F.シリンダーヘッド/シリンダー/ピストン)
- ・クーリングファン、フライホイール、ステーターを取り外す。(→G.ジェネレーター)
- ・ドライブフェイス、クラッチ/ドリブンフェイスを取り外す。(→H.ドライブフェイス/ドリブンフェイス)
- ・ミッション類を取り外す。(→I.トランスミッション)



- ・6本のボルト(上図：矢印部)を取り外す。
- ・Rサイドクランクケースにケースプーラーを取り付け、LサイドクランクケースからRサイドクランクケースを分割する。



ケースプーラー



●クランクシャフトの取り外し

- ・Lサイドクランクケースプーラーを取り付け、クランクシャフトをLサイドクランクケースから取り外す。



クランクシャフトを叩いて取り外さないこと。



ケースプーラー



- ・クランクシャフト側にジャーナルベアリングが残った場合はベアリングプーラーを使用して取り外す。
- ・Lサイドクランクケースからオイルシールを取り外す。

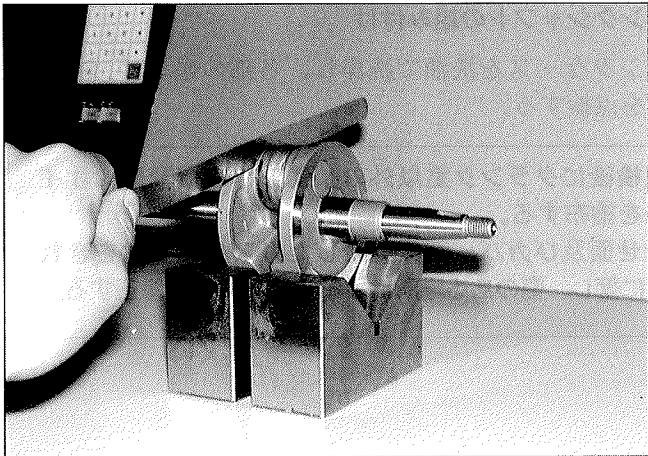


クランクケースを分割した場合はオイルシールを必ず取り外す。取り外したオイルシールは再度使用しないこと。



ユニバーサルベアリングプーラー

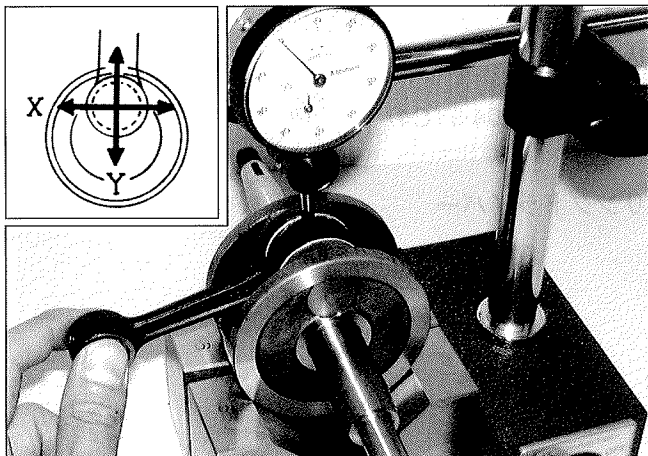
クランクケース/クランクシャフト



●クランクシャフトの点検

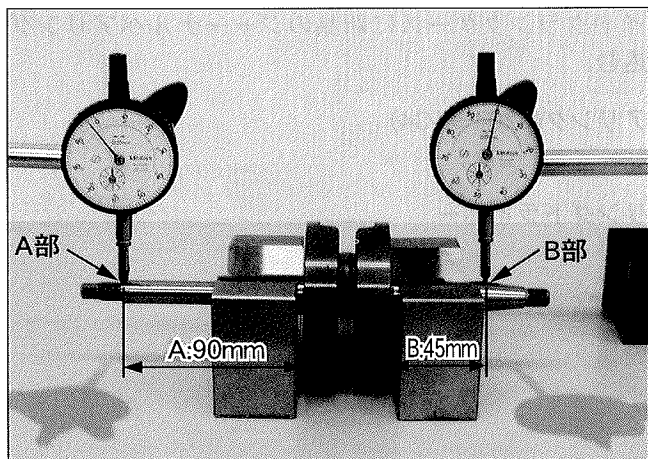
- ・コンロッド大端部軸方向隙間を測定する。

使用限度：0.6mm以上交換



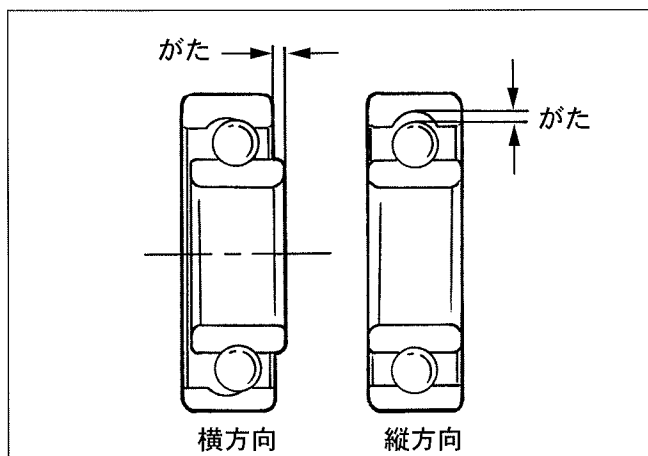
- ・コンロッド大端部軸直角XY2方向のがたを測定する。

使用限度：0.04mm以上交換



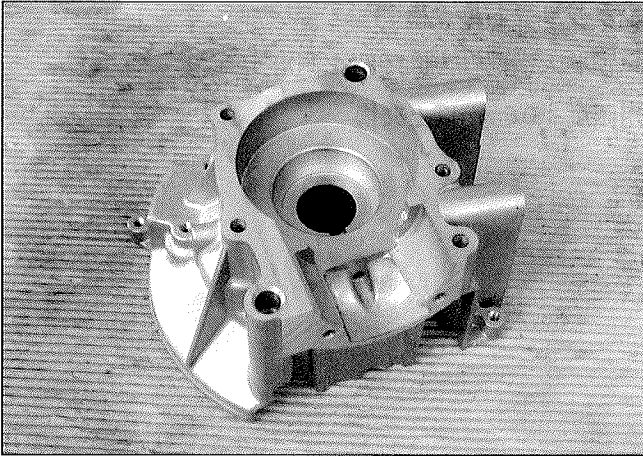
- ・クランクシャフトのA,B部の揺れを測定する。

使用限度	
A	B
0.15mm以上交換	0.10mm以上交換



- ・ケース側に残ったクランクシャフトのジャーナルベアリングはがたを点検し、がたのあるものは交換する。

クランクケース/クランクシャフト



●クランクシャフトの組み付け

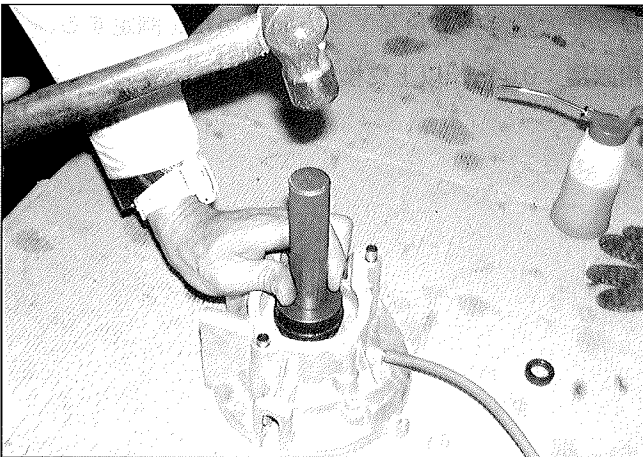
- ・クランクケースを洗油で洗浄し、各部の亀裂や、損傷の有無を点検する。



- ・点検後にクランク室以外の軸受部等の摺動面にオイルを塗布する。



- ・合せ面及びカバー面に付着したガスケット材をきれいに落とし、傷のある場所はオイルストーンで修正する。

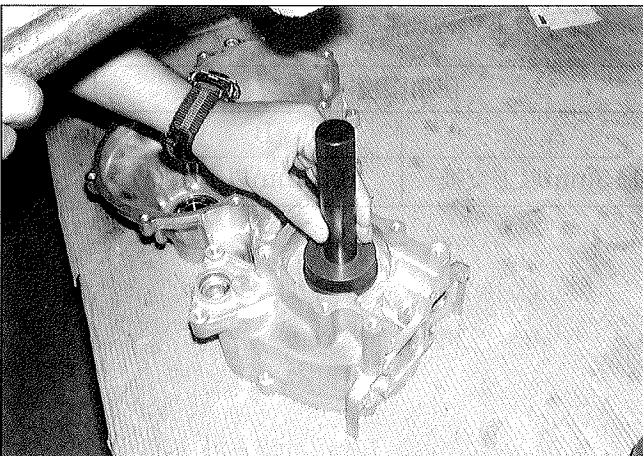


- ・Rサイドクランクケースに新品のジャーナルベアリングを打込む。

ベアリング(6204-9TC4)



ベアリングドライバー

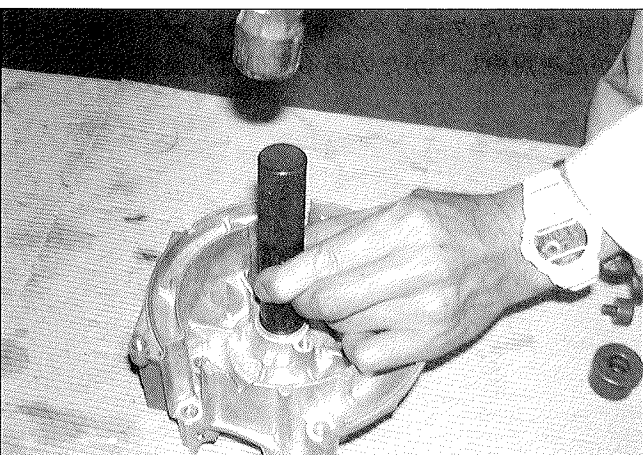


- ・Lサイドクランクケースに新品のジャーナルベアリングを打込む。

ベアリング(6204-9TC4)



ベアリングドライバー



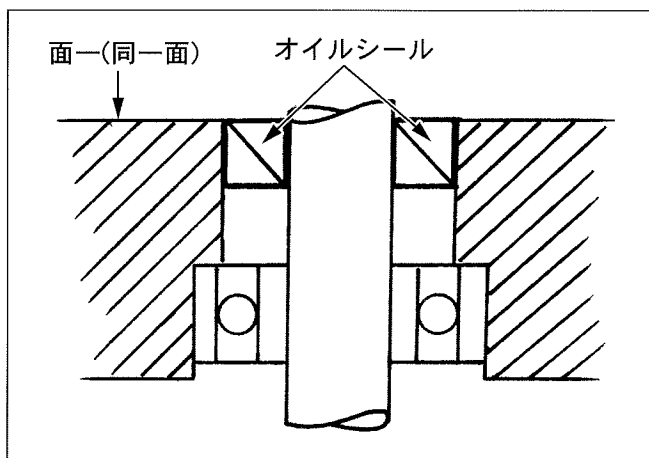
- ・新品のオイルシールをRサイドクランクケースのケースボス部上面から約12mmの位置に取り付ける。

オイルシール(15×25.5×7)



ベアリングドライバー

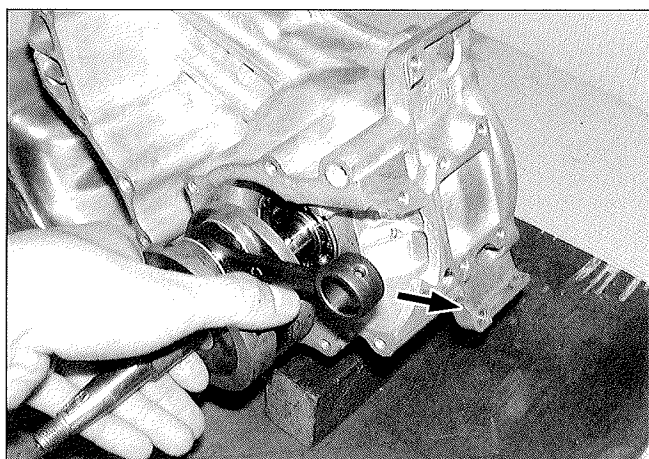
クランクケース/クランクシャフト



- ・オイルシールをLサイドクランクケースのケース面と面一になるよう打込む。



ベアリングドライバー



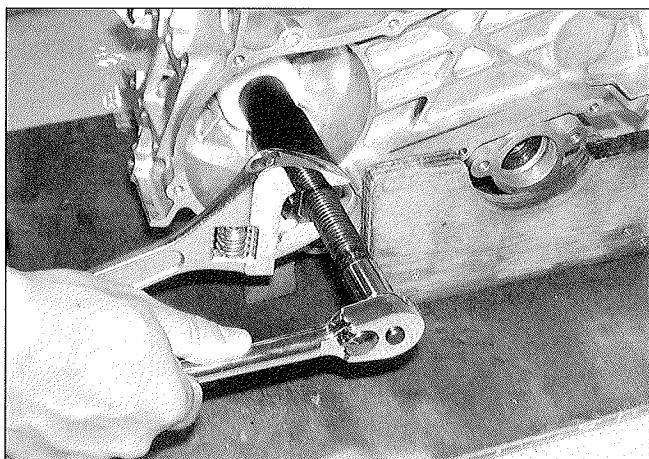
- ・クランクシャフトASSYをLサイドクランクケースに取り付ける。



このとき、コンロッド先端は矢印方向に向けておく。



K-1組立説明書“エンジン”編P3参照



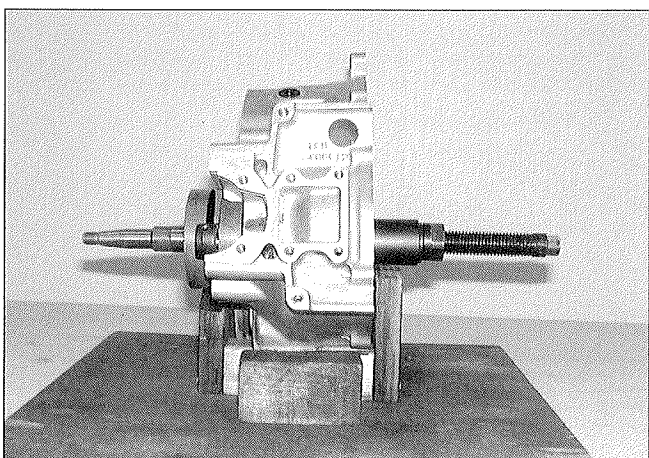
- ・クランクアッセンブルツールを使用し、クランクシャフトを圧入する。



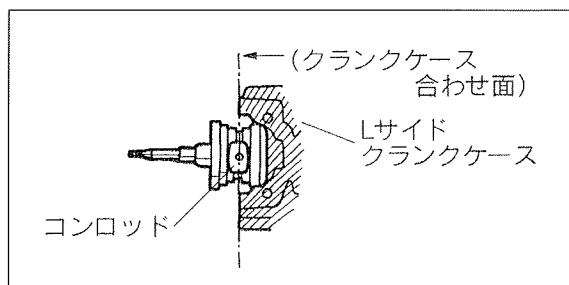
K-1組立説明書“エンジン”編P4参照



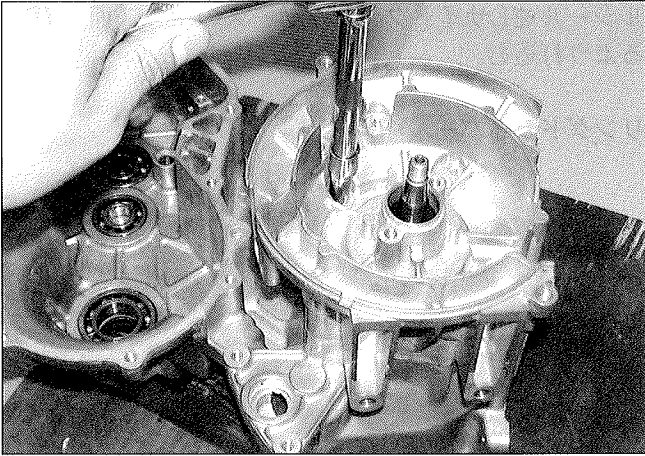
クランクアッセンブルツール



- ・クランクアッセンブルツールが堅くなって締め込めなくなったら完了である。また、コンロッドの中心がLサイドクランクケース端にきていることを確認する。



クランクケース/クランクシャフト



- ・ Rサイドクランクケースを取り外した逆の手順で取り付け。



K-1組立説明書“エンジン”編P6-8参照



クランクシャフトが滑らかに回転することを確認する。

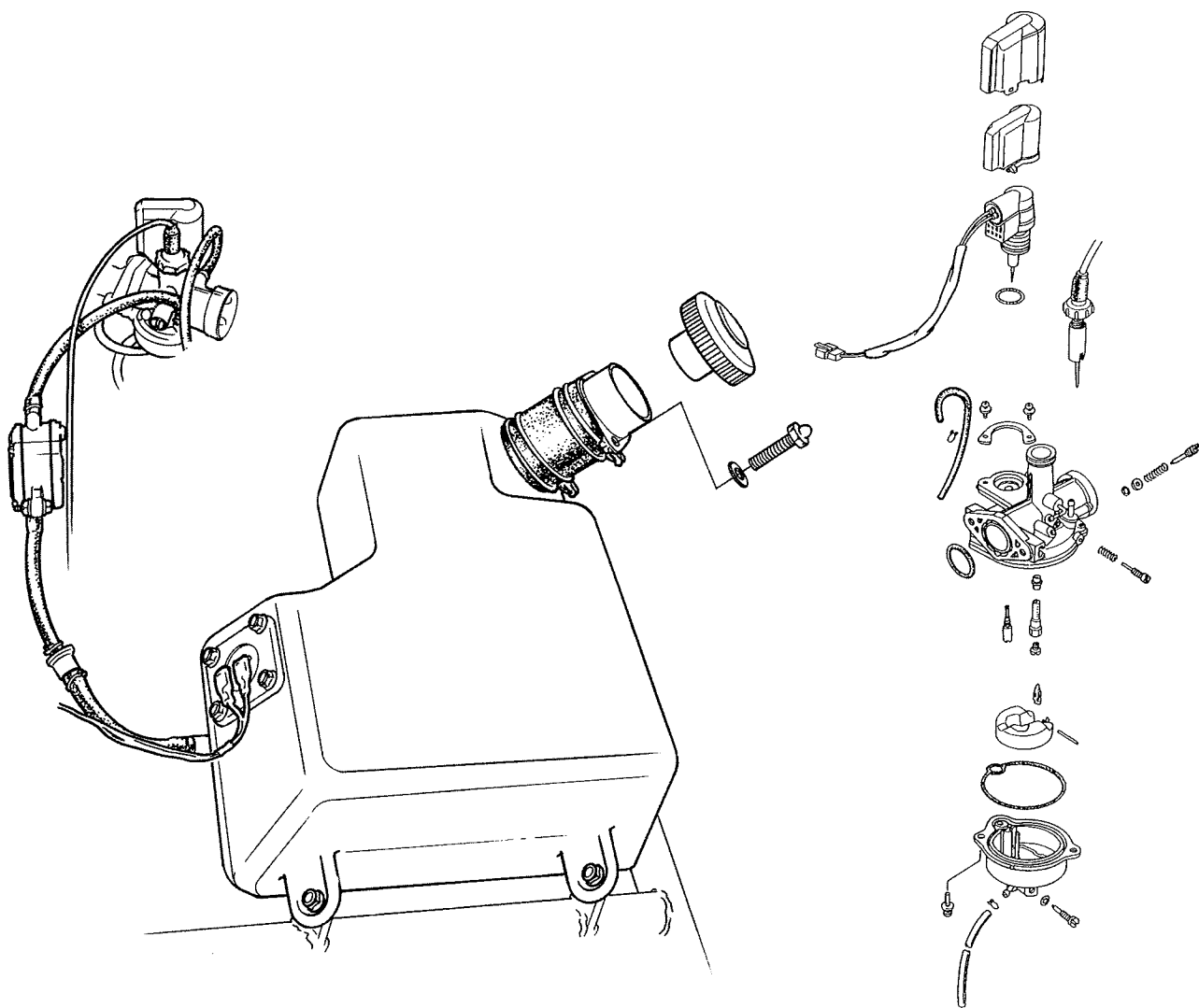


締付けトルク：1.0kg-m



クランクアッセンブルツール

キャブレター/燃料系統



キャブレター/燃料系統

◆故障診断

●始動しない

- ・タンクに燃料がない
- ・燃料がきてない
- ・シリンダー内に燃料が行きすぎている
- ・エアクリーナーの詰り

●エンジンアイドル不安定、回転不調

- ・アイドル調整不良
- ・点火不良
- ・圧縮圧力が低い
- ・エアスクリュウの調整不良
- ・油面調整不良
- ・エアクリーナーの詰り
- ・二次空気の吸入
- ・燃料の劣化
- ・スターターバルブの不良
- ・スロー系通路またはジェット詰り
- ・アクセルペダルの遊び調整不良

●混合気が薄すぎる

- ・燃料ジェット類の詰り
- ・フューエルキャップの通気孔の詰り
- ・フューエルストレーナーの詰り
- ・フューエルチューブの折れ、つぶれ、詰り
- ・フロートバルブの作動不良
- ・油面が低すぎる
- ・エアベントチューブの詰り

●混合気が濃すぎる

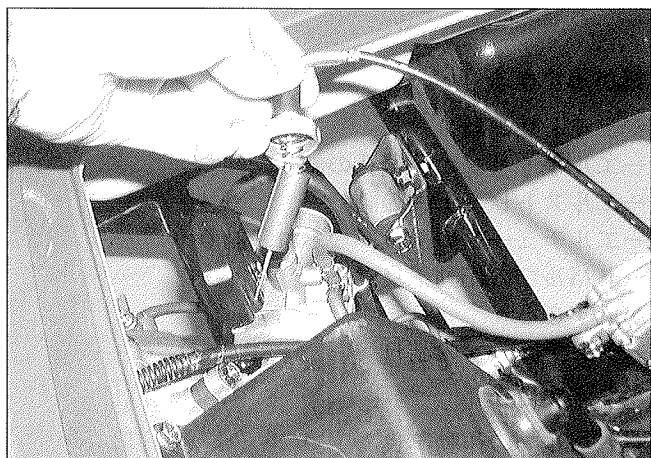
- ・フロートバルブの作動不良
- ・油面が高すぎる
- ・エアジェット類の詰り

◆整備情報

●作業上の注意

- ・ガソリンを取扱う場合は火気に十分注意する。
- ・Oリング類の取付位置に注意し、組み立て時は新品に交換する。
- ・チューブ、ケーブル類のワイヤリングは正しく行なうこと。
- ・オイルパスチューブの脱着後はエア抜きを行なうこと。

キャブレター/燃料系統



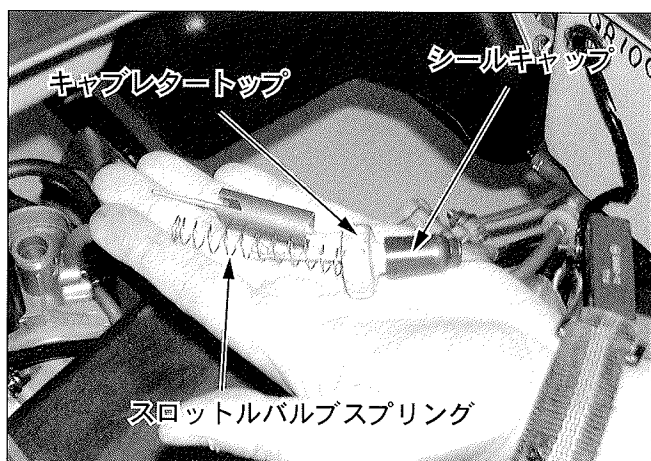
◆キャブレター

●スロットルバルブの分解

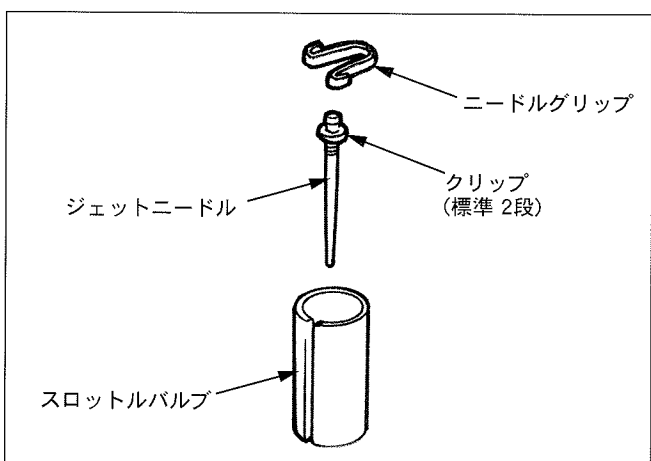
- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・キャブレタートップをゆるめて、スロットルバルブと共に取り外す。



- ・スロットルケーブルをスロットルバルブから外す。



- ・スロットルバルブスプリング、キャブレタートップ、シールキャップをケーブルから外す。

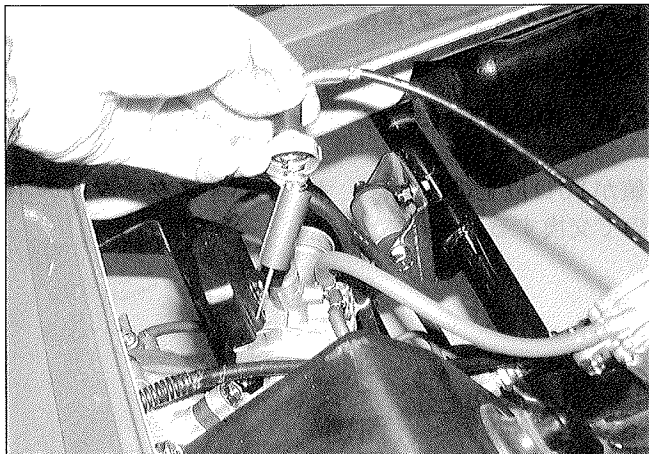


- ・ニードルクリップを外し、ジェットニードルを外す。

●ジェットニードル、スロットルバルブの点検

- ・ジェットニードル、スロットルバルブに摩耗、損傷がないか点検する。

キャブレター/燃料系統



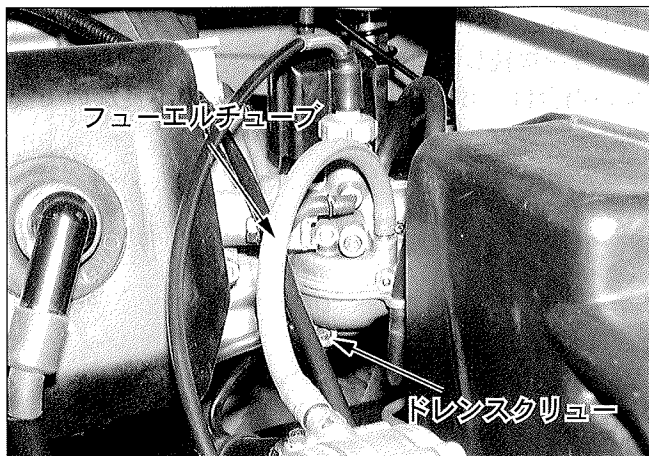
●スロットルバルブの取り付け

- ・スロットルバルブにジェットニードルを取り付け、ニードルクリップで止める。
- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



K-1組立説明書“シャーシ”編P71~P73参照

- ・取り付け後、次の点検、調整を行なう。
 - －スロットルケーブル(→C-8)
 - －アイドリング(→K-9)

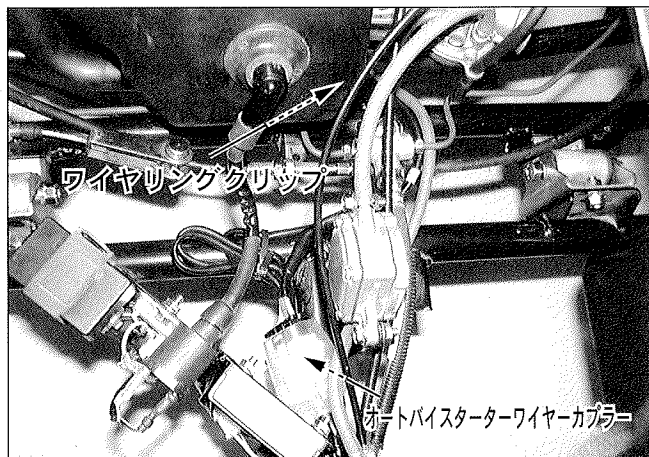


●キャブレターの取り外し

- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・エアクリーナーを取り外す。(→C-6)
- ・キャブレタードレンスクリーをゆるめて、キャブレター内のガソリンを抜く。
- ・キャブレタートップをゆるめて、スロットルバルブと共に取り外す。
- ・フューエルチューブをキャブレターから外す。



フューエルチューブには栓をしておくこと。

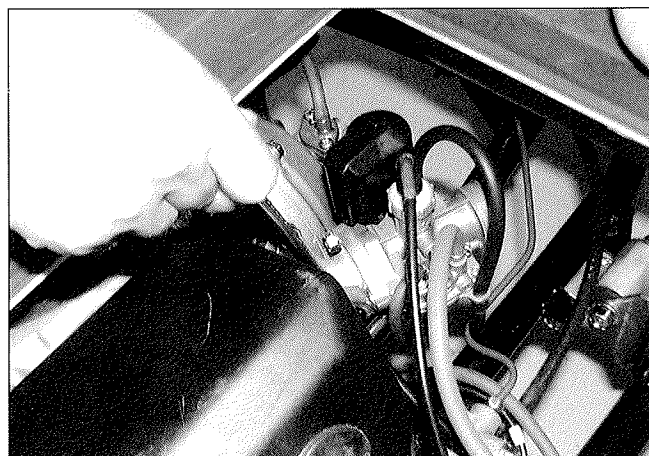


- ・オイルバスチューブをキャブレターから外す。



オイルバスチューブには栓をしておくこと。

- ・オートバイスターターワイヤーコネクタの接続を外す。
- ・エンジン下部でリヤサスペンションアームと共締めしてあるワイヤリングクリップを切断する。

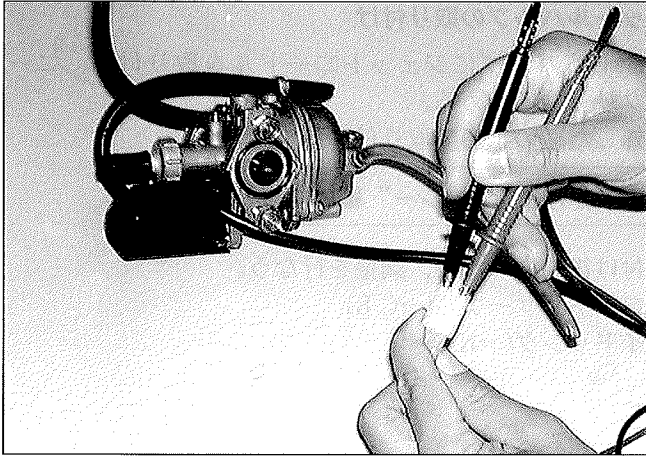


- ・キャブレター取付ボルトを外し、キャブレターを取り外す。



キャブレター取外後は、インレットパイプからゴミが入らないよう、ウエス等でふさいでおく。

キャブレター/燃料系統

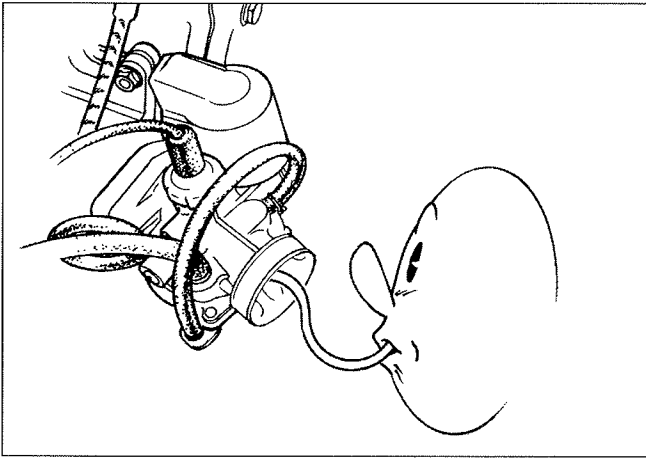


●オートバイスターターの点検

- ・オートバイスターターワイヤー間の導通を点検する。
抵抗値：10Ω以下（エンジン停止後10分以上）



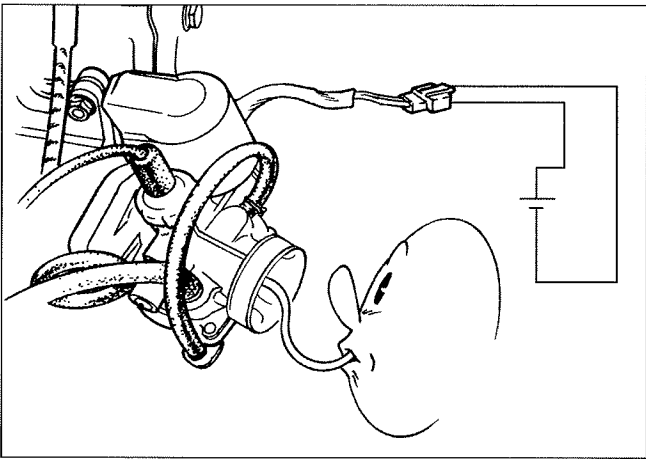
- ・抵抗値が10Ω以上の場合は、オートバイスターターの不良なので交換する。



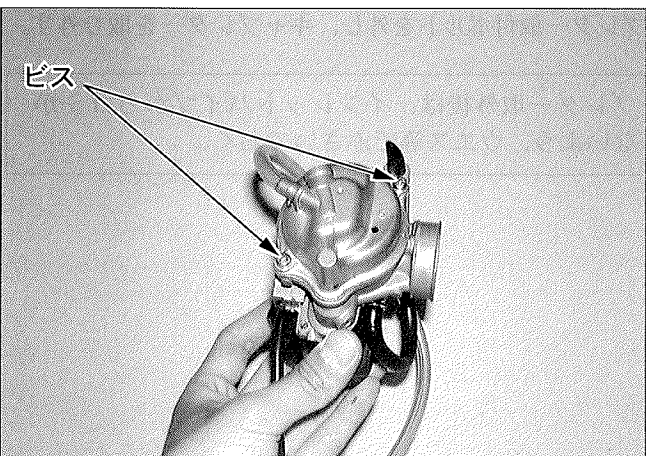
- ・30分間放置後、燃料増量回路にビニールチューブまたはストロー等を接続し、口で吹いてみる。



- ・吹けない場合は、オートバイスターターの不良なので交換する。



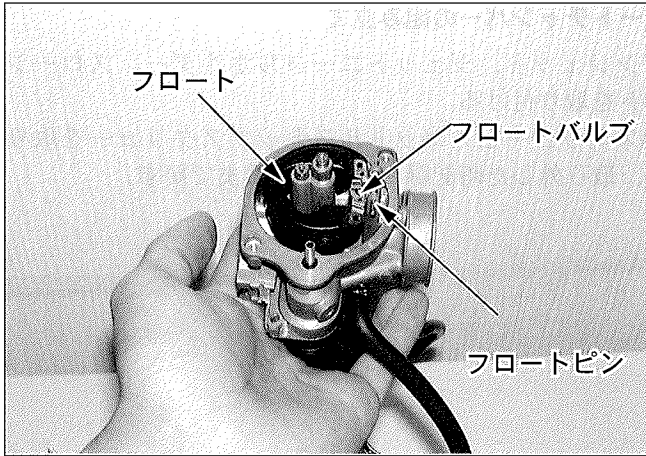
- ・オートバイスターターの黄ワイヤーをバッテリーの(+)端子に、緑/黒ワイヤーを(-)端子に5分間接続する。
- ・燃料増量回路にビニールチューブまたはストロー等を接続して口で吹いてみる。
- ・吹ける場合は、オートバイスターターの不良なので交換する。



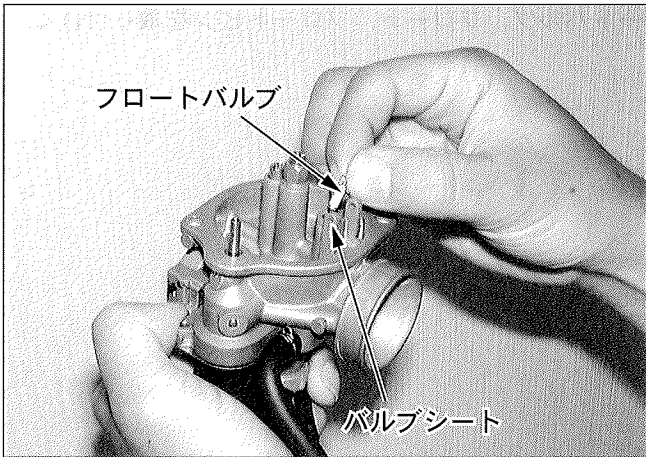
●フロートチャンバーの取り外し

- ・ビス2本を外してフロートチャンバーを取り外す。

キャブレター/燃料系統

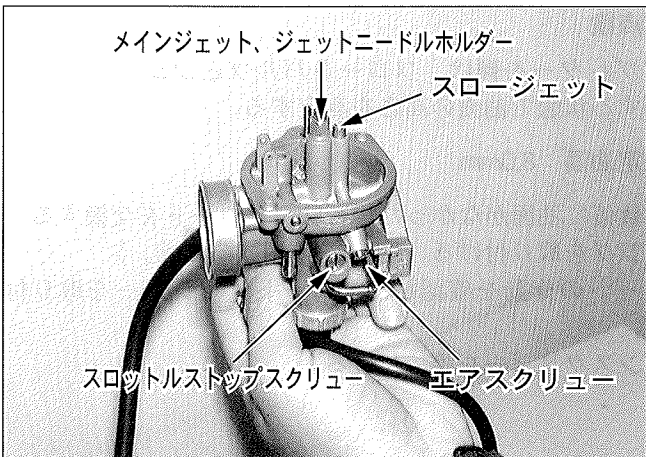


- ・フロートピンを抜いて、フロートとフロートバルブを外す。



●フロート、フロートバルブの点検

- ・フロートの損傷、フロート内にガソリンの侵入がないか点検する。
- ・バルブシート面の摩耗状態を点検する。



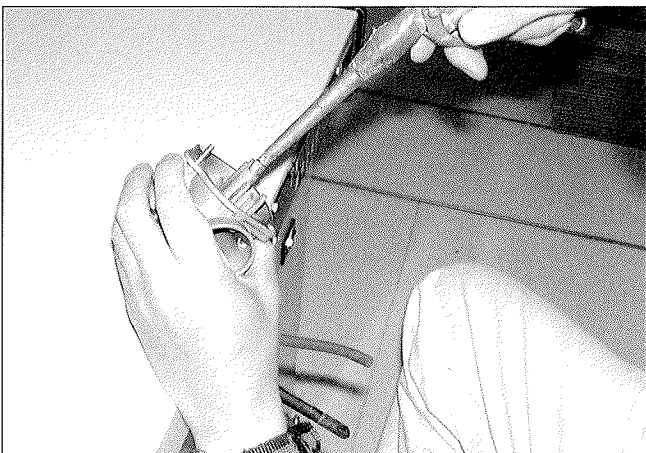
●ジェット、スクリュー類の取り外し

- ・スロットルストップスクリューとエアスクリューを外す前に、完全に締め込んだ位置までの回転数を確認しておく。



シート面を損傷させるので、エアスクリューを強く締め込まないこと。

- ・メインジェット、ジェットニードルホルダーを取り外す。
- ・スロージェットを取り外す。



●キャブレター通路の清掃

- ・キャブレターボディの通路をエアで吹いて詰りを清掃する。

キャブレター/燃料系統

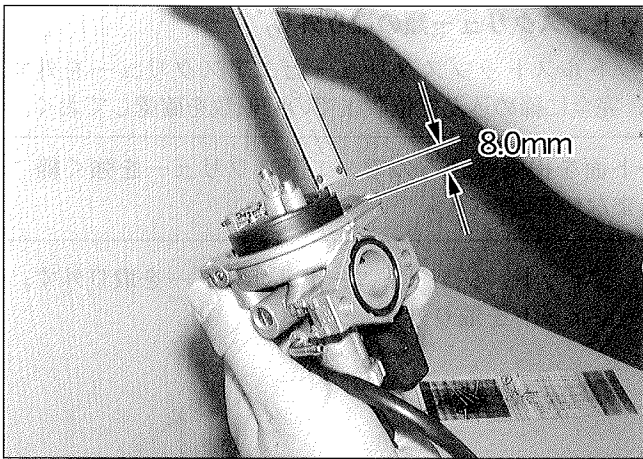


●フロートチャンバーの組み立て

- ・メインジェット、ジェットニードルホルダー、スロージェットを取り付ける。
- ・エアスクリューとスロットルストップスクリューを取り付け、取り外した時記録した取付位置まで戻す。



- ・フロートバルブ、フロート、フロートピンを取り付ける。



●油面点検

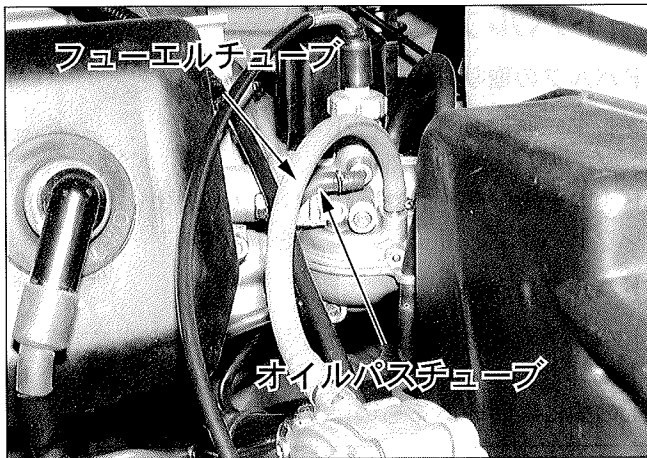
- ・キャブレターを傾け、フロートバルブとフロートアームが接する状態で油面の高さを測定する。

規定油面：8.0mm



- ・規定数値に油面がなかった場合は、フロートを交換する。
- ・Oリングを取り付ける。(新品を使用すること。)
- ・フロートの作動を確認し、フロートチャンバーを取り付ける。
- ・ドレンスクリューを締め付ける。

キャブレター/燃料系統

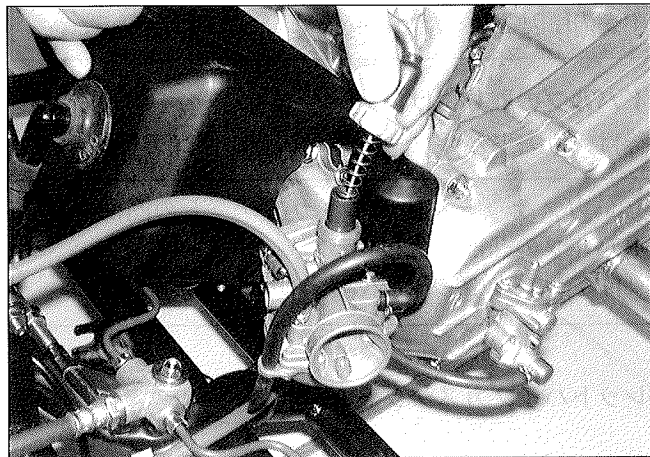


●キャブレターの取り付け



キャブレター内にゴミが入らないように注意する。

- ・Oリングに劣化、損傷がないか確認する。
- ・キャブレターをインレットパイプに取り付ける。
- ・フューエルチューブを接続する。
- ・オイルパスチューブのエア抜きを行ってから、オイルパスチューブを接続する。(→D-5)
- ・オートバイスターターワイヤーコネクタを接続する。
- ・エンジン下部にてオートバイスターターワイヤーコネクタ、エンジンハーネス、パルスチューブをリヤサスペンションアームにワイヤリングクリップで共締めする。



オートバイスターターワイヤーは正しい位置に通すこと。
(→B-16)

- ・キャブレタートップを取り付ける。(→K-5)
- ・エアクリーナーを取り付ける。(→C-6)
- ・取り付け後、次の点検、調整を行なう。
 - －スロットルケーブル(→C-8)
 - －アイドリング(→K-9)



●アイドリングの調整



エアスクリューの調整は、エンジン暖気運転後行なう。

- ・エアスクリューを軽く締め込んだ位置より、標準戻し回転数だけ戻す。

標準戻し回転数：1-1/2

- ・スロットルストップスクリューを回し、規定のアイドリング回転に調整する。

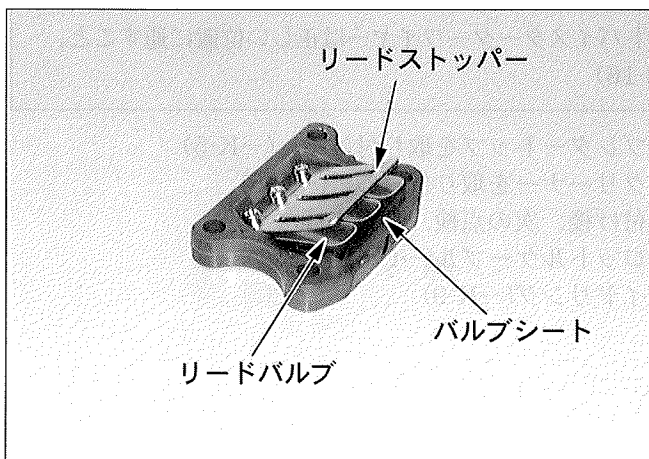
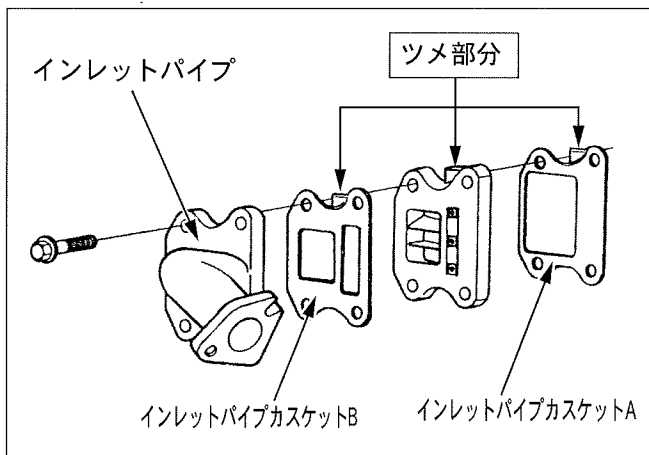
アイドリング回転数：1900±100rpm

- ・アイドリングから軽くスナッピングを行い、滑らかに回転がつながるか、また回転の戻りが正常か確認をする。調整が必要なら以下の点検を行なう。

- －エアスクリューを標準戻し位置から左右に徐々に回し、アイドリング回転数の最も高くなる位置を探して、そこから1/8回転締め込む。
- －スロットルストップスクリューを回してアイドリング回転数を基準値に合わせる。
- －回転が滑らかにつながりまで、作業を繰り返す。



キャブレター/燃料系統



◆リードバルブ

●リードバルブの取り外し

- ・キャブレターを取り外す。(→K-5)
- ・シリンダーカバーを取り外す。
- ・ボルト4本を外して、インレットパイプガスケットA/B、インレットパイプ、リードバルブを取り外す。

●リードバルブの点検



- ・リードバルブの劣化、損傷があるものは新品と交換する。
- ・リードバルブシート表面に亀裂、損傷のあるものや、リードとの間に隙間のあるものは交換する。



リードストッパーを分解したり、曲げたりするとエンジン不調の原因となるため、交換はASSYで行なうこと。

●リードバルブの取り付け

- ・取付後は、リードバルブ取り外しの逆の手順で行なう。

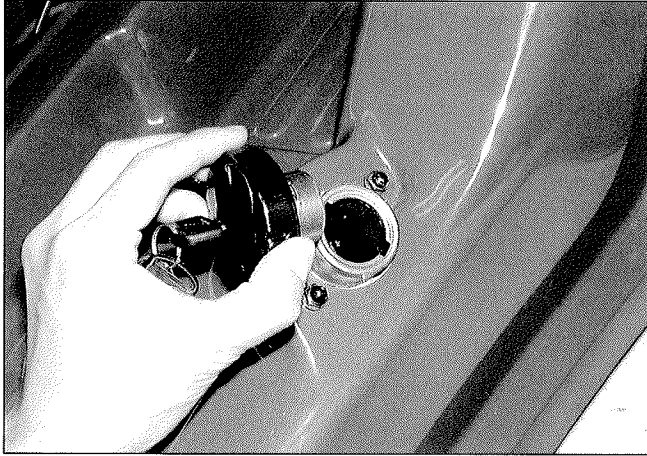


- ・新しいガスケットを使用し、ガスケットの凸部をリードバルブの凸部に合わせる。
- ・取り付け後、二次空気の吸い込みがないかを確認する。



インレットパイプガスケットA/B

キャブレター/燃料系統



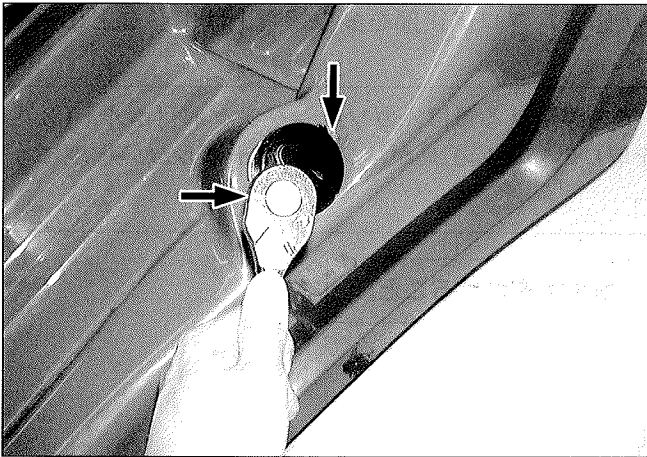
◆フューエルタンク



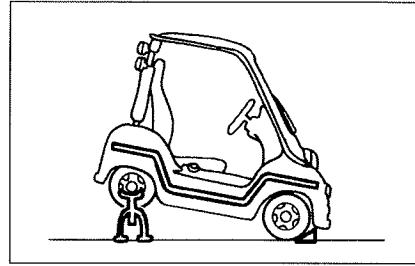
火気厳禁

●フューエルタンクの取り外し

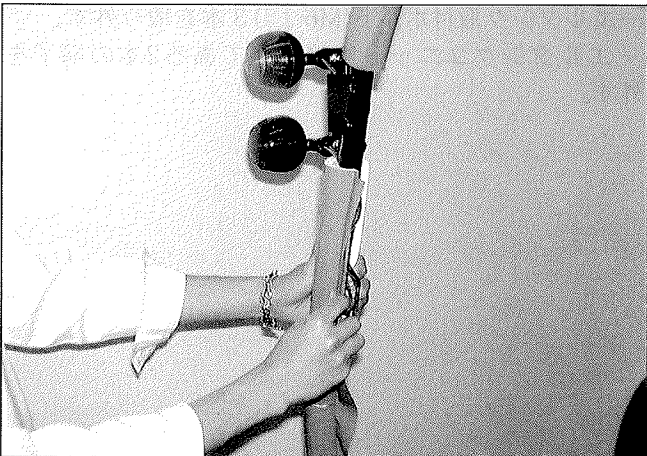
- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・フューエルタンクチューブをフューエルポンプから外し、フューエルタンク内のガソリンを抜く。



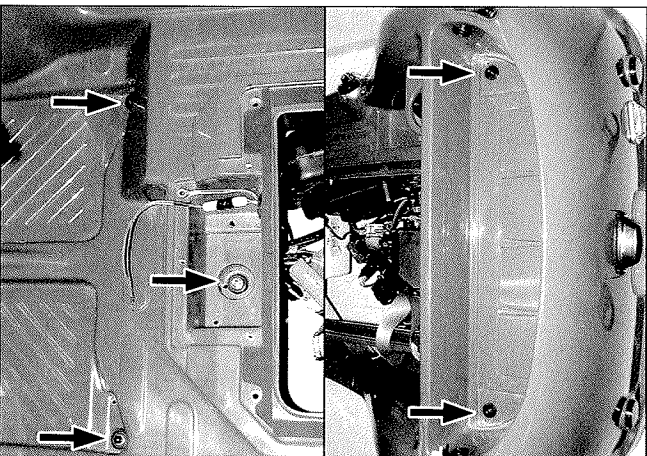
- ・図の2本のボルト、ワッシャーを外す。
- ・後軸をジャッキアップする。リジトラックはホーシングにかける。



フューエルタンクの取り外しは、フロア後部を多少持ち上げる必要がある。



- ・左右のライトカバーを外し、リヤフラッシュランプ、ストップランプのカプラー接続を外す。



- ・5箇所のフロア取付ボルト(M8-35)を外す。

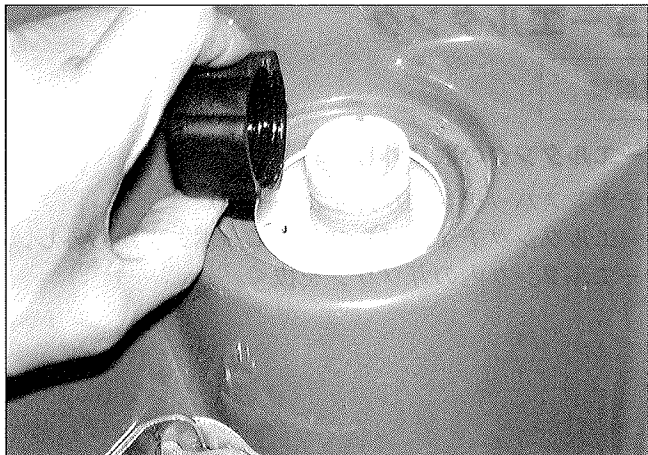
ーリヤ荷室内(2箇所)

ーバッテリーボックス内(1箇所)

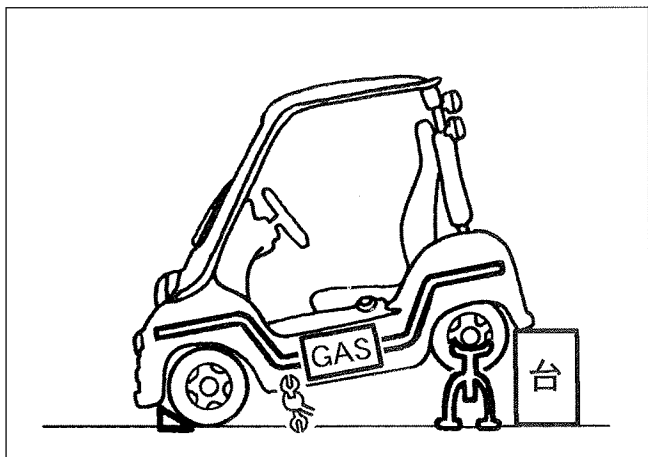
(バッテリーを取り外してからボルトを外すこと。)

ーフロア部(2箇所)

キャブレター/燃料系統



- ・オイルタンクキャップを取り外す。



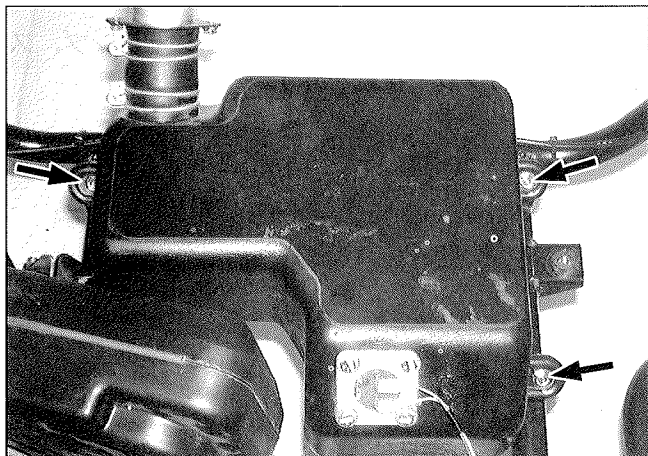
- ・この状態で、フロア後部を多少持ち上げて台などに乗せておく。



フロアを浮かせる量は、ガソリタンク取付ボルト(3本)を取り外す為の工具が、フロアに干渉しない程度にする。



前輪に輪止めをかけること。

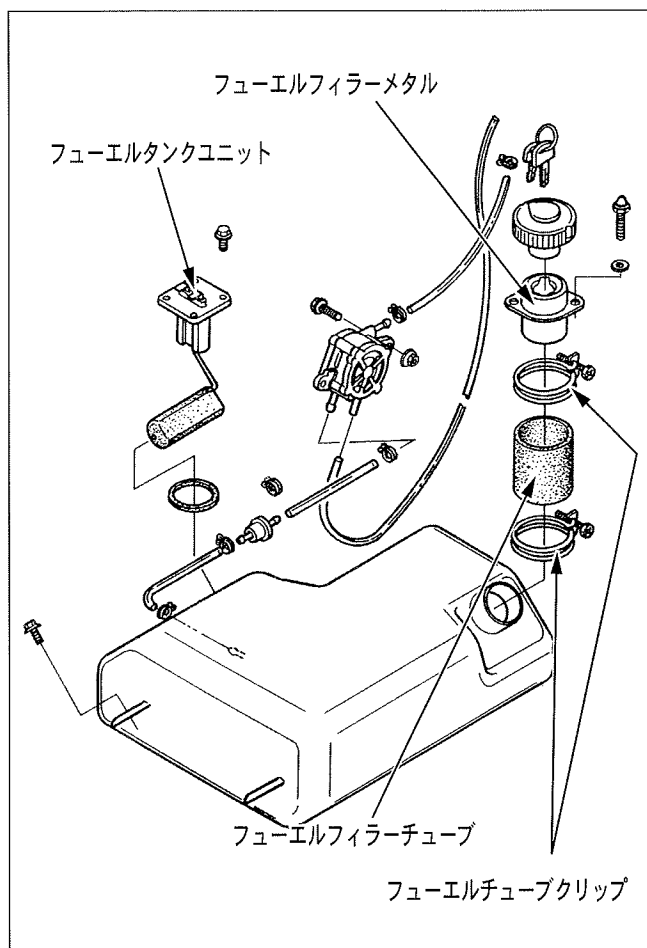


- ・フューエルタンク取付ボルト(M6-15)3本を取り外す。
- ・フューエルタンクユニットに接続してある2本の端子を取り外す。



- ・フューエルタンクを車輛裏側より取り外す。

キャブレター/燃料系統



●フューエルタンクの分解

- ・ボルト(M6-15)4本を外し、フューエルタンクユニットを取り外す。



点検は“Q.電気系統”参照のこと。

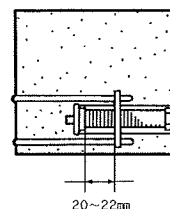
- ・上下のフューエルチューブクリップをゆるめ、フューエルフィルターチューブ、フューエルフィルターメタルを取り外す。

●フューエルタンクの組み立て

- ・分解の逆の手順で組み立てる。



フューエルチューブクリップは図の矢印部が約20~22mm位が適切な締め込み量である。



- ・フューエルフィルターチューブが劣化、損傷している場合は新品と交換する。



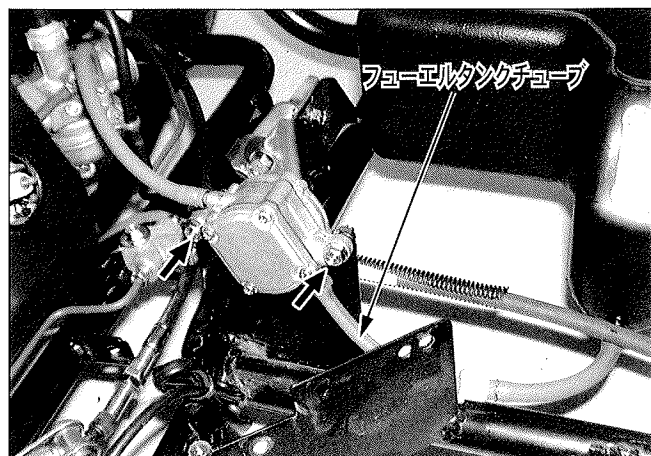
フューエルタンクユニット締付トルク：0.3kg-m
(ネジロックを使用すること)

●フューエルタンクの取り付け

- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



取付後、ガソリン漏れのないことを確認する。

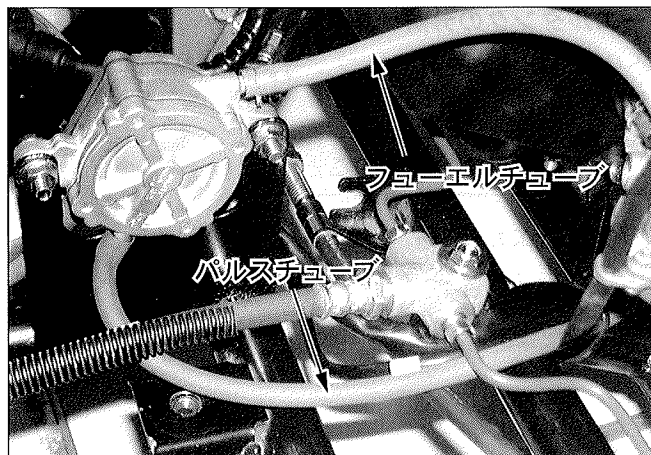


◆フューエルポンプ

●フューエルポンプの取り外し

- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・クリップをゆるめ、フューエルタンクチューブをフューエルポンプから外す。
- ・ガソリンが流出しない様に、栓をしておく。
- ・ボルト(M6-20)2本を外し、フューエルポンプをステーから取り外す。

キャブレター/燃料系統



- ・パルスチューブを取り外す。
- ・フューエルチューブを取り外す。

●フューエルポンプの取り付け

- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



損傷のあるクリップは新品に交換する。



●フューエルポンプの点検

- ・取り外した逆の手順で組み立てる。



吐出量の点検前に、エンジンを暖気しアイドリング回転を規定範囲に調整する。

- ・エンジンを始動し、アイドリング状態にする。
- ・キャブレターからフューエルチューブを外し、5秒以上燃料を吐出した後、10秒間に28cc以上の吐出量があれば、ポンプは良好である。
- ・規定の吐出量が得られなければ、フューエルチューブ、パルスチューブ、フューエルストレーナーを点検し、異常がなければポンプをASSYで交換する。

ステアリング

◆故障診断

●ハンドル操作が重い（車輛ジャッキアップ時）

- ・ステアリングピニオンプリロードの不適正
- ・ステアリングギヤの破損
- ・ステアリングシャフトジョイントの作動不良
- ・ステアリングギヤの作動不良
- ・サスペンション関連事項

●ハンドルがとられる

- ・ステアリングリンケージの損傷
- ・ホイール、タイヤ関連事項
- ・サスペンション関連事項
- ・ブレーキ関連事項

●走行不安定

- ・ステアリングジョイントの摩耗または破損
- ・ステアリングプリロードの不適正
- ・ステアリングリンケージの損傷
- ・ホイール、タイヤ関連事項
- ・サスペンション関連事項

●操舵力が不均一

- ・ステアリングギヤの作動不良
- ・ステアリングジョイントの作動不良
- ・ステアリングリンケージの作動不良

●ハンドルの過度の遊び

- ・ステアリングギヤの損傷
- ・ステアリングジョイントの摩耗または損傷
- ・ステアリングギヤ取付ボルトの緩み

●ハンドル戻り不良

- ・ステアリングジョイントの固着または破損
- ・ステアリングピニオンプリロードの不適正
- ・ホイール、タイヤ関連事項
- ・サスペンション関連事項

●“シミー現象”（ハンドルが左右に取られる）

- ・ステアリングリンケージの損傷
- ・ステアリングギヤ取付ボルトの緩み
- ・ステアリングジョイントの固着または破損
- ・ホイールベアリングのがた
- ・ホイール、タイヤ関連事項
- ・サスペンション関連事項

●ステアリングシステムの異音

- ・ステアリングギヤ取付ボルトの緩み
- ・ステアリングギヤの作動不良
- ・ステアリングコラム付近の接触
- ・ステアリングリンケージの取付箇所の緩み
- ・ステアリングジョイントのへたり

◆整備情報

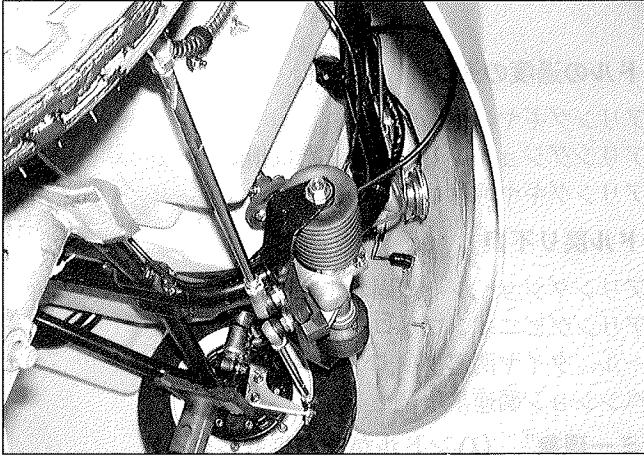
●作業上の注意

- ・ラックブーツの交換/ステアリングギヤボックスASSY取り外し/タイロッドの取り外し等は車輛をジャッキアップして行う。
- ・コンビネーションスイッチ取り付け/取り外しはインパネを取り外して行う。

●締付トルク

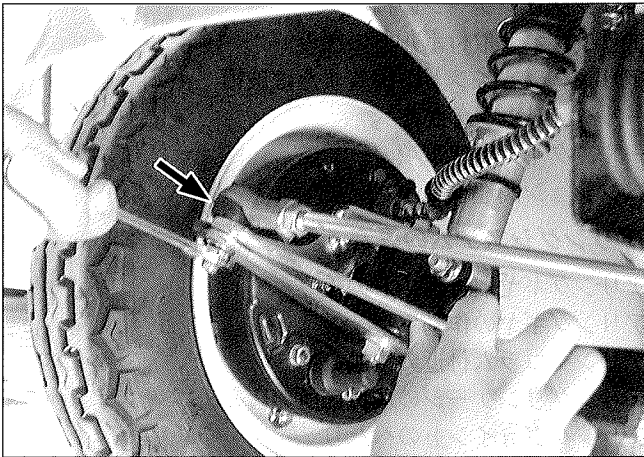
- | | |
|-----------------------|---------|
| ・ステアリングギヤボックス取付ボルト | 2.7kg-m |
| ・ステアリングホイール取付ナット | 6.0kg-m |
| ・ステアリングジョイントASSY取付ボルト | 1.2kg-m |
| ・ステアリングシャフトステア取付ボルト | 1.2kg-m |

ステアリング



◆ラックブーツ/ステアリングギヤボックス

- ・ 車輛をジャッキアップして行う。(→B-9)
- ・ ステアリングを取り外す。(→L-8)
- ・ ステアリングシャフトを取り外す。(→L-9)
- ・ ステアリングジョイントを取り外す。(→L-10)

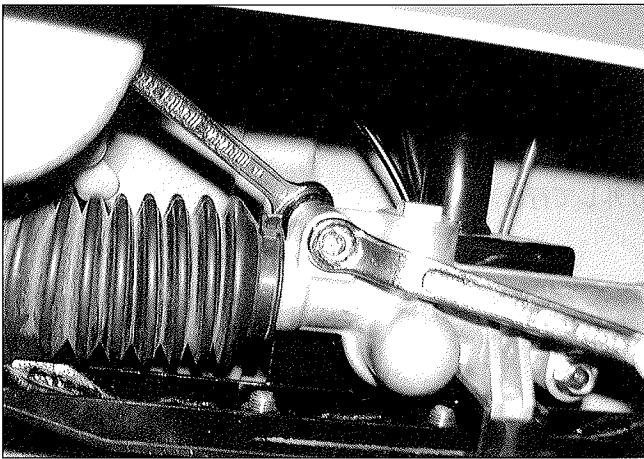


●ステアリングギヤボックスの取り外し

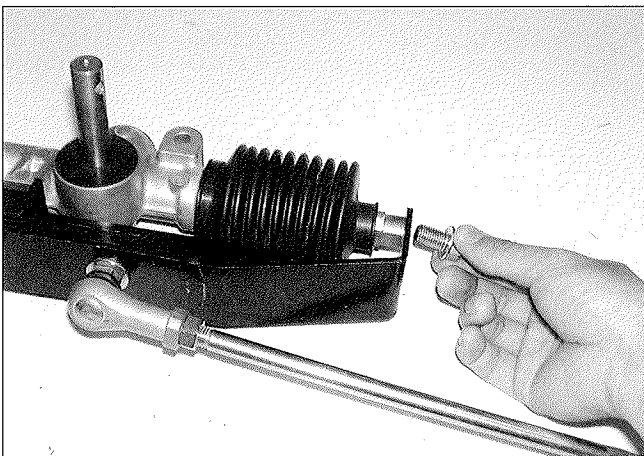
- ・ ラックブーツをとめているワイヤリングクリップを切断する。
- ・ タイロッド先端のナットを取り外し、タイロッド先端をナックルから取り外す。



ボールジョイントブーツを切らないよう注意する。

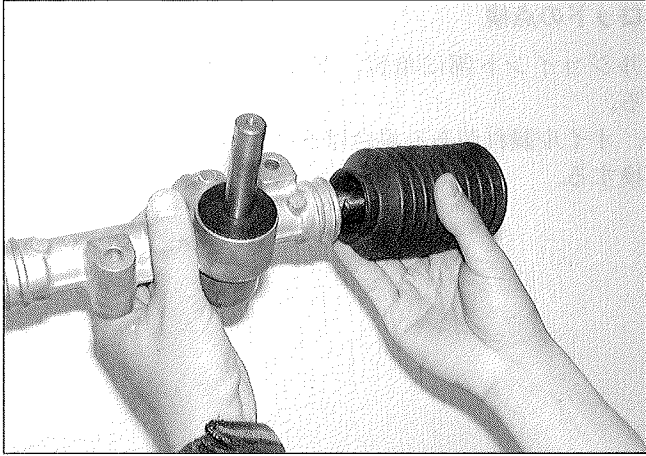


- ・ ステアリングギヤボックスをフレームにとめているM8フランジボルト、フランジナットを取り外す。



- ・ タイロッドベースをとめているM10フランジボルトを取り外す。
- ・ タイロッドベースからステアリングギヤボックスを取り外す。

ステアリング



●ラックブーツの交換



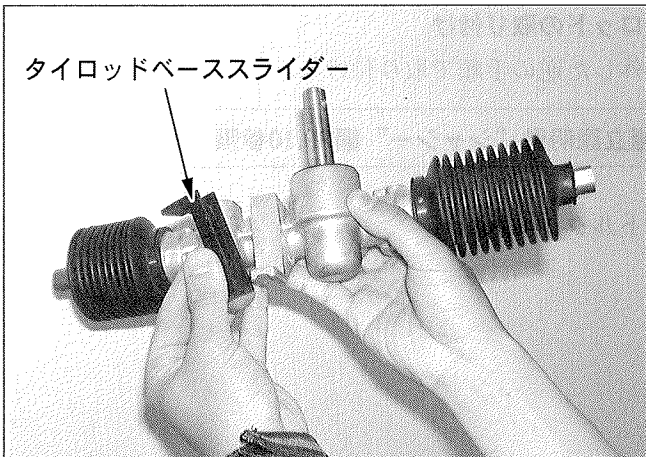
- ・ラックブーツを新品と交換する。
- ・口の大きい方からセットする。



ステアリングギヤボックスの点検はL-9参照のこと。



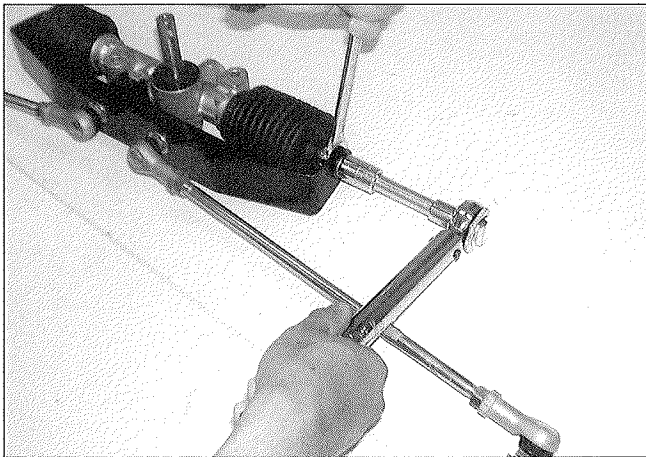
ステアリングギヤボックスは分解しないこと。不具合のある場合はASSYで交換すること。



●タイロッドベーススライダ-の点検



- ・タイロッドベーススライダ-に亀裂、損傷がないか点検する。
- ・亀裂、損傷のある場合は交換する。



●タイロッドベースの取り付け

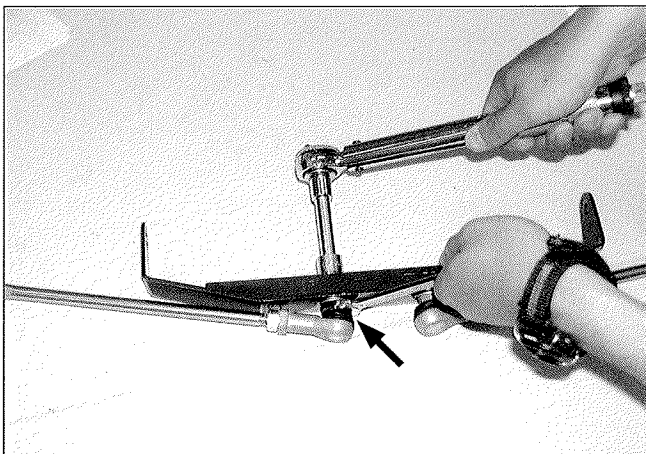
- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



K-1組立説明書“シャシー”編P10,11参照



締付トルク：4.0kg-m



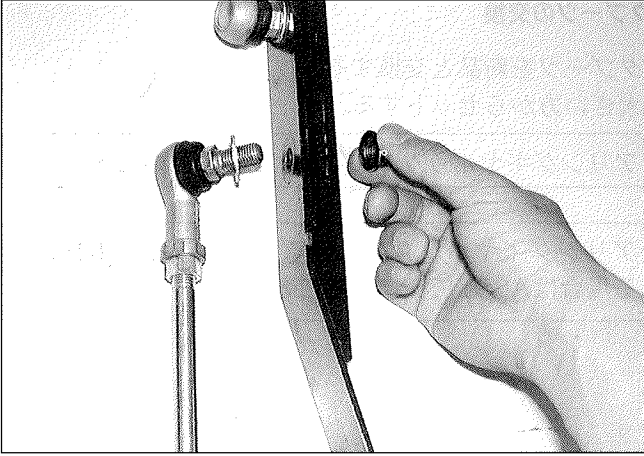
●タイロッドの取り外し

- ・タイロッドベースを取り外す(→L-4)
- ・タイロッドの取り外しを行う。
- ・タイロッド側を押さえ、ナット側をゆるめて取り外す。



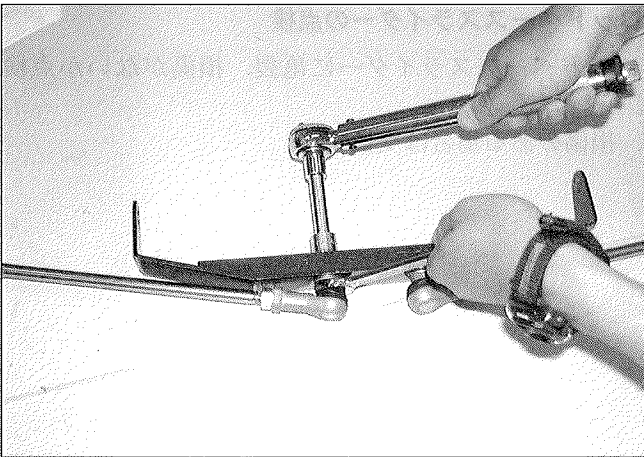
ボールジョイントブーツを切らないよう注意する。

ステアリング



●タイロッドの点検

- ・ボールジョイント部に亀裂、グリース漏れがないかを点検する。
- ・亀裂、オイル漏れがある場合はタイロッドASSYごと新品と交換する。



●タイロッドの取り付け

- ・取り外した逆の手順で取り付ける。

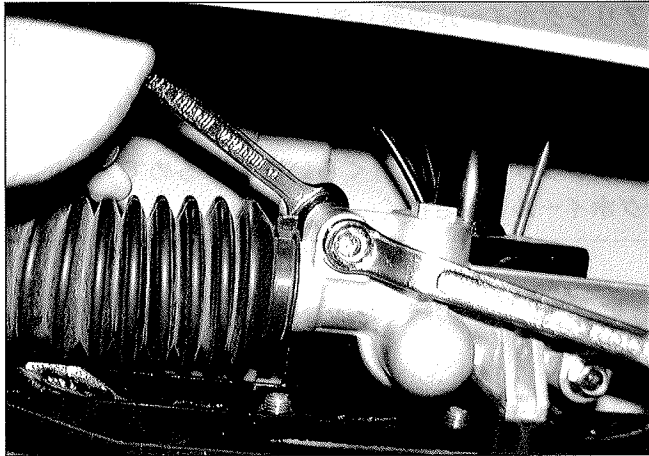


K-1組立説明書“シャシー”編P9,10参照



締付トルク：4.0kg-m

ステアリング

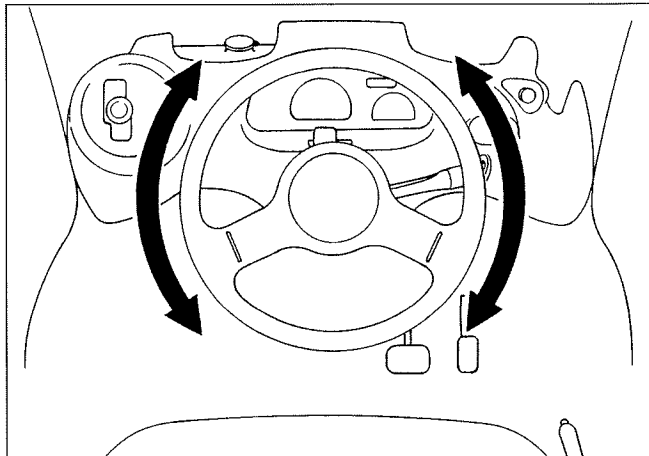


●ステアリングギヤボックスの取り付け

- ・ステアリングギヤボックスを取り外しと逆の手順で取り付ける。



締付トルク：2.7kg-m



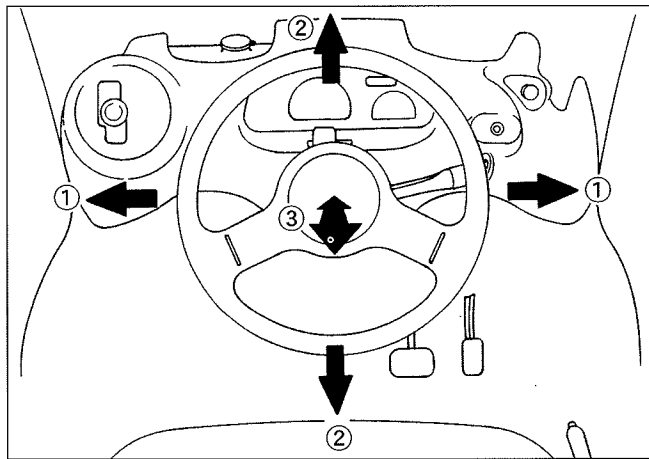
◆ステアリング

●ステアリングホイールの点検（車上）

〈遊び〉

- ・車輛を直進状態にして、ステアリングホイールを左右に軽く回し、円周方向の遊びが基準値内であることを測定する。

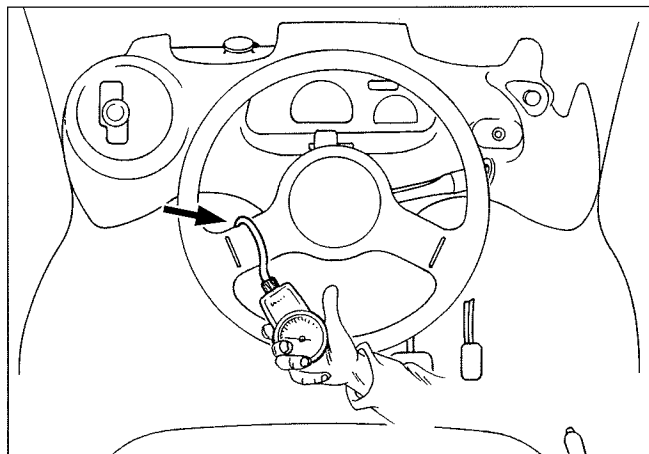
遊び：5~10mm



〈緩み、がた〉

- ・ステアリングホイールを①、②、③方向に動かし、以下の項目を点検し、不具合がある場合は修正する。

- －ステアリングホイール取付部の緩み
- －ステアリングシャフトステー取付部のがた
- －ステアリングジョイント部のがた、緩み



〈操舵力〉

- ・車輛前部をジャッキアップする。(→B-9)
- ・ステアリングホイールを5回以上左右に回転させて、操舵力に著しい差がないかを点検する
- ・ステアリングホイールを直進状態にする。
- ・ステアリングホイールにばね秤を図の位置に当てる。直進状態から左右に切った時の操舵力を点検する。

操舵力：0.5~2.0kg

ステアリング

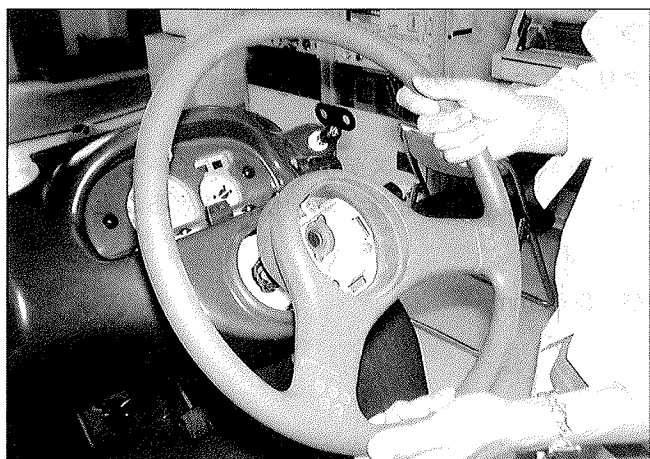


●ステアリングホイールの取り外し

- ・ホーンパッドを取り外す。
- ・M12フランジナットを一度緩める。



M12フランジナットを半分ぐらいまでゆるめてステアリングホイールを引き抜く。



- ・M12フランジナットを取り外す。
- ・ステアリングホイールを取り外す。
- ・取り付けは逆の手順で行う。



取付後、ステアリングホイールの取り付け向きの確認を行う。



K-1組立説明書“ボディー”編P186~P189参照

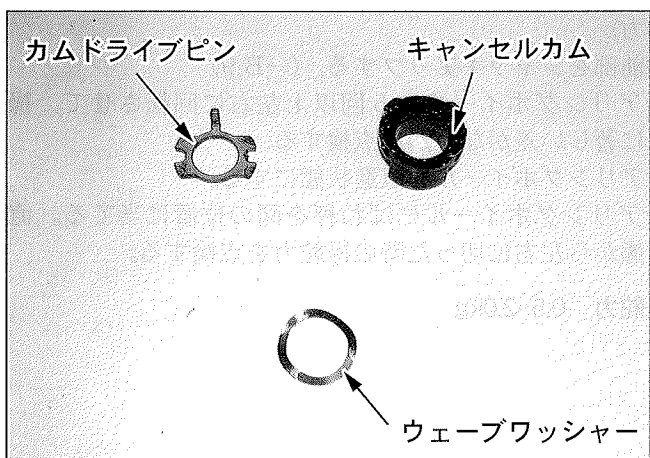


締付トルク：6.0kg-m



●コンビネーションスイッチの取り外し

- ・インパネを取り外す。(→P-8)
- ・コンビネーションスイッチに接続してあるコンビネーションスイッチカプラー(2個)とハザードスイッチカプラー(1個)を取り外す。
- ・キャンセルカム、カムドライブピン、ウェーブワッシャーを取り外す。

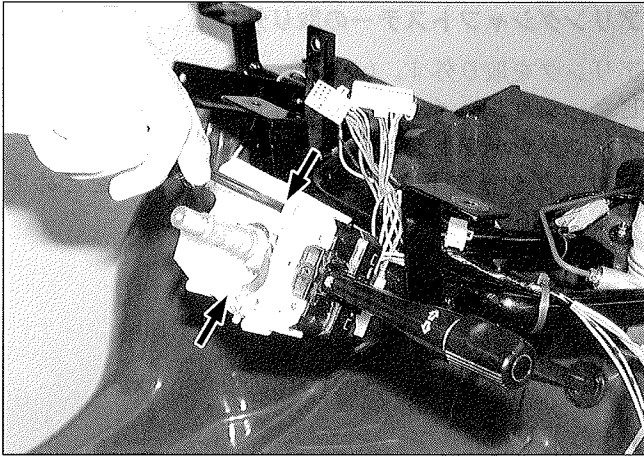


●キャンセルカム/カムドライブピン/ウェーブワッシャーの点検

- ・キャンセルカム、カムドライブピン、ウェーブワッシャーに亀裂、損傷がないか点検する。
- ・亀裂、損傷がある場合は新品と交換する。



ステアリング



- ・ビス2本を外しコンビネーションスイッチをステアリングシャフトステーから取り外す。
- ・取り付けは逆の手順で行う。



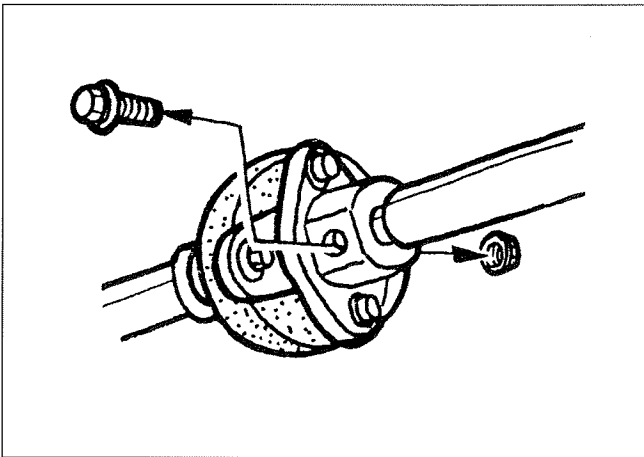
K-1組立説明書“ボディー”編P77~P80参照



取り付けの際は、各部にグリースを塗布すること。

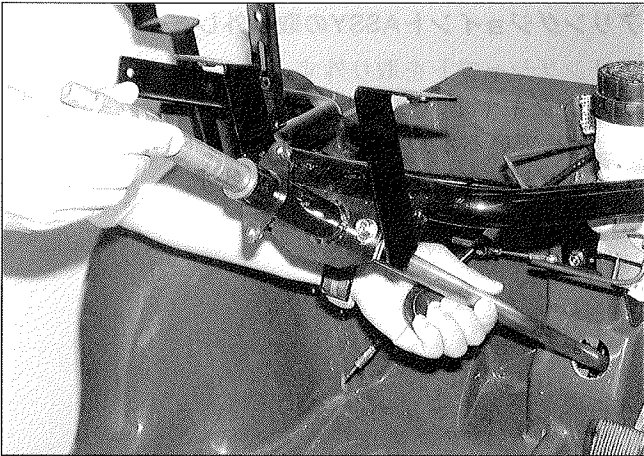


- ・インパネを取り付ける。



●ステアリングシャフトの取り外し

- ・ステアリングホイールを取り外す。(→L-8)
- ・キャンセルカムを取り外す。(→L-8)
- ・ステアリングジョイントASSYと、ステアリングシャフトをとめているM6フランジボルト、M6フランジナットを取り外す。



- ・ステアリングシャフトを抜き取る。



●ステアリングシャフトの点検

- ・ステアリングシャフトに変形、損傷がないか点検する。
- ・グロメットφ42に亀裂、破れ等がないか点検する。
- ・亀裂、破れ等がある場合は新品と交換する。

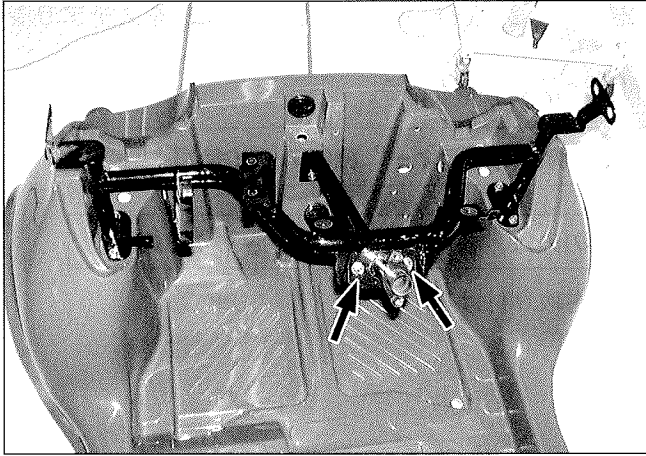


- ・取り外した逆の手順で取り付け。



締付トルク：1.2kg-m

ステアリング



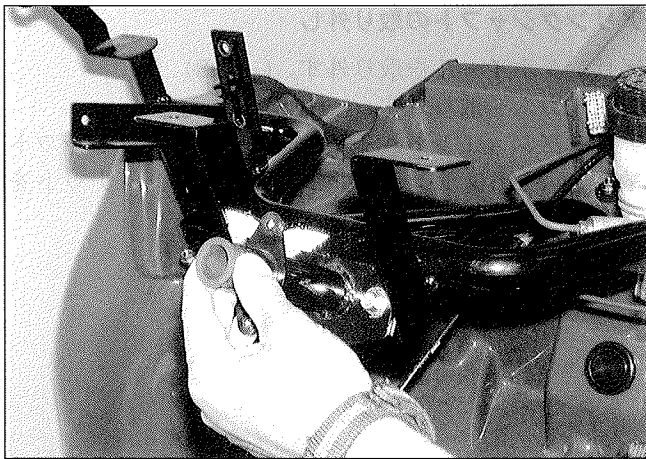
●ステアリングシャフトステーの取り外し

- ・ステアリングを取り外す。(→L-8)
- ・コンビネーションスイッチを取り外す。(→L-8)
- ・ステアリングシャフトを取り外す。(→L-9)
- ・ステアリングシャフトステーとインストステーをとめているボルト(M6-15)を取り外す。(2本)

- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



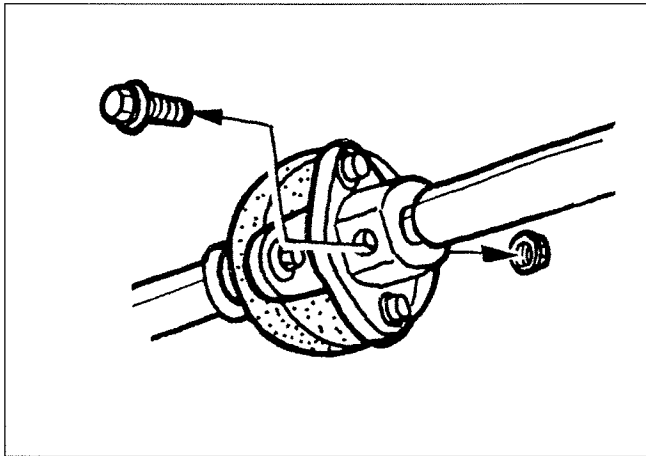
締付トルク：1.2kg-m



●ステアリングシャフトブッシュの点検

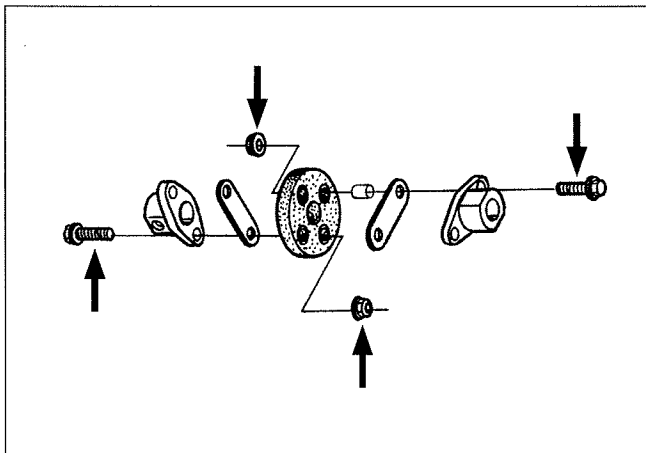
- ・ステアリングシャフトブッシュを取り外す。
- ・ステアリングシャフトブッシュの亀裂、破損を点検する。
- ・亀裂、破損がある場合は新品と交換する。

- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



●ステアリングジョイントASSYの取り外し

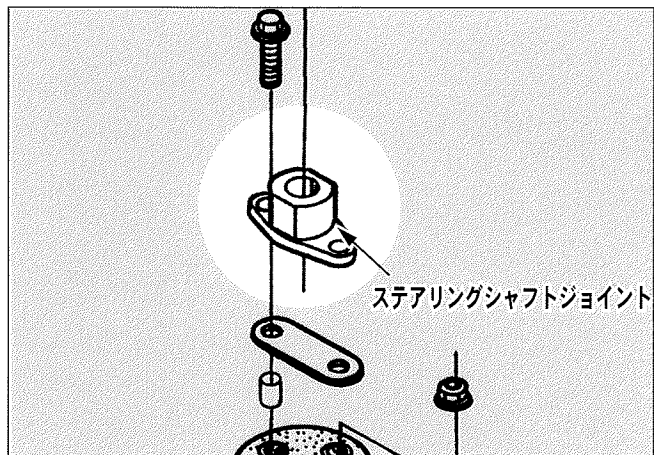
- ・ステアリングシャフトを取り外す。(→L-9)
- ・ステアリングギヤボックスとステアリングジョイントASSYをとめているボルト(M6-30)、ナットを取り外す。
- ・ステアリングジョイントASSYを取り外す。



●ステアリングジョイントASSYの分解

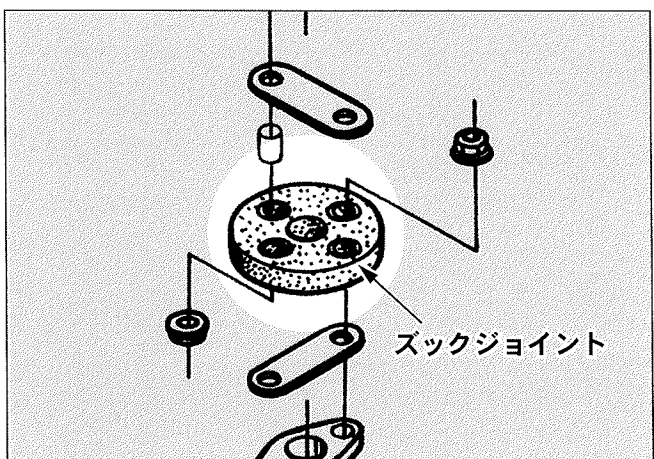
- ・矢印部のボルト及びナットを取り外し、図のように分解する。

ステアリング



●ステアリングジョイントASSYの点検

- ・ステアリングシャフトジョイントに亀裂、損傷がないか点検する。
- ・亀裂、損傷のある場合は新品と交換する。



- ・ズックジョイントに摩耗、亀裂がないか点検する。
- ・摩耗、亀裂がある場合は新品と交換する。



●ステアリングジョイントASSYの組み立て

- ・分解した逆の手順で組み立てる。

◆故障診断

●ブレーキの効きが悪い

- ・ブレーキ調整不良
- ・ブレーキフルードの漏れ
- ・ブレーキラインのエア混入
- ・ブレーキシューの摩耗
- ・ブレーキシュー表面の汚れ、破損
- ・ブレーキドラムの摩耗
- ・ブレーキピストンの作動不良
- ・マスターシリンダーの作動不良
- ・プロポーショニングバルブの作動不良

●ペダルの遊びが大きい

- ・ペダル遊びの調整不良
- ・ブレーキシューの摩耗
- ・ブレーキラインへのエアの混入

●ブレーキの片効き

- ・エア抜き不良
- ・ブレーキ液漏れ
- ・ブレーキパイプおよびブレーキホースの異物混入
- ・タイヤ空気圧の不均衡
- ・ブレーキシューの調整不良

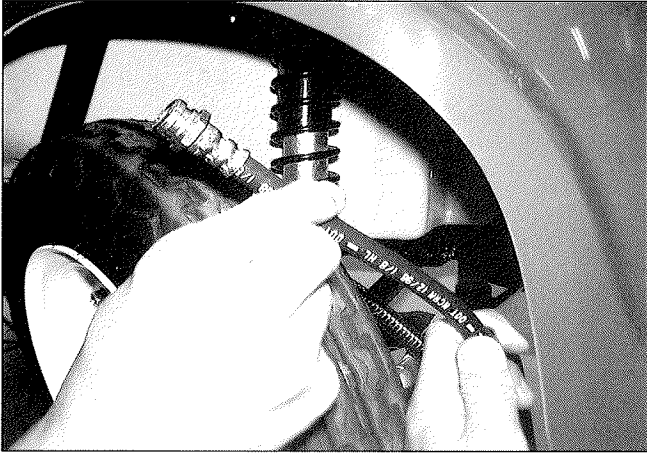
●ブレーキが解除されない

- ・ブレーキペダルの遊びがない
- ・プッシュロッドクリアランスの調整不良
- ・マスターシリンダーリターンポートの作動不良
- ・シューの作動不良
- ・ドラムの歪み
- ・ホイールシリンダーの作動不良
- ・マスターシリンダーリターン Springs の折損

●ブレーキ制動中の異音または振動

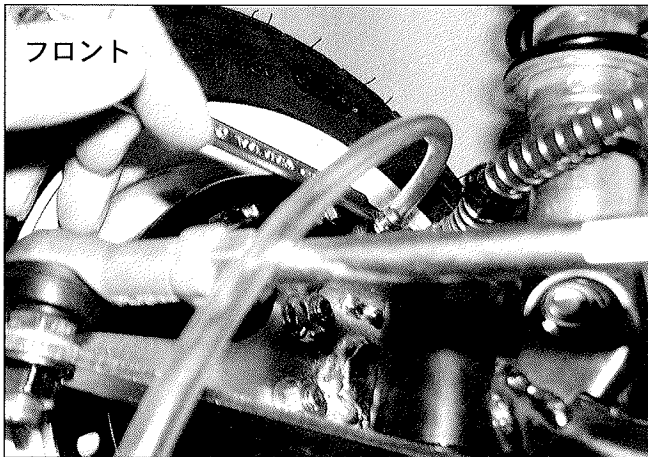
- ・ブレーキシューの摩耗、劣化
- ・ブレーキが解除されない
- ・ブレーキシュー接地面の損傷または、剥がれ
- ・バックプレート取付ボルトの緩み
- ・摺動部品のグリース不足
- ・ブレーキドラムの異常摩耗

ブレーキ



●ブレーキラインの点検

- ・以下の点検を行い、必要があれば部品を交換する。
 - －ブレーキホースの亀裂、破損、腐食、膨らみ
 - －ブレーキパイプの亀裂、破損、腐食
 - －各接続部の締付け
 - －ブレーキ液もれ



◆エア抜き

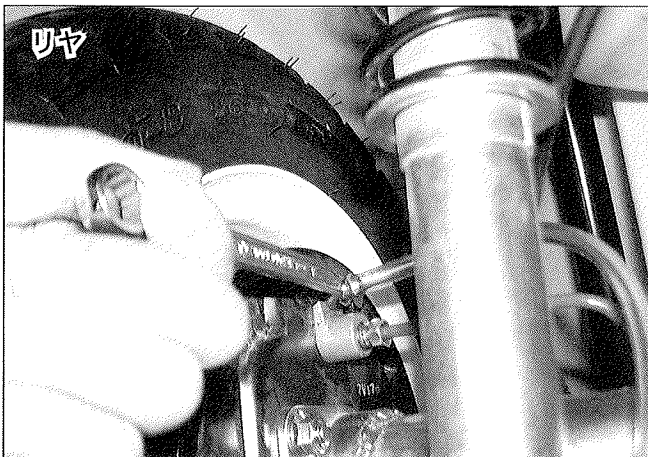


- ・エア抜き中は、タンクのフルードを1/2かそれ以上のレベルに保つ。
- ・ブレーキフルードを塗装面にこぼさない。

1. 車輻をジャッキアップし、リジトラックで支える。
2. ブリーダークャップを外し、ビニールホースをブリーダースクリューに接続する。
3. ビニールホースのもう一方を透明な容器に入れ、エア抜き中はホースの端をブレーキフルードに浸しておく。
4. ブレーキペダルを数回踏み込む。
5. ブレーキペダルを踏み込んでいる間に、ブリーダースクリューを緩めてエアの入ったフルードを抜く。

- ・前記4, 5, の作業をフルードに気泡が出なくなるまで繰り返す。

7. ブレーキ作動が正常であることを点検する。
8. フルード漏れがないことを点検する。こぼれたフルードを拭き取る。
9. エア抜き後、ブレーキフルードをタンクの規定レベルまで満たす。



K-1組立説明書“ボディー編” P107~P112参照

●点検整備方式による制動力

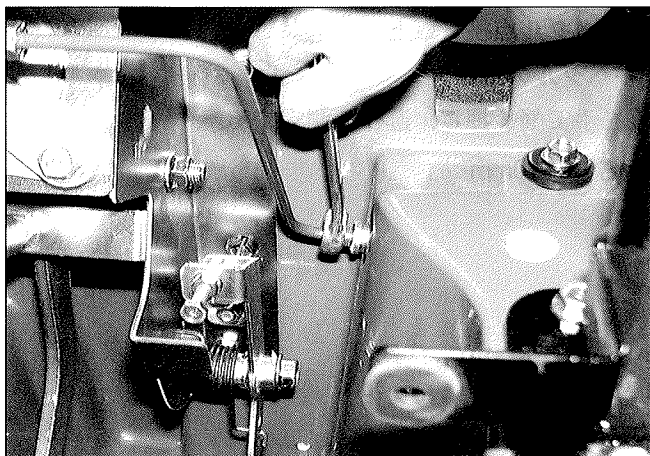
判定基準

		制動力
各輪	左右和	軸重の60%以上
	左右差	軸重の8%以下
総和		車輻重量の60%以上



すり合せ10回程度で後軸重の60%以上の制動力があれば良い。

ブレーキ

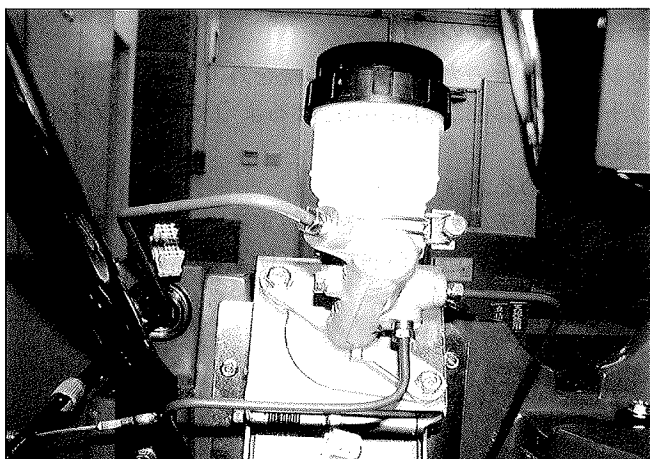


●ブレーキラインの取り付け/取り外し

- ・ブレーキホースとブレーキラインを取り外す時、フレアナットレンチで緩めた後、クリップを外す。
- ・ブレーキホースを取り付ける時は、締めすぎたり、ねじったりしない。
- ・車輛がはずんだりステアリングホイールを左右にいっぱい切った時にホースが他の部品に当たらないことを点検する。
- ・エア抜きを行う。



取り付けの詳細はK-1組立説明書の該当項目を参照する。



●ブレーキフルードの点検



- ・タンクのフルードレベルがMAXとMINの間であることを点検する。
- ・フルードレベルが極端に低ければ、漏れがないかブレーキ装置を点検する。

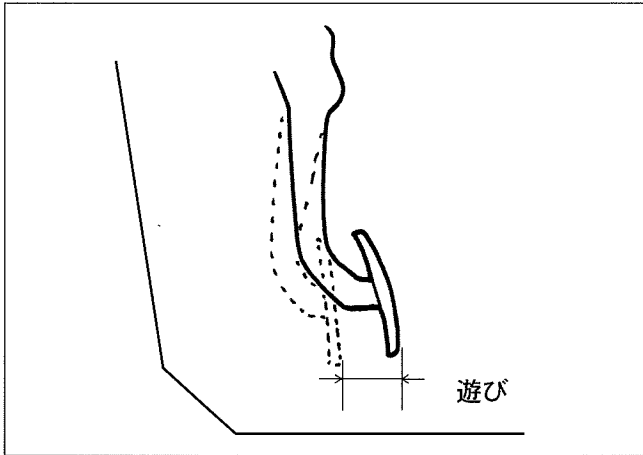


●ブレーキフルードの交換



- ・サクシヨンポンプを使って、タンクからブレーキフルードを抜き取る。
- ・タンクに新しいブレーキフルードを満たす。
- ・ビニールホースをブリーダースクリューに接続し、ホースのもう一方の端を透明な容器に入れる。
- ・ブリーダースクリューを1つずつ緩め、きれいなフルードだけが出るまでブレーキペダルを踏んで、古いブレーキフルードをくみ出す。
- ・MAXレベル付近までブレーキフルードを満たす。

ブレーキ

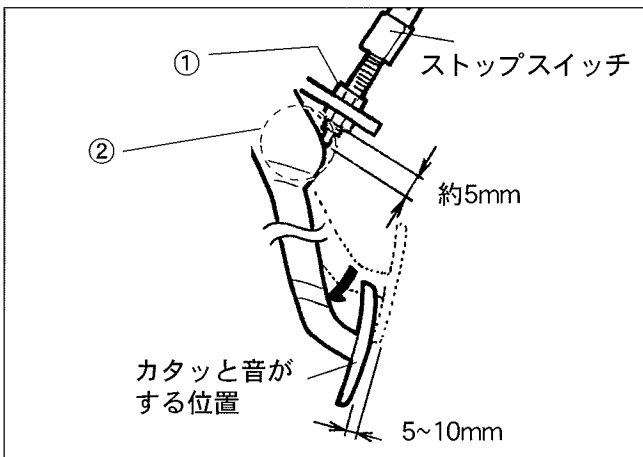


●ブレーキペダル点検（車上）

〈ブレーキペダルの遊び〉

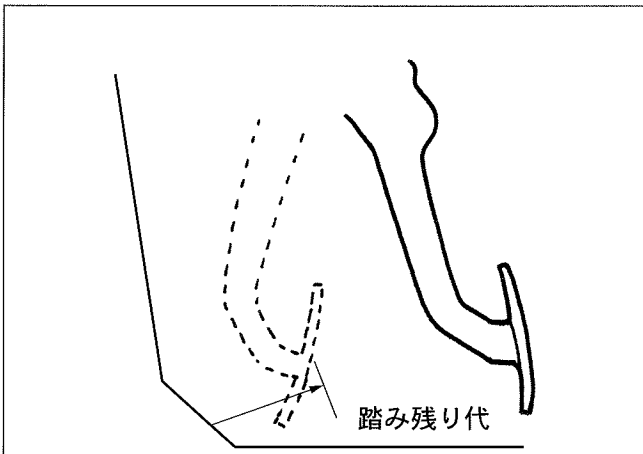
- ・ペダルを手で軽く押し、遊びを測定する。

標準値：5~10mm



●ブレーキペダル遊びの調整

- ・ストップスイッチのカプラーの接続を外す。
- ・①ナットを緩め②部が約5mmになるようにストップスイッチをまわす。
- ・①ナットを締める。
- ・ストップスイッチのカプラーを接続する。
- ・ブレーキペダル面の遊びが適正か点検する。



●ペダル踏み残り代

- ・ペダルを踏力30kgで踏み込んで止まった位置のペダルパッド上面中央と床板との隙間が標準値であるか測定する。

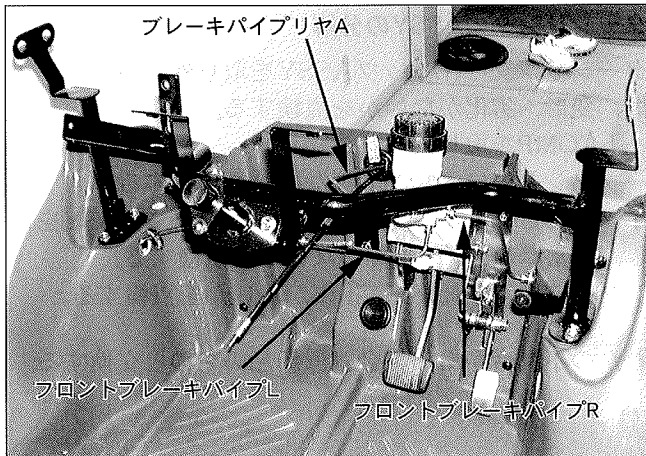
標準値：120mm

- ・踏み残り代が標準値以下であれば、ブレーキ装置のエアの混入を点検する。



- ・ブレーキ調整後に点検を行うこと。

ブレーキ



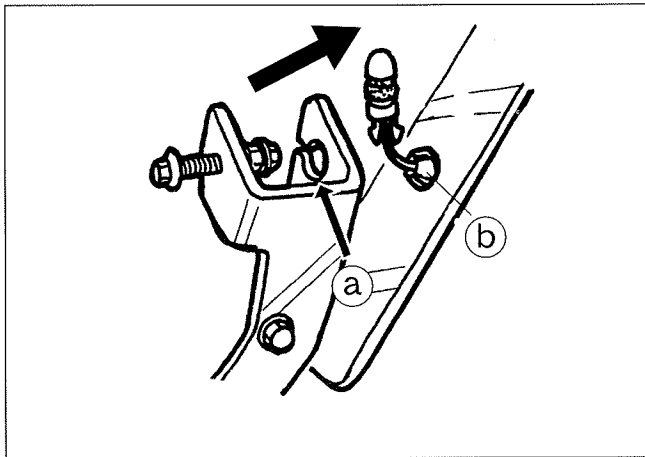
●ペダルベースASSYの取り外し



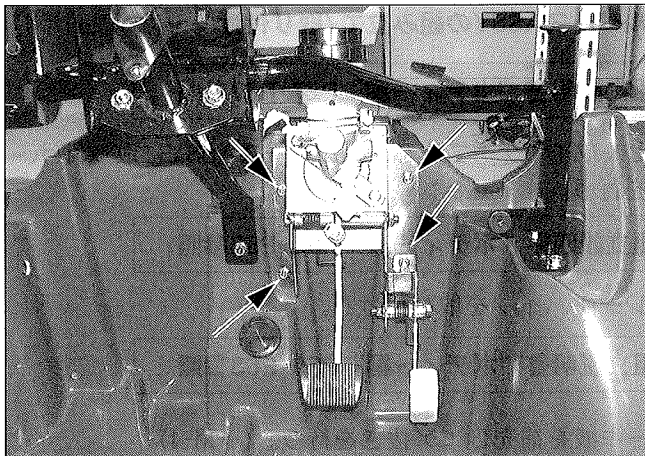
- ・ 車両をジャッキアップする。(→B-9)
- ・ インパネを取り外す必要はない。
- ・ ブレーキ液を抜く。
- ・ フロントブレーキパイプR,フロントブレーキパイプL,ブレーキパイプリヤAを取り外す。



K-1組立説明書“ボディー編” P59~P68の逆の手順



- ・ アクセルワイヤケーブル先端をアクセルペダルから外す。
(a) 部
- ・ (b) 部のツメを外し、アクセルワイヤケーブル先端をフロア裏側に押し出す。



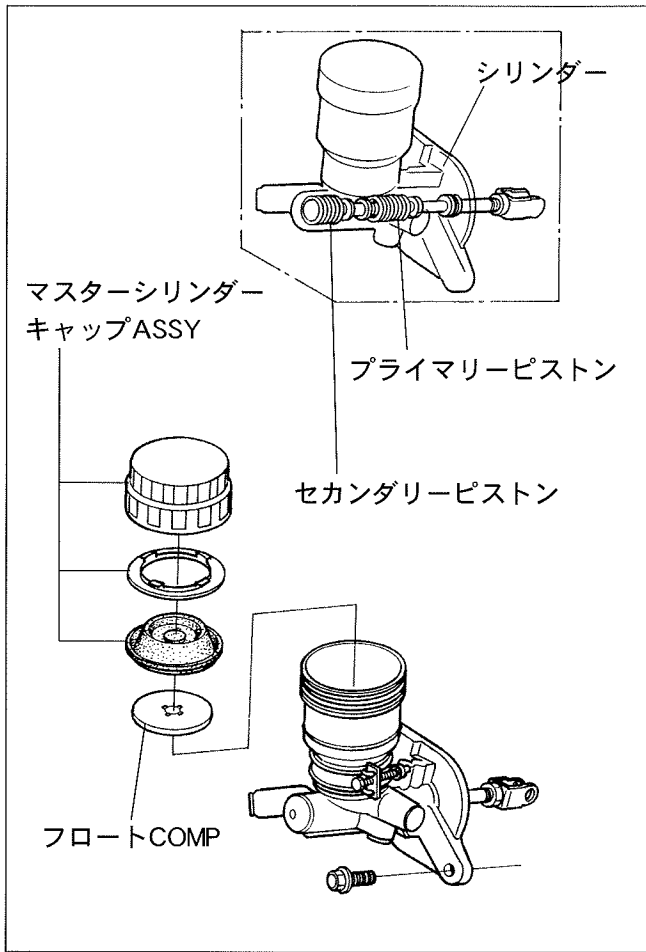
- ・ ストップスイッチカプラーの接続を外す。
- ・ ペダルベースASSYをフロアにとめているボルト(M6-20 4本)を外しペダルベースASSYをフロアから取り外す。



K-1組立説明書“ボディー編” P27~P35の逆の手順

- ・ ペダルベースASSYを分解する。

ブレーキ



●マスターシリンダーASSYの分解

- ・マスターシリンダーキャップASSYを取り外し、各パーツに損傷、変形、劣化がないかを点検する。
- ・フロートCOMPを取り外す。
- ・リザーブタンク内に異物混入等ないかを点検する。
- ・プライマリーピストン、セカンダリーピストンASSYを取り外し、異常摩耗、錆、損傷がないかを点検する。
- ・シリンダーに異常摩耗、錆、損傷がないかを点検する。



- ・いずれかの不具合がある場合は、新品のものと交換する。



- ・必要であれば、マスターシリンダーフランジをパイプで固定する。
- ・必要であれば、ピストンKITを交換する。
- ・シリンダー内に異物を混入させたり、シリンダー内面やピストンの外側表面を損傷させない。

●マスターシリンダーの組み立て

- ・分解と逆の手順で組み立てる。ピストン組み立ての際はブレーキ液を塗布すること。

●ペダルベースASSYの組み立て/取り付け



K-1組立説明書“ボディー編” P27~P37参照

- ・アクセルワイヤケーブルをペダルベースASSYに取り付け、調整を行う。



K-1組立説明書“ボディー編” P55~P58参照

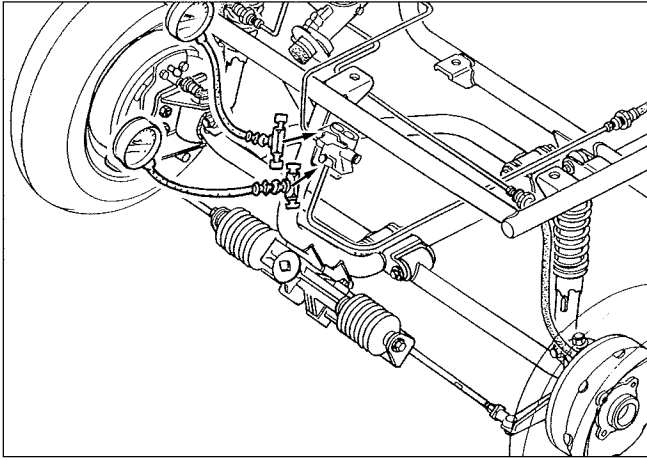
- ・各ブレーキパイプを取り付ける。



K-1組立説明書“ボディー編” P59~P68参照

- ・ブレーキ液を補充しエア抜きを行う。(→M-4)
- ・ブレーキ液の液量を点検する。
- ・取付後、以下の内容を確認する。
 - －ブレーキ液の漏れ
 - －ブレーキペダルの遊び
 - －アクセルペダルの遊び
 - －ブレーキの効き具合

ブレーキ

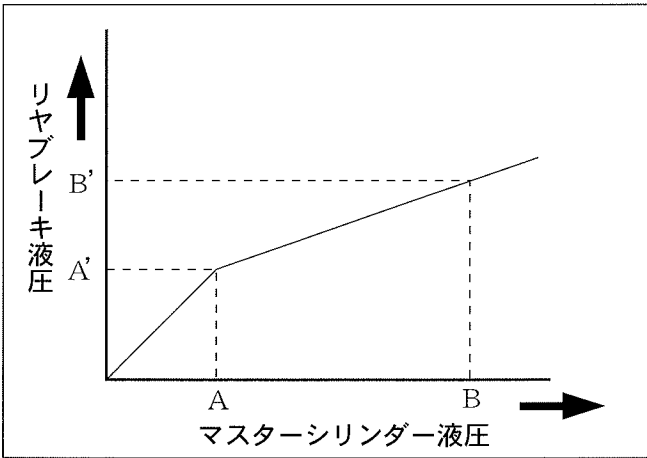


●プロポーショニングバルブの点検

- ・ 2個のプレッシャーゲージ(100kg/cm²)をパイプに接続する。(矢印部)
- ・ マスターシリンダーからの液圧とリヤブレーキへの液圧を測定する。



- ・ 任意に一方のプレッシャーゲージをAとし、もう一方のプレッシャーゲージをA'とする。



標準値

液圧(kg/cm ²)			
A	A'	B	B'
15	15 ± 3	50	24 ± 3

- ・ 液圧が標準値内にならない場合はバルブASSYを交換する。
- ・ 点検後、ブレーキフルードを補充し、エア抜きを行う。
- ・ ブレーキラインにフルード漏れがないか点検する。

●プロポーショニングバルブの交換

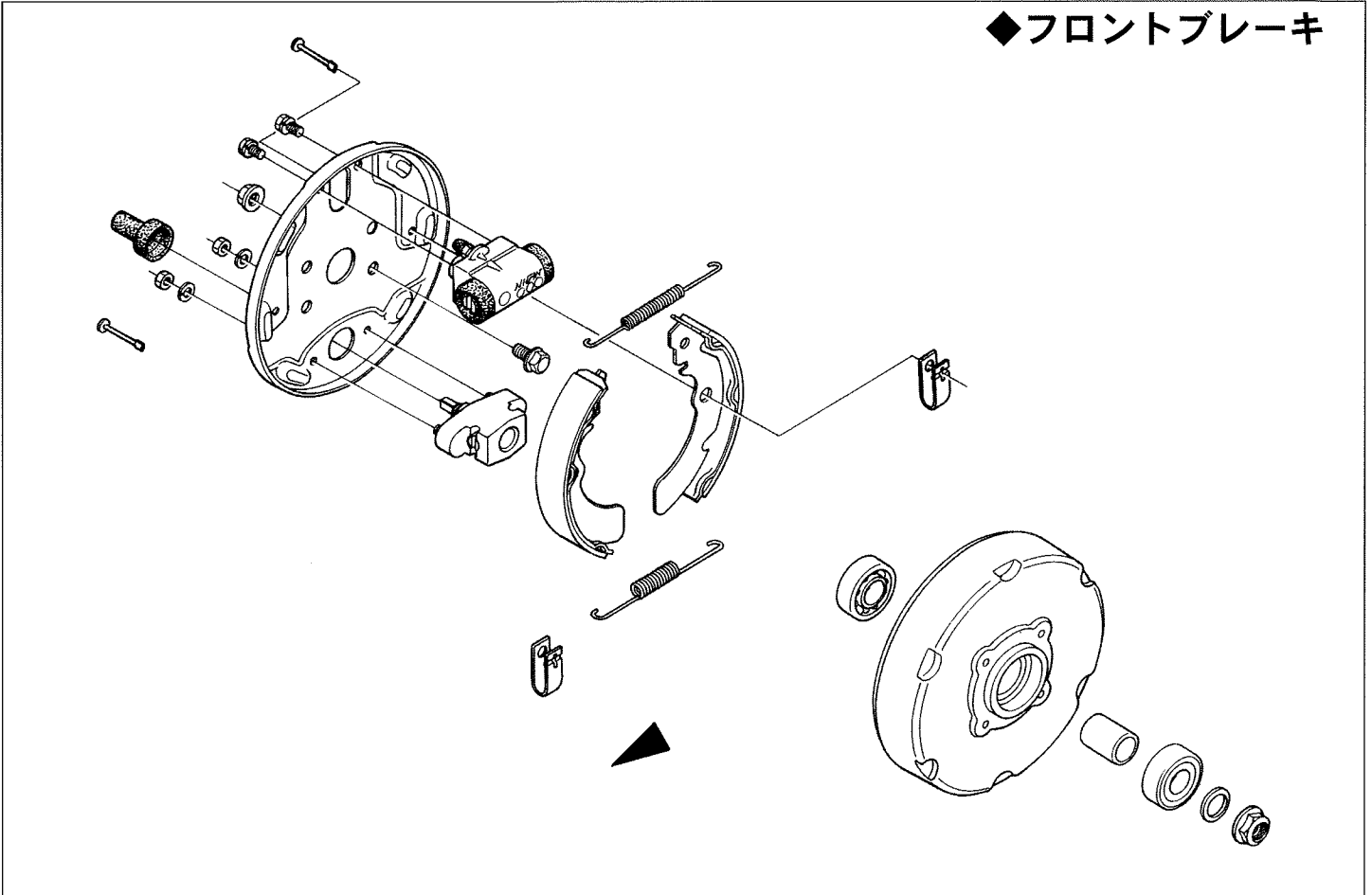
- ・ プロポーショニングバルブを取り付ける。



K-1組立説明書“シャシー編”P74参照

ブレーキ

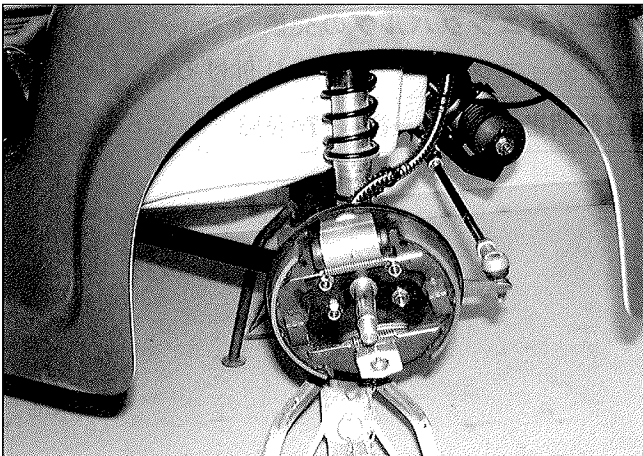
◆フロントブレーキ



◆フロントブレーキドラム

●フロントブレーキドラムの取り外し

- ・ホイールセンターのナット(M14)を緩めておく。
- ・ホイール取付ボルト(M8-20 4本)を緩めておく。
- ・車輛をジャッキアップする。(→B-9)
- ・ホイールを取り外す。
- ・ドラムを取り外す。



●ライニングの点検

- ・ホイールシリンダーからの油漏れを点検する。
- ・ライニングの割れ、亀裂、はがれ、異常な摩耗がないか点検する。
- ・ライニングの厚さを点検する。

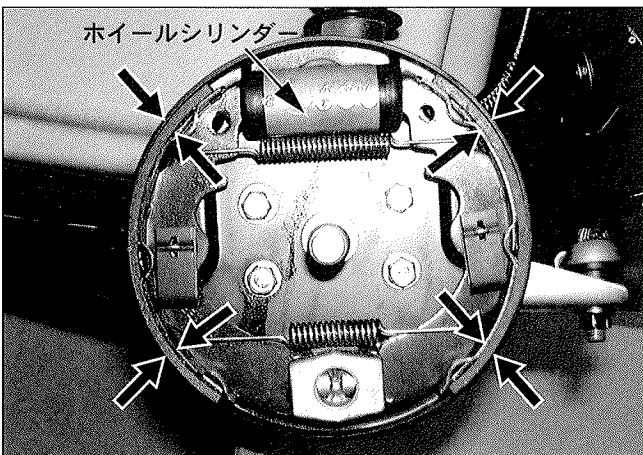
ライニングの厚さ

標準値：4mm

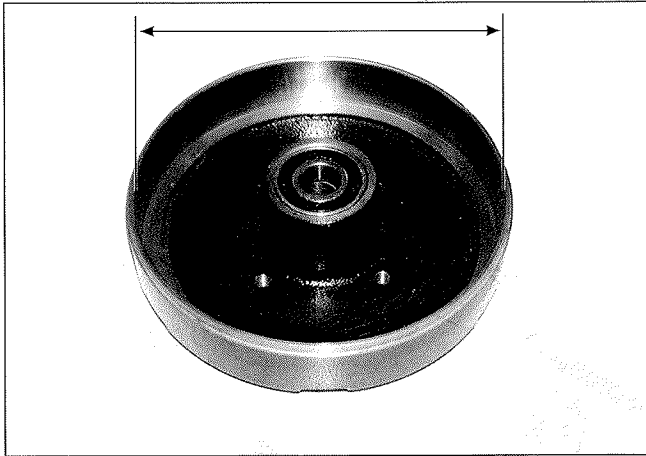
限度値：2mm



- ・限度値以下の場合はシューを両輪セットで交換する。



ブレーキ



●ドラムの点検

- ・フロントブレーキドラムの内径を測定する。

ドラムの内径

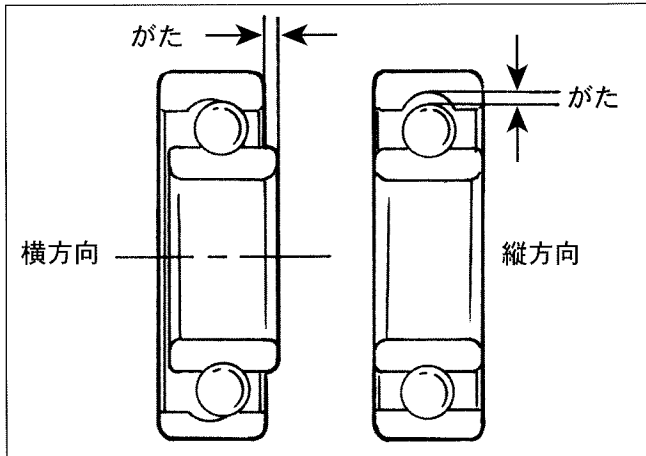
標準値：160.0mm

限度値：160.5mm

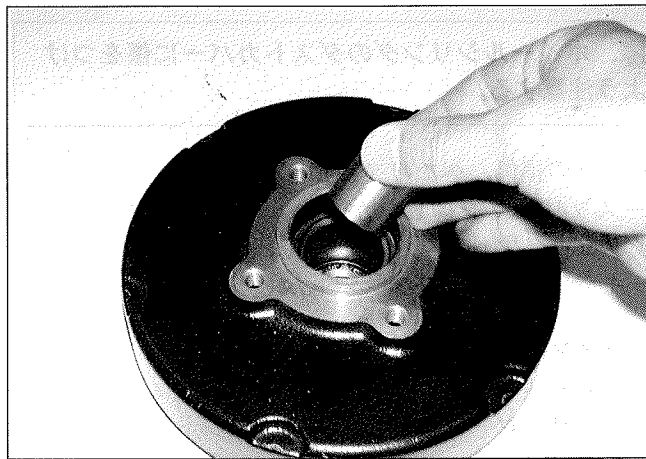
- ・ブレーキドラムの内面の傷や異常な摩耗がないか点検する。



- ・限度値以下の場合はブレーキドラムを交換する。



- ・ドラムを回転させ、ベアリングの異音、がたがあるものは交換する。



- ・ベアリング及びフロントブレーキドラムカラーを取り外す。

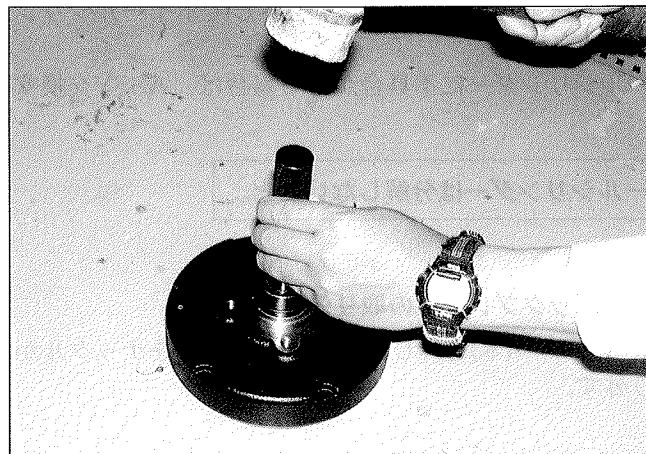
ベアリング (6203LU)



ベアリングリムーバー



写真はドラムカラーを取り外しているところ。



●ベアリングの取り付け



- ・ベアリングに十分グリスを封入する。
- ・ベアリングドライバーを使用して、ベアリングを打ち込む。
- ・フロントブレーキドラムカラーをセットする。
- ・もう一方のベアリングをベアリングドライバーで打ち込む。

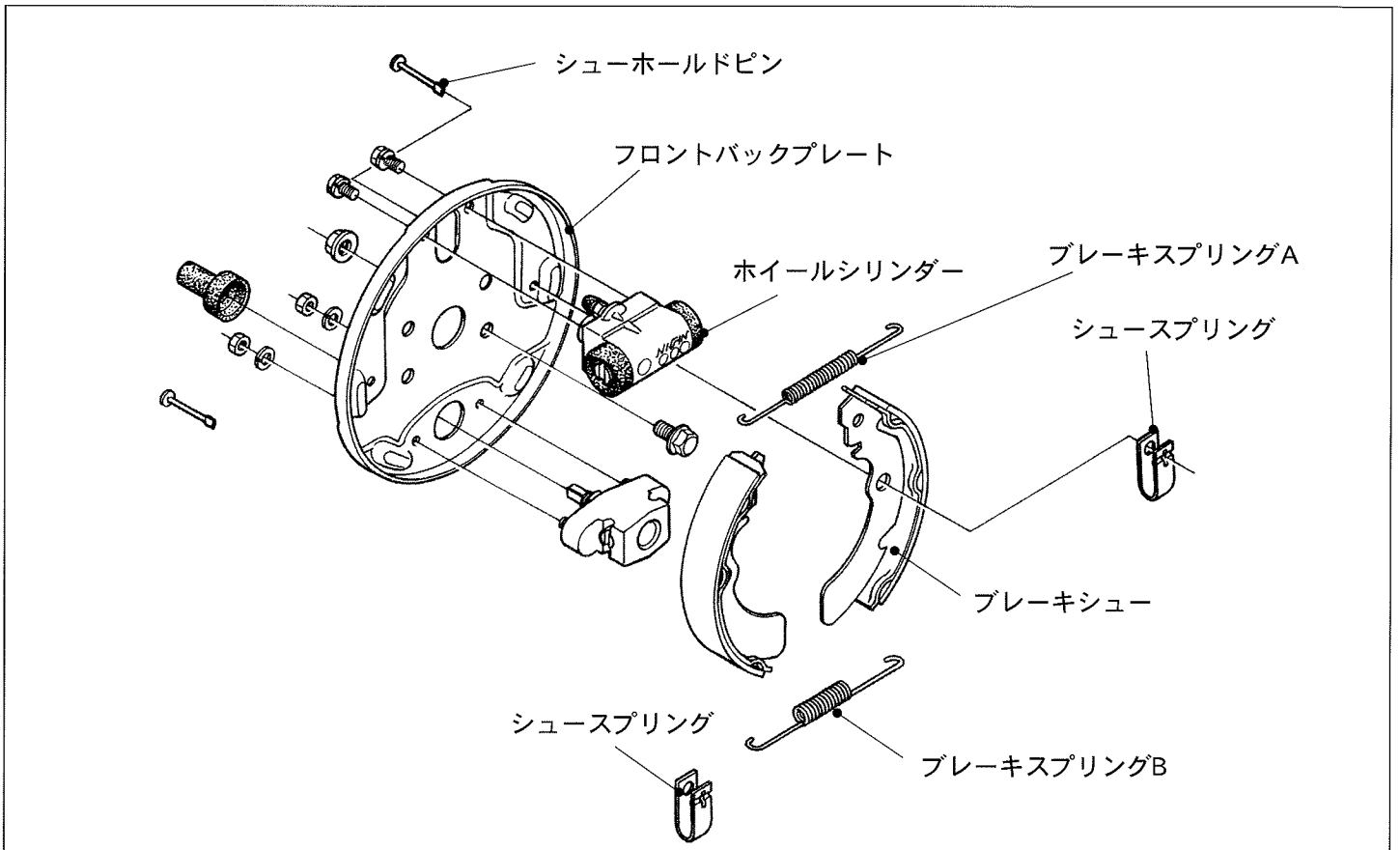


ベアリングはシール面を外側にむけて平行に打ち込むこと。



ベアリングドライバー

ブレーキ



●ブレーキシューの取り外し

- ・ブレーキスプリングAとBを取り外す。



その際、ホイールシリンダのダストカバーに傷をつけないよう注意する。

- ・スプリングの損傷、へたりを点検する。
- ・シュースプリングを押しながらシューホールドピンを回転し、シュースプリングを取り外す。
- ・ブレーキシューをバックプレートから取り外す。

●ホイールシリンダーの取り外し

- ・ブレーキ液を抜き取る。
- ・ホイールシリンダーに接続してあるフロントブレーキホースを取り外す。
- ・バックプレート裏側のボルト2本を外してホイールシリンダーを取り外す。



- ・ホイールシリンダーに不具合がある場合は、ASSY交換する。

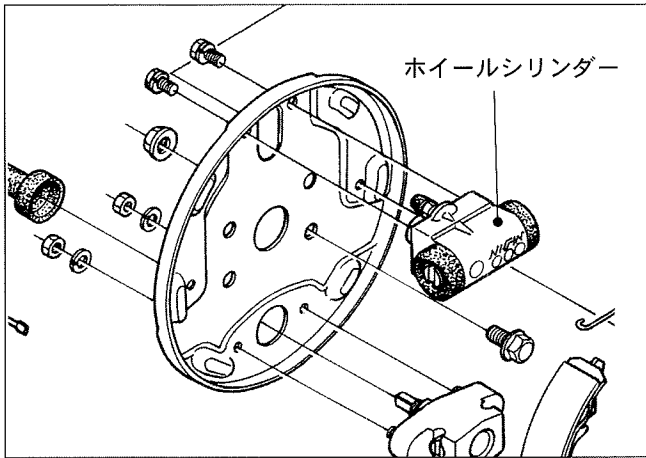


ホイールシリンダーは分解しないこと。

●フロントバックプレートの取り外し

- ・ボルト(M8-15 4本)を外し、バックプレートをナックルから取り外す。

ブレーキ



●フロンブレーキの組み立て

- ・ホイールシリンダーをバックプレートに取り付ける。



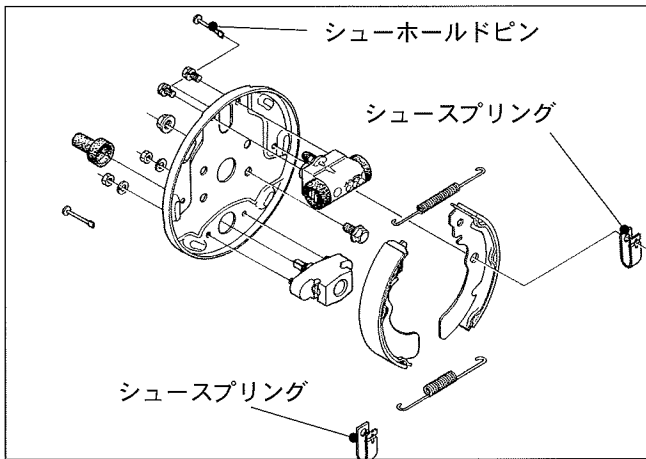
締付けトルク：1.2kg-m



- ・各摺動部にラバーグリースを塗布する。



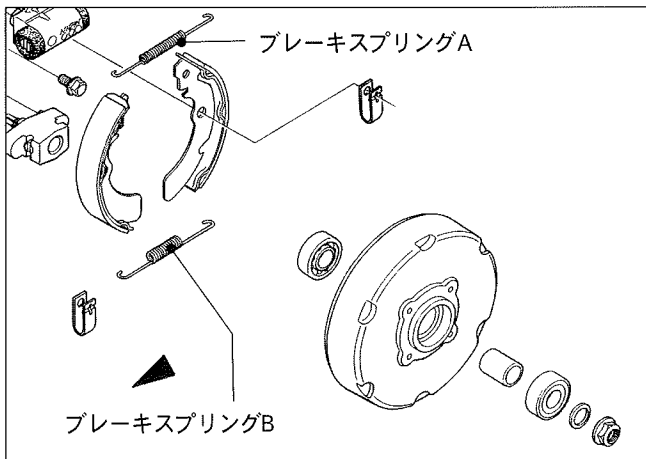
ブレーキシューの表面に油脂類を付着させないこと。



- ・シュースプリングをシューホールドピンに差し込み、シュースプリングを押しながらシューホールドピンを回し、シューを固定する。



ホイールシリンダーのダストカバーに傷をつけないよう注意する。



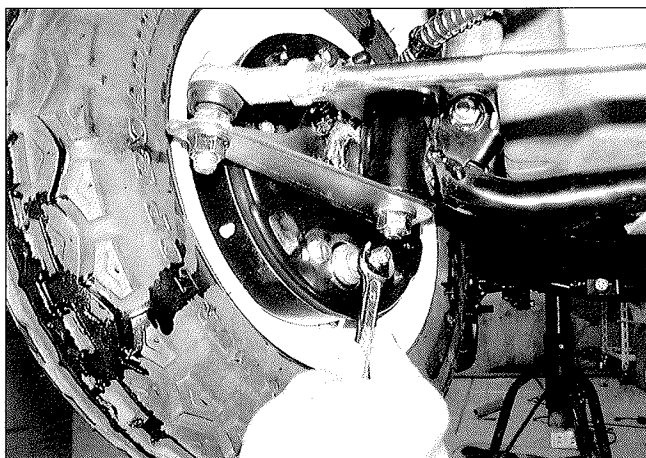
- ・ブレーキスプリングAとBをブレーキシューに取り付ける。
- ・フロントブレーキドラムを脱脂してから取り付ける。
- ・ドラムが入らない場合はシュー調整キーを緩めること。



K-1組立説明書“シャシー編”P17参照



ホイールシリンダーを取り外した場合はエア抜きを行う。
(→M-4)



- ・ブレーキペダルを3~5回踏み込んで、ペダルストロークに変化がないことを確認する。
- ・ブレーキシューの調整を行う。



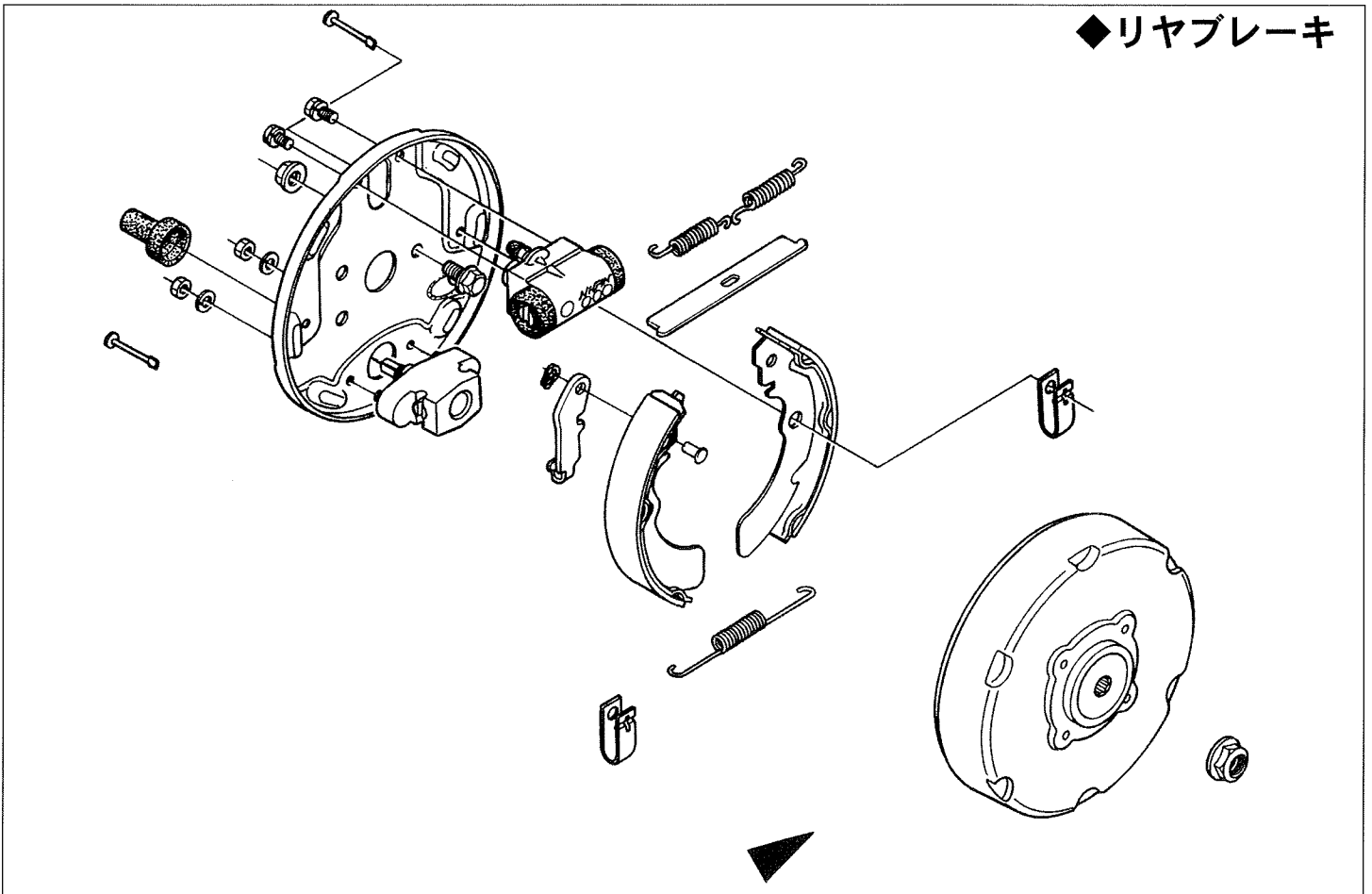
K-1組立説明書“ボディ編”P163~P168参照

- ・車輛を降ろし、ホイール取付ボルト、ドラム取付ナットを本締めする。

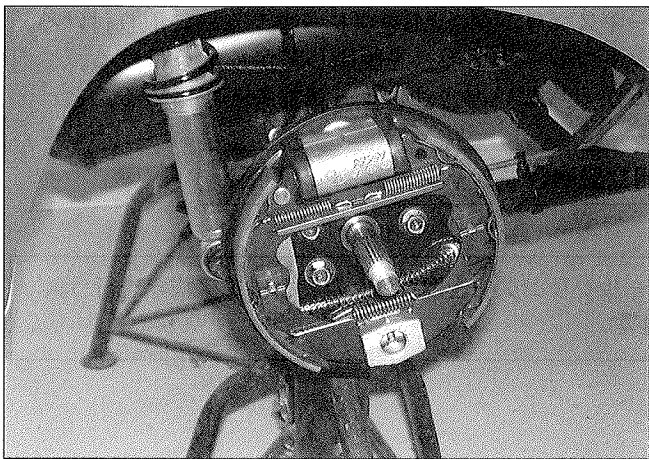


締付けトルク：2.7kg-m(M8ボルト)
：11.0kg-m(M14ナット)

ブレーキ



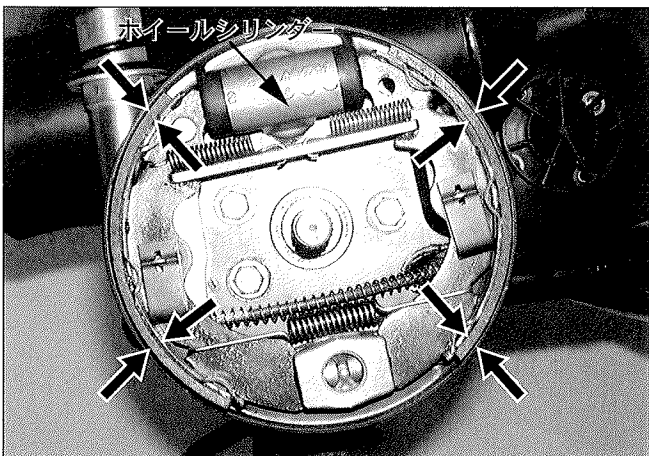
◆リヤブレーキ



◆リヤブレーキ

●リヤブレーキドラムの取り外し

- ・ホイールセンターのナット(M14)を緩めておく。
- ・ホイール取付ボルト(M8-20 4本)を緩めておく。
- ・車輛をジャッキアップする。(→B-9)
- ・ホイールを取り外す。
- ・ドラムを取り外す。



●ライニングの点検

- ・ホイールシリンダーからの油漏れを点検する。
- ・ライニングの割れ、亀裂、はがれ、異常な摩耗がないか点検する。
- ・ライニングの厚さを点検する。

ライニングの厚さ

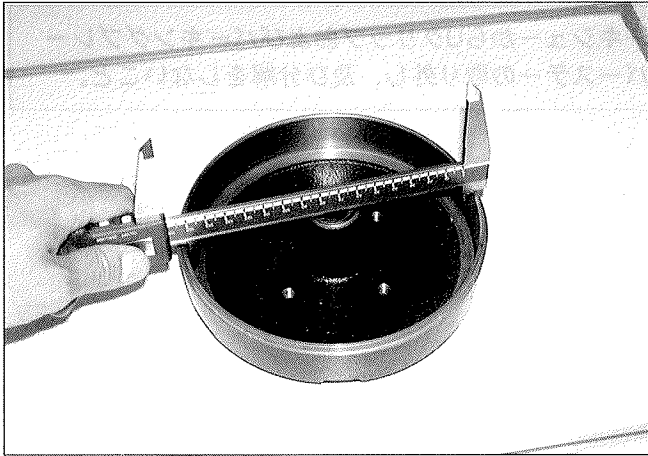
標準値：4mm

限度値：2mm



・限度値以下の場合はシューを両輪セットで交換する。

ブレーキ



- ・リヤブレーキドラムの内径を測定する。

ドラムの内径

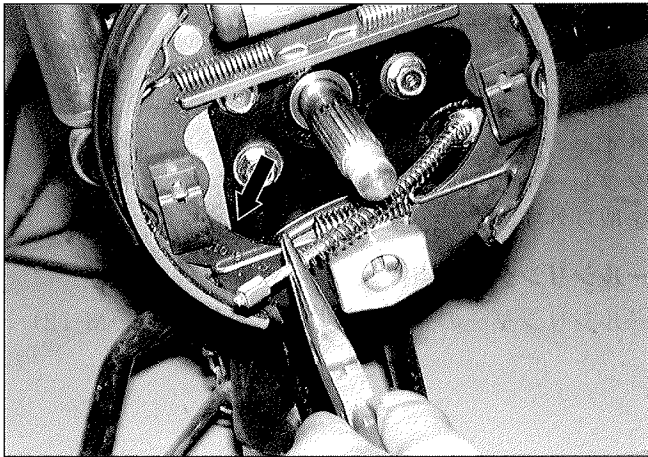
標準値：160.0mm

限度値：160.5mm

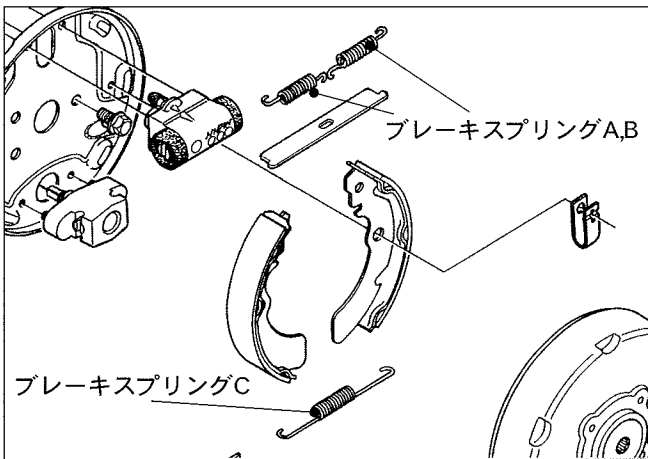
- ・限度値以下の場合はブレーキドラムを交換する。ブレーキドラムの内面の傷や異常な摩耗がないか点検する。



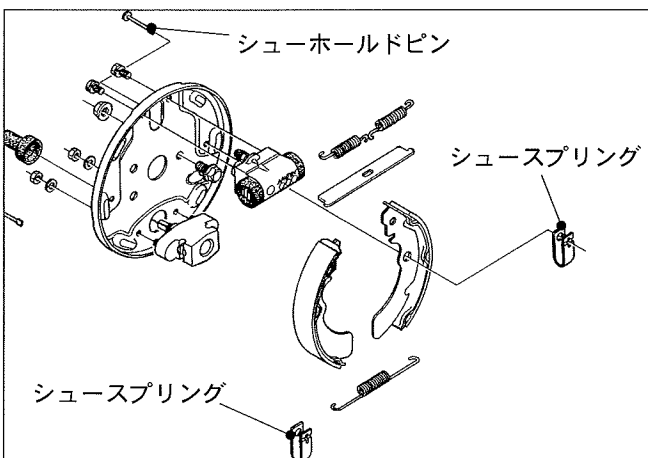
- ・異常がある場合は新品のものと交換する。



- ・パーキングブレーキワイヤー先端のスプリングをラジオペンチ等ではさみこみ、ワイヤーの頭だけを出し、パーキングブレーキレバーステーの矢印部より取り外す。
- ・パーキングブレーキワイヤーをドラムから取り外す。

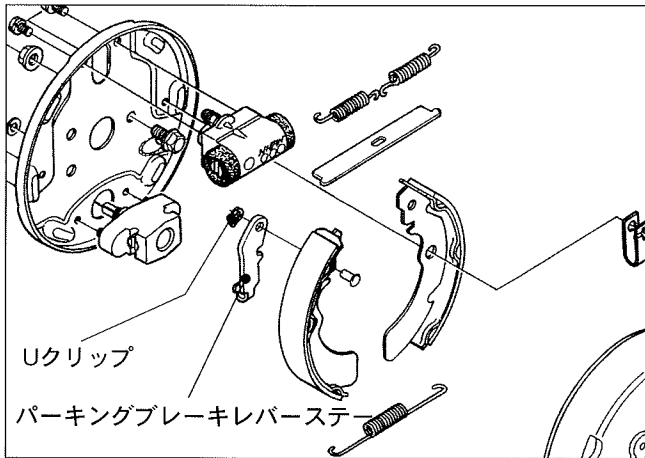


- ・ブレーキスプリングA,B,Cを取り外す。

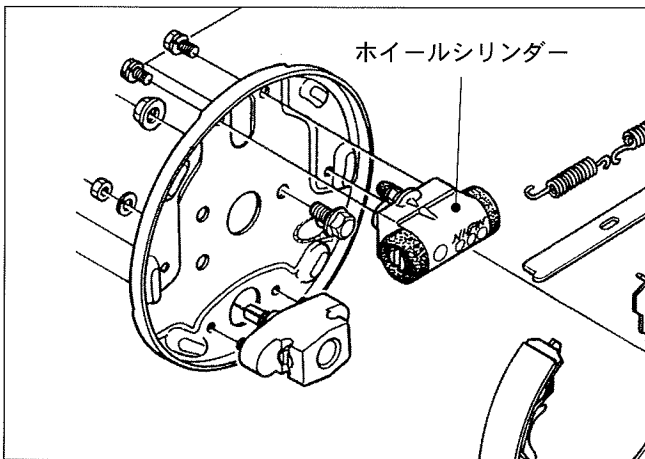


- ・シュースプリングを押しながらシューホールドピンを回転しシュースプリングを取り外す。
- ・ブレーキシューをバックプレートから取り外す。

ブレーキ



ブレーキシューからUクリップおよびパーキングブレーキレバーステアの取り外し、及び分解をしないこと。

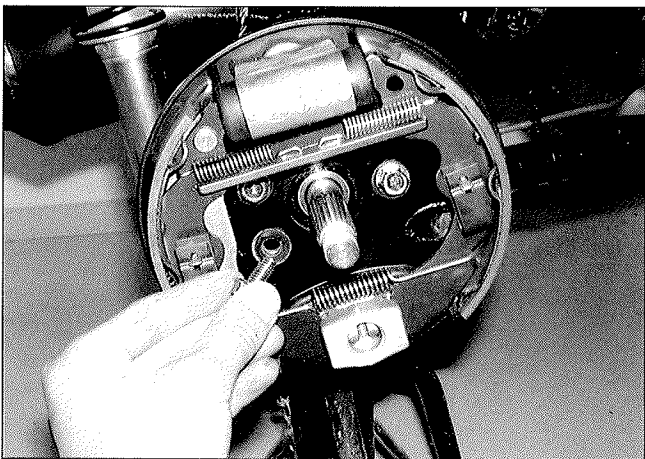


●ホイールシリンダーの取り外し

- ・ブレーキ液を抜き取る。
- ・ホイールシリンダーに接続してあるリヤブレーキパイプを取り外す。
- ・バックプレート裏側のボルト2本を外してホイールシリンダーを取り外す。

●ホイールシリンダーの点検

- ・ホイールシリンダーの点検、取り付けを行う。(→M-12)



●リヤバックプレートの取り外し

- ・ボルト(M8-15 3本)を外しリヤバックプレートをホーシングから取り外す。



●リヤバックプレートの取り付け

- ・リヤバックプレートを取り付ける。



K-1組立説明書“シャシー編” P25,26参照

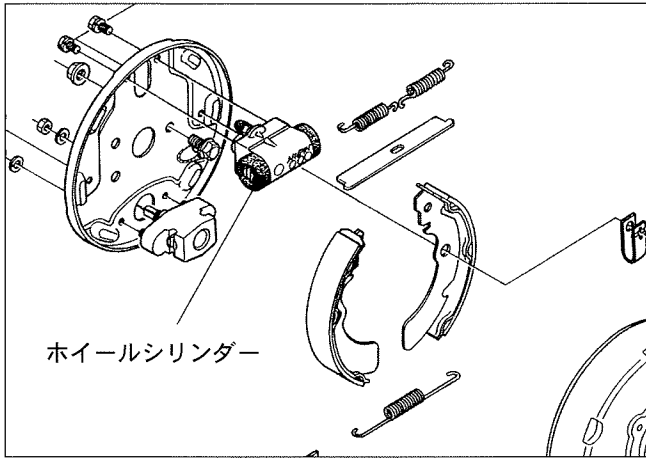


取り付けの際はバックプレートロケティングツールを使用すること。



バックプレートロケティングツール

ブレーキ



●リヤブレーキの組み立て

- ・ホイールシリンダーをバックプレートに取り付ける。



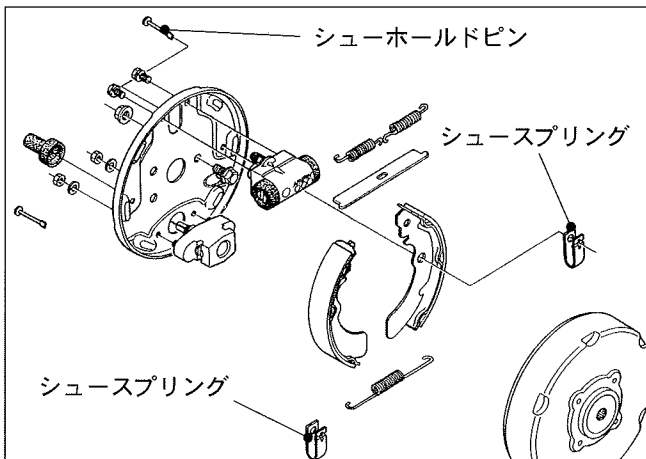
締付トルク：1.2kg-m



- ・各摺動部にラバーグリースを塗布する。



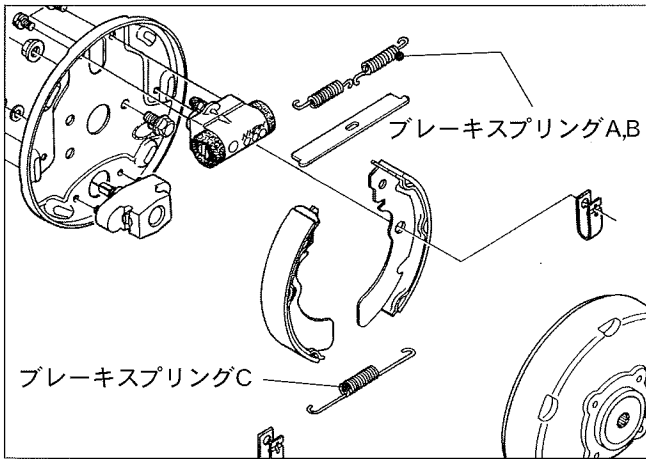
ブレーキライニングの表面に、油脂類を付着させないこと。



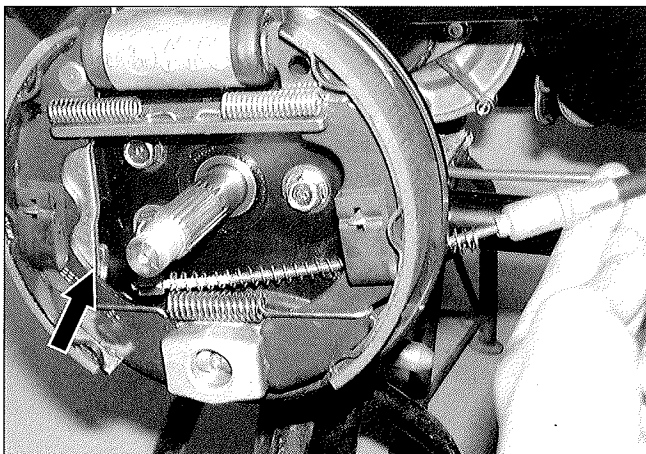
- ・シュースプリングをシューホールドピンに差し込み、シュースプリングを押しながらシューホールドピンを回し、シューを固定する。



ホイールシリンダーのダストカバーに傷を付けないよう注意すること。

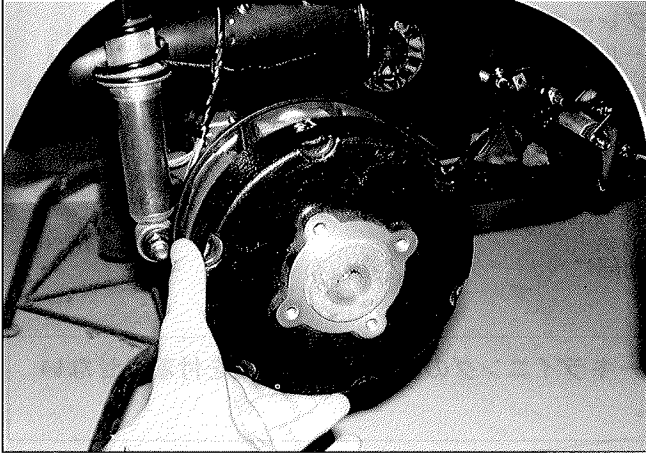


- ・ブレーキスプリングA,B,Cをシューに取り付ける。



- ・パーキングブレーキワイヤー先端をバックプレート裏側よりセットする。
- ・パーキングブレーキワイヤー先端のスプリングをラジオペンチ等ではさみ込み、ワイヤーの頭だけを出し、パーキングブレーキレバーステーに引っかける。(矢印部)

ブレーキ

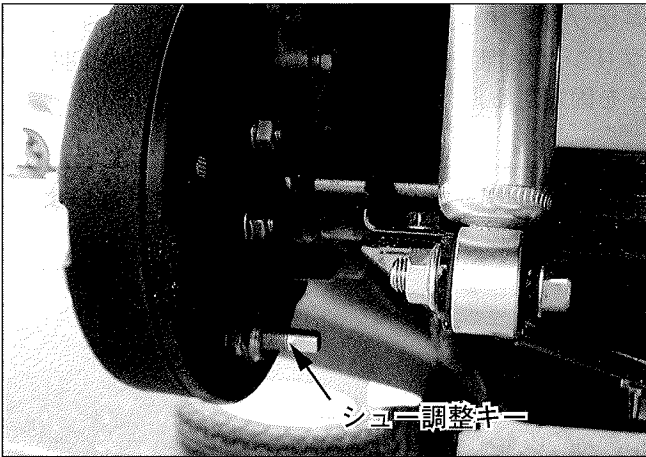


- ・リヤブレーキドラムを脱脂してから取り付ける。
- ・ドラムが入らない場合はシュー調整キーを緩めること。



K-1組立説明書“シャシー編”P29参照

- ・ホイールシリンダーを取り外した場合は、エア抜きを行う。(→M-5)



- ・ブレーキペダルを3~5回踏み込んで、ペダルストロークに変化がないことを確認する。
- ・ブレーキシューの調整を行う。



K-1組立説明書“ボディー編”P163~P168参照

- ・車輛を降ろし、ホイール取付ボルト、ドラム取付ナットを本締めする。



締め付トルク：2.7kg-m (M8ボルト)
：11.0kg-m (M14ナット)

ブレーキ

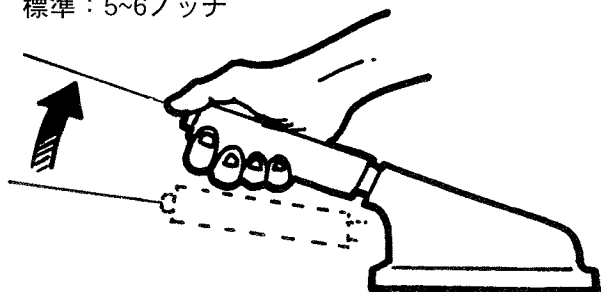
●パーキングブレーキ引き代の調整

- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)



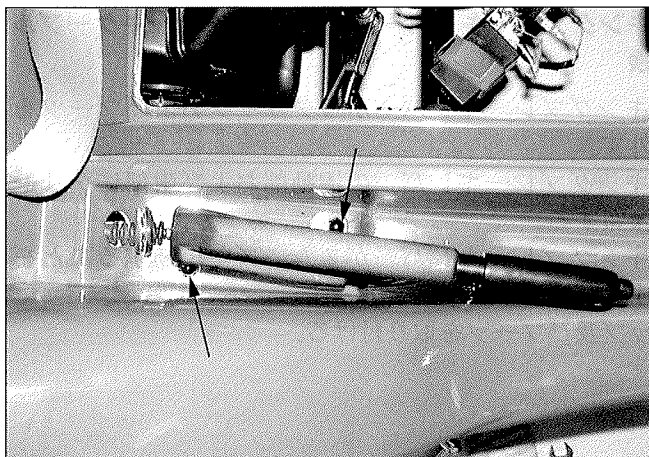
K-1組立説明書“ボディー編” P140,141参照

標準：5~6ノッチ



●パーキングブレーキレバー/パーキングブレーキワイヤーの取り外し

- ・車輛をジャッキアップする。(→B-9)
- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・図の2箇所の袋ナットを緩め、パーキングブレーキレバーを外す。



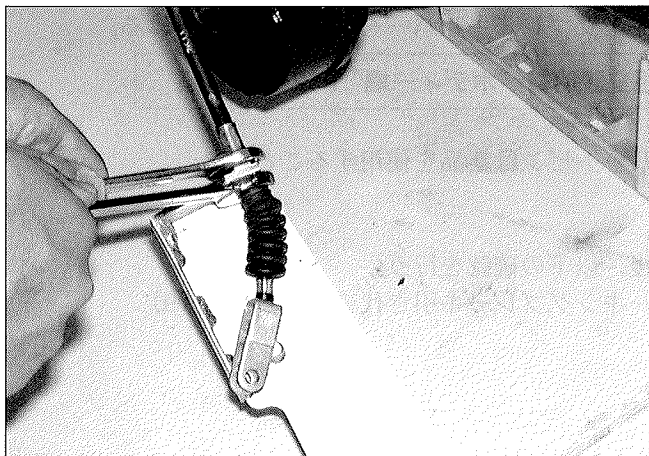
- ・スプリットピン、クレビスピンを外し、パーキングブレーキレバーを取り外す。
- ・フロア裏側よりセットしているパーキングブレーキステーを外す。
- ・グロメットφ26を外し、パーキングブレーキワイヤー先端をフロア裏側に押し出す。



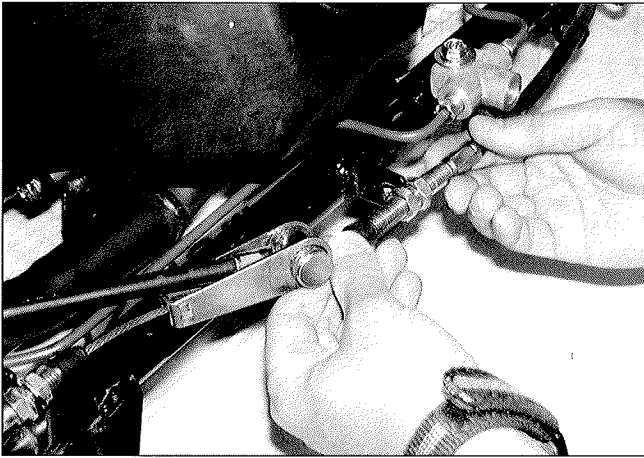
K-1組立説明書“ボディー編” P52~P54の逆の手順



- ・パーキングブレーキワイヤー先端のナットを緩め、パーキングブレーキステーを取り外す。



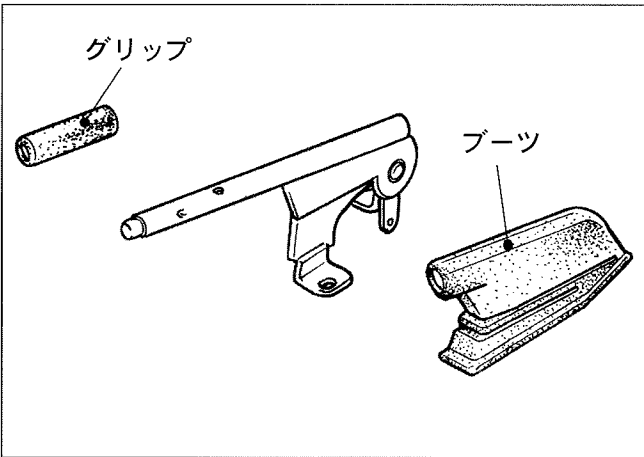
ブレーキ



- ・リヤブレーキドラムを取り外す。
- ・パーキングブレーキワイヤーを取り外す。

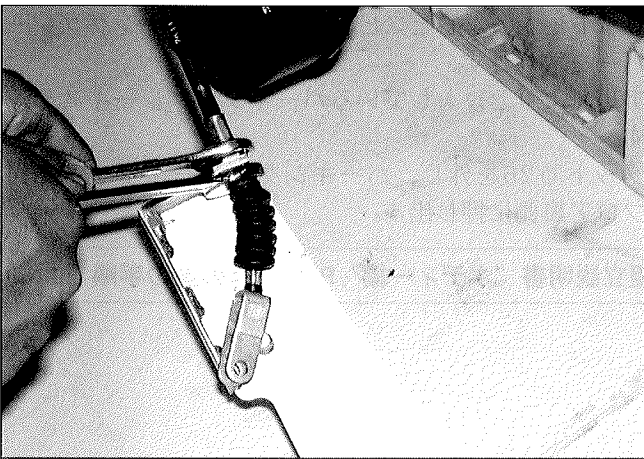


K-1組立説明書“ボディー編” P27~P30の逆の手順



●パーキングブレーキレバー/パーキングブレーキケーブルの点検

- ・パーキングブレーキレバーからグリップおよびブーツを取り外す。
- ・パーキングブレーキレバーの摺動部および歯部にグリースを塗布する。
- ・パーキングブレーキレバーがスムーズに作動することを確認する。
- ・グリップ及びブーツを取り付ける。



- ・パーキングブレーキワイヤーのアウトターケーブルの損傷を点検する。

●パーキングブレーキレバー/パーキングブレーキワイヤーの取り付け

- ・パーキングブレーキワイヤー、パーキングブレーキステーを取り付ける。



K-1組立説明書“シャシー編” P27~P30参照



K-1組立説明書“ボディー編” P52~P54参照



- ・パーキングブレーキレバーをフロアに取り付ける。

- ・スプリットピンは新品を使用すること。

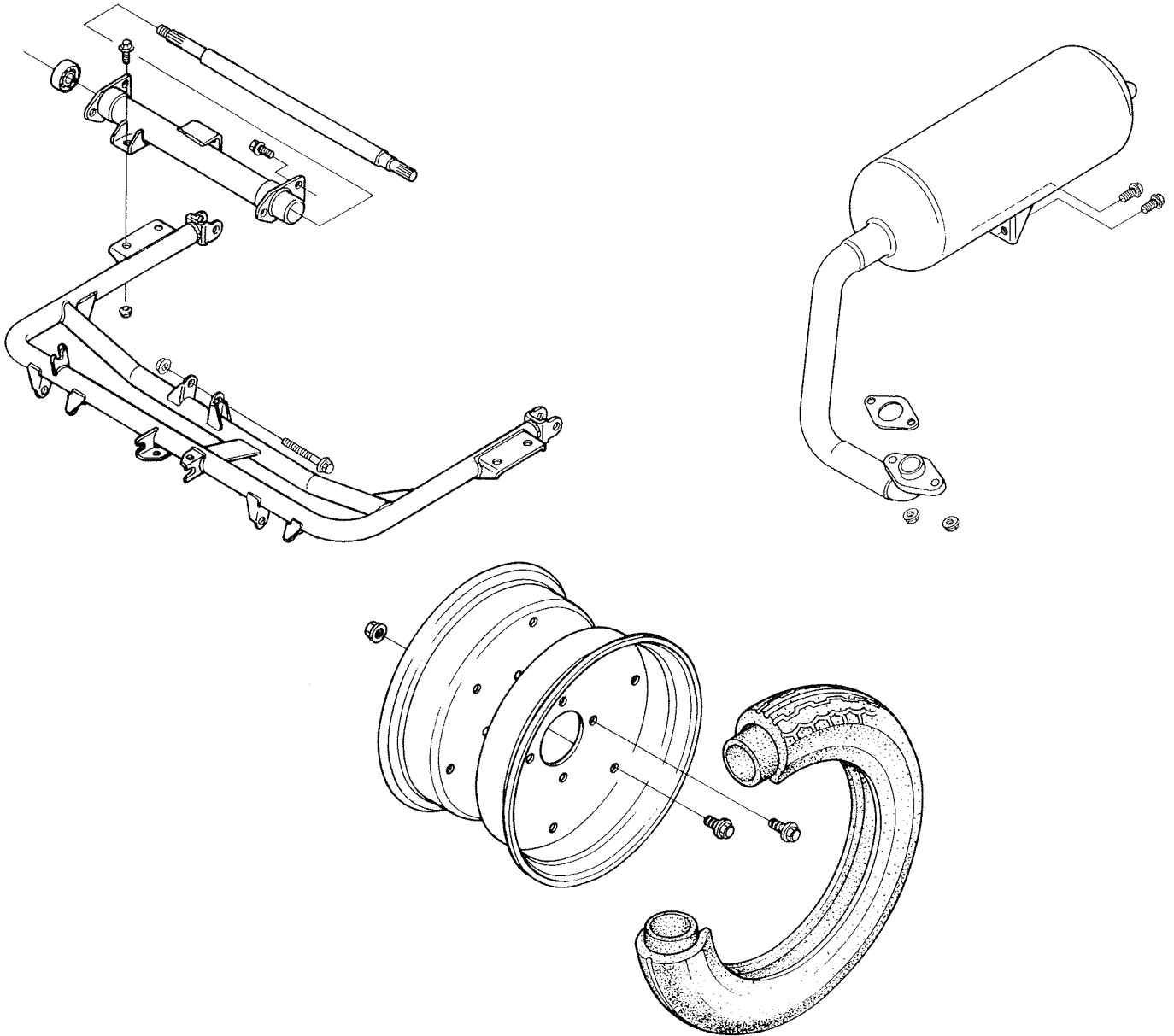
- ・取付後、以下の確認を行う。
ーパーキングブレーキ引き代の調整 (→M-19)

**N.ホイール/タイヤ/リヤアクスル
エキゾーストマフラー**

section

N

タイヤ/ホイール/リヤアクスル/エキゾーストマフラー



タイヤ/ホイール/リヤアクスル/エキゾーストマフラー

◆故障診断

●タイヤの早期摩耗

- ・タイヤの空気圧不適正
- ・トー調整不良

●タイヤのスキール

- ・タイヤの空気圧不適正
- ・タイヤの劣化

●ロードノイズの発生または車体の振動

- ・タイヤの空気圧不適正
- ・ホイールバランスの不適正
- ・ホイールまたはタイヤの変形
- ・タイヤの偏摩耗

●“シェイク”現象（ハンドルの上下振動）

- ・タイヤまたはホイールの過度の振れ
- ・ホイールハブナットの緩み
- ・ホイールバランスの不適正
- ・エンジンマウントの損傷、へたり

●“シミ”現象（ハンドル左右振動）

- ・タイヤまたはホイールの過度の振れ
- ・ホイールハブナットの緩み
- ・ホイールバランスの不適正
- ・タイヤの偏摩耗
- ・タイヤの空気圧不適正
- ・ホイールベアリングのがた
- ・ステアリング関連事項

◆整備情報

●ホイール・タイヤ取り扱い上の注意

- ・ホイールは傷つきやすいので注意する。
- ・指定されたタイヤおよび、ホイール以外は装着しない。
- ・ホイールを水洗いするときは必ず布で行い、タイヤブラシを使用しない。また、スチーム洗車で直接熱湯をかけない。
- ・ホイールは、塩分がついた時はなるべく早く水洗いする。また、洗剤は砂等の異物が入ったものの使用は避け、中性洗剤を使用する。

●タイヤ交換時の注意点

- ・タイヤのビート部、リムのビート部、耳部に傷を付けない。
- ・リム部やタイヤのビート部にたまった錆、ゴミ、泥などはワイヤーブラシ、サンドペーパー、布などで取り除く。
- ・トレッドに食い込んだ石、ガラス、釘などは取り除く。
- ・取り付け後は空気圧を2.5~3.0kg/cm²まで高め、タイヤチューブセット状態、エア漏れをチェックし、指定空気圧まで下げる。

●ハンドルがとられる

- ・タイヤの空気圧不適性
- ・タイヤの過度の摩耗又は偏摩耗
- ・ステアリング関連事項
- ・ブレーキ関連事項
- ・サスペンションの関連事項

●走行不安定

- ・タイヤの空気圧不適性
- ・ホイール又はタイヤの変形
- ・ホイールハブナットの緩み
- ・ステアリング関連事項
- ・サスペンション関連事項

●ブレーキの片効き

- ・タイヤの空気圧不適性
- ・ブレーキ関連事項

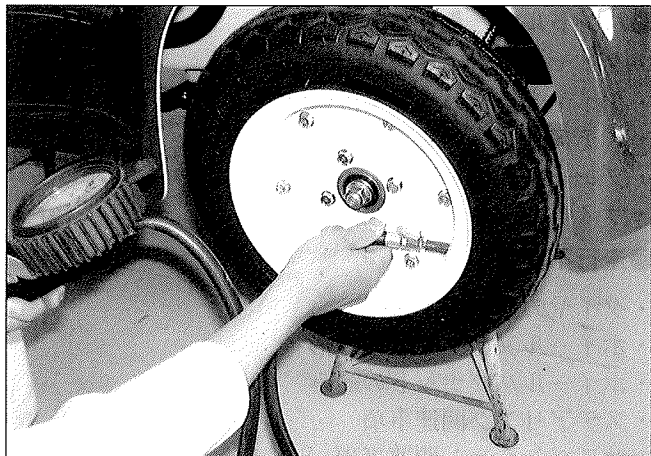
●ハンドル操作が重い

- ・タイヤの空気圧不適性
- ・ステアリング関連事項
- ・サスペンション関連事項

●ハンドルの戻り不良

- ・タイヤの空気圧不良
- ・ステアリング関連事項
- ・サスペンション関連事項

タイヤ/ホイール/リヤアクスル/エキゾーストマフラー



●タイヤ空気圧の点検/調整

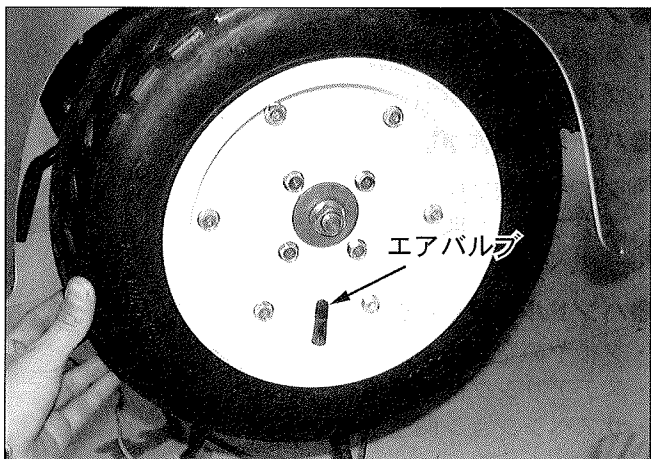
- ・タイヤゲージを使用して、タイヤの空気圧を点検し、指定の空気圧でない場合は調整する。

標準空気圧

タイヤ空気圧(kg/cm ²)		
タイヤサイズ	前輪	後輪
3.50-8-46J	1.2	1.6

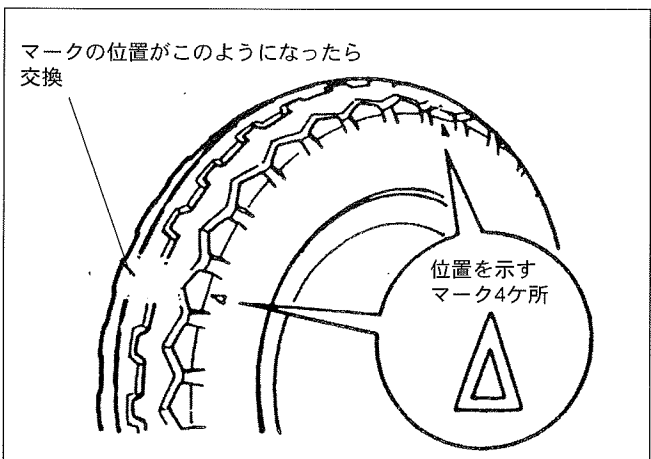


空気圧はタイヤが冷えているときに測定する。
空気圧は3.0kg/cm²以上入れない。



●エア漏れ点検

- ・エアバルブからエア漏れがないか点検する。



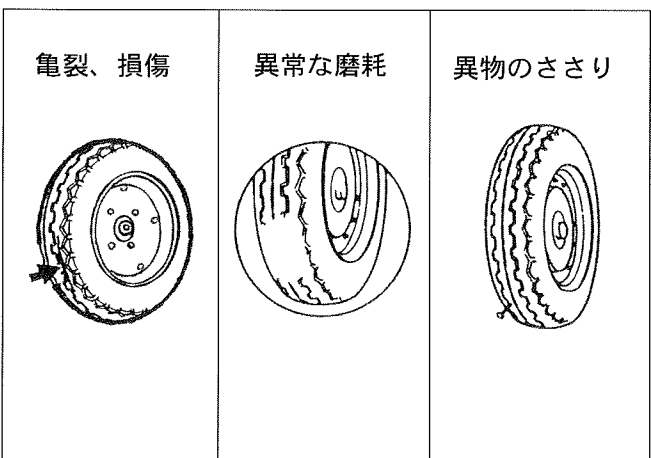
●タイヤ磨耗点検

- ・タイヤの溝の深さを点検する。

限度値：0.8mm



- ・限度値未満の場合はタイヤを新品に交換する。



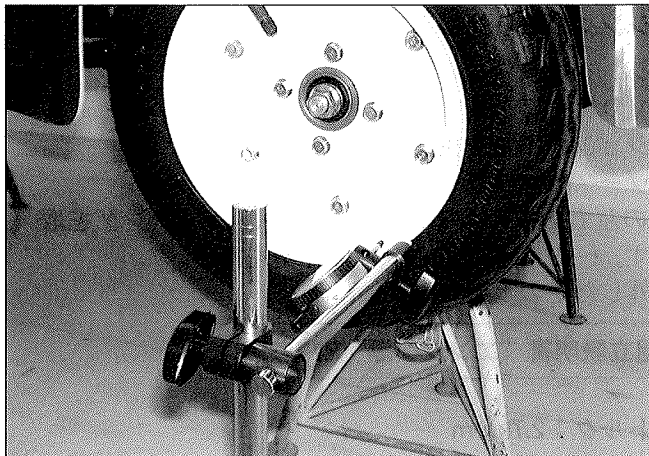
●目視点検

- ・異常な磨耗や亀裂、損傷がないか点検する。
- ・釘、石、その他の異物のささり、かみ込みがないか点検する。



- ・不具合のある場合は新品のタイヤに交換する。

タイヤ/ホイール/リヤアクスル/エキゾーストマフラー



●振れ

- ・ 車輛をジャッキアップし、マグネットベース付ダイヤルゲージをセットした後、ホイールとタイヤをゆっくり回す。
- ・ ホイールとタイヤの振れを点検する。

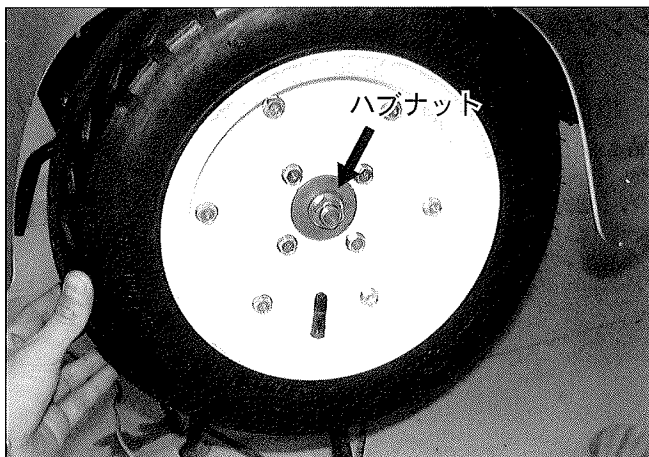
限度値：ホイールの振れ2.5mm



- ・ 限度値以上の場合、ホイール、タイヤを組み替えるか、交換する。



写真はフロントタイヤ部



●ハブナットの緩み点検

- ・ トルクレンチを使用して、ハブナットに緩みがないかを点検する。
- ・ 緩み、がたがある場合はトルクレンチで締め込む。



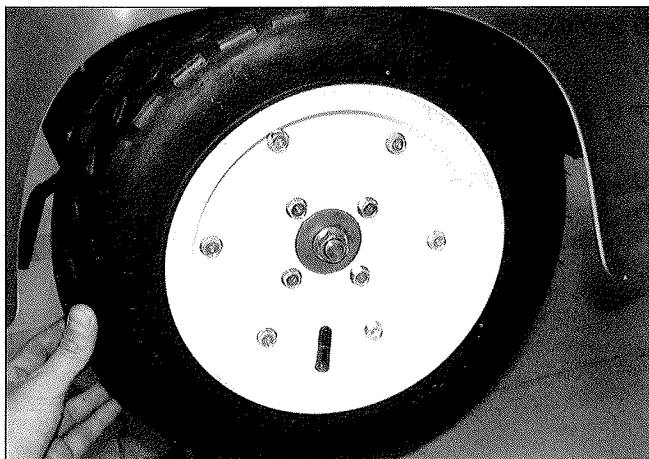
締付トルク：2.7kg-m (M8ボルト)



締付トルク：11.0kg-m (M14ナット)



写真はリヤタイヤ部



●フロント/リヤタイヤの取り付け

- ・ ホイールハブとホイール取付面をきれいに清掃する。
- ・ ハブナットを2~3回に分けて対角線状に規定のトルクで締め付ける。

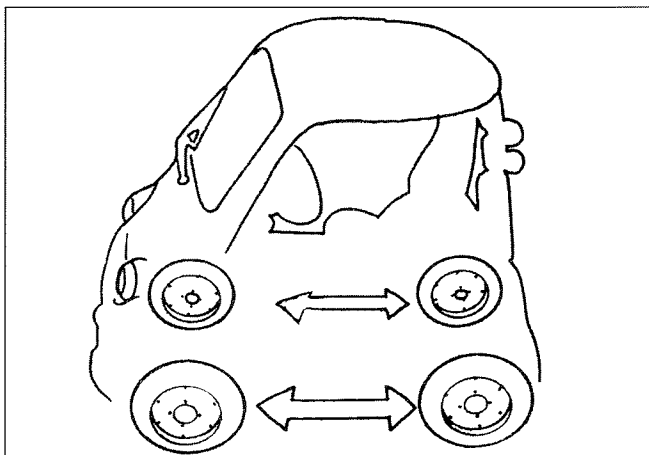


締付トルク：2.7kg-m

- ・ ホイールをパンク修理などで取り外した場合は、約1000km走行した時点で再度規定のトルクで締め付ける。
- ・ ホイールのハブナット及びホイールの座には、絶対に油などを塗布しない。
- ・ 取り外しは、取り付けの逆の手順で行う。



写真はリヤタイヤ部



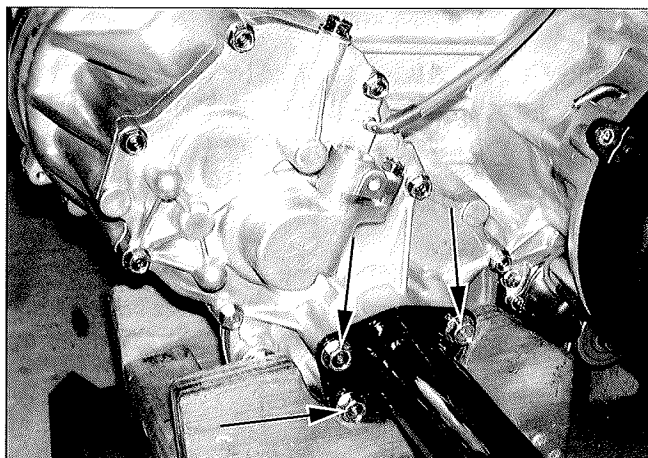
●タイヤローテーション

- ・ タイヤの寿命を延ばすと共に、磨耗の平均化を計る為3000~6000km走行毎にタイヤのローテーションを行う。



- ・ 前輪には磨耗が少なく、傷、損傷のないタイヤを装着する。
- ・ ローテーション後は、タイヤの空気圧を指定空気圧に調整する。

タイヤ/ホイール/リヤアクスル/エキゾーストマフラー



●ホーシングの取り外し



- ・エンジンを取り外す必要はない。
- ・(→I-4)の状態で作業を行う。
- ・ミッションオイルを抜き取る。
- ・エキゾーストマフラーを取り外す。(→N-7)
- ・3本の左右のフランジボルトを緩め、ホーシングを取り外す。(→E-5)最下段の状態で作業を行う。
- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



K-1組立説明書“エンジン編”P77参照



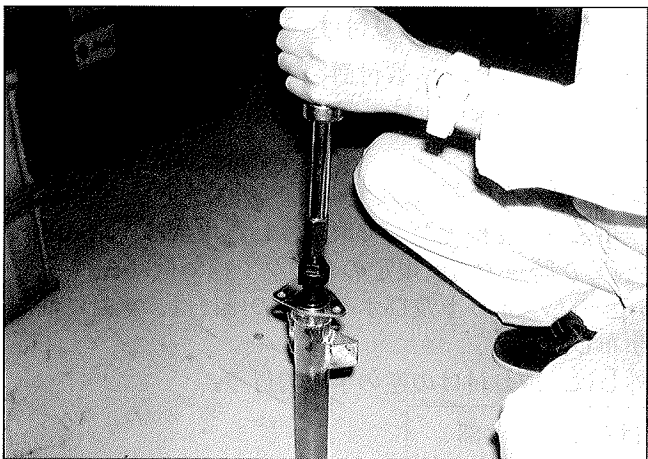
締付トルク：2.7kg-m



●ホーシングの点検



- ・ホーシングのベアリングの磨耗、損傷を点検する。
- ・磨耗、損傷がある場合は以下の指示に従ってベアリングを新品と交換する。

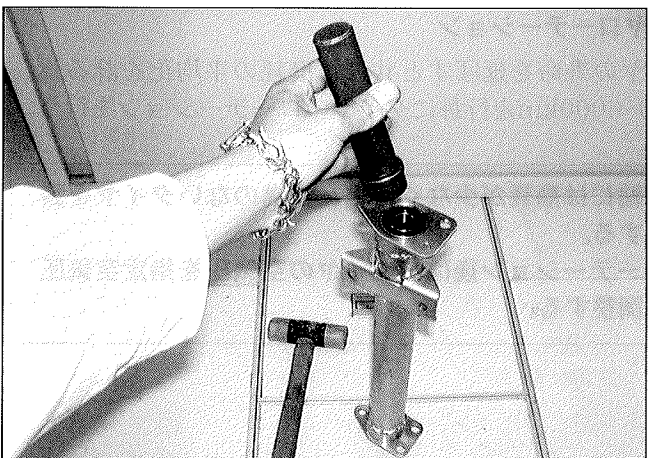


●ベアリングの交換

- ・ベアリングをベアリングリムーバーで取り外す。
ベアリング (6203LU)



ベアリングリムーバー



- ・新品のベアリングを打ち込む。

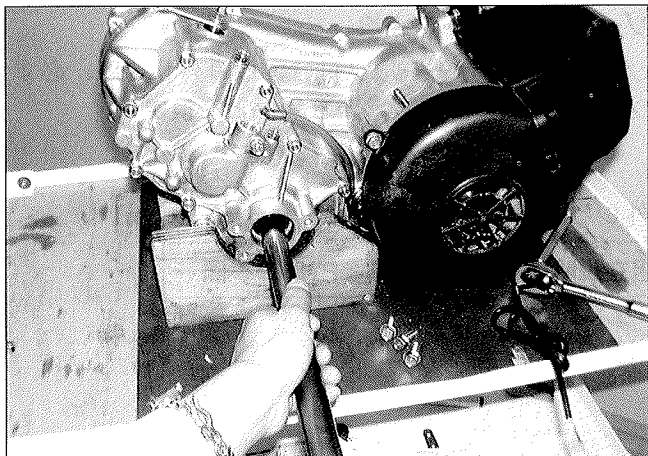


ベアリング (6203LU)



ベアリングドライバー

タイヤ/ホイール/リヤアクスル/エキゾーストマフラー



●ドライブシャフトの取り外し



- ・ホーシングを取り外す。(→N-6)
- ・ドライブシャフトを引き抜く。

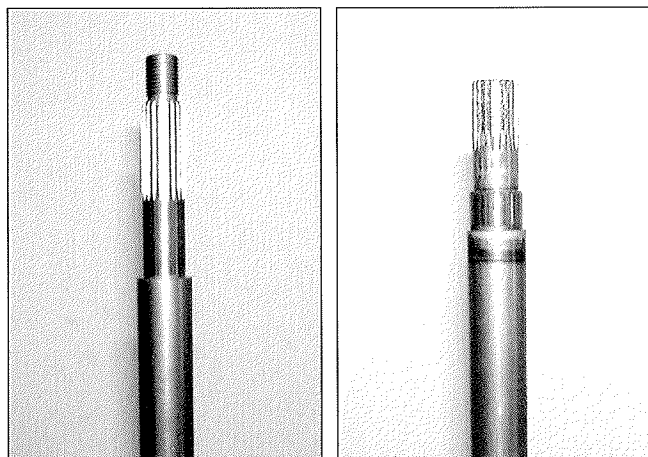


ドライブシャフトの取り付け、取り外しはドライブシャフトに物などをぶつけて変形させないように注意する。又エンジン本体側のオイルシールを傷つけないようにいねいに抜き取る。

- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



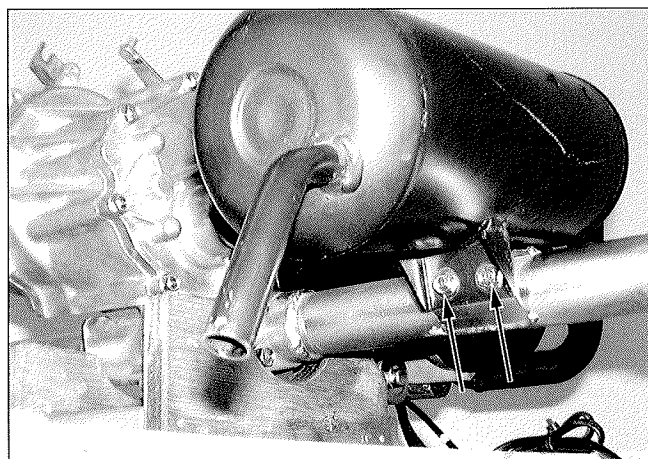
K-1組立説明書“エンジン編” P76参照



●ドライブシャフトの点検



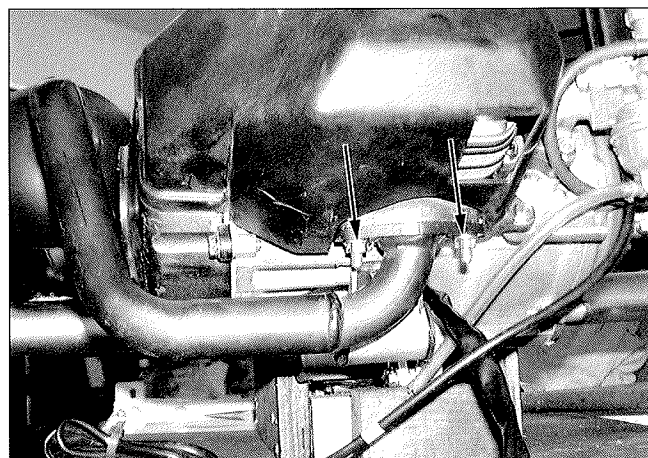
- ・ドライブシャフトに変形がないか点検する。
- ・シャフト両端のスプラインにかけ、損傷がないか点検する。
- ・変形、かけ等がある場合は新品と交換する。



●エキゾーストマフラーの取り外し

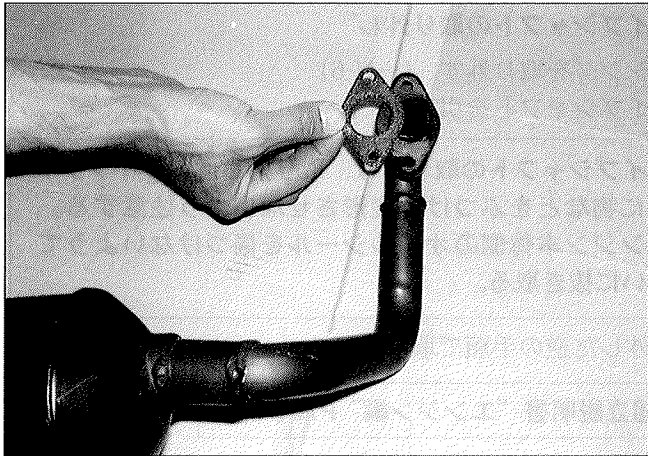


- ・ホーシングRとマフラーをとめているM6フランジボルト(2箇所)を外す。(矢印部)



- ・シリンダー下部とマフラーを止めているM6フランジナットを外す。(矢印部)
- ・エキゾーストマフラーを取り外す。

タイヤ/ホイール/リヤアクスル/エキゾーストマフラー



●エキゾーストマフラーの点検



・エキゾーストマフラーを取り付け、取り外しの際、必ずエキゾーストパイプガスケットを新品と交換する。

・取り外した逆の手順で取り付ける。



K-1組立説明書“エンジン編” P78,79参照

サスペンション

◆故障診断

●車体のローリング

- ・ロアアームブッシュのへたり
- ・ショックアブソーバーの機能不良

●乗り心地の低下

- ・ショックアブソーバーの機能不良
- ・コイルスプリングのへたり

●車体の傾き

- ・コイルスプリングのへたり
- ・ロアアームブッシュのへたり

●サスペンションからの異音

- ・ショックアブソーバーの機能不良
- ・アッパーアーム、ロアアームブッシュのへたり

●走行不安定

- ・コイルスプリングのへたり
- ・ショックアブソーバーの機能不良
- ・ホイールアライメントの調整不良
- ・ステアリング関連事項
- ・ホイール、タイヤ関連事項

●ハンドル操作が重い

- ・ホイールアライメントの調整不良
- ・ステアリング関連事項
- ・ホイール、タイヤ関連事項

●ハンドルがとられる

- ・ロアアームブッシュのへたり
- ・コイルスプリングのへたり
- ・ホイールアライメントの調整不良
- ・ステアリング関連事項
- ・ブレーキ関連事項
- ・ホイール、タイヤ関連事項

●“シミ”現象(ハンドルが左右に振動する)

- ・ショックアブソーバーの機能不良
- ・ショックアブソーバー取付ボルト/ナットの緩み
- ・ロアアームブッシュのへたり
- ・ホイールアライメントの調整不良
- ・ホイール・ベアリングのがた
- ・ホイール、タイヤ関連事項
- ・ステアリング関連事項

●ハンドルの戻り不良

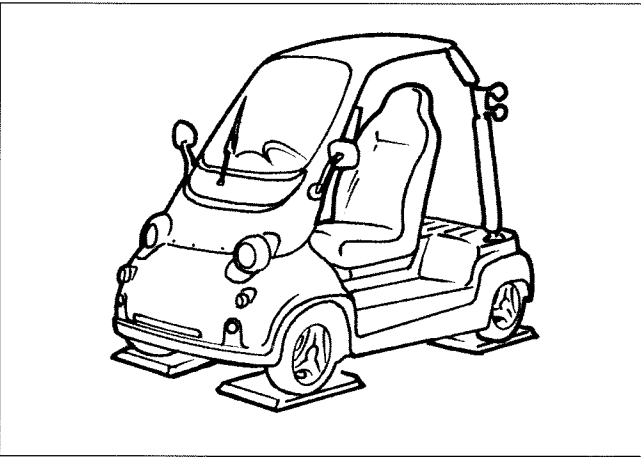
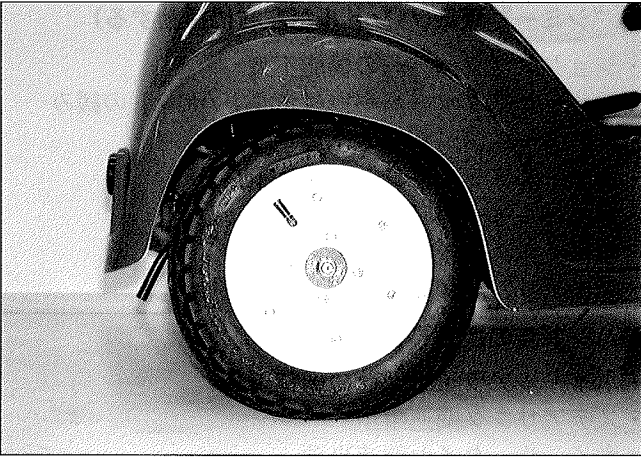
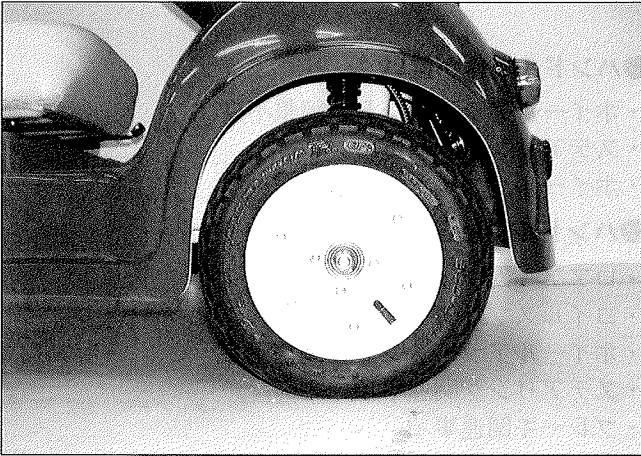
- ・ホイールアライメントの調整不良
- ・ステアリング関連事項
- ・ホイール、タイヤ関連事項

◆整備情報

●作業上の注意

- ・各種調整は説明に従い正確に行うこと。
- ・フロントクッション、リヤクッションは分解しないこと。
- ・不具合がある場合は、フロントクッション、リヤクッションをASSYで交換する。
- ・エンジン廻りの取り外し、取り付けは安全のため2人で行うこと。

サスペンション



●作業前の点検

- ・タイヤの空気圧を点検し、必要ならば指定空気圧に調整する。
- ・ホイールベアリングの遊びを点検し、必要ならば交換する。(→M-11)
- ・ホイール及びタイヤの揺れを点検する。
- ・ボールジョイントにがたがないかを点検する。
- ・ショックアブソーバーが正しく作動しているか、ボディをゆすって点検する。
- ・車輛を空車状態で水平な場所に置き、ホイールを直進状態にする。

●切れ角の点検

- ・ターニングラジアスゲージを 0° 点にロックする。
- ・ターニングラジアスゲージの中心に、タイヤの接地面中心がくるように前輪を静かにターニングラジアスゲージにのせ、ロックを解除する。

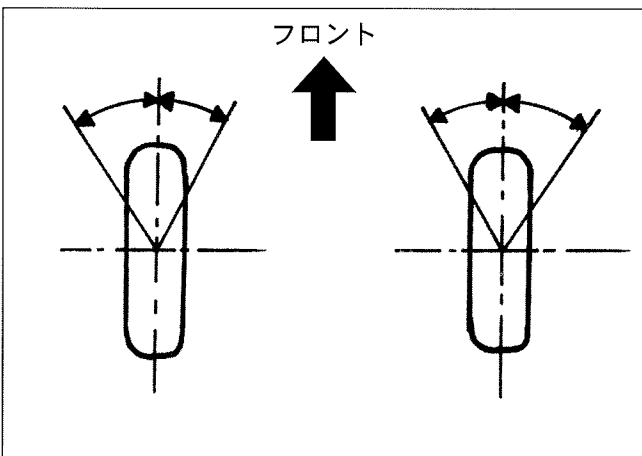


- ・ポータブルタイプのターニングラジアスゲージを使用する場合は、車輛を水平に保持するために、後輪にターニングラジアスゲージと同じ厚さの台をおく。
- ・車輛が動かないように確実にパーキングブレーキをかけておく。
- ・この時、イグニッションキーは必ずOFFにする。

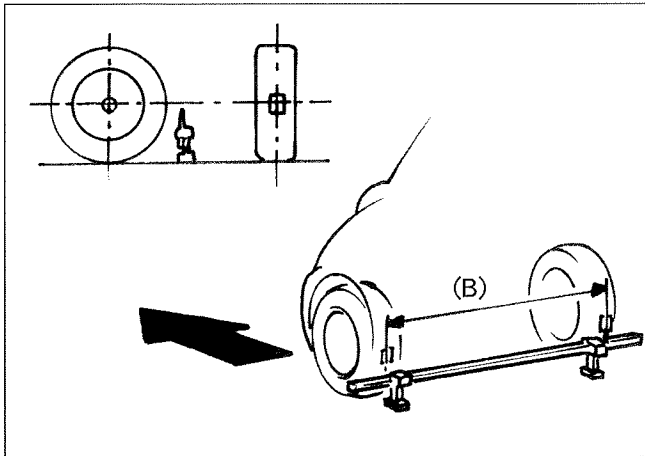
- ・切れ角を点検する

標準値：内側 $24^{\circ} \pm 2^{\circ}$

：外側 $28^{\circ} \pm 2^{\circ}$

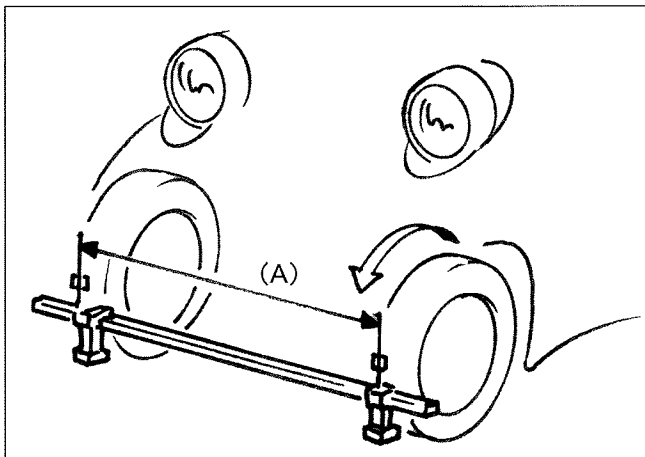


サスペンション

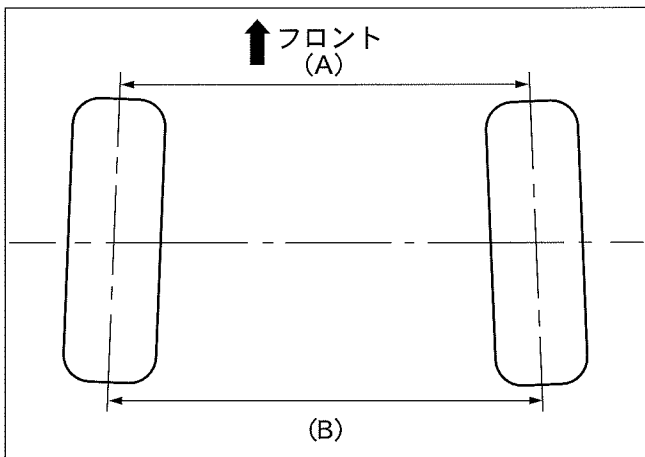


●トーインの(調整)

- ・車高を安定させ、平坦地で行うこと。
- ・トーインゲージの指針高さをフロントホイール軸中心高さにあわせ、タイヤの後側にいれる。
- ・前輪タイヤ各々の後部トレッド中心にマークをし、マーク間の距離(B)寸法を測定する。
- ・車輛を押して前進させ、前輪を180°回転させる。

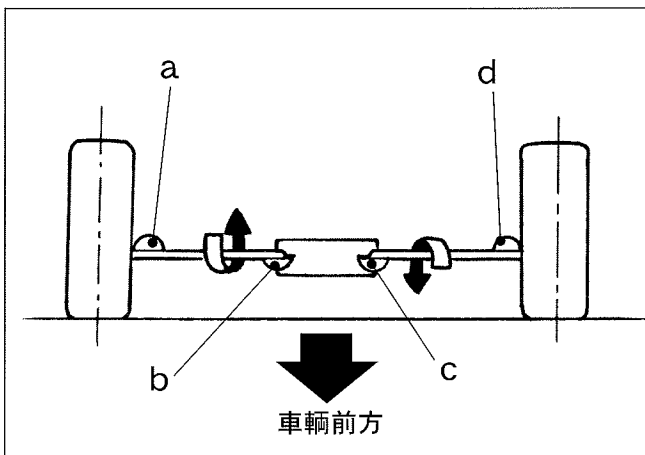


- ・車輛前部でマーク間の距離(A)寸法を測定する。



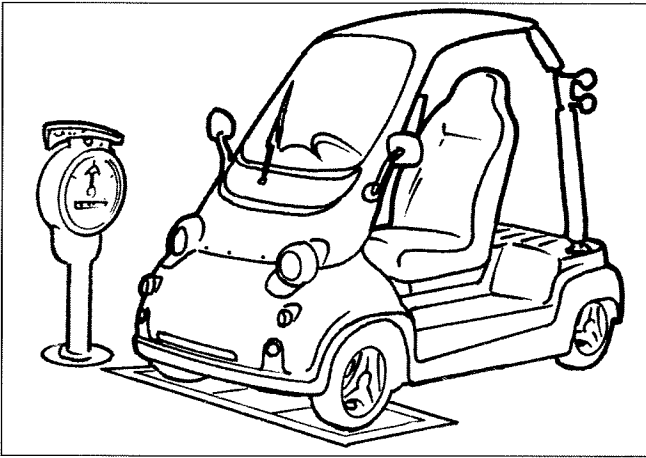
- ・(B)寸法、(A)寸法を求め、標準値外なら調整をする。

標準値：1±1mm



- ・左右のタイロッドエンド (a,b,c,d) のナットを緩める。
- ・左右のタイロッドエンド各々反対方向に同量ずつ回して調整する。
- ・調整後、必ず (a,b,c,d) の本締めをする。
- ・調整後、ハンドルセンターがずれていないか確認する。

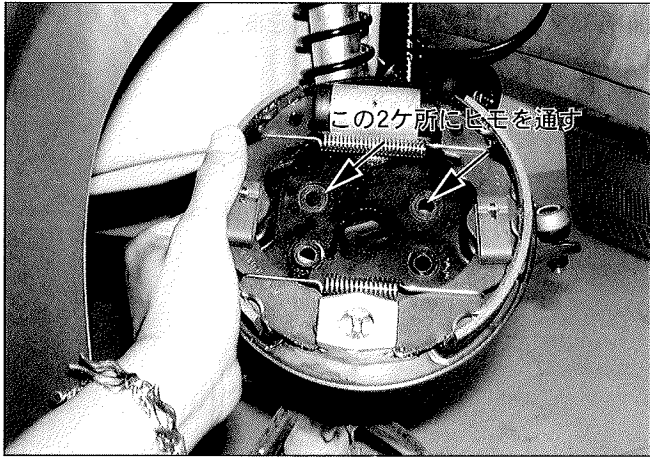
サスペンション



●サイドスリップの点検

- ・サイドスリップテスターに車輛を静かにまっすぐ入れ、通過したときのサイドスリップ量を点検し、標準値外の場合はフロントホイールアライメントが正しいか点検する。

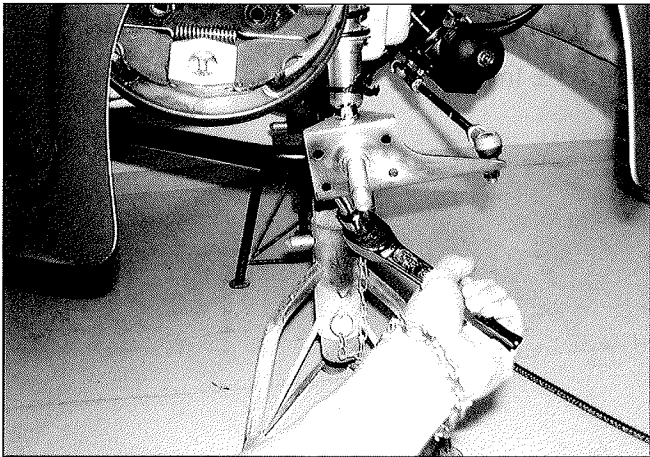
標準値：アウト0mm～イン2mm



◆フロントサスペンション

●フロントサスペンションアーム/ナックルの取り外し

- ・車輛をジャッキアップする。(但し、ジャッキアップポイントはフロントサスペンションアーム以外の場所とする。)
- ・ブレーキ液を抜く必要はない。
- ・フロントブレーキホースをバックプレートより取り外す。
- ・フロントタイヤを取り外す。(→N-5)
- ・フロントブレーキドラムを取り外す。(→M-10)
- ・フロントバックプレートを取り外す。(→I-4)と同じ要領でフロントバックプレートをフレームにヒモ等で吊っておく。



- ・タイロッドエンドをナックルから取り外す。
- ・ナックルをフロントサスペンションアームから取り外す。

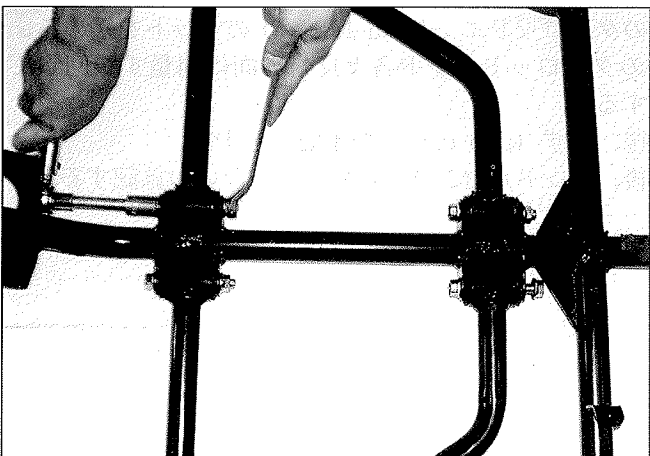


K-1組立説明書“シャシー編”P6,7およびP12,13の逆の手順

●フロントナックルの点検



- ・フロントナックルに変形、損傷がないか点検し、変形、損傷がある場合は新品のものと交換する。

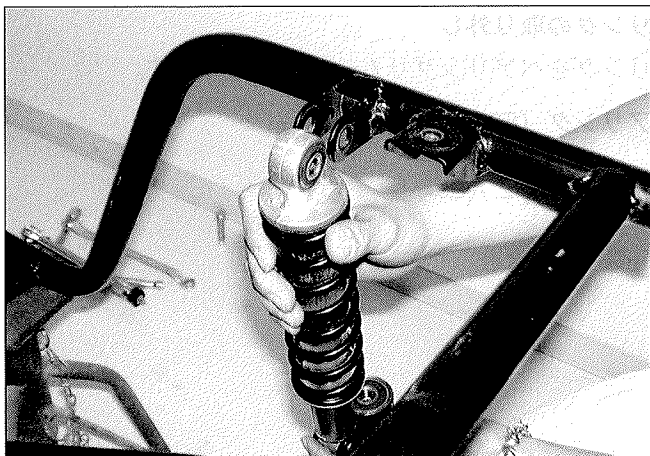


- ・フロントサスペンションアーム取付部(4箇所)を1度緩めておく。

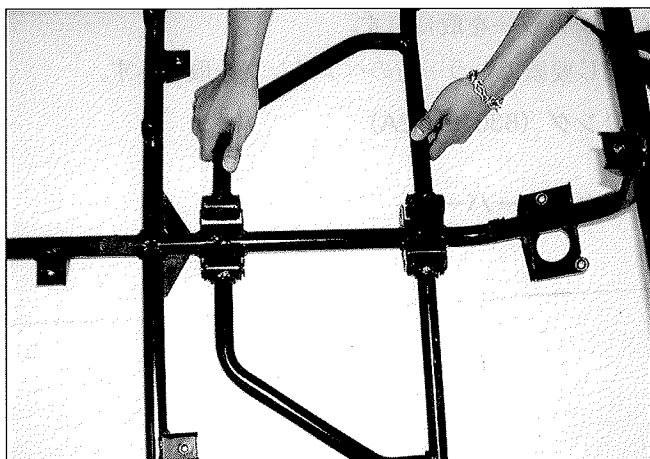


ここでは完全に取り外さないこと。

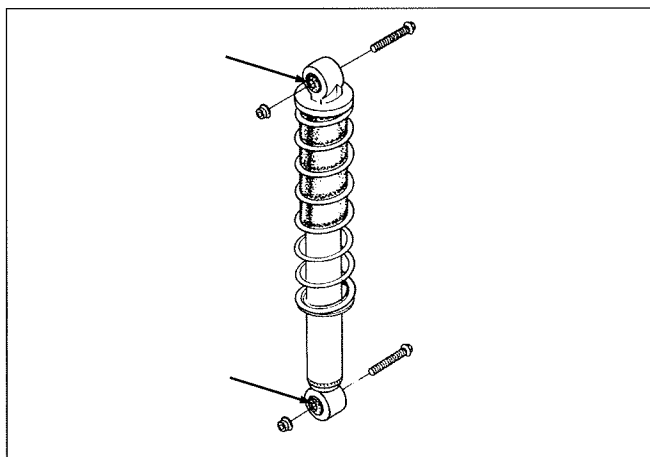
サスペンション



- P** ・フロントクッションを取り付けている上下のM10フランジボルトを外し、フロントクッションを取り外す。



- P** ・先に緩めておいたM10フランジボルトを完全に取り外し、フロントサスペンションアームを取り外す。
- フロントサスペンションアームの点検**
 - ・フロントサスペンションアームに変形、損傷がないか点検する。
 - ・ナックル取付部のボールベアリングに損傷、がたがないか点検する。
- NEW** ・不良の場合は、新品と交換する。



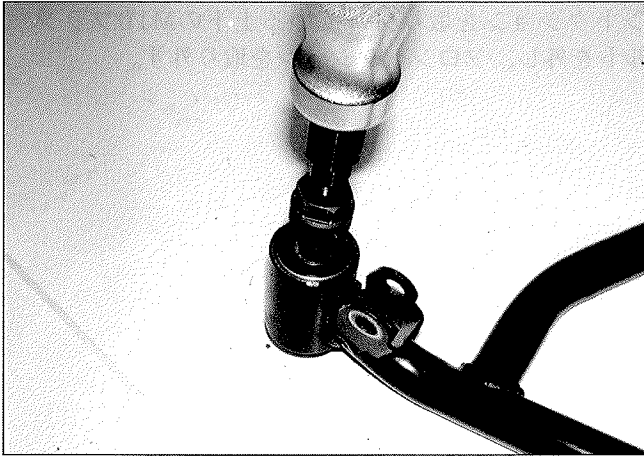
- フロントサスペンションの点検**

- ・フロントクッションの破損、変形、正常に作動するか点検する。
 - ・取付部(矢印部)の破損、摩耗、劣化を点検する。
- NEW** ・不良の場合は、新品と交換する。



フロントクッションは分解しないこと。

サスペンション



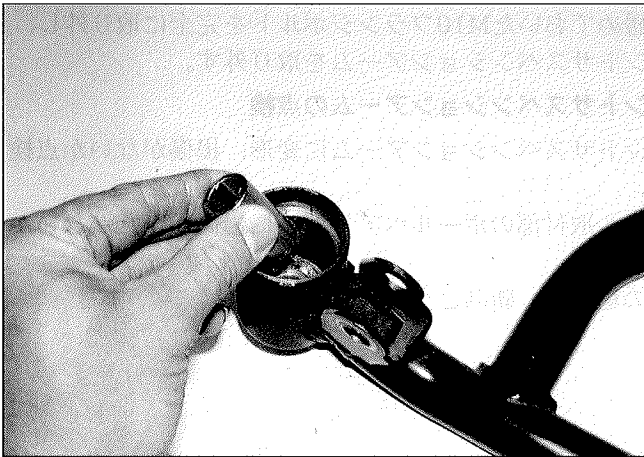
●ベアリングの取り外し

- ・ベアリングをベアリングリムーバーで取り外す。

ベアリング (6301LU/2A)



ベアリングリムーバー



- ・キングピンカラーを取り出す。

- ・前項と同じ要領でもう一方のベアリングを取り外す。

ベアリング (6301LU/2A)



ベアリングリムーバー



●ベアリングの取り付け

- ・ベアリングドライバーを使用して、ベアリングを打ち込む。

- ・ベアリングにがたがある場合は新品のものと交換する。

ベアリング (6301LU/2A)



ベアリングドライバー



- ・キングピンカラーをセットしてからもう一方のベアリングをベアリングドライバーを使用して打ち込む。

ベアリング (6301LU/2A)



ベアリングドライバー

●フロントサスペンションの組み立て

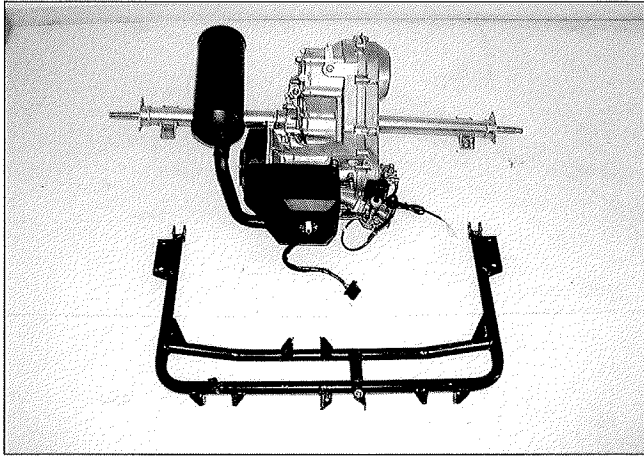
- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



K-1組立説明書“シャシー編”P2,3参照

- ・組立後、サスペンションが正常に作動するか確認する。

サスペンション



◆リヤサスペンション

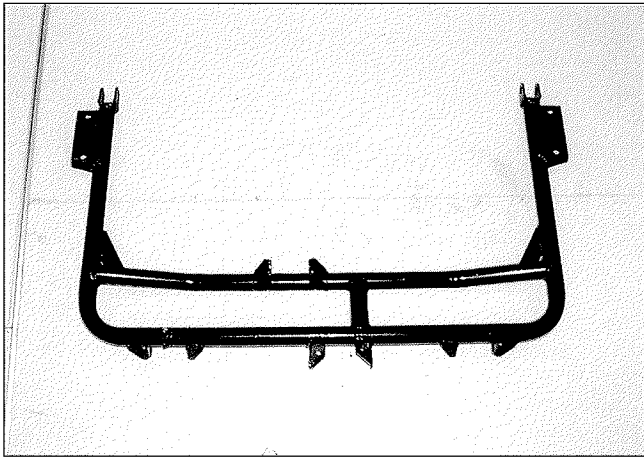
●リヤサスペンションアームの取り外し

- ・フレーム本体からエンジンとリヤサスペンションアームを取り外す。



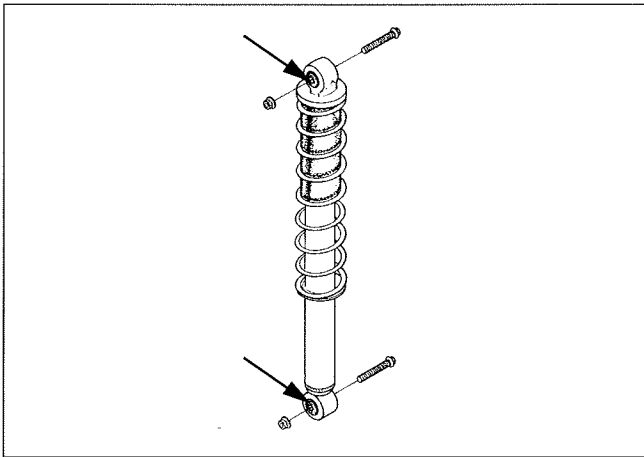
K-1組立説明書“シャシー編” P22~P40の逆の手順

- ・リヤクッションを取り付けている上側のボルト(M10)を外し、リヤクッションを取り外す。
- ・エンジンとリヤサスペンションアームを分離する。



●リヤサスペンションアームの点検

- ・リヤサスペンションアームに変形、損傷がないか点検する。

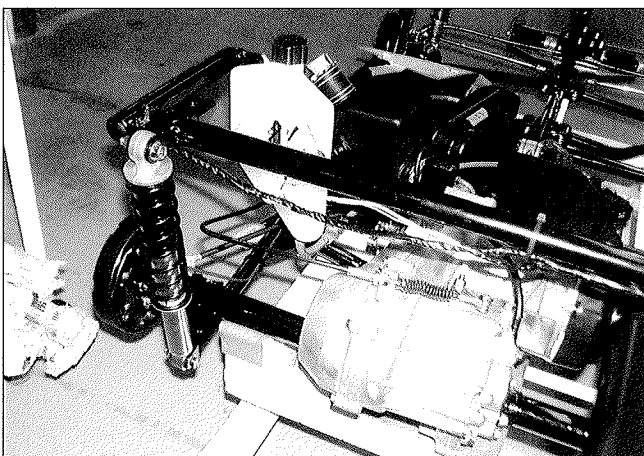


●リヤクッションの点検

- ・リヤクッションの変形、破損を点検する。
- ・リヤクッションが正常に作動するかを点検する。
- ・取付部(矢印部)の破損、摩耗、劣化がないかを点検する。
- ・不良の場合は新品と交換する。



リヤクッションは分解しないこと。



●リヤサスペンションアームの取り付け

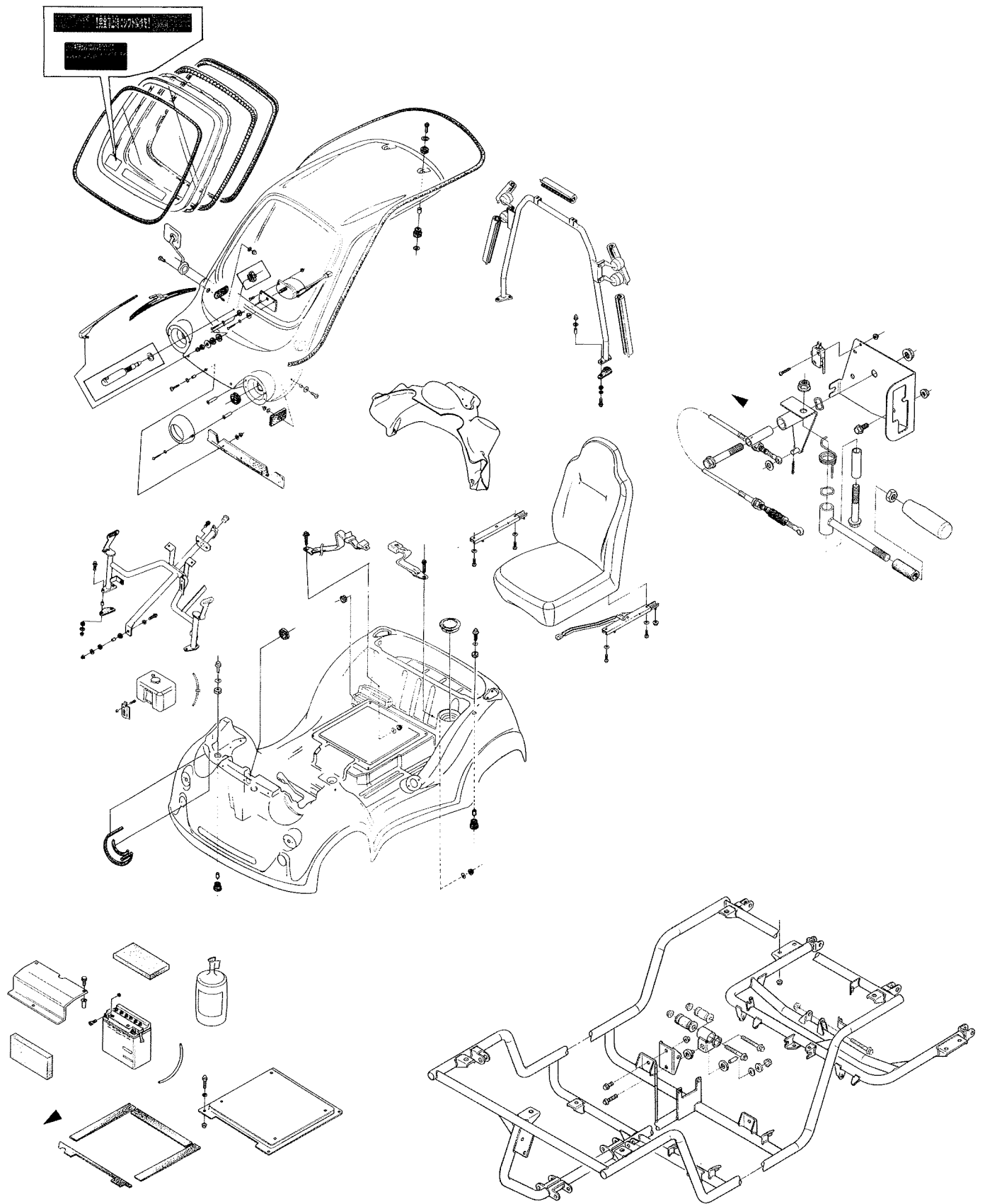


- ・リヤクッションの上部をフレームに取り付ける。
- ・エンジンをリヤサスペンションアームに取り付ける。
- ・フレーム本体を接続する。
- ・取付後、各部の点検、調整を行う。(→E-8)
- ・取り付けはこの逆の手順で行う。



K-1組立説明書“シャシー編” P22~P40参照

ボディー/フレーム



ボディー/フレーム

◆故障診断

●フロア、アッパーボディー、インパネのきしみ

- ・組立説明書に従い、正しく組み立てる
- ・ボディーマウントラバー等の劣化、欠落
- ・ボルト、ナットの緩み

●シフト操作の不具合

- ・シフトレバー取り付けの不具合
- ・シフトワイヤーケーブルの調整不良
- ・シフトレバーの調整不良
- ・シフトワイヤーケーブルの通し経路の間違い

●ワイパーが動かない、ウォッシャータンクから液がでない

- ・ワイパー取り付けの不具合
- ・ウォッシャーノズルの調整不良
- ・ワイパーモーターの不具合
- ・ウォッシャー液不足

◆整備情報

●作業上の注意

- ・ウィンドの取り外し、取り付けには留意点に注意し、慎重に作業をすること。
- ・アッパーボディー、フロアボディー等のFRP製品の取り外し、取り付けは、無理に引っ張ったり押し込んだりしないこと。
- ・セレクトレバー、シフトワイヤー、ワイパー、ウォッシャーノズルの調整はk-1組立説明書を参照に正しく行うこと。
- ・カプラー、ハーネス類の取り外し、取り付け時にはツメを折らないように注意する。また、ビニールテープで固定するところや、ワイヤリングクリップで固定するところは正確に行う。
- ・バッテリーの取り外し、取り付けは説明文をよく読み、正確に行うこと。
- ・ブレーキパイプの取り外しは、必ずブレーキ液を抜いてから行うこと。又、車輛完成後は必ずエア抜きを行うこと。

●ウィンド取り外し時の道具

ウィンドツールセット	ガラスの脱着用
シーカフレックス255EX (プライマ付き)	ガラス接着シール剤
純正ダムラバー ウィンドモールインサイド	ガラスのシール剤

ボディー/フレーム



◆アッパーボディー

●アッパーボディーの取り外し



K-1組立説明書“ボディー編” P124~P133の逆の手順

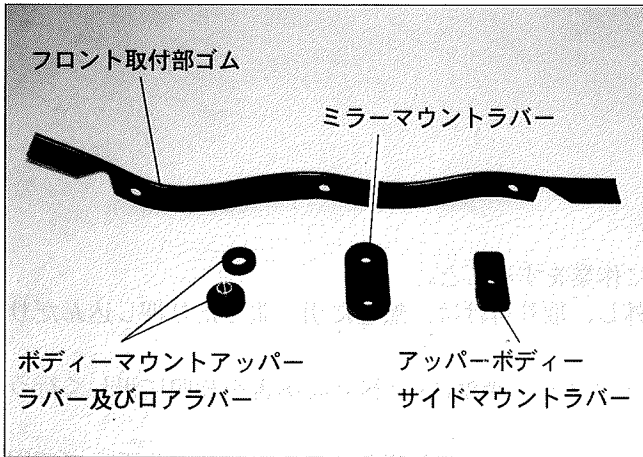
- ・その際、ヘッドランプカプラー、ワイパーモーターカプラー、ウォッシャーチューブは取り外してから行う。
- ・取り付けは、取り外しの逆の手順で行う。



K-1組立説明書“ボディー編” P124~P133参照



締付トルク:2.2kg-m



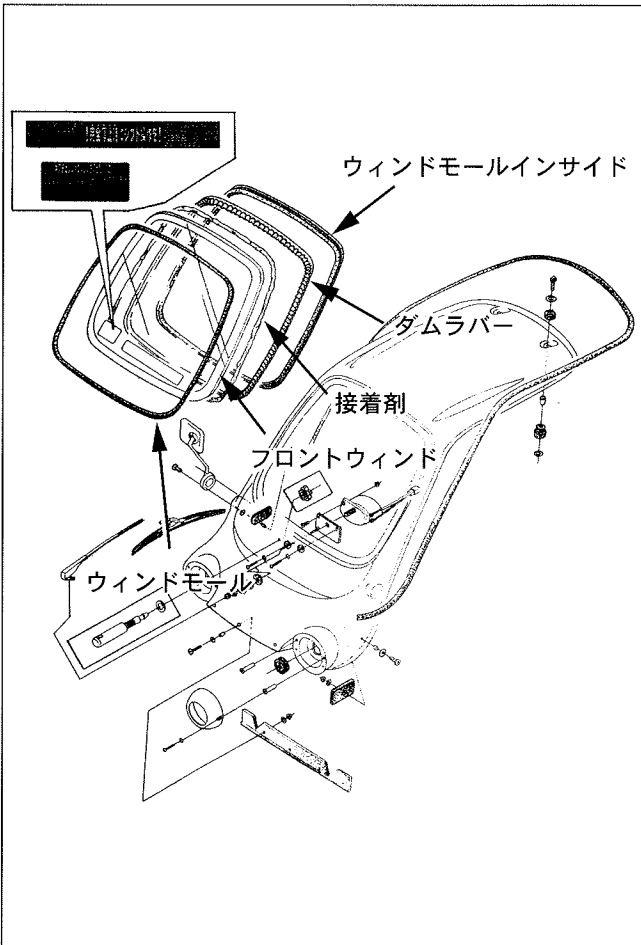
●アッパーボディーの点検

- ・アッパーボディー取り外しの際、アッパーボディーサイドマウントラバー、ミラーマウントラバー、ボディーマウントアッパーラバー及びピアラバー、フロント取付部ゴムに磨耗、破れ等がないか点検する。
- ・磨耗、破れ等がある場合は新品のものと交換する。



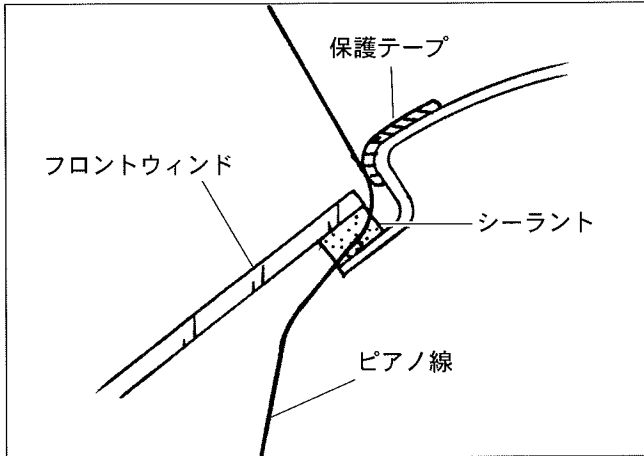
●ウィンドの取り外し

- ・フロントウィンドの取り外しの概略を左図に示す。取り外しの詳しい手順については、次ページ以降に示す。
- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



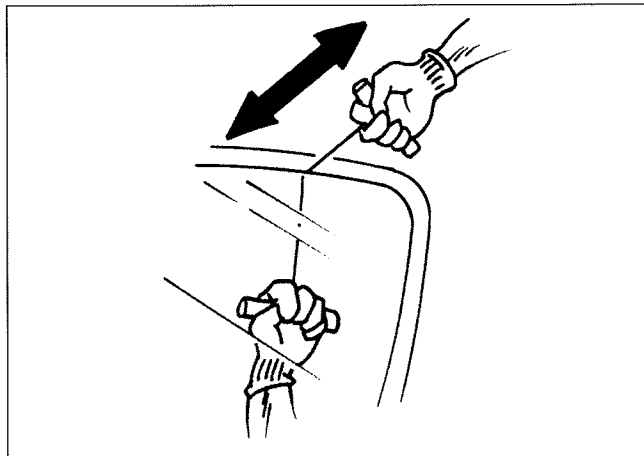
ウィンドツールセット	ガラスの脱着用
シーカフレックス255EX (プライマ付き)	ガラス接着シール剤
純正ダムラバー ウィンドモールインサイド	ガラスのシール剤

ボディー/フレーム



●ウィンドの取り外し

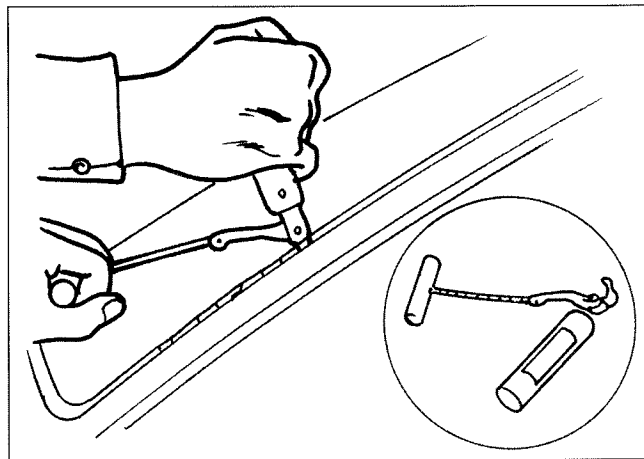
- ・ボディーのエッジに沿って保護テープを貼る。
- ・シーラントに千枚通しで貫通穴をあけ、適当な長さに切ったピアノ線を通す。



- ・ピアノ線の両端をバーに巻き付ける。
- ・2人で車内と車外からバーを持ち、ノコギリを引く要領でシーラントを全周にわたって切離し、ガラスを取り外す。

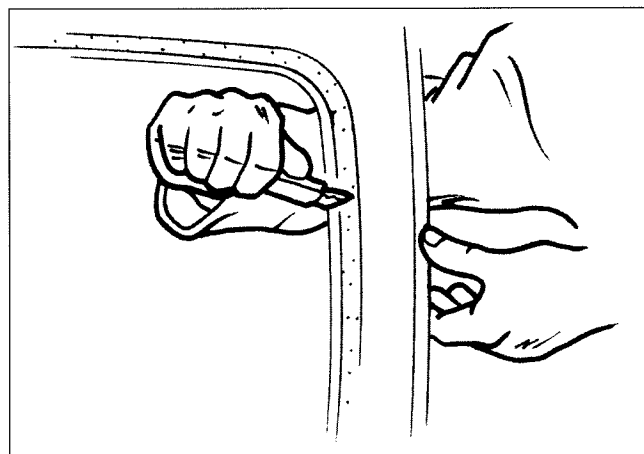


- ・局部的に熱をもつとピアノ線が切れやすいので、冷却させながら、又は使用部分を変化させながら切る。
- ・ボディー又はインパネに傷をつけないように注意する。



ガラスを再使用しない場合は、図のような工具を使用するとピアノ線よりも早く取り外すことができる。

- ・シーラントに工具の刃を入れ、バーと補助バーを引いて、シーラントを全周にわたって切り離す。
- ・ウィンドモールインサイドを取り除く。
- ・ダムラバーを取り除く。
- ・取り除いたウィンドモールインサイド、ダムラバーは再使用しないこと。



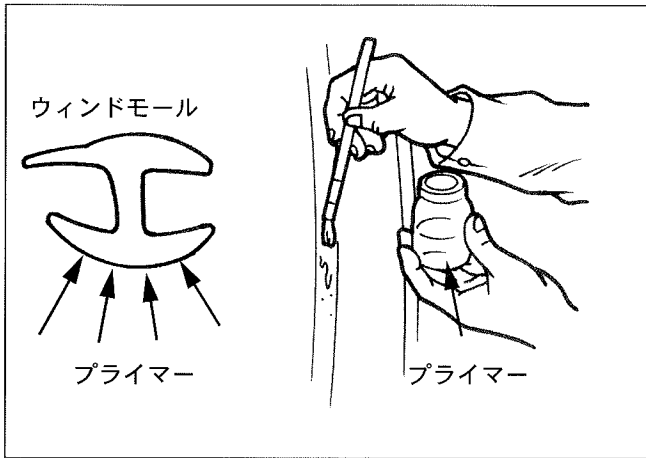
●ウィンドの取り付け

- ・カッティングナイフを使用し、厚さ1mm~2mm程度残しながらボディー側のシーラントを全周にわたり、滑らかに切っていく。



シーラントが部分的に剥離している場合は、その部分を脱脂してからリペアシールを肉盛りする。

ボディー/フレーム



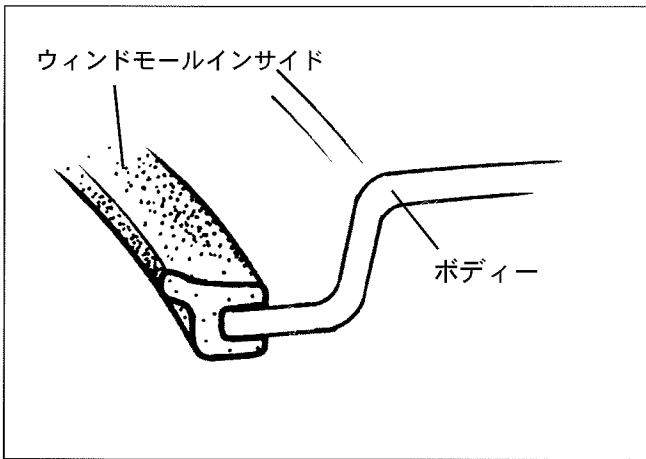
- ・ガラスのふちから約3cm幅で全周を、又ボディー側の接着面全周を清掃し、脱脂する。
- ・ガラスにはガラス用プライマー、ボディー及びモールにはボディー用プライマーを接着面全周に塗布し、10分以上乾燥させる。



接着面にホコリ、水、油等を付着させない。又、手で触らない。



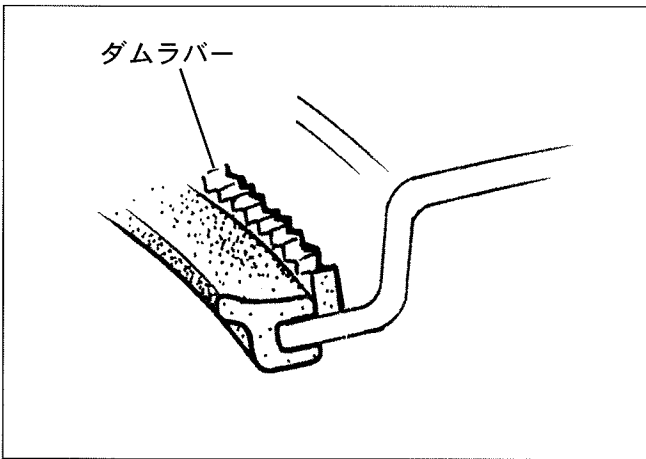
- ・ウィンドモールは新品を使用する。



- ・アッパーボディーのガラス取付面全周のふちにウィンドモールインサイドを貼り付ける。その後、数箇所瞬間接着剤をたらす。



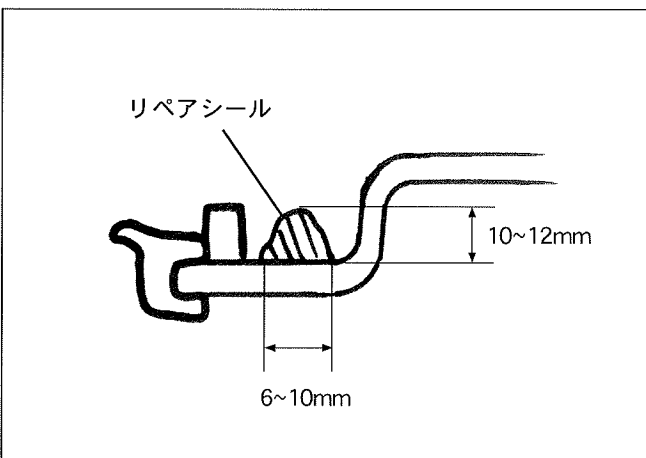
- ・ウィンドモールインサイドは新品を使用する。



- ・ウィンドモールインサイドに沿ってダムラバーを貼り付ける。



- ・ダムラバーは新品を使用する。



- ・シーラントガンにリペアシールをセットする。
- ・リペアシールをアッパーボディー側に塗布する。

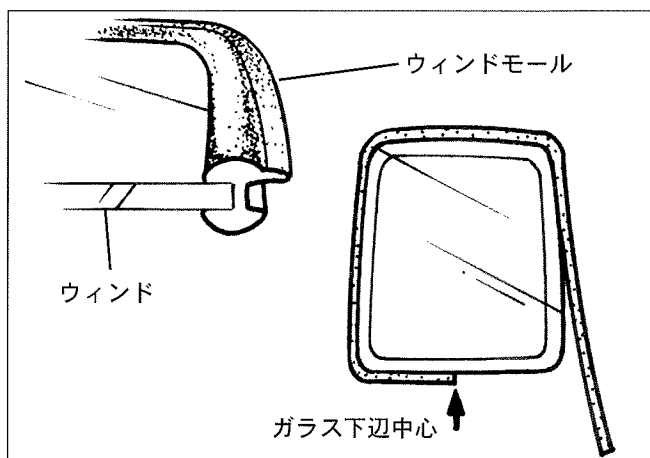


カートリッジのシール膜は針金等で突き破って使用する。塗布状態が不良の場合はヘラ等を使って修正する。



リペアシール：推奨“シーカフレックス255Extra”
上記以外のシール材を使用の際はそのシール材に適した条件で作業すること。

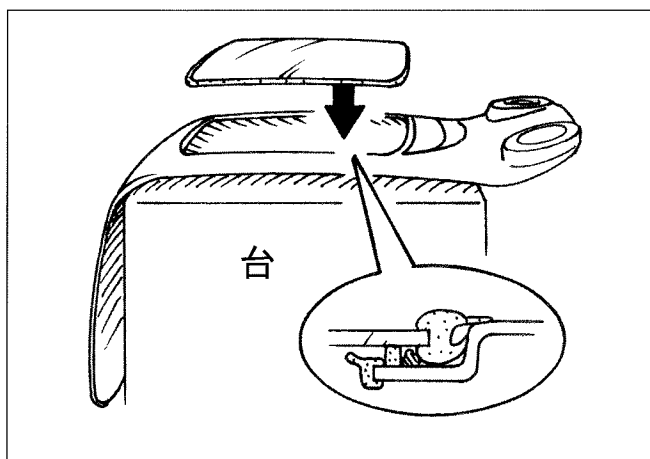
ボディー/フレーム



- ・ガラス全周にウィンドモールをはめる。ウィンドモールの向きに注意する。
- ・ウィンドモールはガラス下辺中心より取り付ける。



シール材塗布後、5分以内にガラスを接着すること。



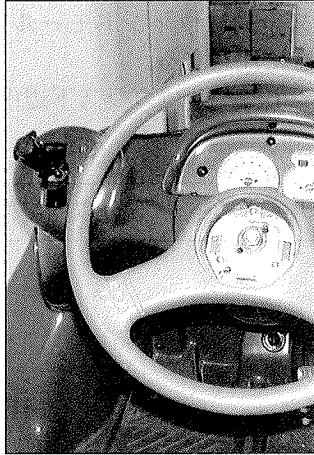
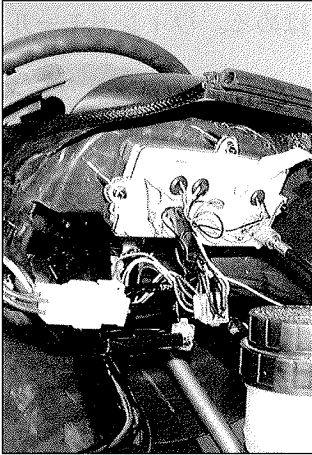
ガラスの取り扱いに注意すること。

- ・ガラス面とボディー面をほぼ同じ高さにする。

リペアシール硬化時間

気温	走行可能時間
5°C	48h(湿度30~70%) 8h(湿度70~80%)
20°C	8h
35°C	4h

ボディー/フレーム

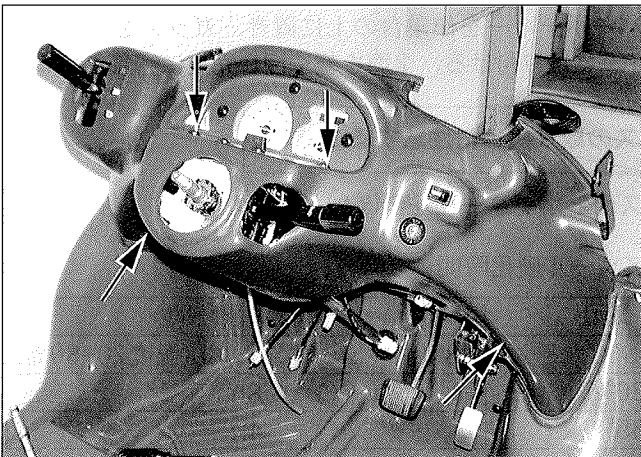


●インパネの取り外し

- ・インパネの取り外しはアッパーボディー、ステアリングシフトノブ、ウォッシャーチューブ、ウォッシャータンクカプラー、イグニッションスイッチカプラー、スタータースイッチカプラー、スピードメーターケーブル先端(コンビネーションメーター側)、ハザードスイッチカプラー、ワイパースイッチカプラーをそれぞれ取り外してから行う。



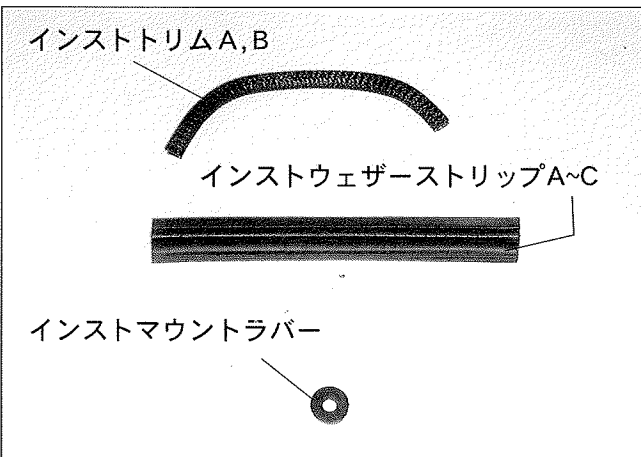
K-1組立説明書“ボディー編” P99~P106の逆の手順



- ・矢印部の取付ビス(4箇所)を外す。
- ・インパネASSYを外す。
- ・取り付けはこの逆の手順で行う。

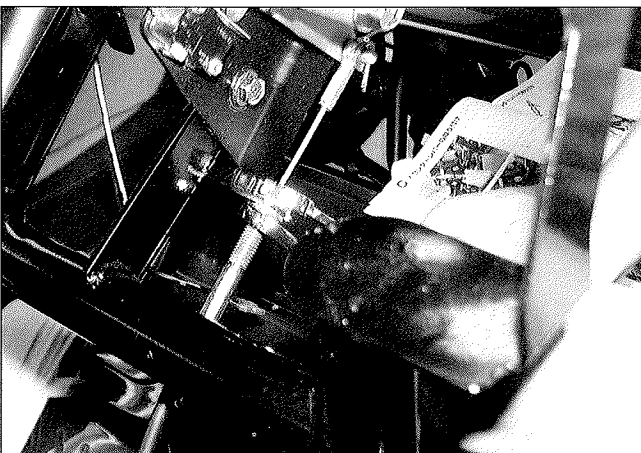


K-1組立説明書“ボディー編” P99~P106参照



●インパネ、ゴム類の点検

- ・インパネASSYを取り外しの際、インストマウントラバー、インストウェザーストリップA~C、インストトリムA, Bの磨耗、劣化等がないか点検する。
- ・磨耗、劣化がある場合は新品と交換する。



●セレクトレバー取り外し

- ・インパネを取り外す。(→P-8)
- ・バックランプスイッチ端子を外す。
- ・セレクトレバーASSYに取り付けてあるシフトワイヤーケーブルのナットを緩める。

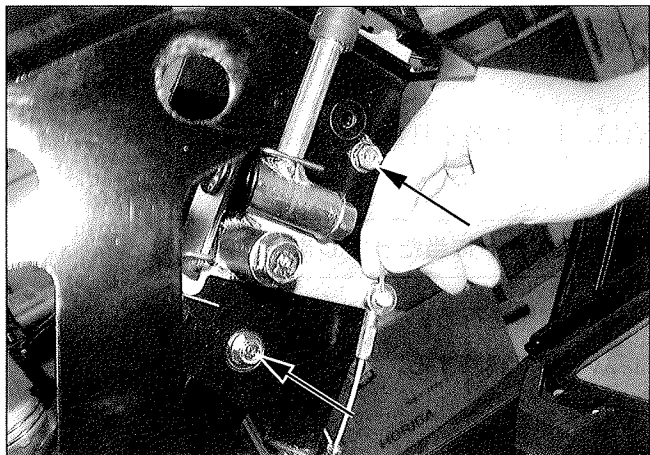


K-1組立説明書“ボディー編” P87,88と合わせて作業すると良い。

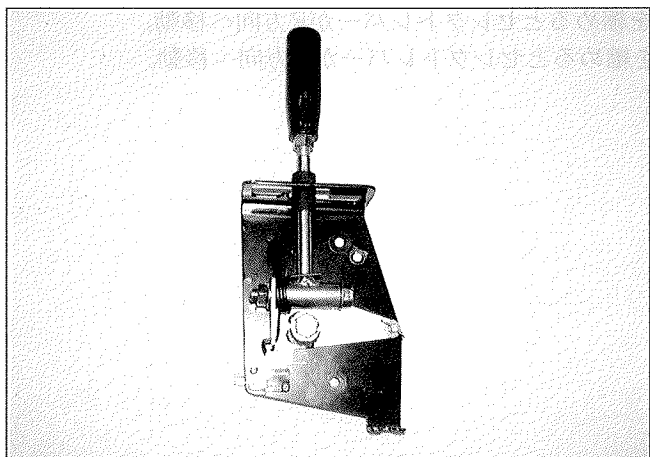


締付トルク：1.2kg-m

ボディー/フレーム



- ・スプリットピン、ワッシャーを外す。
- ・シフトワイヤーケーブルの先端を外す。
- ・矢印部のボルト2本を外してセレクトレバーASSYを取り外す。



●セレクトレバーの分解

- ・セレクトレバーASSYを取り外す。(→P-9)

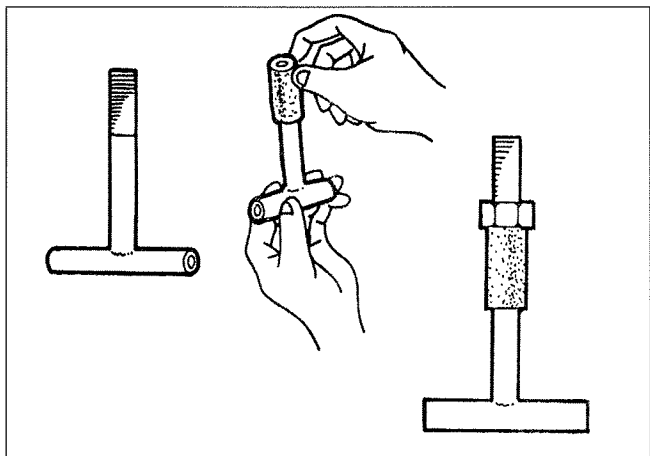


K-1組立説明書“ボディー編” P81~P84の逆の手順

- ・組み立てはこの逆の手順で行う。



K-1組立説明書“ボディー編” P81~P84参照



●セレクトレバーの点検

- ・クッションカバーの磨耗、劣化を点検する。



- ・磨耗、劣化がある場合は、新品と交換する。

●セレクトレバー/シフトワイヤーケーブルの取り付け/調整

- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



K-1組立説明書“ボディー編” P81~P88参照



セレクトレバー動作範囲調整の詳細は次項以降に従うこと。



- ・スプリットピンは新品のものと交換する。

ボディー/フレーム

◆セレクトレバー/シフトワイヤーケーブルの調整

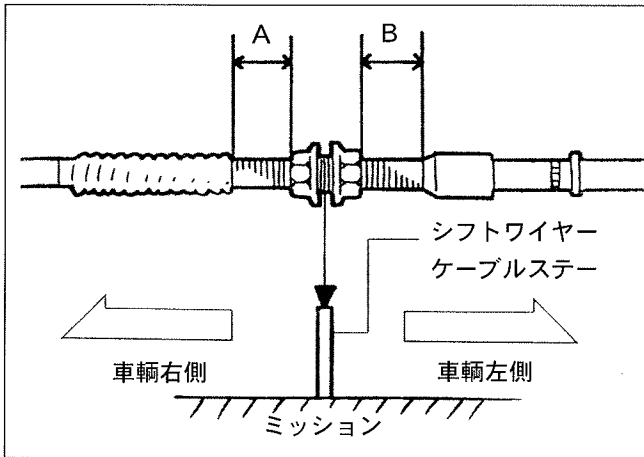
- ・セレクトレバー/シフトワイヤーケーブル調整の不具合がある場合は、以下に各不具合別対処法を示す。

症状

Dレンジ、又はRレンジ側へ動かしたとき、カチッと音がする前にゲートに当たってしまう。

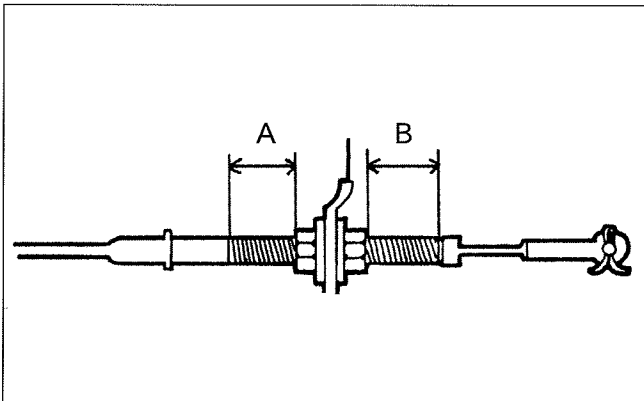
- ・シフトワイヤーケーブルの調整不良が考えられる。以下に従いケーブル調整を行う。
- ・まず、ミッション側で調整し、それでも足りない場合はセレクトレバー側で調整する。

ミッション側ケーブル調整部



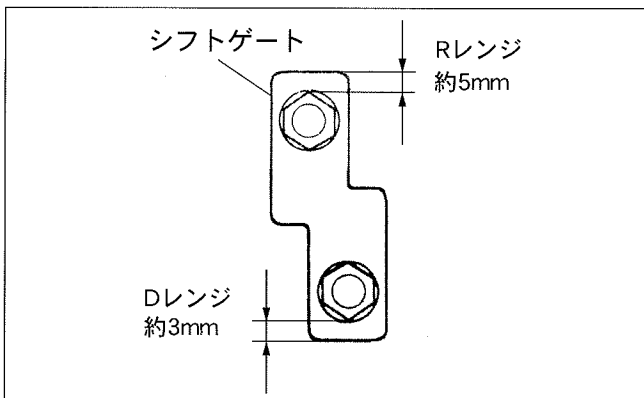
- ・A側を縮めるとセレクトレバーがR方向へ移動。
- ・B側を縮めるとセレクトレバーがD方向へ移動。

セレクトレバー側ケーブル調整部



- ・A側を縮めるとセレクトレバーがR方向へ移動。
- ・B側を縮めるとセレクトレバーがD方向へ移動。

調整基準値



- ・Dレンジの状態でクッションカバーとゲートの隙間3mm。
- ・Rレンジの状態で5mmが設定値になる。
- ・クッションカバーとゲートに隙間ができる範囲でD、Rのポジションになるようにする。

ボディー/フレーム

症状

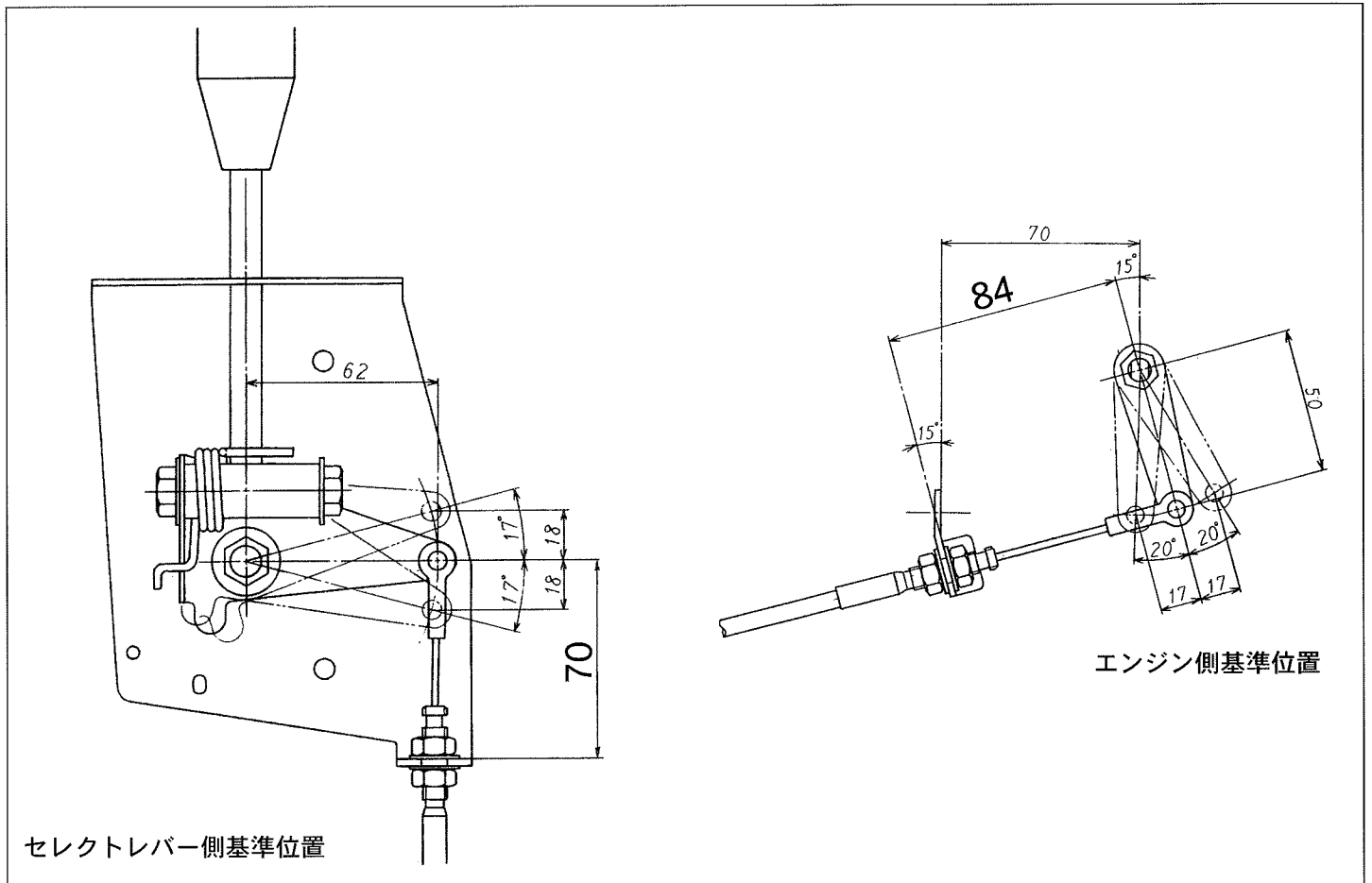
前ページの調整でもD, Rのポジションにならない。

- まず、セレクトレバーをNレンジにして以下の各寸法を測定する。(特にエンジン側基準値84mm部分及びセレクトレバー側基準値70mm部分)下図参照。調整しても基準値にならない場合、ミッション側のシフトアームの滑りが考えられる。(無理なシフトをされた場合のギヤ破損防止のため、シフトアームは固着構造としていません。)

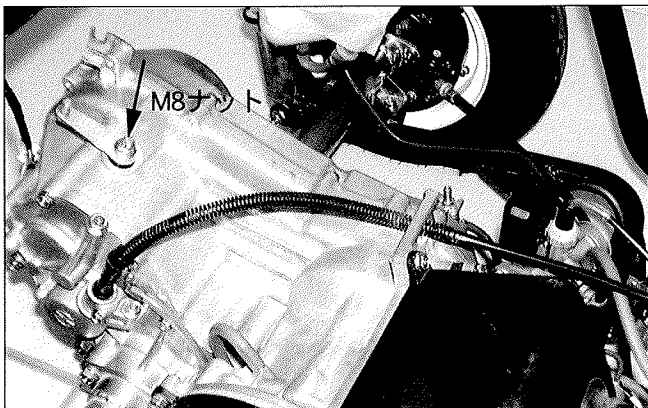
その場合、1度シフトワイヤーケーブルを外し、シフトアーム上部のナットM8(図A)を緩め、以下に示す寸法となるようにしてナットを規定トルク(2.5kg-m)で締め付ける。(図B)

それでもなおらない場合はシフトワイヤーケーブルを新品と交換する。

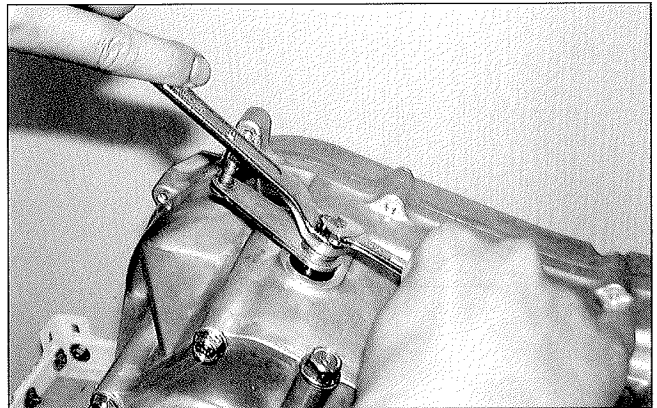
最後に、前ページと同様にシフトワイヤーケーブルの再調整する。



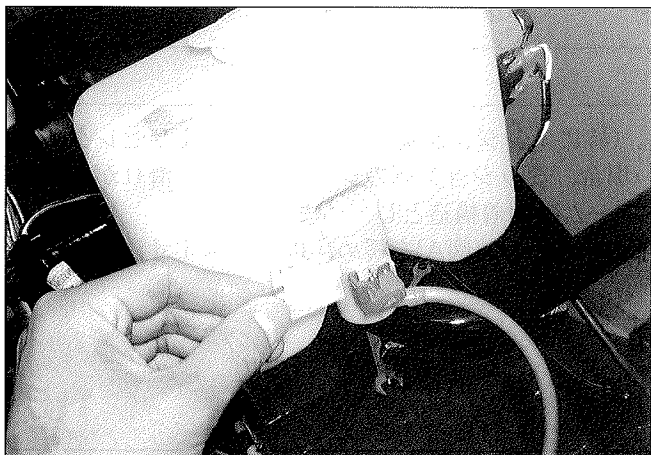
(図A)



(図B)

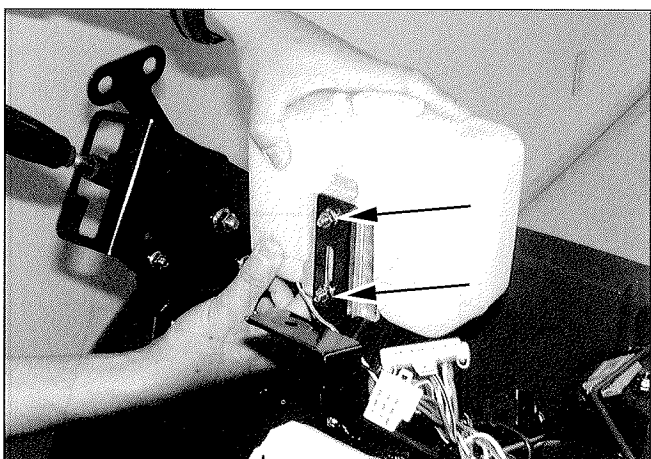


ボディ/フレーム



●ウォッシャータンク取り外し

- ・インパネを取り外す。
- ・タンク内のウォッシャー液を全て抜き取ってから行う。
- ・ウォッシャータンクカプラーを取り外す。
- ・ウォッシャーチューブを取り外す。



- ・ウォッシャータンクをウォッシャータンクステーから抜き取る。

●ウォッシャータンクの点検



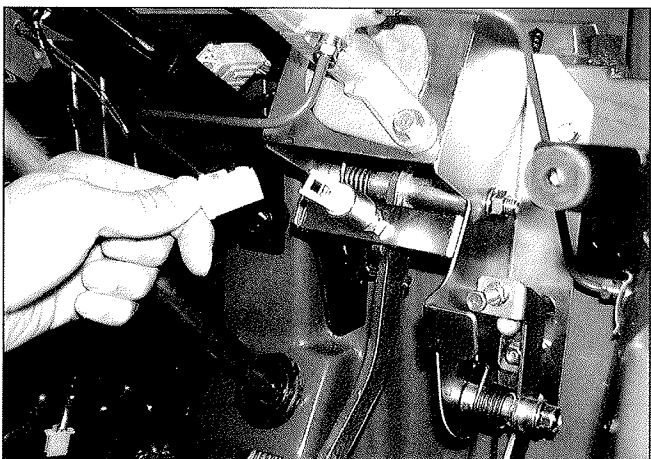
- ・ウォッシャータンクに液漏れ、破損がある場合は新品と交換する。
- ・ウォッシャータンクステーをとめているM6フランジナットを外す。
- ・ウォッシャータンクの取り付けは、この逆の手順で行う。



K-1組立説明書“ボディ編”P89参照



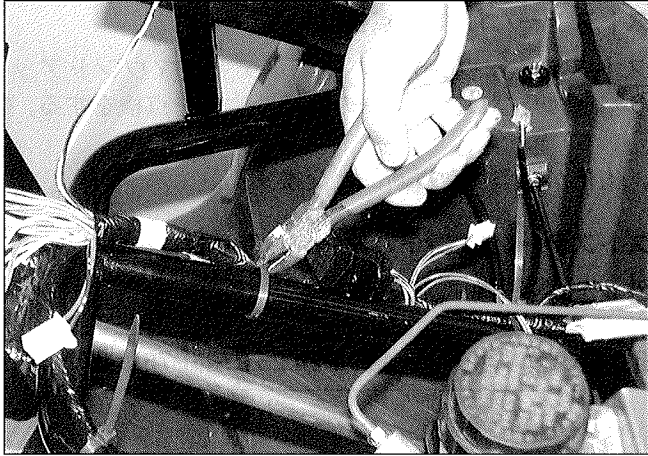
締付トルク：1.0kg-m



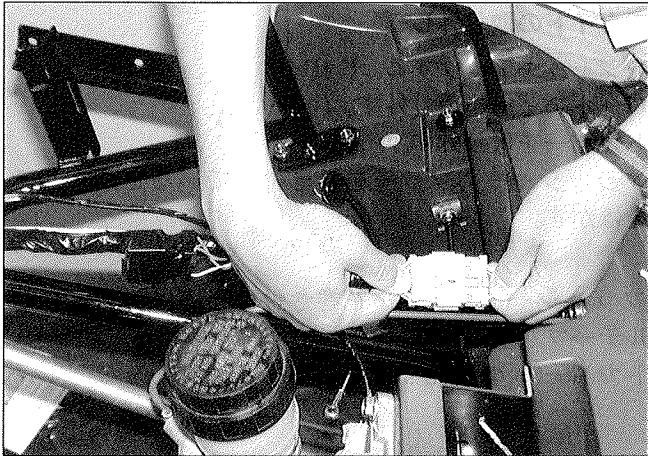
●インストステーの取り外し

- ・アッパーボディを取り外す。(→P-4)
- ・インパネを取り外す。(→P-8)
- ・セレクトレバーを取り外す。(→P-8)
- ・ウォッシャータンクを取り外す。(→P-12)
- ・コンビネーションスイッチを取り外す。(→L-8)
- ・ストップスイッチのカプラーを取り外す。

ボディー/フレーム



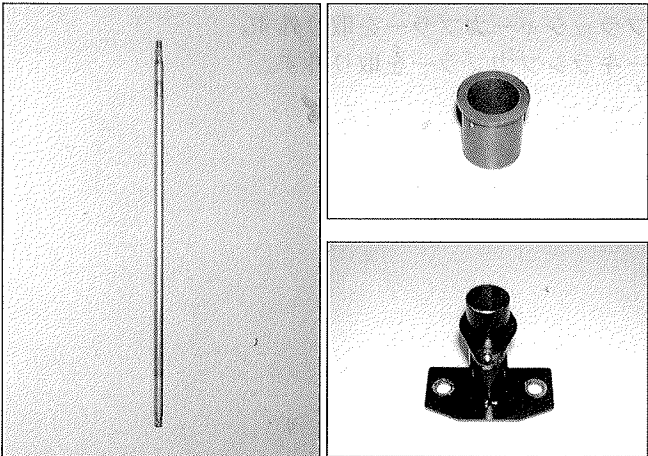
- ・フロントハーネスをとめているワイヤリングクリップ(3本)を切り取る。



- ・フロントハーネスとリアハーネスの接続を取り外す。



- ・フロントハーネス取り付けの際は、新品のワイヤリングクリップに交換すること。



- ・ステアリングシャフト、ステアリングシャフトブッシュ、ステアリングシャフトステーを取り外す。(→L-10)

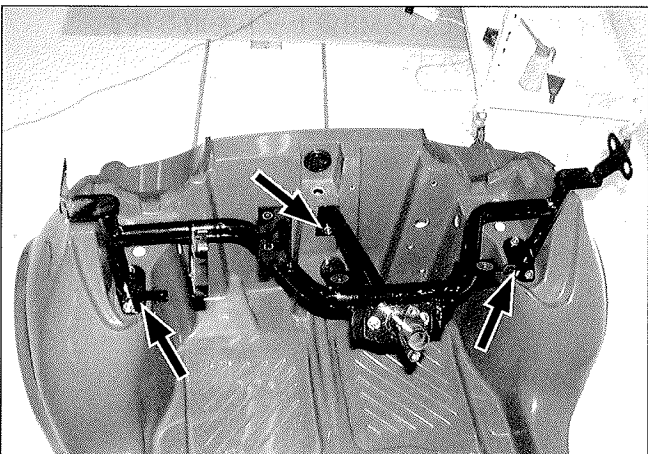
●ステアリングシャフト/その他の点検



- ・ステアリングシャフトブッシュに亀裂、損傷があるものは新品と交換する。



- ・ステアリングシャフト、ステアリングシャフトステーに変形、損傷があるものは新品と交換する。



- ・矢印部3箇所の取付ボルト、ナット、ワッシャー、ラバーをそれぞれ取り外す。

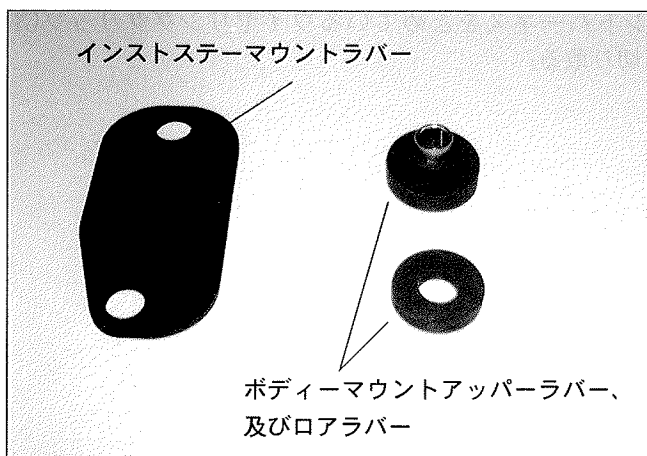


K-1組立説明書“ボディー編”P24,25の逆の手順



締付トルク：2.2kg-m

ボディー/フレーム



●インストステー/ゴム類の点検

- ・インストステーマウントラバー、ボディーマウントアッパーラバー、及びロアラバーの磨耗、劣化を点検をする。



- ・磨耗、劣化がある場合は新品と交換する。

●インストステー/フロントハーネスの取り付け

- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



K-1組立説明書“ボディー編” P24,25,P74~P76参照

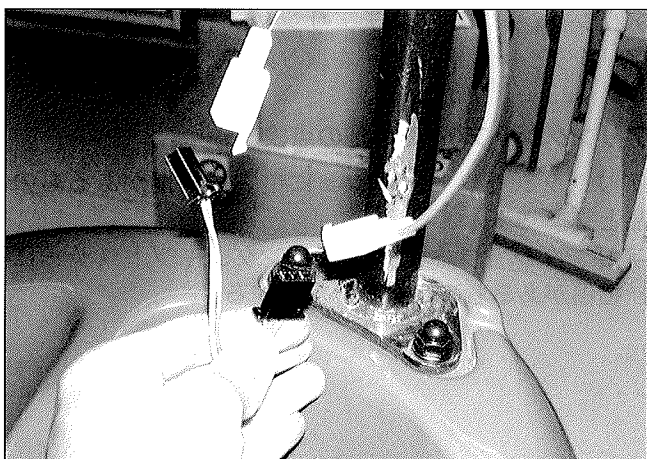


●ルーフガイドの取り外し

- ・車輛をジャッキアップする。(→B-9)
- ・アッパーボディーを取り外す。(→P-4)
- ・ライトカバーを取り外す。
- ・リヤフラッシュャーカプラーを巻き付けているビニールテープをはがす。



- ・リヤフラッシュャーカプラーを巻き付ける際は、新しいビニールテープを使用する。
- ・ライトカバー(標準品)は新品を使用する。



- ・リヤフラッシュャーカプラーを取り外す。
- ・ブレーキランプカプラーを取り外す。



- ・ルーフガイドをとめているM8袋ナットを取り外す。
- ・ルーフガイドを取り外す。

ボディー/フレーム



●ルーフガイドマウントラバー点検



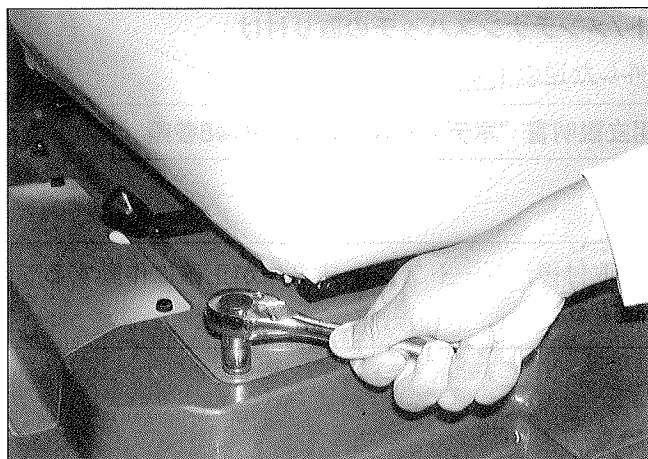
- ・ルーフガイドマウントラバーの磨耗、劣化を点検する。
- ・磨耗、劣化がある場合は新品と交換する。

●ルーフガイドの取り付け

- ・取り外した逆の手順で取り付ける。

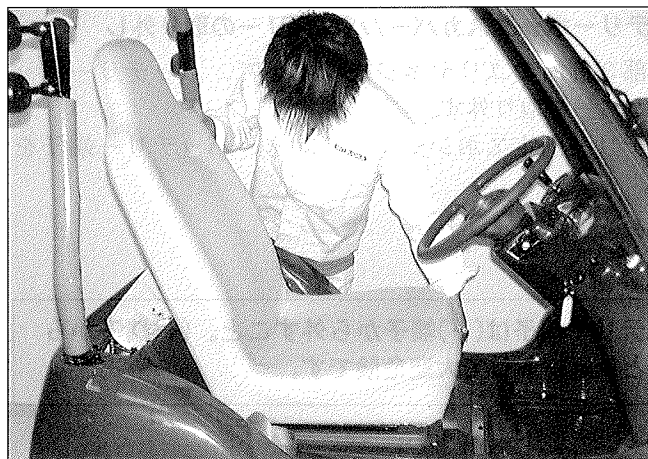


K-1組立説明書“ボディー編” P22,P49参照



●シート/メンテナンスハッチの取り外し

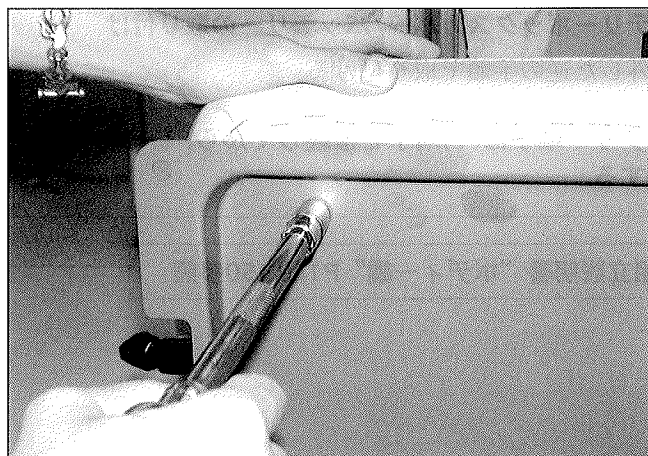
- ・メンテナンスハッチをとめているM8袋ボルト(4箇所)を取り外す。



- ・メンテナンスハッチごとシートを取り外す。



取り外しの際、メンテナンスハッチの端部をボディー、インパネ等に接触させて傷つけないようにする。



●メンテナンスハッチの取り外し

- ・メンテナンスハッチとシートレールをとめているM8フランジナットを取り外す。

ボディー/フレーム



●シートの取り外し

- ・シートアジャスターを止めているM8フランジボルト(4箇所)を取り外す。



K-1組立説明書“ボディー編” P142~P144の逆の手順

●シートの点検

- ・シートのへたり、損傷を点検する。
- ・シートアジャスターの作動を点検する。



●シート/メンテナンスハッチの取り付け

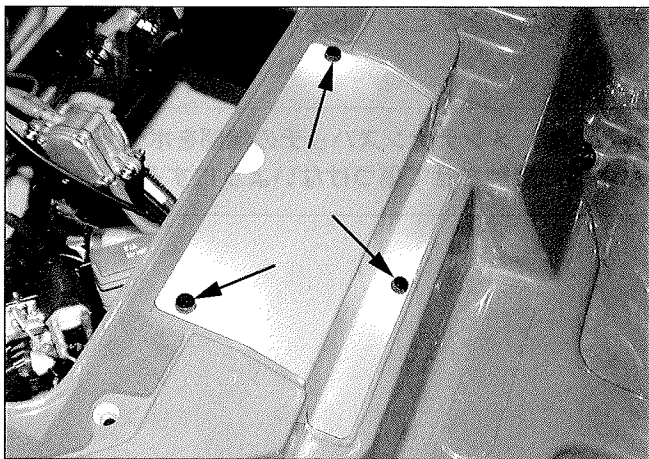
- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



K-1組立説明書“ボディー編” P142~P148参照



シート取付後、シートアジャスターが正確に作動するか確認する。



●バッテリーボックスカバー/バッテリーの取り外し

- ・矢印部3箇所のユリヤネジをはずして、バッテリーボックスカバーを取り外す。
- ・バッテリー固定スポンジを取り除き、バッテリー端子を外す。



バッテリー端子は(-)端子から外すこと。(+)端子から外すとショートして大変危険です。



●バッテリーボックスカバー/バッテリーの取り付け

- ・取り外した逆の手順で取り付ける。

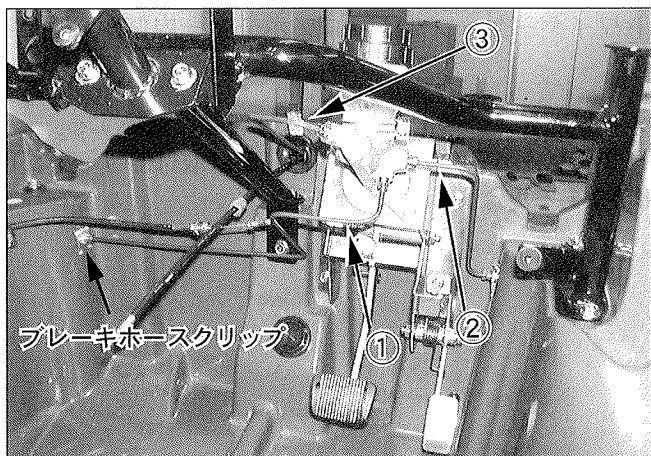


バッテリー端子は(+)端子を接続してから、(-)端子を接続する。



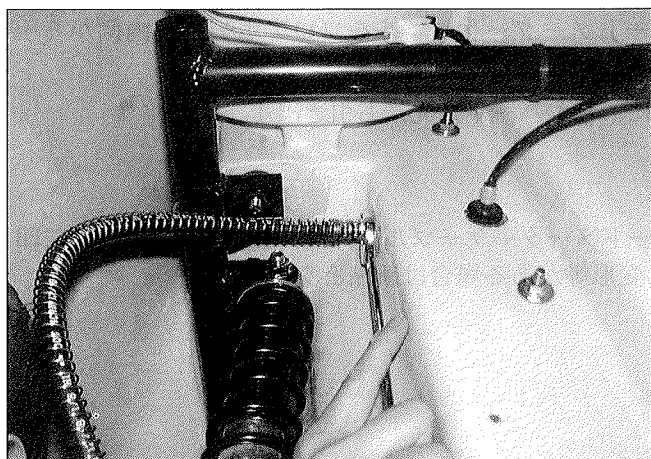
K-1組立説明書“ボディー編” P149,150参照

ボディー/フレーム



◆フロアボディーの取り外し

- ・P-4~P-16の状態(バッテリー取り外しまで)で行う。
- ・ブレーキ液を完全に抜いてから行う。
- ・車輛をジャッキアップする。
- ・①、②はブレーキホースクリップをプライヤー等で引き抜いてから取り外す。



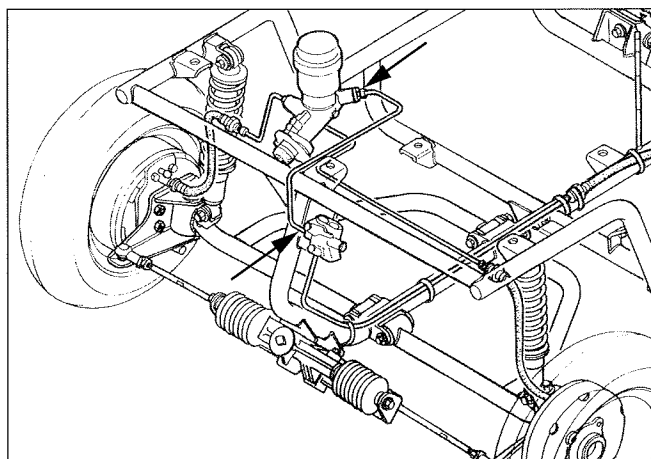
- ・上記①、②の取り外しはブレーキホース側を19mmスパナで押さえながら取り外す。その際、必ずフレアナットレンチを使用する。
- ・フロントブレーキホースステーを取り外す。



K-1組立説明書“ボディー編”P64の逆の手順



写真はボディー裏側



- ・③、ブレーキパイプリヤAはマスターシリンダー側とプロポーションバルブ側両方を取り外す。(矢印部)



取り外した①、②、③のそれぞれの両端には、ゴミ、ホコリ等が入らないようにキャップでフタをするか、テープ等で両端をふさぐこと。

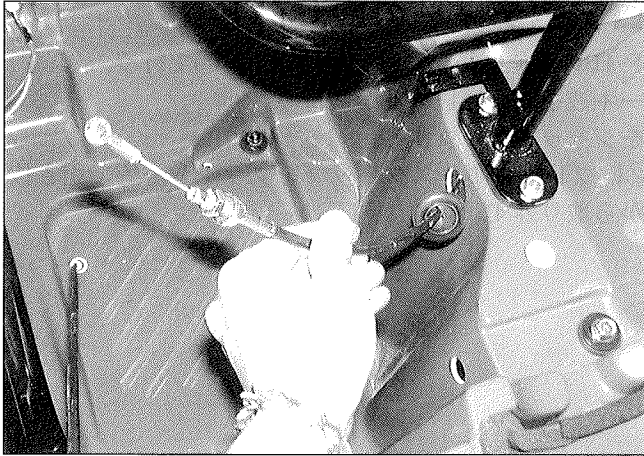


●各種カップラー/ケーブル類の取り外し

- ・リヤフラッシャーカップラーをフロアボディー内側から引き出す。
- ・グロメットに磨耗、劣化がある場合は新品と交換する。



ボディー/フレーム



- ・シフトワイヤーケーブルをフロアボディー内側から引き出す。



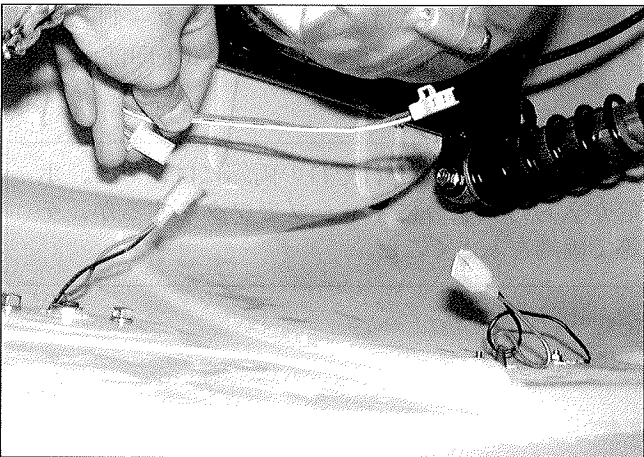
- ・グロメットに磨耗、劣化がある場合は新品と交換する。
- ・シフトワイヤーケーブルに外傷、伸び又は取付部(ナット部)に変形等がある場合は新品と交換する。



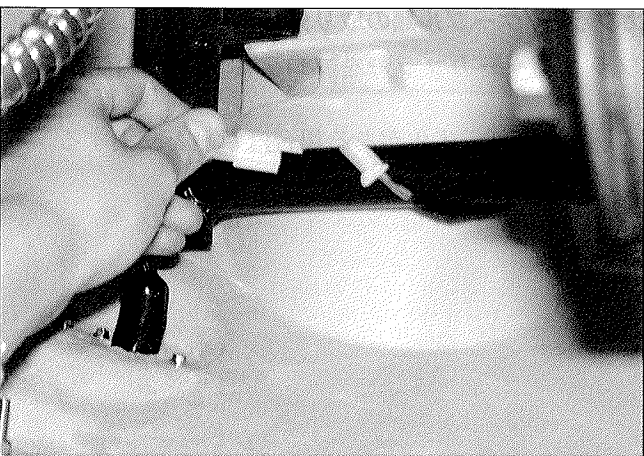
- ・スピードメーターケーブルをフロアボディー内側から引き出す。
- ・同時に、リヤハーネス先端も引き出す。



- ・スピードメーターケーブルに外傷、伸び又は取付部(矢印部)に変形等がある場合は新品と交換する。

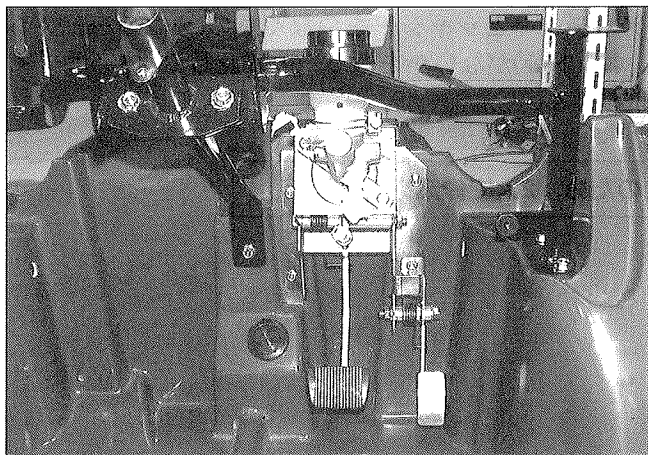


- ・ボディー裏側よりナンバーランプカプラー、バックランプカプラーを取り外す。



- ・ボディー裏側よりフロントフラッシャーカプラーを取り外す。

ボディー/フレーム



- ・パーキングブレーキCOMPを取り外す。
- ・アクセルワイヤーケーブルを取り外す。



●オイルタンクキャップの取り外し

- ・オイルタンクキャップを取り外す。



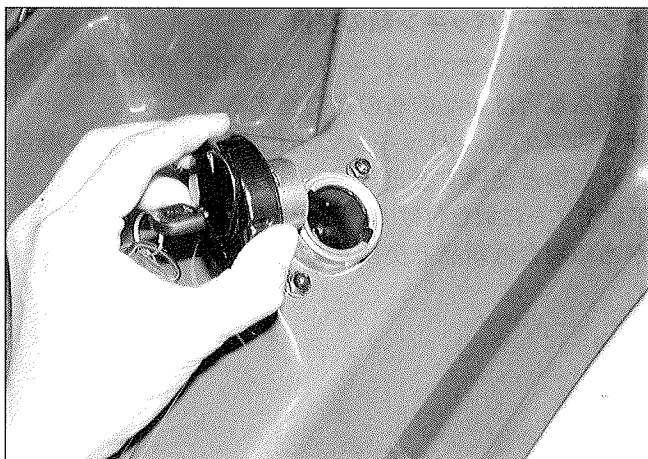
フロアボディーを取り外したら、すみやかにオイルタンクキャップを取り付けること。



- ・グロメットに磨耗、劣化がある場合は新品と交換する。



火気厳禁



●フューエルフィルターキャップの取り外し

- ・キーを差し込み、右にひねってフューエルフィルターキャップを取り外す。



フロアボディーを取り外したら、すみやかにフューエルフィルターキャップを取り付けること。



火気厳禁



- ・フロアボディーとフューエルフィルターメタルをとめているM6袋ボルト及びワッシャーを取り外す。

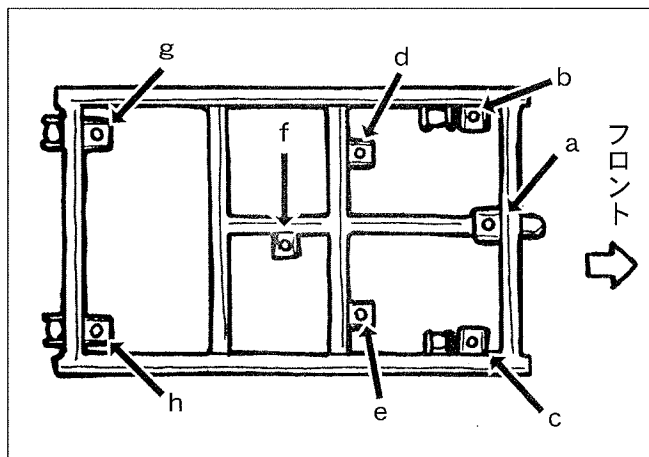
ボディー/フレーム



- ・フロアボディーとシャシーをつなぐもの(カプラー、ワイヤー、ボルト等)がないかをもう一度確認し、フロアボディーを取り外す。



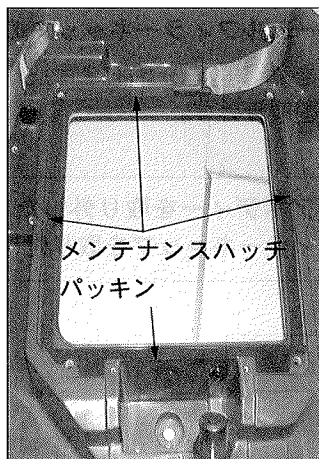
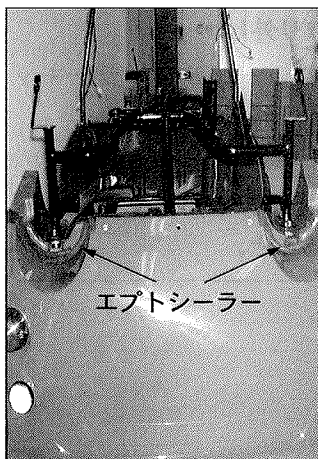
安全のため、2人で作業を行うこと。



- ・フロアボディーをフレームにとめているa~hのボルト、ナット、ワッシャー、ボディーマウントアッパーラバー、ロアラバーを全て取り外す。



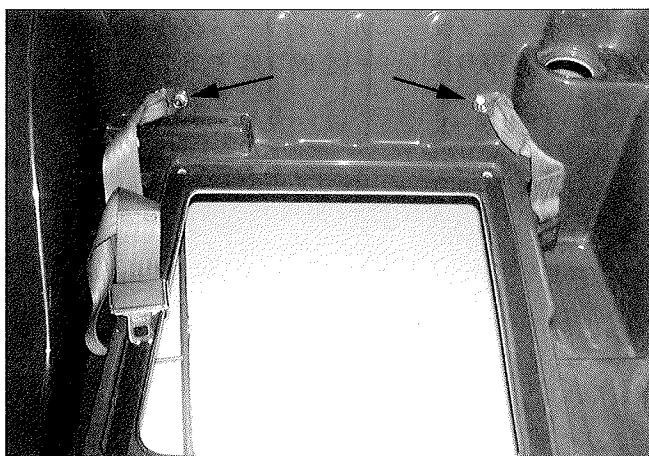
- ・ボディーマウントアッパーラバー、ロアラバーに磨耗、劣化がある場合は新品と交換する。



●エプトシーラー/パッキン類の交換



- ・ヘッドランプ部のエプトシーラーが劣化、損傷により、雨漏りする場合は新品のものと交換する。
- ・メンテナンスハッチパッキンの劣化、損傷が著しい場合は新品のものと交換する。
- ・フロアボディーに取り付けている全てのグロメットに磨耗、劣化がある場合は新品と交換する。



●シートベルト取り外し

- ・矢印部のM10フランジボルトを外し、シートベルトを取り外す。
- ・取り付けは逆の手順で行う。

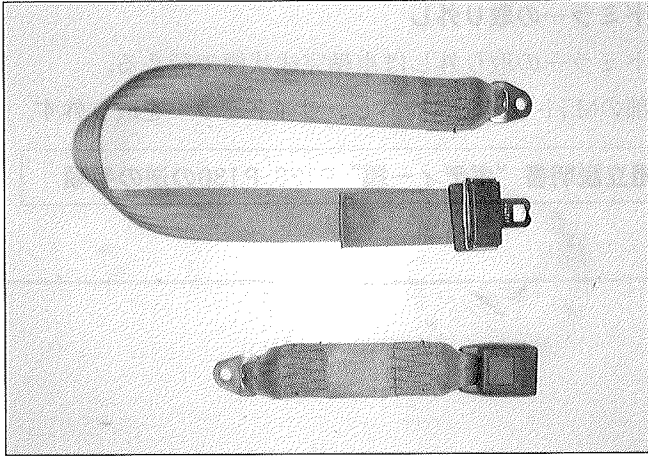


K-1組立説明書“ボディー編” P10,11参照



締付トルク：3.0kg-m

ボディー/フレーム



●シートベルトの点検

- ・シートベルト取付部及び先端差込部に変形、損傷がないか点検する。
- ・シートベルト帯部に破れ等がないか点検する。



- ・いずれかの不具合がある場合はシートベルトを新品と交換する。

●フロアボディーの取り付け

- ・取り外した逆の手順で取り付ける。

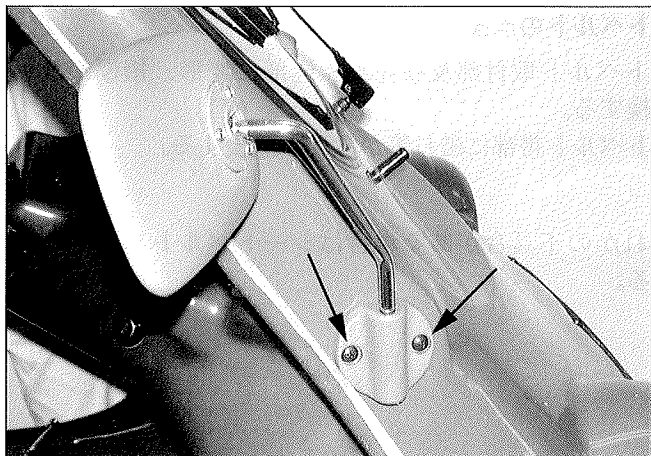


K-1組立説明書“ボディー編” P40~P46参照



取付後各種点検、確認を行う。

ボディー/フレーム

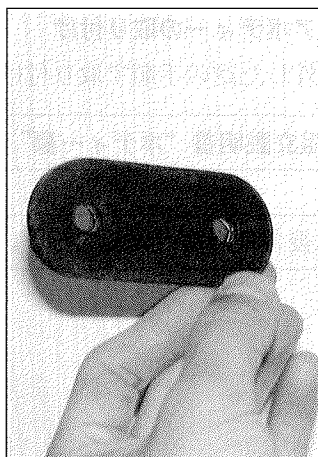
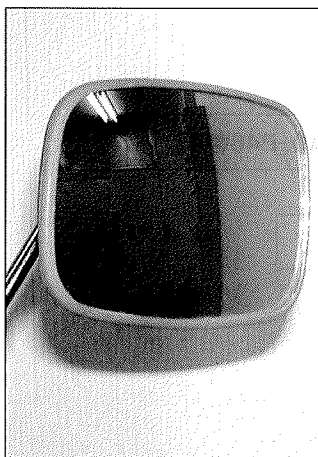


●サイドミラーの取り外し

- ・サイドミラーの取り外しは車輛完成状態で行える。
- ・矢印部のM5トラスビスを外し、サイドミラーを取り外す。



K-1組立説明書“ボディー編” P128~P130の逆の手順

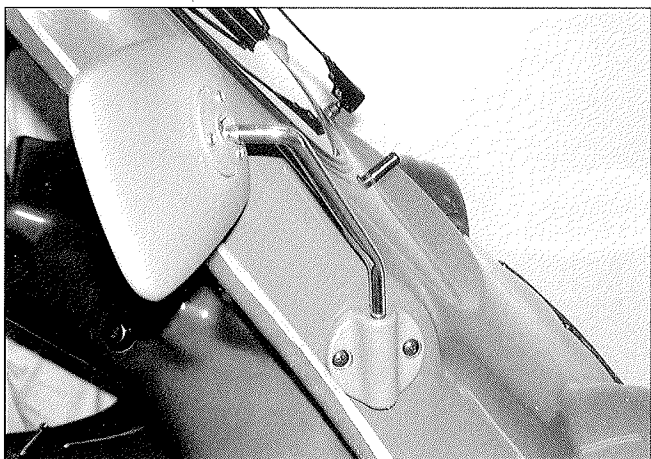


●サイドミラーの点検

- ・サイドミラーの歪み、損傷等がないか点検する。
- ・鏡面部にひび、損傷等がないか点検する。
- ・ミラーマウントラバーに磨耗、劣化がないか点検する。



- ・いずれかの不具合がある場合はサイドミラーを新品と交換する。



●サイドミラーの取り付け

- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



K-1組立説明書“ボディー編” P128~P130参照

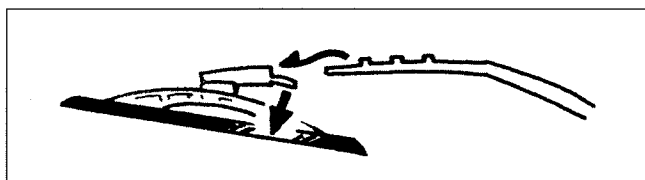
ボディー/フレーム



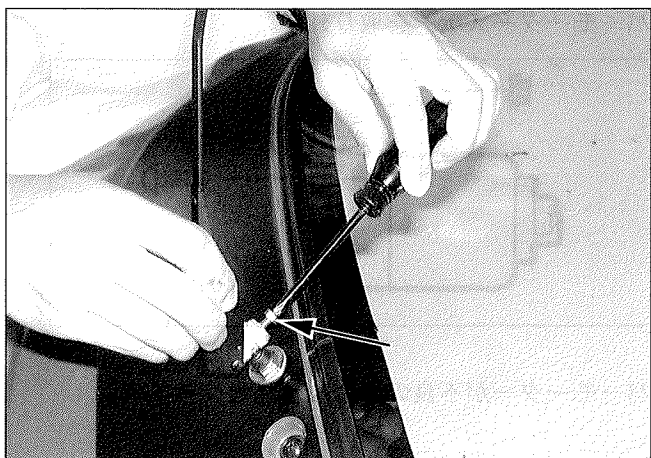
●ワイパー/ワイパーモーターの取り外し



- ・取り外しの前にワイパーを作動させ、動作点検をしておく。
- ・ワイパーモーター不良の場合は新品と交換する。
- ・ワイパーモーターの取り外しはアッパーボディーを取り外してから行うこと。(→P-4)
- ・ワイパーブレードを取り外す。(下図参照)



- ・矢印部のビスをゆるめてワイパーアームを取り外す。

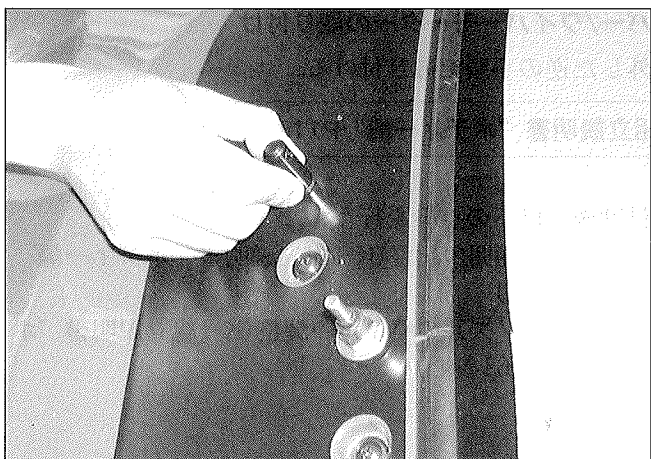


- ・ウォッシャーノズルを取り外す。

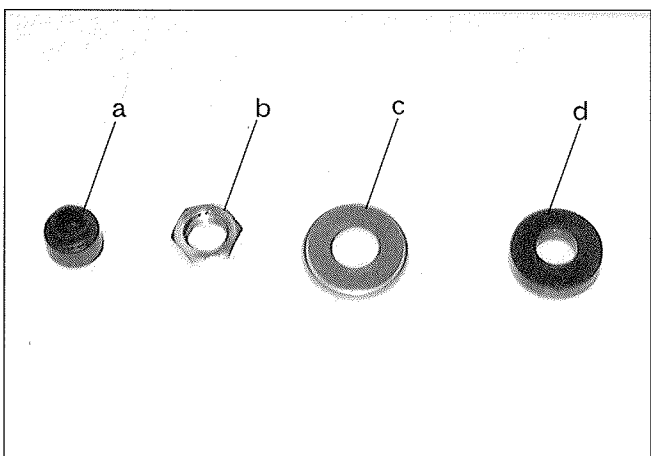
●ウォッシャーノズルの点検



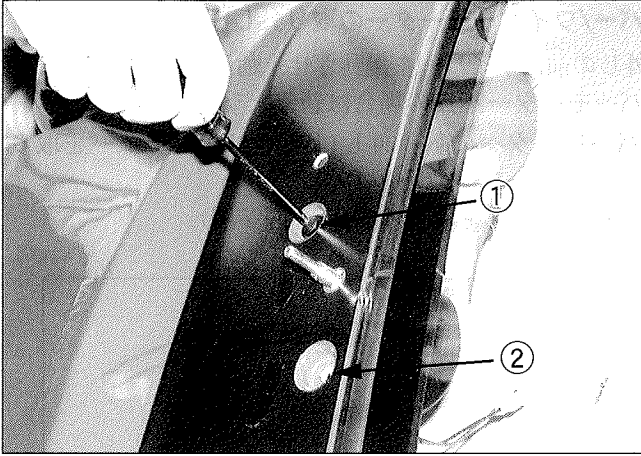
- ・ワイパーブレード、ワイパーアーム、ウォッシャーノズルに劣化、損傷がないか点検する。
- ・劣化、損傷がある場合は新品と交換する。



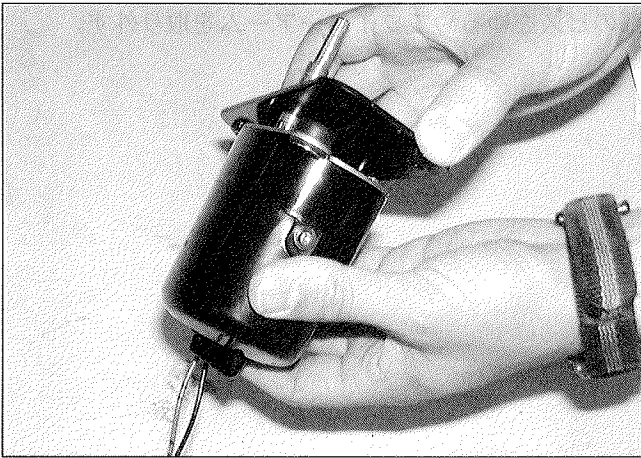
- ・ワイパーモーターシャフト軸のパーツa~dを取り外す。



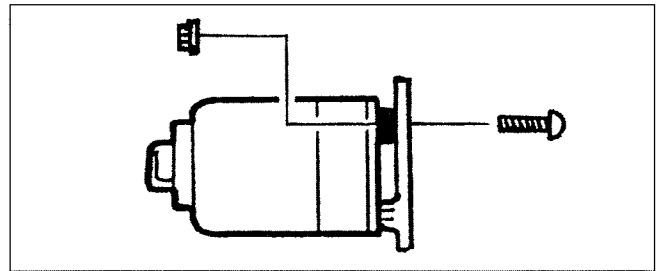
ボディ/フレーム



- ・ 矢印①、②のトラスビスを外し、ワイパーモーターを取り外す。



- ・ ワイパーモーターステーを取り外す。



- ・ ワイパーモーターが不良の場合は新品と交換する。

●ワイパー/ワイパーモーターの取り付け

- ・ 取り外した逆の手順で取り付ける。



K-1組立説明書“ボディ編” P118~P123参照

- ・ 取り付け後、以下の点検を行う。



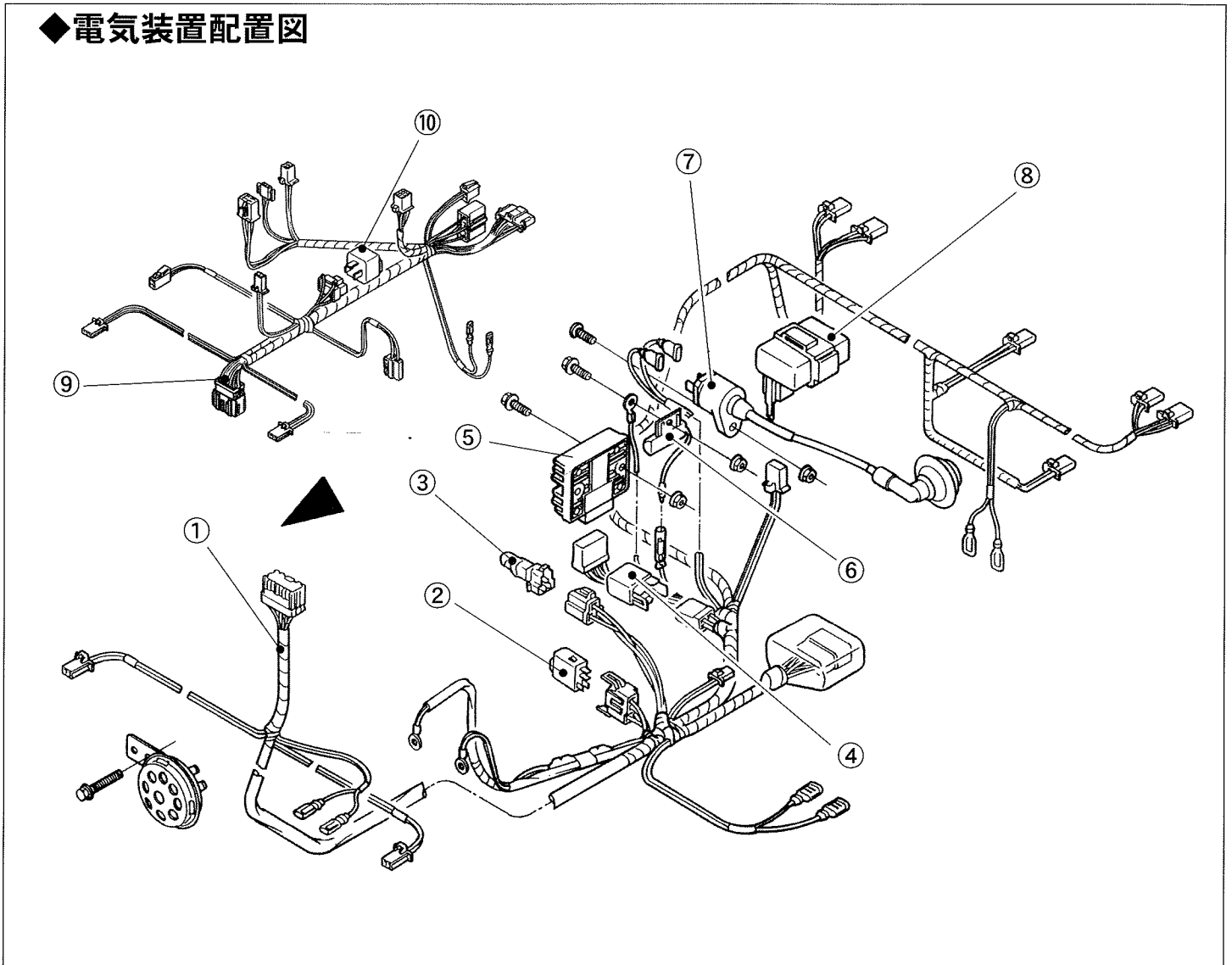
ーワイパー動作範囲の調整 (K-1組立説明書“ボディ編” P159,160参照)



ーウォッシャーノズルの噴射角の調整 (K-1組立説明書“ボディ編” P161参照)

電気系統

◆電気装置配置図



1. リヤハーネス
2. スターターリレー
3. ヘッドランプリレーコントローラー
4. ヘッドランプリレー
5. レギュレートレクチファイヤ
6. レジスター
7. イグニッションコイル
8. C.D.Iユニット
9. フロントハーネス
10. フラッシャーリレー

◆故障診断

●充電系統

〈電気がこない〉

- ・バッテリーが放電している
- ・バッテリーコードの接続外れ
- ・ヒューズ切れ
- ・イグニッションスイッチ不良

〈電圧が低い〉

- ・バッテリー充電不良
- ・充電系統の不良
- ・レギュレートレクチファイヤ不良
- ・接触不良

●点火系統

〈スパークプラグが点火しない〉

- ・スパークプラグ不良
- ・ワイヤーの接触不良、断線、ショート
 - －ACジェネレーターとC.D.Iユニット間
 - －C.D.Iユニットとイグニッションコイル間
 - －C.D.Iユニットとイグニッションスイッチ間
 - －イグニッションコイルとスパークプラグ間
- ・イグニッションスイッチ不良
- ・イグニッションコイル不良
- ・C.D.Iユニット不良
- ・ACジェネレーター不良

●始動系統

〈スターターが回らない〉

- ・ヒューズの溶断
- ・バッテリーの充電不足
- ・メインスイッチ不良
- ・スタータースイッチ不良
- ・ストップスイッチ不良
- ・スターターリレー不良
- ・結線の接触不良又は断線
- ・スターターモーター不良

〈電流が断続する〉

- ・バッテリーコードの接触不良
- ・充電系統接触不良
- ・点火系統の接触不良又はショート
- ・ライティング系統の接触不良又はショート

〈充電系統の不良〉

- ・コネクター又はカプラーの接触不良、断線、ショート
- ・レギュレートレクチファイヤ不良
- ・ACジェネレーター不良

〈回転不調〉

- ・点火一次回路
 - －イグニッションコイル不良
 - －ワイヤー又はコネクターの接触不良、断線、ショート
 - －イグニッションスイッチの接触不良
- ・点火二次回路
 - －イグニッションコイル不良
 - －スパークプラグ不良
 - －ハイテンションコード不良
 - －プラグキャップのリーク
- ・点火時期
 - －ACジェネレーター不良
 - －ステーターの取付不良
 - －C.D.Iユニット不良

〈スターターモーターの力が弱い〉

- ・バッテリーの充電不足
- ・結線の接触不良
- ・モーター又はギヤの異物噛み込み

〈スターターモーターは回るがエンジンが回らない〉

- ・スターターピニオンギヤ不良
- ・スターターモーターの逆回転
- ・バッテリーの上がり

電気系統

◆整備情報

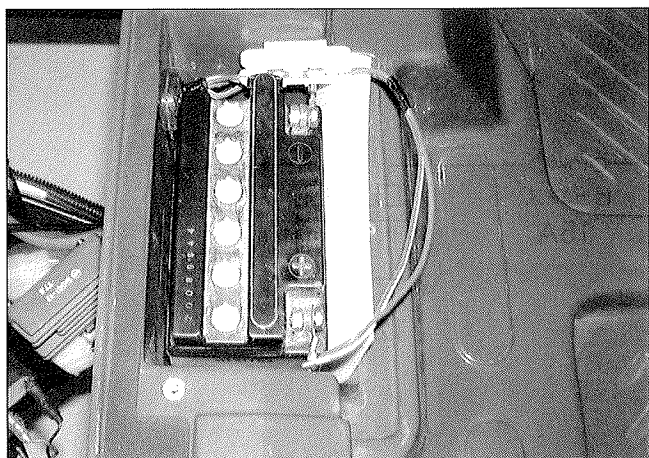
●作業上の注意

- ・バッテリー充電時は、バッテリーをフロアボディーから取り外し、液口キャップは外さないこと。
- ・バッテリーの急速充電は緊急時以外に行わないこと。
- ・必ずバッテリー上面に表示してある電流と時間を基準に充電を行うこと。
- ・充電状態（開放電圧）の点検は必ずテスターを使用すること。
- ・バッテリー交換時は、同タイプのものを使用すること。

〈点火系統〉

- ・C.D.I点火装置のため、点火時期調整は必要ない。万一点火時期が狂ってる場合は、C.D.IユニットとACジェネレーターを点検し、不良の場合は交換する。

電気系統



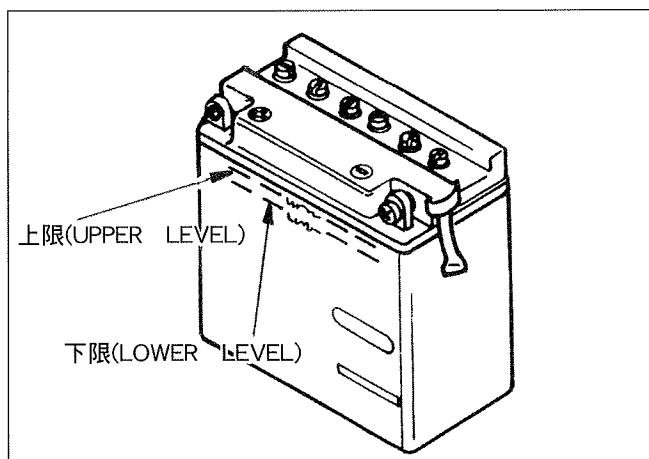
◆バッテリー

●バッテリーの脱着

- ・バッテリーの脱着は(→P-16)を参照



バッテリー端子は(-)端子を先に、次に(+)端子を外すこと。



●バッテリーの点検

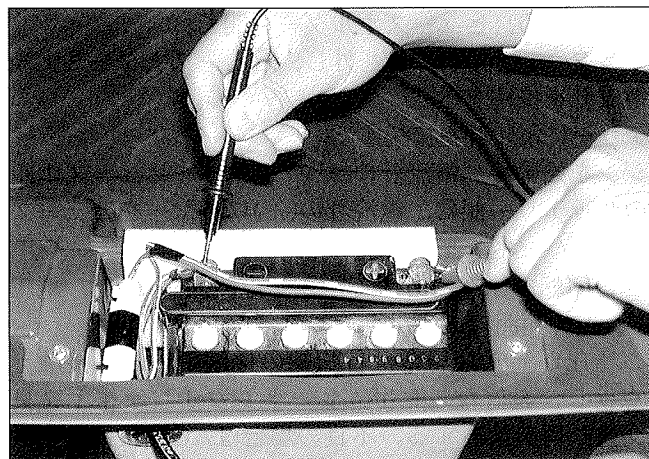


- ・バッテリーケースの損傷、変形及び端子の状態を確認し、必要があればバッテリーを新品と交換する。
- ・各液槽のバッテリー液量を確認する。
- ・少ないときは、バッテリー上面のキャップを外し各液槽上限まで蒸留水を補充する。

●充電状態(開放電圧)の点検

- ・バッテリー電圧を測定する。

完全充電：13.0~13.2V
充電不足：12.3V以下



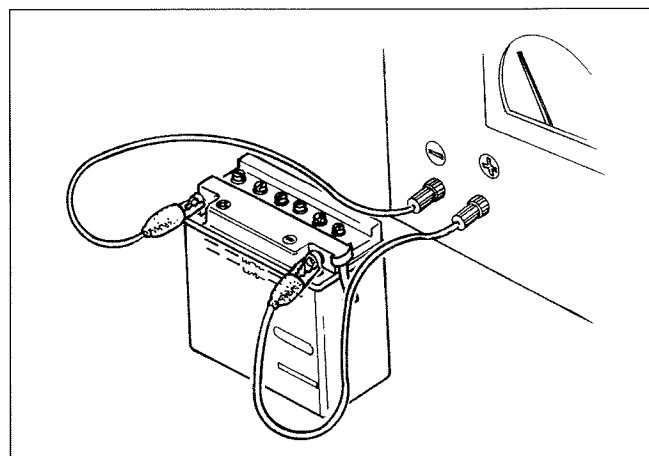
充電状態の点検は必ずテスターを使用すること。

●充電

- ・接続のしかた
 - ーチャージャーの(+)とバッテリーの(+)極
 - ーチャージャーの(-)とバッテリーの(-)極



- ・バッテリーの付近では火気厳禁
- ・充電のON、OFFは必ずチャージャーのスイッチで行うこと。接続部で行うと、火花が飛び爆発の恐れがある。
- ・また下記の要領も含めて充電を行うこと。

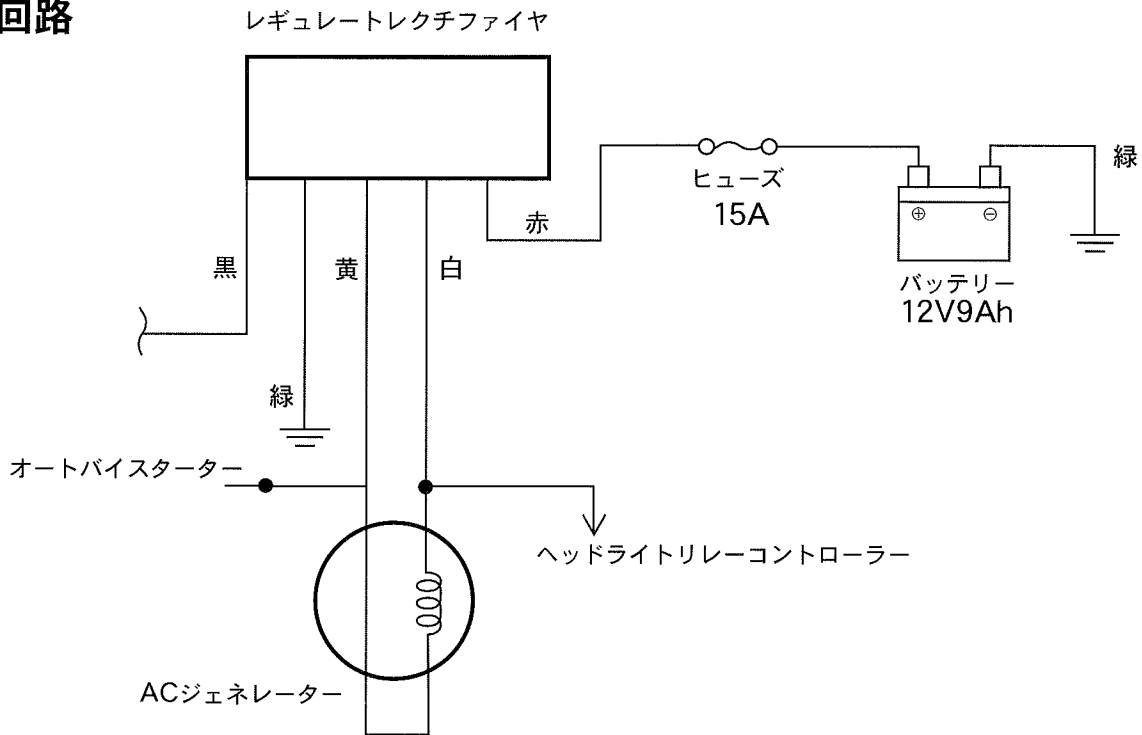


- ・バッテリーの急速充電は緊急時以外には行わないこと。
- ・充電後、電圧測定を行う場合は必ず、30分以上経過してから行うこと。

- ・充電電流：1.0A
- ・充電時間：9時間
- ・充電完了：開放電圧12.8V以上

電気系統

◆充電回路

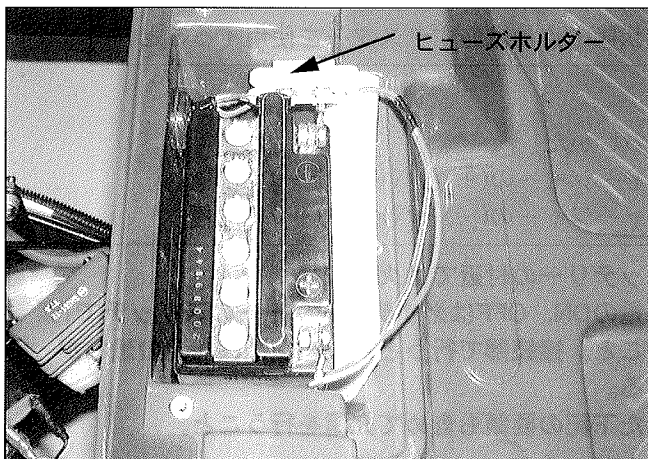


●充電状態の点検

- ・暖気運転を行い、バッテリーボックスカバーを開く。



このテストは完全充電状態のバッテリーで行う。



- ・エンジンをとめ、ヒューズホルダーを開く。
- ・ヒューズターミナルの片側を外し、ヒューズとターミナル間に電流計を接続する。
- ・バッテリーに電圧計を接続する。
- ・エンジンを始動後、電流計の(-)ワイヤーをヒューズホルダーのバッテリー側に、電流計の(+)ワイヤーをヒューズホルダーのハーネス側に接続する。
- ・エンジン回転を徐々にあげてゆき、電流が0A以上、電圧が14~15Vの範囲であるか点検する。
- ・電流、電圧が異常な場合は各配線の接続の緩み、接触不良を点検し、良好ならレギュレートレクチファイヤを良品と交換し再テストする。不良の場合はACジェネレーターを点検する。

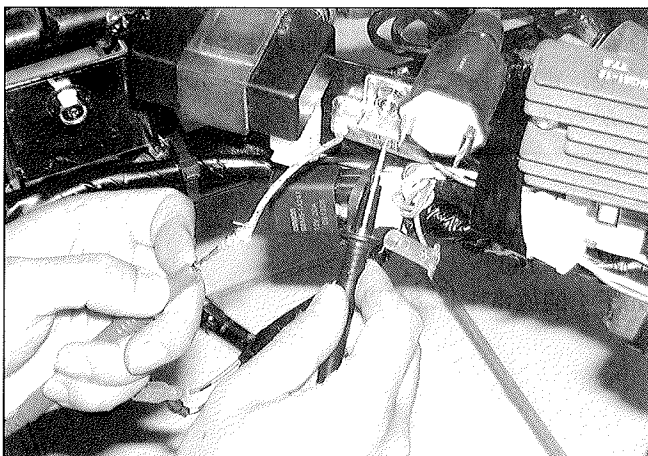
●レジスターの点検



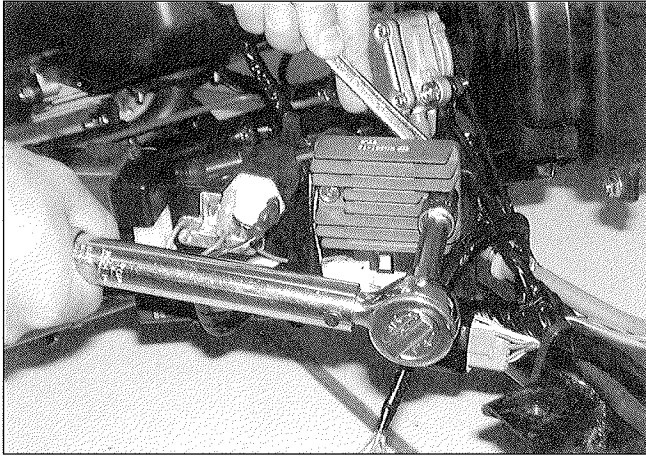
- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・レジスターのリード線とアース間の抵抗を測定する。
抵抗値：9.5Ω



レジスターの不良はオートバイスターターの作動不良の原因となる。



電気系統



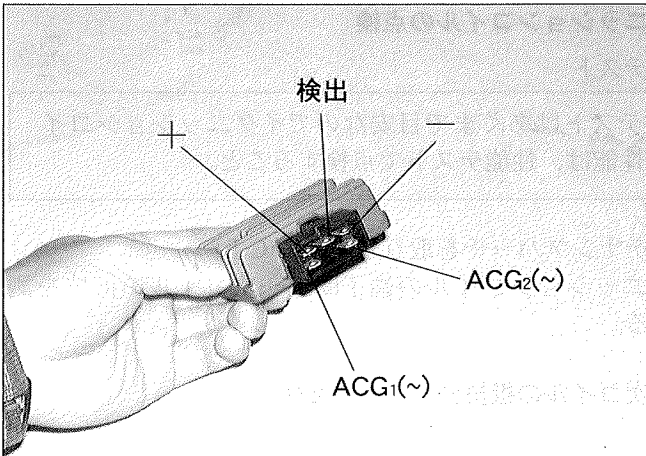
●レギュレートレクチファイヤの点検



- レギュレートレクチファイヤをとめているボルト(2箇所)とレギュレートレクチファイヤカプラーを取り外す。
- 取り付けは取り外しの逆の手順で行う。



締付トルク：0.8kg-m



- 各端子の抵抗を測定する。
- 表の抵抗値の範囲外を示した場合はレギュレートレクチファイヤを交換する。



半導体を含んだ回路のため、テスターが異なったり、測定レンジが異なると正しい点検ができない。テスターは三和製又は、興和製を使用すること。

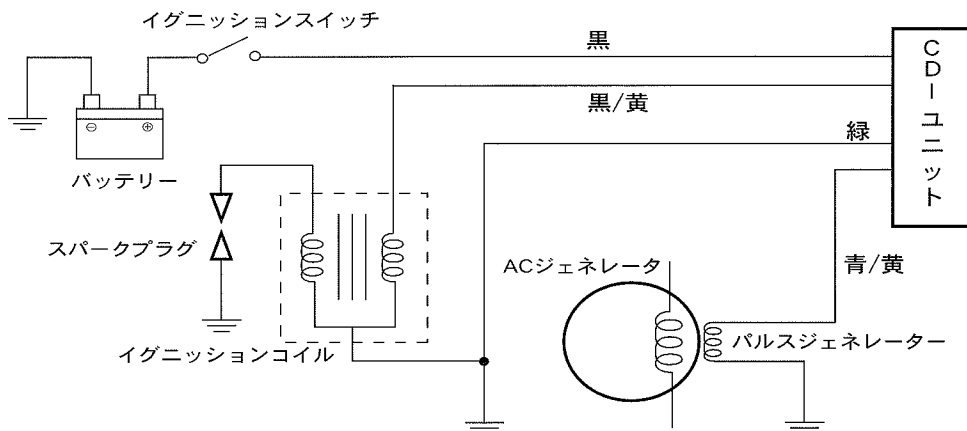
形式	メーカー	レンジ
SP-10D	三和	kΩ
TH-5H	興和	R×100

抵抗値

単位:kΩ

テスタ⊕	テスタ⊖	ACG1	ACG2	—	+	検出
ACG1	ACG1	∞	∞	∞	0.5-10	∞
ACG2	ACG2	∞	∞	∞	0.5-10	∞
—	—	0.5-20	0.5-20	∞	1-50	0.2-5
+	+	∞	∞	∞	∞	∞
検出	検出	0.5-20	0.5-20	0.2-5	1-50	∞

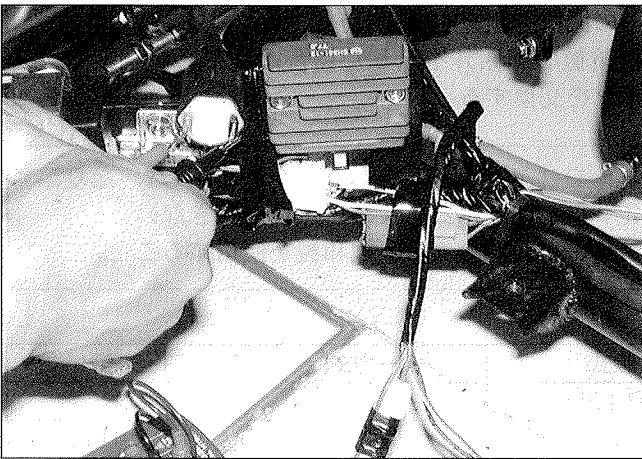
◆点火回路



電気系統

●スパークプラグの点検/調整

- ・プラグの点検/調整(→C-2) 参照



●イグニッションコイルの点検

- ・導通テスト

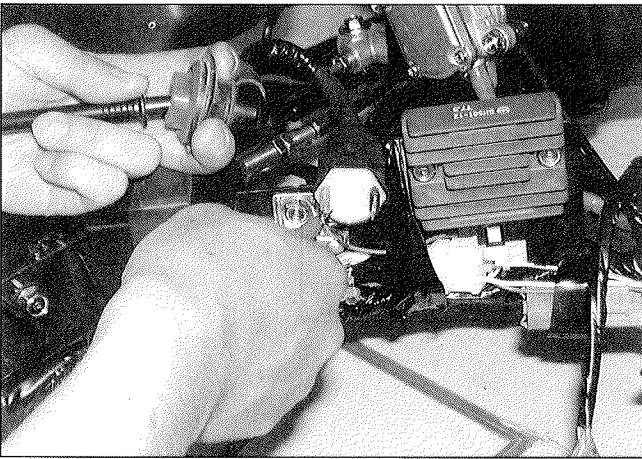


このテストはあくまで目安なのでイグニッションコイルの性能は、性能テストで点検すること。



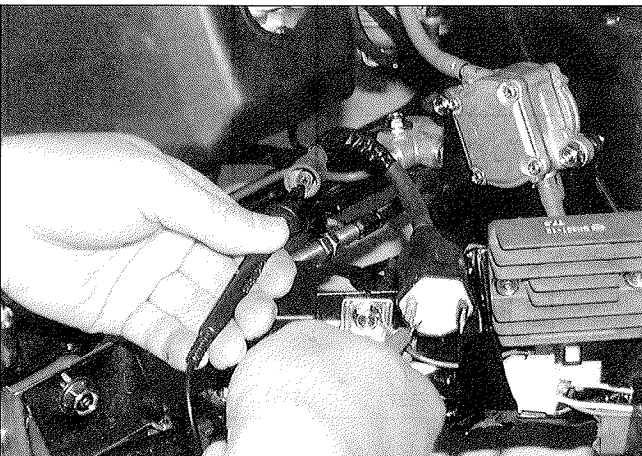
- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・イグニッションコイルの端子間で一次コイルの抵抗を測定する。

一次コイルの抵抗値：0.19~0.23Ω



- ・スパークプラグキャップと(-)端子間で二次コイルの抵抗を測定する。

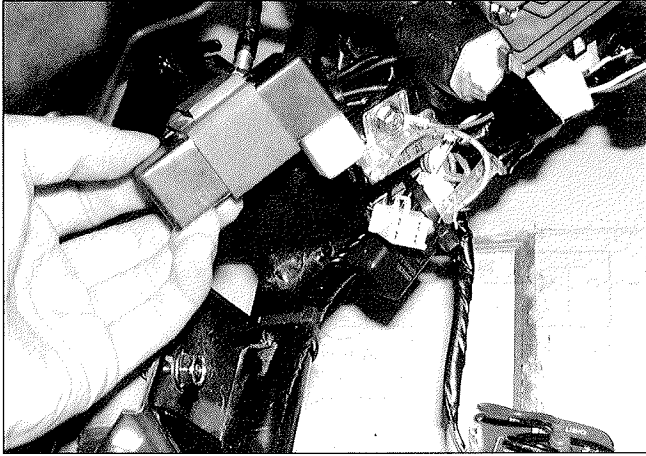
二次コイルの抵抗値(プラグキャップ付き)：6.5~9.7kΩ



- ・プラグキャップを回してハイテンションコードから外す。
- ・ハイテンションコードと(-)端子間で二次コイルの抵抗を測定する。

二次コイルの抵抗値(プラグキャップなし)：2.8~3.4kΩ

電気系統

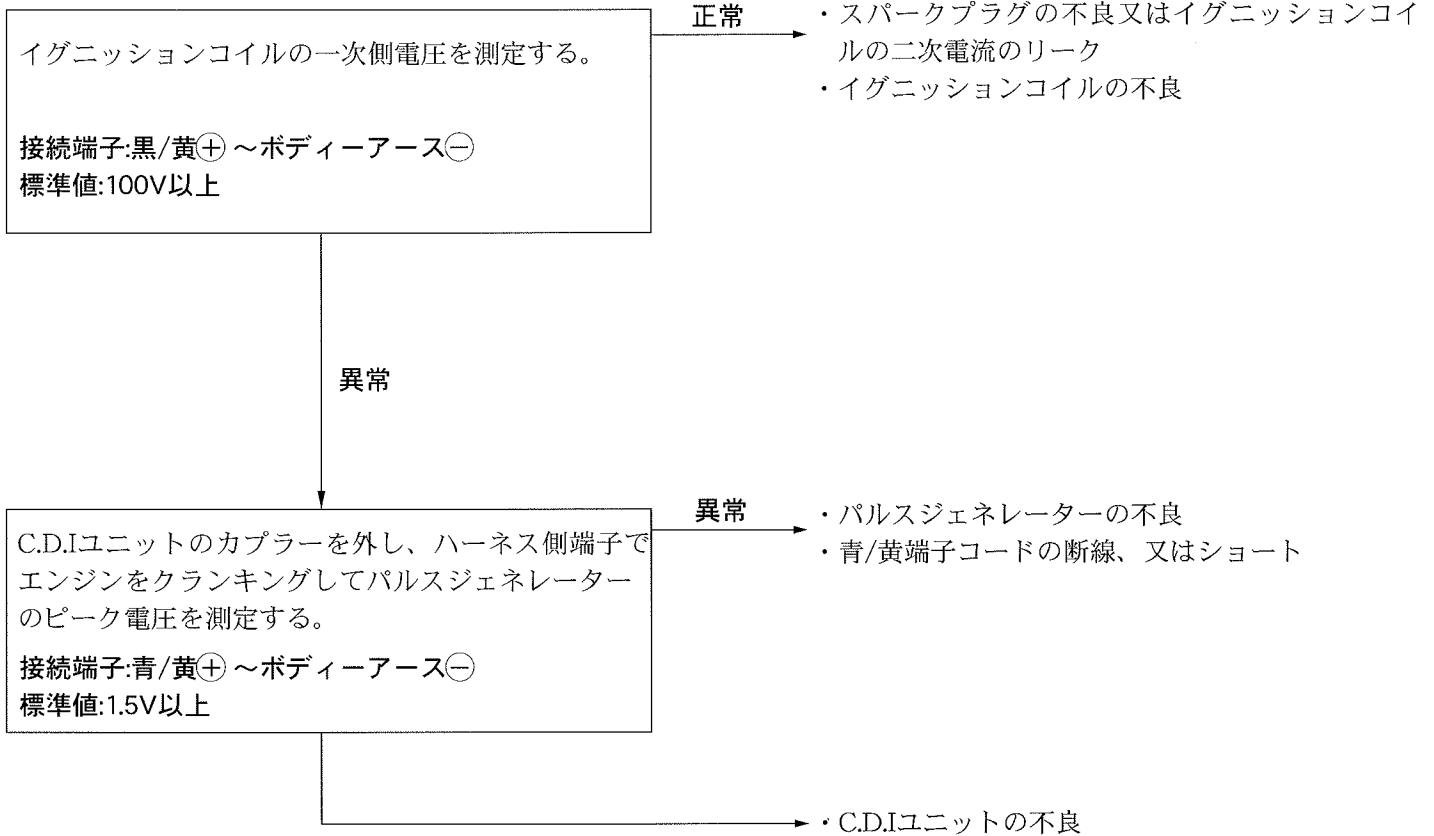


●C.D.Iユニットの点検

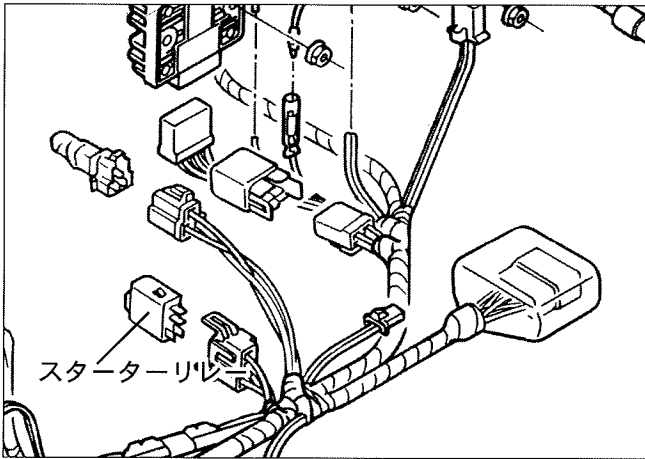
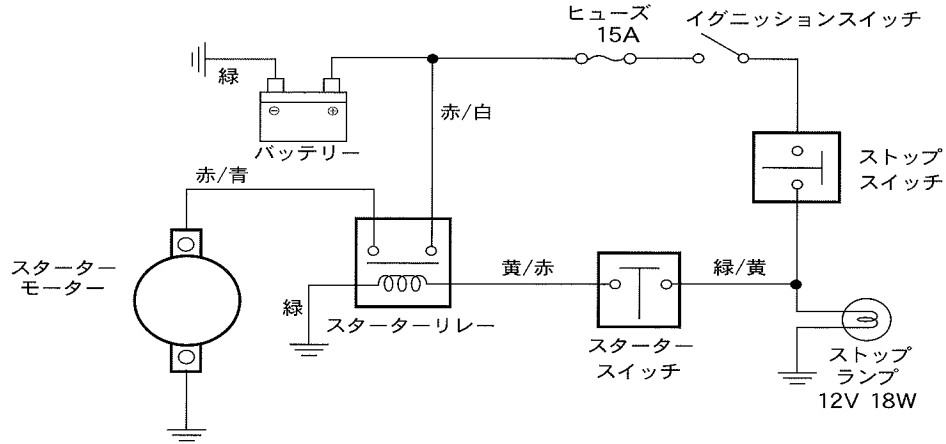
- ・イグニッションコイル、スパークプラグ、ハーネス、パルスジェネレーターに異常が無く、スパークプラグに火が飛ばない場合は以下の要領に従いC.D.Iユニットの点検を行う。
- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・C.D.Iユニットカプラーを取り外し、C.D.Iユニットをハーネスプレートから取り外す。



点検方法

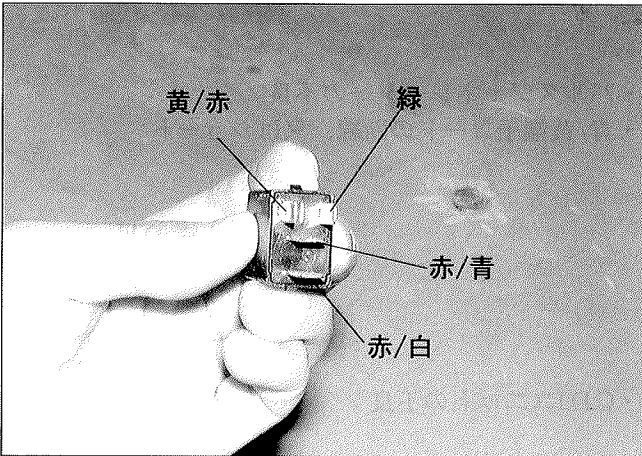


◆始動回路

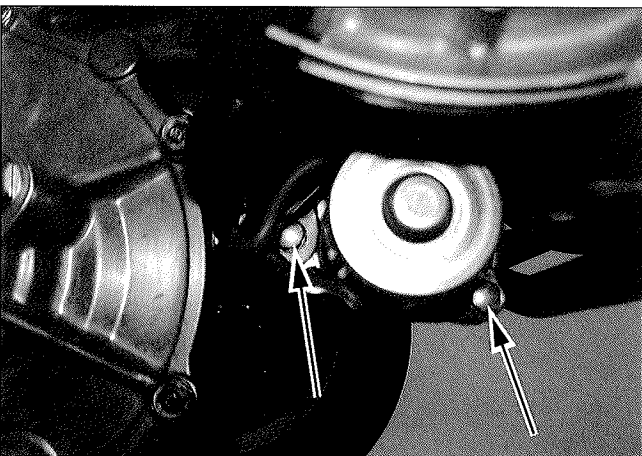


●スターターリレーの点検

- ・メンテナンスハッチを取り外す。(→C-5)
- ・ワイヤリングクリップを切断し、スターターリレーカプラーを取り外す。
- ・点検後、スターターリレーカプラーを接続し、必ずワイヤリングクリップで固定する。



- ・12Vバッテリーの(+)をスターターリレーの黄/赤端子に、(-)を緑端子に接続したときのみ、リレーの赤/白端子と、赤/青端子間に導通があれば良好である。

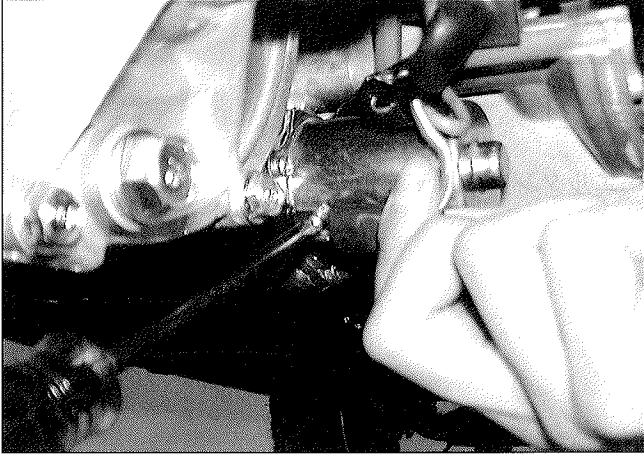


●スターターモーターの脱着

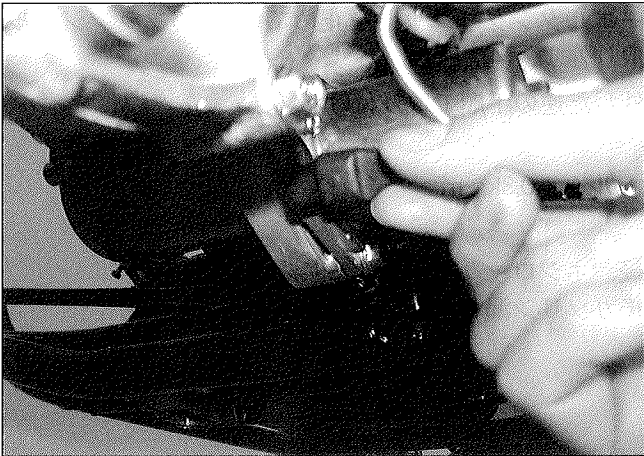


- ・車輛をジャッキアップする。(→B-9)
- ・スターターモーターをとめているM6スモールヘッドボルトを外し、スターターモーターを取り外す。(矢印部)

電気系統



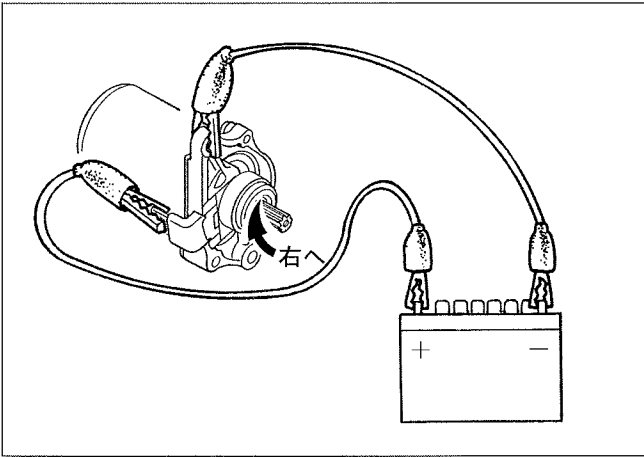
- ・スターターモーターとステーター端子をとめているM4ナベビスを取り外す。
- ・ステーター端子を取り外す。



- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



K-1組立説明書“エンジン編”P28,29参照



●スターターモーターの点検

- ・スターターモーターにバッテリーを接続し、動作を点検する。(シャフトより見て右に回転する)



- ・スターターモーターを長時間回さないこと。
- ・スターターモーターは分解しないこと。
- ・スターターモーターに不具合がある場合はASSY交換すること。

電気系統

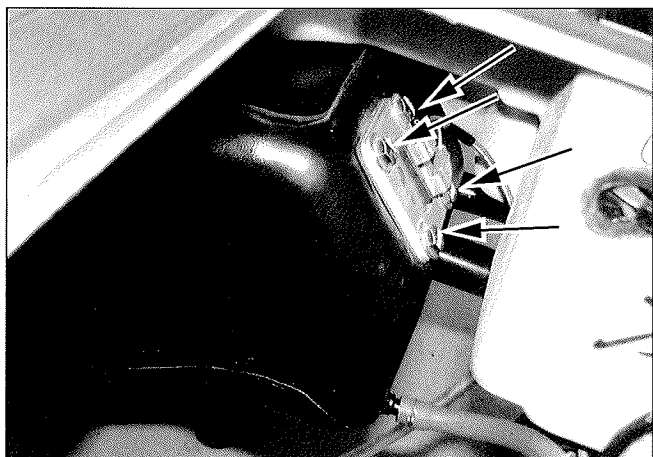


●フューエルユニットの脱着



火気厳禁

- ・フューエルタンクの端子を取り外す。

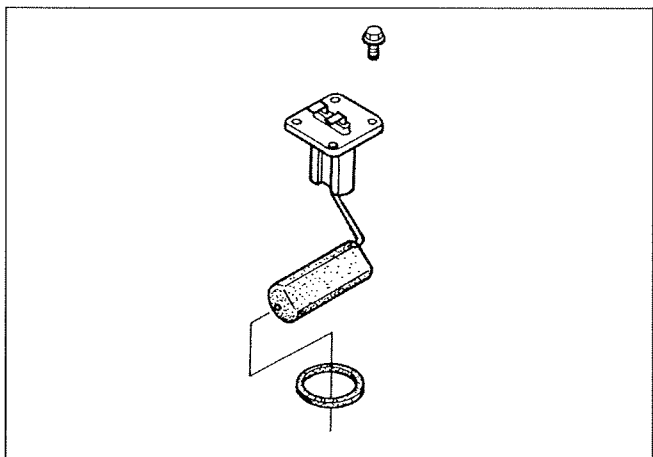


- ・フューエルタンクユニットを止めているM6フランジボルトを取り外す。(4箇所)
- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



締付トルク：0.3kg-m

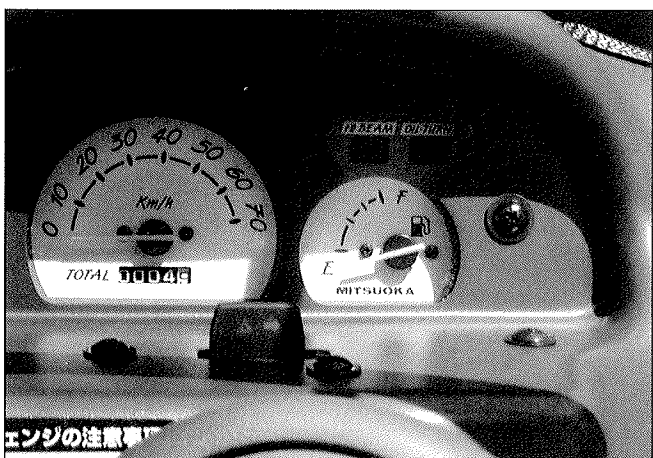
- ・締付後、ネジロックを塗布すること。
- ・作業後ガソリン漏れがないか確認する。



●フューエルタンクユニットの点検

- ・フューエルタンクユニットを取り外す。
- ・フロートを上下にそれぞれいっぱいまで動かし、両端子間の抵抗を測定する。

フロート位置 上	フロート位置 下
4~10Ω	90~100Ω



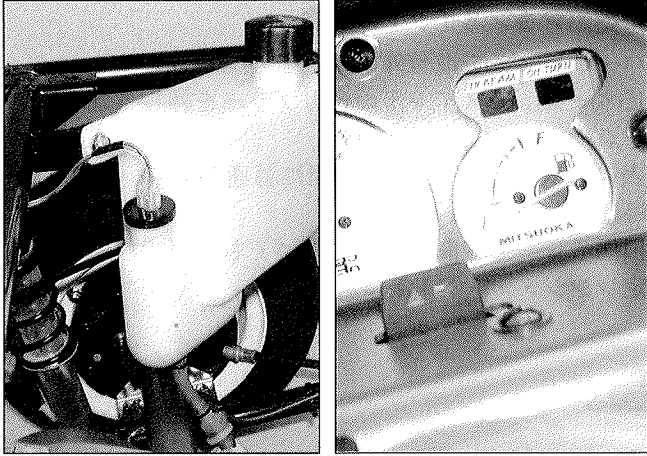
●フューエルメーターの作動の点検

- ・コネクターを接続し、イグニッションスイッチをONにする。
- ・ウインカーを作動させ、バッテリー回路が正常か確認後次の点検を行う。

ーフューエルタンクユニットのフロートを上下に各々いっぱいまで動かし、メーター指針の作動を点検する。

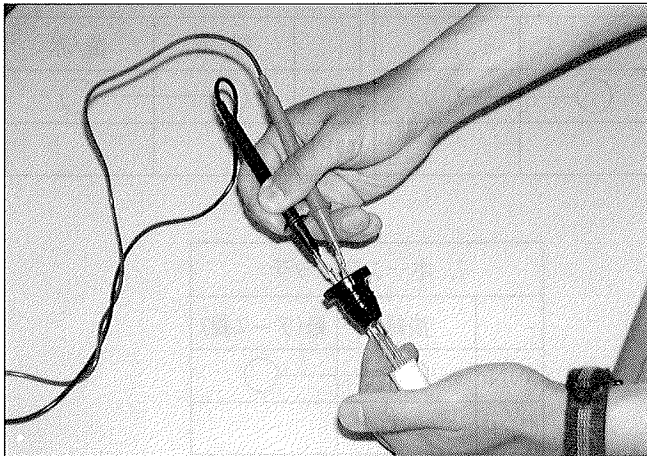
	メーター指針
フロート位置 上	“F”を指す
フロート位置 下	“E”を指す

電気系統



●オイルレベルゲージ/インジケータユニットの点検

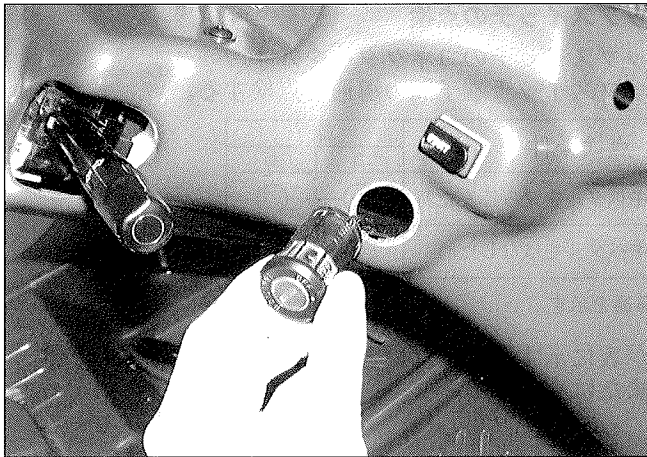
- ・メインスイッチをONにする。
- ・オイルレベルゲージからハーネスを外し、ハーネスの端子間を短絡させた時オイルインジケータランプが点灯すれば正常である。
- ・ランプが点灯しない場合はレベルゲージとインジケータユニット(メーター内)間の配線及びインジケータユニットの電源を点検する。
- ・異常のない場合はインジケータユニットの不良である。



●オイルレベルゲージの点検

- ・オイルレベルゲージのターミナル間の導通を点検する。

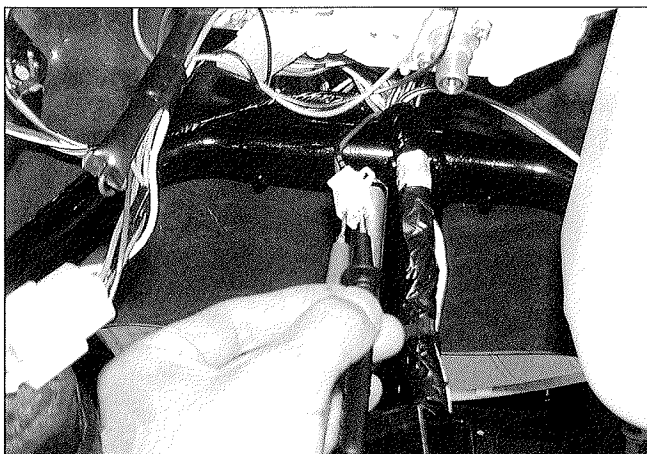
フロートの位置	導通
満位置	なし
空位置	あり



◆スイッチ/ホーン

●メインスイッチの点検

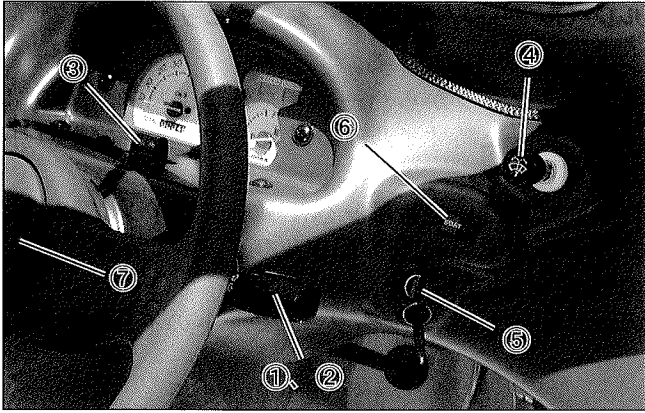
- ・イグニッションスイッチカプラーを外す。
- ・イグニッションスイッチを取り外す。



- ・イグニッションスイッチの各端子間の導通を点検する。

色	赤	黒
記号	IGN.IN	IGN.OUT
ON		
OFF		

電気系統



●コンビネーションスイッチの点検

- ・アッパーボディーを取り外す。(→P-4)
- ・コンビネーションスイッチの各カプラーを外し各端子間の導通を点検する。
- ・点検表の○—○を表示した端子間に導通があり、他の端子とは導通がないこと。
- ・外部損傷やリード線間の損傷についても目視で点検する。
測定レンジ・・・×1Ω

1. デイマスイッチ			
	白	青	赤/黄
LO	○—		○
HI		○—	○

3. ハザードスイッチ				
	黄/黒	赤/黄	空/橙	茶
ON	○—	○—	○—	○—
OFF	○—	○—		

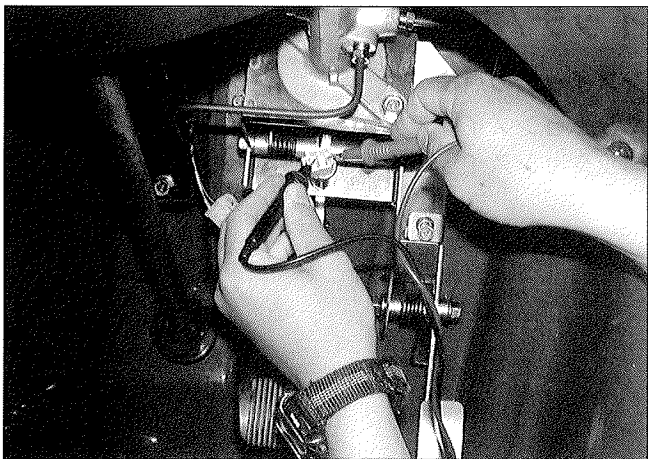
5. イグニッションスイッチ		
	赤	黒
ON	○—	○—
OFF		

6. スタータスイッチ		
	緑/黄	黄/赤
ON	○—	○—
OFF		

2. ターンシグナルデイマスイッチ			
	空	茶	橙
L		○—	○
・			
R	○—	○	

4. ワイパースイッチ			
	赤/黄	白/黒	青/赤
ワイパー ON	○—	○—	
ウオッシャー ON	○—		○—
ウオッシャー OFF			

7. ホーンスイッチ		
	淡緑	緑(アース線)
ON	○—	○—
OFF		



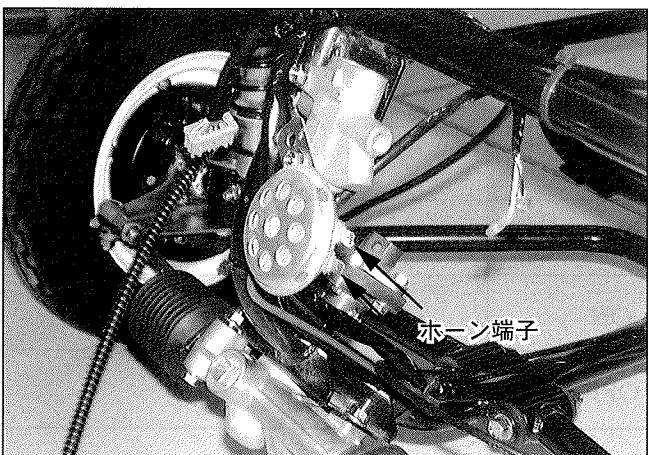
●ストップスイッチの点検

- ・ストップスイッチのコネクターを外す。
- ・ストップスイッチ端子間の導通を点検する。

点検条件	端子	
	a	b
ブレーキペダルを踏み込んだ時	○—	○
ブレーキペダルをはなした時		

○—○：導通を示す

- ・導通が表に示す通りでないときは、ストップスイッチを調整または交換する。

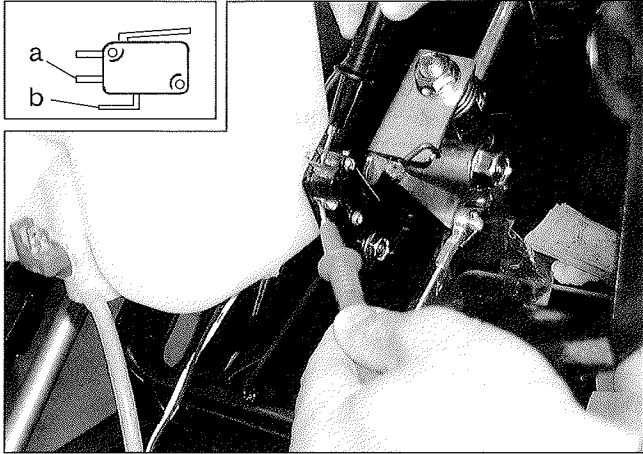


●ホーンの点検



- ・車輛をジャッキアップする。(→B-9)
- ・ホーン端子を外す。
- ・ホーン端子に12Vのバッテリーを接続して鳴れば良好である。

電気系統



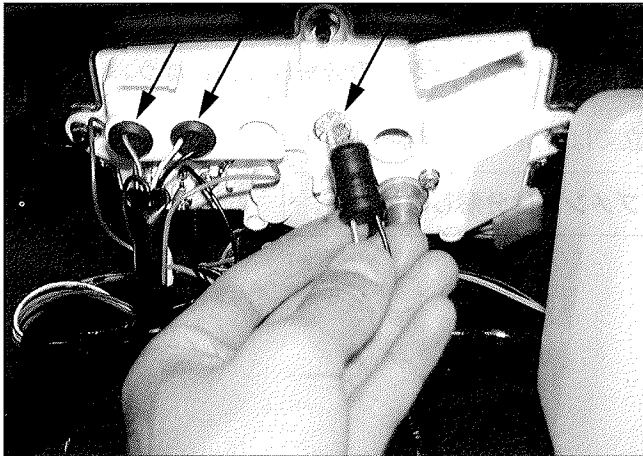
●バックランプスイッチの点検

- ・アッパーボディーを取り外す。(→P-4)
- ・バックランプスイッチコネクターを外す。
- ・バックランプスイッチ端子間の導通を点検する。

点検条件	端子	
	a	b
シフトレバーをリバースの位置にした時	○—○	
シフトレバーをリバース位置以外にした時		

○—○：導通を示す。

- ・導通が表の通りでないときは、バックランプスイッチを交換する。

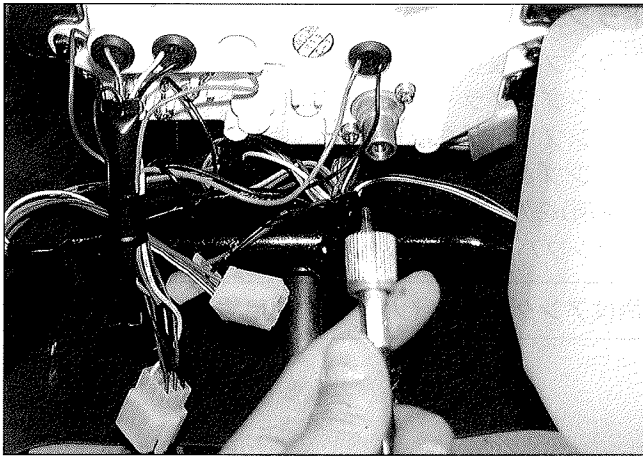


◆コンビネーションメーター

●メーターバルブの交換



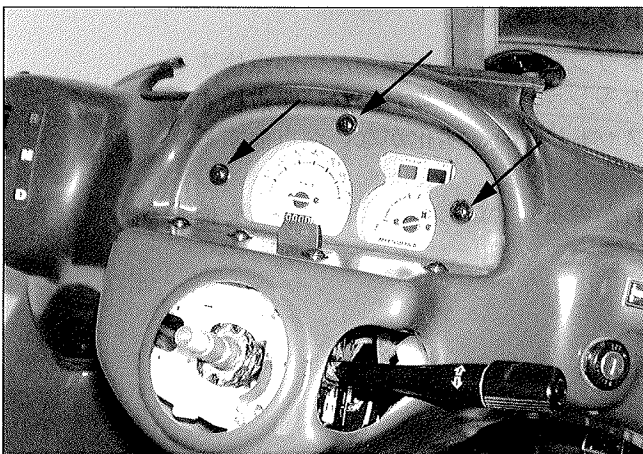
- ・アッパーボディーを取り外す必要はない。
- ・矢印部3箇所のバルブを引き抜いてバルブを交換する。



●コンビネーションメーターの取り外し



- ・アッパーボディーを取り外す必要はない。
- ・コンビネーションメーターカプラーを外す。
- ・スピードメーターケーブルを外す。

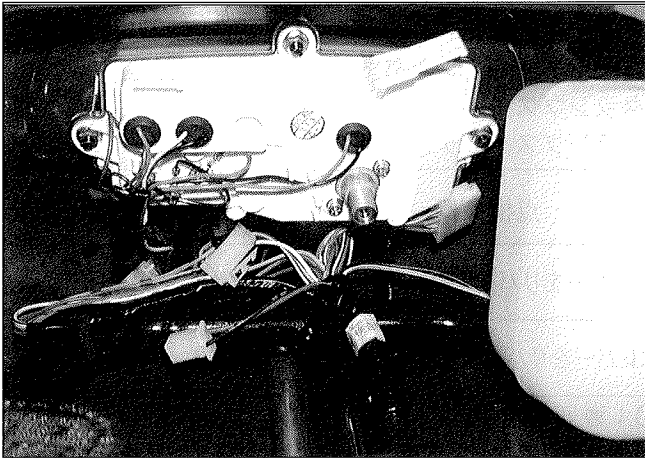


- ・矢印部3箇所のM5トラスビスを外す。



カラーの脱落に注意すること。

電気系統



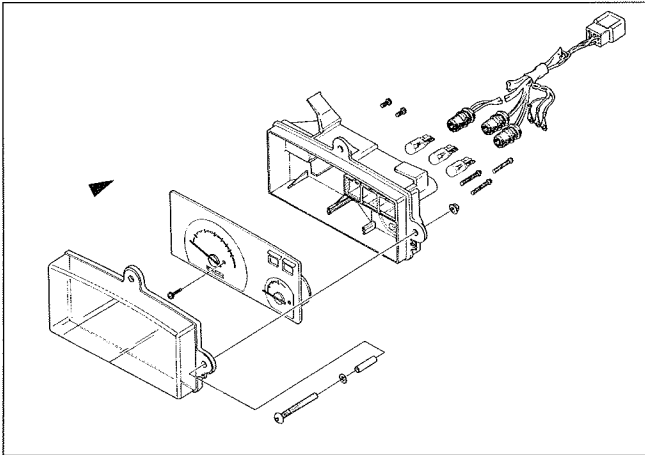
- ・コンビネーションメーターを取り外す。
- ・取り外した逆の手順で取り付け。



K-1組立説明書“ボディー編” P94,95参照



締付トルク：0.4kg-m



●コンビネーションメーターの分解

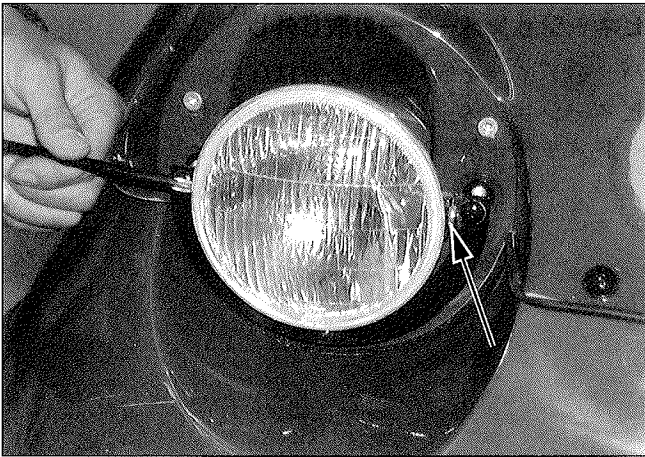


コンビネーションメーターの分解は左図に従う。

- ・組み立ては分解の逆の手順で行う。



ムーブメントは分解しないこと。

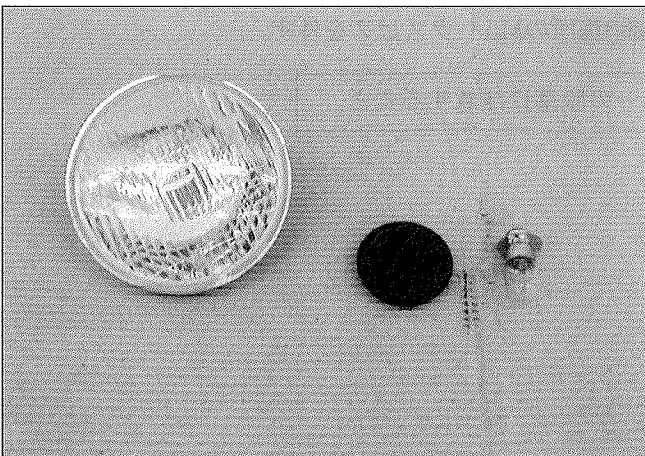


●ヘッドランプの取り外し

- ・ヘッドランプの取り外しは車輛完成状態で行える。
- ・ヘッドランプカプラーの接続を外す。
- ・ヘッドランプリングを取り外す。
- ・ヘッドランプとヘッドランプステーを止めているM5ナベビス(2箇所)を外しヘッドランプを取り外す。
- ・ヘッドランプバルブを取り外す。



矢印側はアングルドライバー等を使用すること。



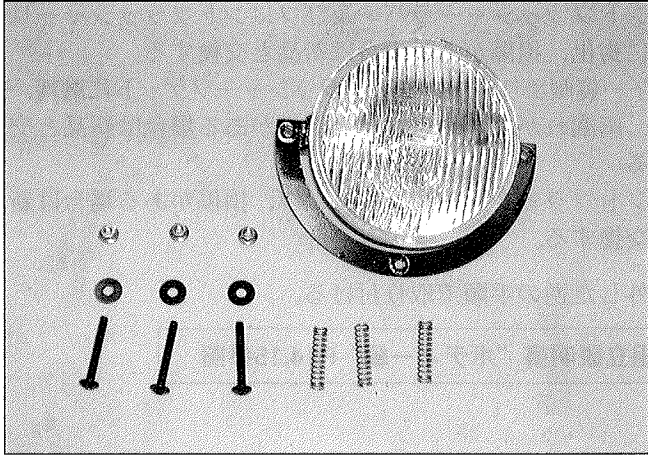
●ヘッドランプの点検

- ・ヘッドランプにひび、損傷がないか点検する。
- ・ヘッドランプバルブが切れてないか点検する。
- ・グロメットに磨耗、劣化がないか点検する。



いずれかの不具合がある場合は新品と交換する。

電気系統

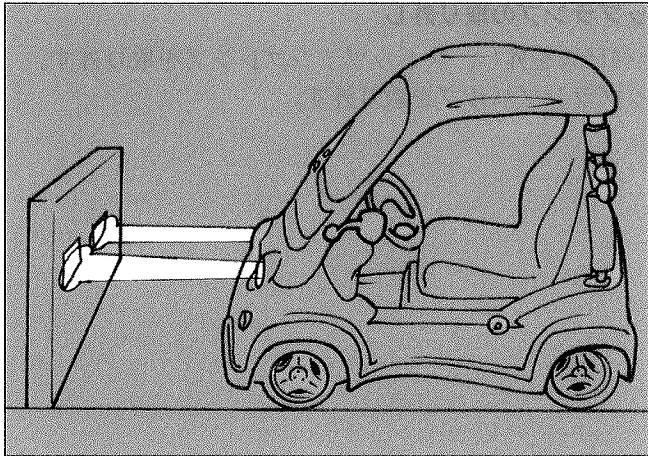


●ヘッドランプステー/スプリングの点検

- ・ヘッドランプステーに歪み、損傷がないか点検する。
- ・ヘッドランプスプリングに変形、損傷がないか点検する。
- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



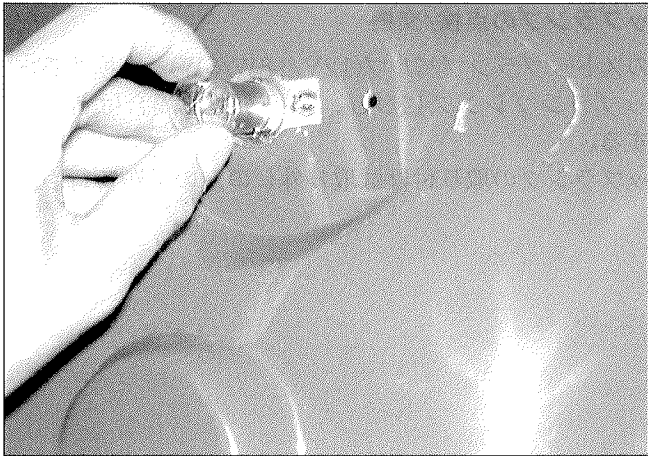
K-1組立説明書“ボディー編”P114-P117参照



取付後に必ず光軸調整を行うこと。



K-1組立説明書“ボディー編”P190-P192参照

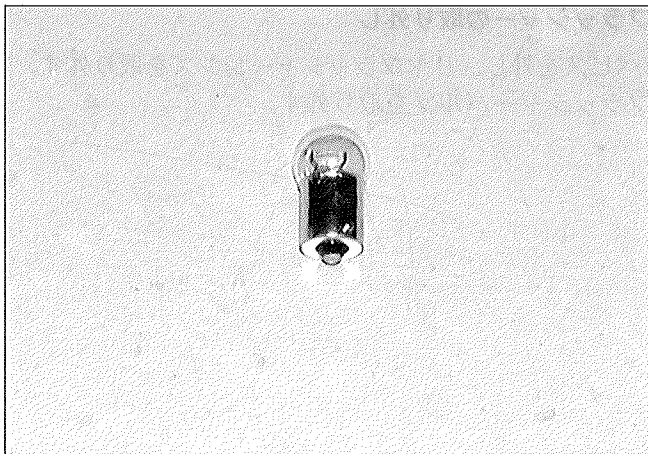


●各バルブの交換

- ・各バルブの交換は車輛完成状態でできる。

●フロントフラッシャーの取り外し

- ・フロントフラッシャーリングを取り外す。
- ・M3ナベビスを外し、フロントフラッシャーレンズを取り外す。
- ・フロントフラッシャーバルブを取り外す。

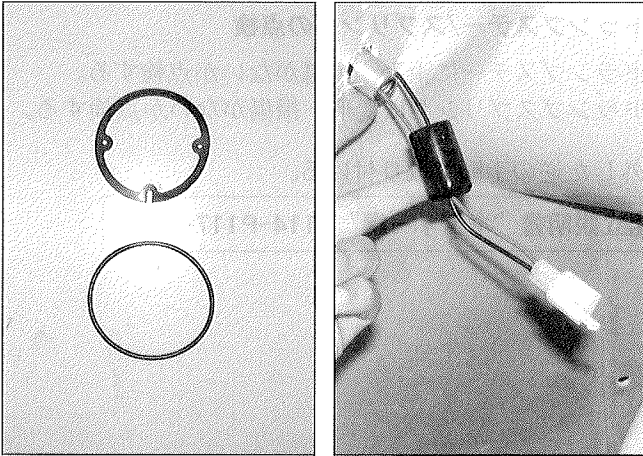


●フロントフラッシャーの点検/交換



- ・新品のフロントフラッシャーバルブ(12V20W)と交換する。

電気系統

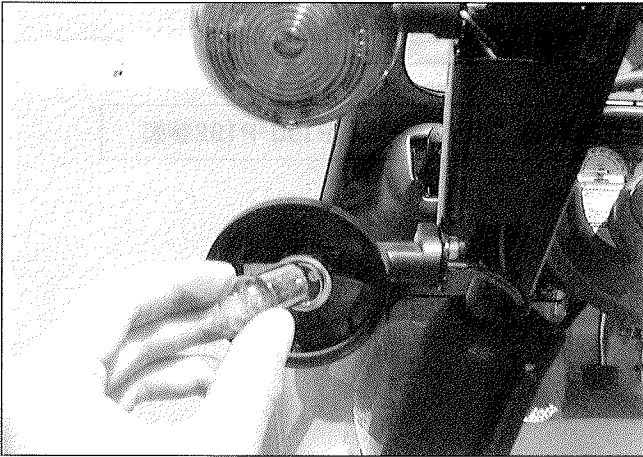


NEW

- ・フロントフラッシャーラバー及びフロントフラッシャーリングに劣化、損傷がある場合は新品と交換する。
- ・ボディ裏側より、フロントフラッシャーソケットに磨耗、劣化、雨漏れがないか点検し、異常がある場合は新品と交換する。
- ・フロントフラッシャーレンズにひび、損傷がある場合は新品と交換する。
- ・取り外した逆の手順で取り付ける。

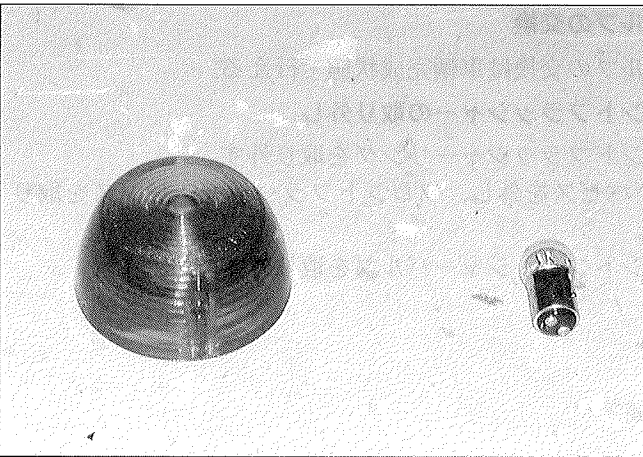


K-1組立説明書“ボディ編”P14,15参照



●ストップランプの取り外し

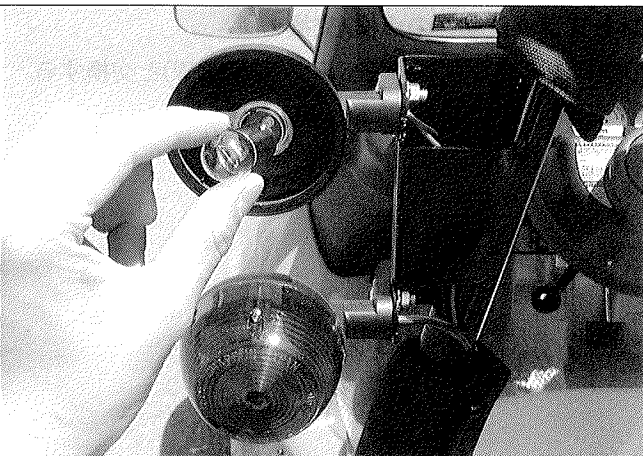
- ・M3ナベビスを外し、ストップランプレンズを取り外す。
- ・ストップランプバルブを取り外す。



●ストップランプの点検/交換

NEW

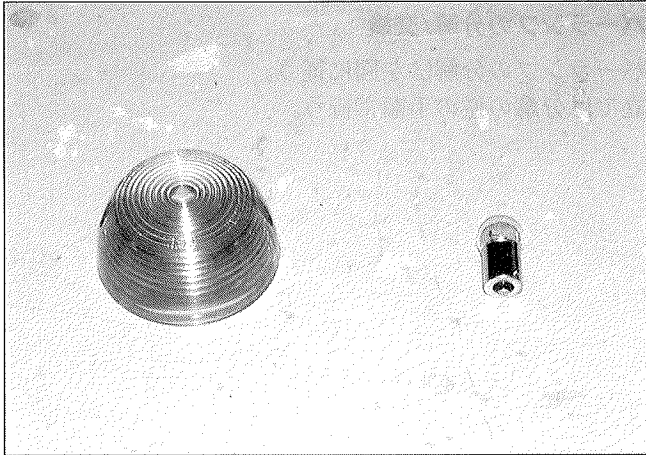
- ・新品のストップランプバルブ(12V/18W/5W)と交換する。
- ・ストップランプレンズにひび、損傷がある場合は新品と交換する。
- ・ストップランプの取り付けは取り外しの逆の手順で行う。



●リヤフラッシャーの取り外し

- ・M3ナベビスを外し、リヤフラッシャーレンズを取り外す。
- ・リヤフラッシャーバルブを取り外す。

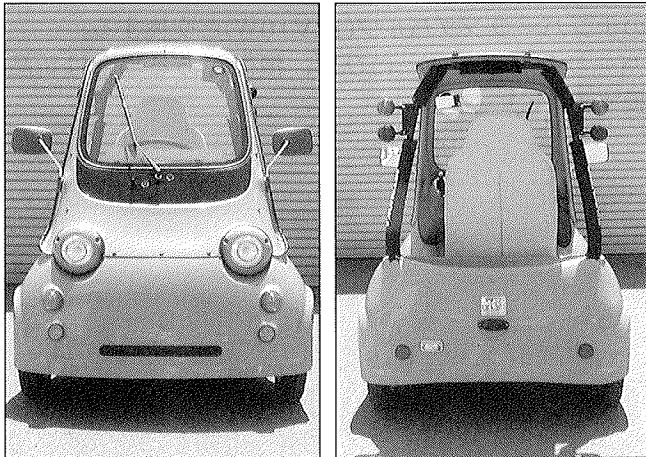
電気系統



●リヤフラッシャーの点検/交換



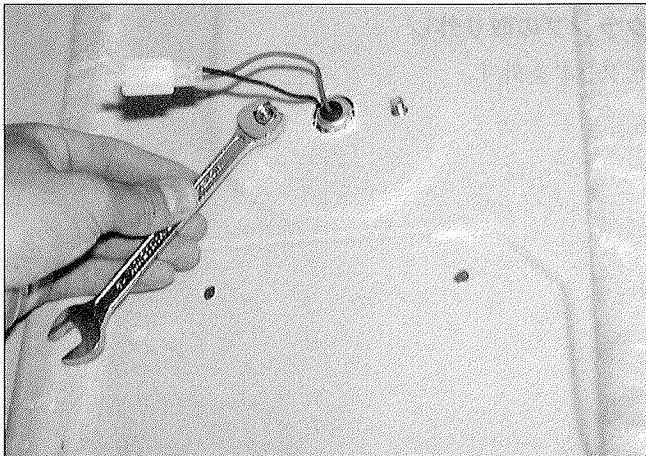
- ・新品のリヤフラッシャーバルブ(12V20W)と交換する。
- ・リヤフラッシャーレンズにひび、損傷がある場合は新品と交換する。
- ・リヤフラッシャーの取り付けは取り外しの逆の手順で行う。



●リフレターの点検/交換

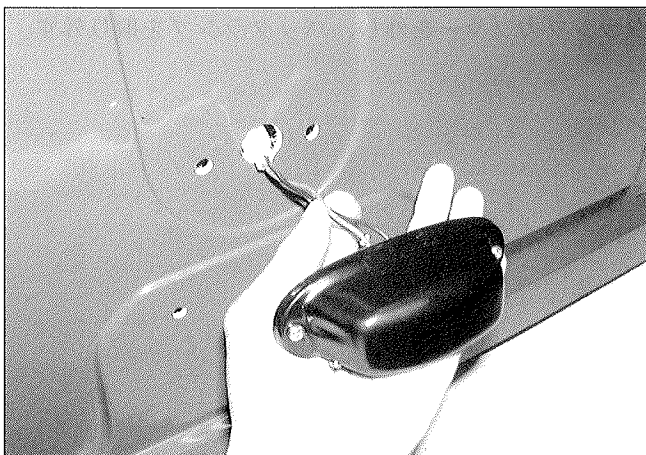


- ・フロントリフレクター及びリヤリフレクターのひび、損傷を点検する。
- ・ひび、損傷がある場合は新品と交換する。



●ナンバーランプの取り外し

- ・ナンバーランプを止めているM6フランジナットをボディ裏側から外す。

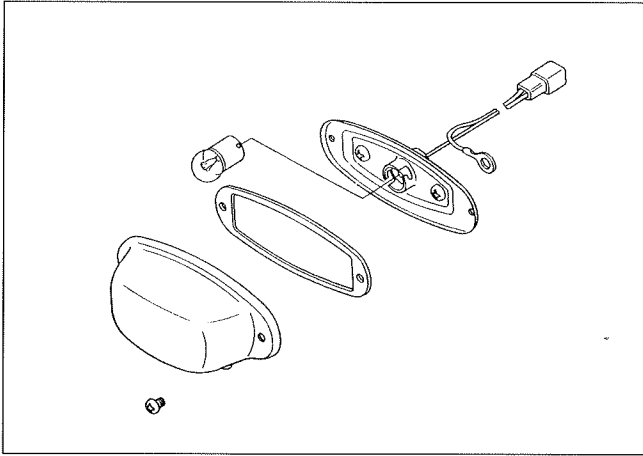


- ・ナンバーランプカプラーを外し、ナンバーランプを取り外す。
- ・取り外した逆の手順で取り付ける。



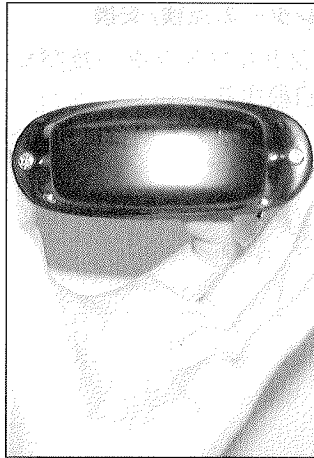
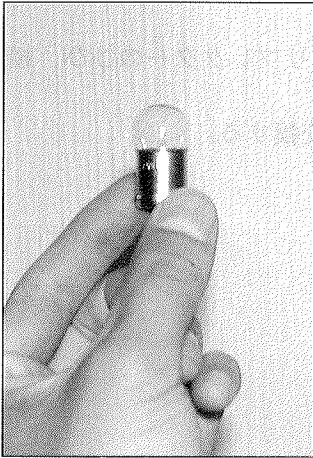
K-1組立説明書“ボディー編”P17参照

電気系統

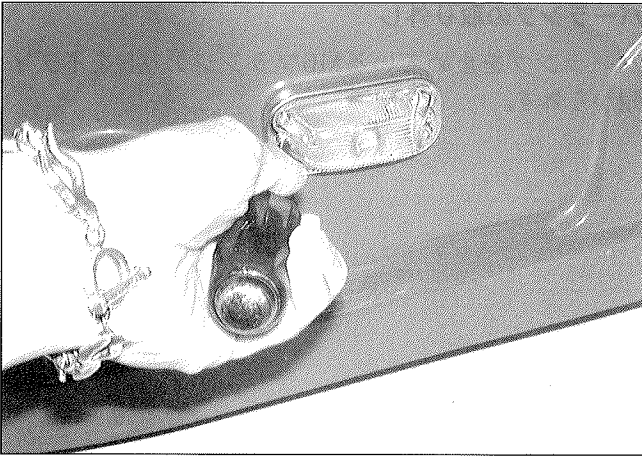


●ナンバーランプの分解/交換

- ・ナンバーランプの分解は左図に従う。
- ・組み立ては分解の逆の手順で行う。

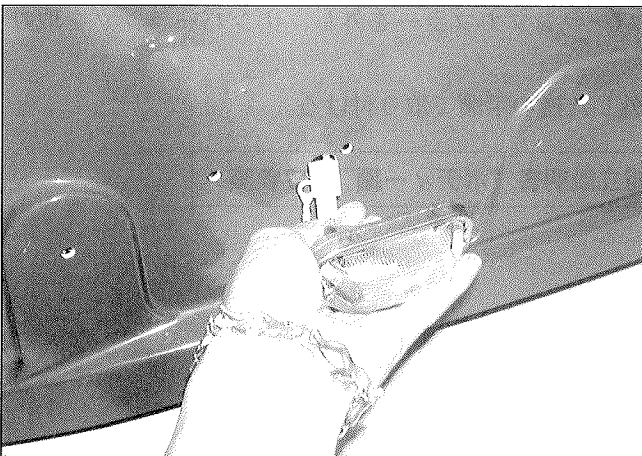


- ・新品のナンバーランプバルブ(12V10W)と交換する。
- ・ナンバーランプポディーにひび、損傷がある場合は新品と交換する。



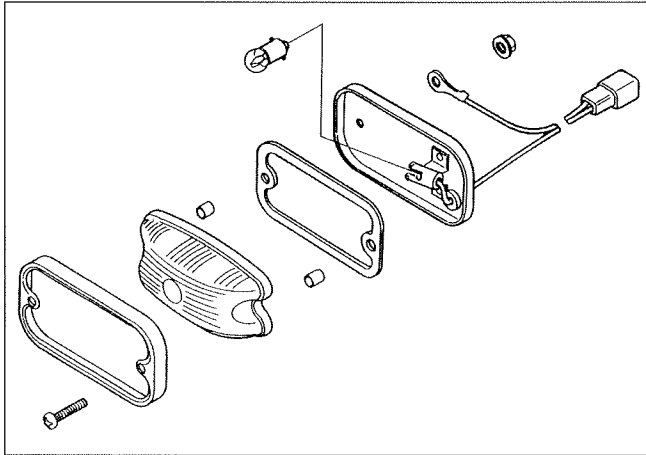
●バックランプの取り外し

- ・ナベビス2本を外す。



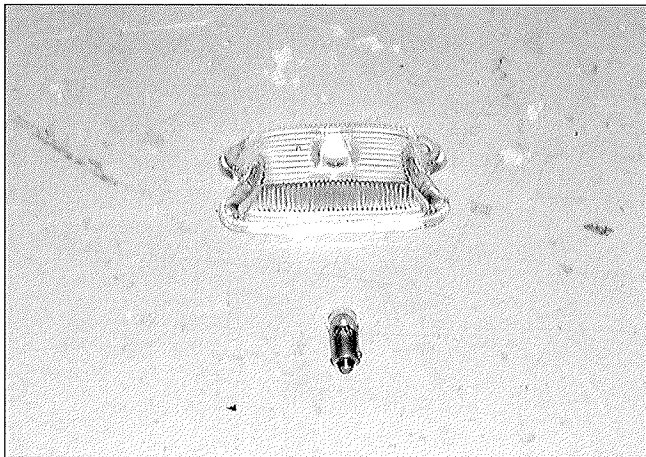
- ・バックランプカプラーを外し、バックランプを取り外す。

電気系統



●バックランプの分解/交換

- ・バックランプの分解は左図に従う。
- ・組み立ては分解の逆の手順で行う。



- ・新品のバックランプバルブ(12V3.4W)と交換する。
- ・バックランプレンズにひび、損傷がある場合は新品と交換する。